

北海道博物館 要覽

HOKKAIDO MUSEM
SURVEY AND GUIDE



6

第2期中期目標・計画期 実績報告書 1



北海道博物館要覧

HOKKAIDO MUSEUM SURVEY AND GUIDE

第6号

VOLUME 6

第2期中期目標・計画期 実績報告書 1

ごあいさつ

2015(平成27)年4月に開館しました「北海道博物館」は、北海道開拓記念館(1971年開館)と北海道立アイヌ民族文化研究センター(1994年開所)という2つの道立施設を統合して新たに開設された道立博物館であり、2つの道立施設がそれぞれなりに築き上げてきた伝統や優れた業績を受け継ぎ、名実共に北海道を代表する「総合博物館」を目指しています。

北海道博物館の開館に当たりまして、博物館をとりまく社会状況の変化、北海道の地域的特性などを踏まえ、北海道博物館が果たすべき4つの社会的使命を明文化し、道民と共に歩み、愛される博物館として「道民参画型博物館」を目指すと同時に、北海道の「中核的博物館」として地域の博物館などとの連携を図り、地域活性化に貢献することを目指しています。また、北海道博物館は、約30名の学芸員・研究職員を擁する「研究博物館」でもあり、多様な専門的・総合的研究の成果を活かして北海道の未来への貢献を図っています。さらには、アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的研究組織を有する世界に誇るべき総合博物館として、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

北海道博物館は社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえて、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を策定し公表しています。第1期(平成27～令和元年度)中期目標・計画期につきましては館内で運営状況の点検を行うとともに、北海道立総合博物館協議会による評価を受けながら諸事業の水準の向上を図って、魅力の向上に努めて参りました。第1期の実績を踏まえながら、第2期(令和2～6年度)中期目標・計画の策定を行い、北海道博物館基本的運営方針を継承しながら、15項目の基礎的事業に取り組むとともに、4つのビジョン(重点目標)の達成を目指しています。そのため、2020(令和2)年度は第2期(令和2～6年度)中期目標・計画期の初年度に当たります。

総合展示は「北東アジアのなかの北海道」と「自然と人とのかかわり」をコンセプトとし、北海道の自然・歴史・文化を物語る5つのテーマで構成しています。プロローグ「北と南の出会い」に始まり、「北海道120万年物語」、「アイヌ文化の世界」、「北海道らしさの秘密」、「わたしたちの時代へ」、「生き物たちの北海道」へと続き、北海道の自然・歴史・文化について共に考え、語り合える場として、数多くの皆様方にご利用いただいております。幸い、旧北海道開拓記念館の末期には年間入館者数が5万人程度でしたが、北海道博物館の初年度には約15万人をお迎えすることができました。ところが、2020年度には、コロナ禍の影響で臨時休館等が繰り返し実施されましたために入館者は43,664人に減少しています。

北海道博物館としての特別展は、2015年度の開館記念特別展「夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—」を皮切りに、2016年度は「ジオパークへ行こう!—恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅—」、2017年度は「プレイボール!—北海道と野球をめぐる物語—」、2018年度は「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える—」、2019年度は「アイヌ語地名と北海道」を開催し、北海道の中核的博物館としての役割を着実に果たして参りました。さらに2020年度には「恐竜展2020」の開催準備を進めておりましたが、コロナ禍のためにやむなく開催中止に至りました。幸い、2021年2月～3月に特別企画展「北海道の恐竜」を、完全事前予約制(オンライン予約システム)、入場者数制限、総入替制などの十全な感染防止対策を講じて開催するとともに、展示室の高精細360度写真を閲覧できるバーチャルツアーをオンライン公開し、関連行事として、小林快次氏(学術協力、北海道大学総合博物館教授)によるオンラインギャラリートーク(You Tube)を10回にわたって配信しました。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、世界情勢は混沌とした状況下にあります。社会・経済への影響は底知れなく、博物館運営においても多大な困難が生じています。コロナ禍が深刻化する中で、北海道博物館は2020年3月4日より、博物館ならではの学習コンテンツを発信するサイト「おうちミュージアム」を公開しました。その後、全国の博物館等からこのサイトへの参加協力をいただき、そのネットワークと利用者は日に日に増大するなど、博物館の世界においても新たな事業展開が萌芽しつつあります。北海道博物館は開館から5年が経過し、第2期目の中期目標・計画期の初年度を迎えています。この節目を機に、館員一同気持ちを新たにこの難局を乗り越え、道民が豊かな生活をいち早く取り戻していけるように貢献していく所存であります。今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますように、心よりお願い申し上げます。

目 次

ごあいさつ

石森秀三

I 北海道博物館の役割と機能	1
1 基本的運営方針 ―北海道博物館のめざす方向	2
2 第2期中期目標・計画（令和2～6年度）	4
3 沿革	10
4 愛称とロゴ	13
5 組織	14
6 施設	16
7 館内の施設	20
II 北海道博物館の活動（2020年度）	27
1 資料の収集・保存	29
2 展示	35
3 調査研究	44
4 北海道開拓の村の整備	51
5 教育普及事業	53
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	66
7 施設及び周辺環境の整備	69
8 広報	73
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	79
10 道民参加の推進	86
11 博物館ネットワーク	89
12 情報発信	94
13 人材育成機能の強化と社会貢献	97
14 研究成果の発信	107
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	110
16 4つのビジョン（重点目標）	117
新型コロナウイルス感染症拡大に係る対応の状況（2020年度）	119
III 資料	125
1 館長の紹介	126
2 学芸職員の博物館活動	126
3 予算	142
4 利用者数	145
5 企画展開催一覧	146
6 刊行物一覧	150
7 条例、規則など	152
8 利用案内	159

I 北海道博物館の役割と機能



1 基本的運営方針 —北海道博物館のめざす方向

2015(平成27)年3月策定

昭和46(1971)年に設置された開拓記念館は、総合的な歴史博物館として、開館から40年以上にわたり、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきたが、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まるとともに、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」に関する北海道文化審議会の答申を踏まえ、平成22(2010)年9月に「北海道博物館基本計画」を策定し、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」としてアイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することとし、そのため、アイヌ文化に関する専門的な調査研究等を行いアイヌ文化の継承と振興に寄与することを目的として平成6(1994)年に設置されたアイヌ民族文化研究センターとの統合の方向性を明記した。

こうして平成27(2015)年4月1日、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合により、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。

本方針は、「北海道博物館基本計画」を踏まえ、北海道博物館が果たすべき社会的使命を明文化するとともに、今後の博物館活動の指針として策定した。

I 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

II 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

III 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

2 第2期中期目標・計画(令和2～6年度)

2020(令和2)年10月策定

概要

●基本的な考え方

第1期中期目標・計画期(平成27～令和元年度)の活動とおして築き上げてきた魅力を背景に、さらなる道民からの信頼と愛着を確保すべく、平成27年に策定した北海道博物館基本的運営方針を継承し、以下の15項目の基礎的な事業に取り組みます。とりわけ、第2期(令和2～6年度)における北海道博物館を取り巻く状況と北海道の未来を見据え、4つのビジョン(重点目標)の達成を目指します。

●15の事業展開

- ① 資料の収集・保存
- ② 展示
- ③ 調査研究
- ④ 北海道開拓の村の整備
- ⑤ 教育普及事業
- ⑥ ミュージアムエデュケーター機能の強化
- ⑦ 施設及び周辺環境の整備
- ⑧ 広報
- ⑨ 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
- ⑩ 道民参加の推進
- ⑪ 博物館ネットワーク
- ⑫ 情報発信
- ⑬ 人材育成機能の強化と社会貢献
- ⑭ 研究成果の発信
- ⑮ アイヌ民族文化研究センターの事業

●4つのビジョン(重点目標)

- ① 北海道開拓記念館開館50年(令和3年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(令和3年)、北海道開拓の村開村40年(令和5年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(令和6年)を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-4に依拠)
- ② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-2に依拠)
- ③ ウポポイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-3に依拠)
- ④ 樺太(サハリン)に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-1に依拠)

※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料(約6,000点)を適切に収蔵・保管するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和2～16年度までの15年計画で実施。

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
- イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
- ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

(2) 収蔵機能の強化

- ア 収蔵資料データベースの適正かつ安全な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。
- イ 東日本大震災時や平成30年9月の台風21号ならびに北海道胆振東部地震時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。
- ウ 市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。

(3) 資料保存環境の維持

貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人びとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
- イ これまで利用者からいただいたさまざまな意見を踏まえ、より魅力的な総合展示のあり方を検討し、順次改善していく。
- ウ 総合展示のメンテナンスに努める。

※総合展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

総合展示室利用者数(5年間)	400,000人
うち外国人利用者数(5年間)	34,000人

(2) 企画展示の開催

- ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
- イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
- ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。

※特別展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

特別展示室利用者数(5年間)	260,000人
----------------	----------

3 調査研究

- ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業等に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
- イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
- ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
- エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域等の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
- オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

4 北海道開拓の村の整備

- ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。
- イ 建造物内の展示の充実に取り組む。
- ウ 博物館としての役割を基本としながら、観光拠点や古民家再生等人材の育成拠点などとしての活用について検討し、取組を進める。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。
- イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。
- ウ 博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。
- エ 利用者ニーズに対応した解説員による展示解説活動を展開する。

※イベントの参加者数の目標値を、次のとおり定める。

イベントの参加者数(5年間)	80,000人
----------------	---------

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

- ア 学校団体をはじめとした各種団体を対象としたレクチャーや「はっけん広場」でのプログラムなど、団体向けのプログラムを実施する。
- イ 情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

(3) はっけん広場の運営

- ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者と解説員の交流の輪を育む。
- イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、教材やプログラムの改良や開発、イベントの充実に努める。
- ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への貸出し用教材の開発を進め、貸出しを推進する。

※はっけん広場利用者数の目標値を、次のとおり定める。

はっけん広場利用者数(5年間)	100,000人
-----------------	----------

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用を促進するための取組を進める。
- ウ 平成29～31年に改訂された学習指導要領をふまえ、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための取組を進める。

7 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- ア 休憩スペース、キッズ・コーナー等を含め、年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に施設を利用できるようアメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。
- イ 記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用を図る。

(2) 周辺環境の整備

- ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。
- イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。
- ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

8 広報

(1) 広報活動の強化

- ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。
- イ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。

(2) 他機関との連携による広報活動の強化

他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。
- イ オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。
- ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

10 道民参加の推進

- ア 道民の自主的なサークル活動の支援、ボランティア活動の導入、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。
- イ 道民とともに進める調査研究や企画展示、道民が博物館活動に深く関わる事業を企画・立案、実施する。
- ウ 外部としての意見聴取・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える道民組織を立ち上げ、北海道博物館における道民参加型活動のあり方を検討する。

11 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報を入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

(2) 博物館交流の促進

- ア 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。
- イ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。

12 情報発信

(1) 情報発信機能の強化

- ア 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物等に関するデータベース化を進め、ウェブサイト等で発信する。
- イ SNSの活用など多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。

※ウェブサイトのアクセス数の目標値を、次のとおり定める。

ウェブサイトのアクセス数(5年間)	1,300,000件
-------------------	------------

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ア 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。
- イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。
- ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、他の博物館や関係機関との連携を強め、レファレンスや学習支援の機能を強化する。

※レファレンス件数の目標値を、次のとおり定める。

レファレンス件数(5年間)	2,800件
---------------	--------

13 人材育成機能の強化と社会貢献

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ア 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習(研修)プログラムを構築する。
- イ 学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

(2) 外来研究員の受入

外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。

(3) 当館職員の資質向上

外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積し、博物館機能の向上に結びつける。

(4) 職員の対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。

(5) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

ア 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。

イ 北海道総合計画などとリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究を推進する。

ウ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。

14 研究成果の発信

(1) 学術刊行物などの刊行

ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ 企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

(2) 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

ア 北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。

イ 関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。

ウ 調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。

エ 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

ア アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。

イ これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

3 沿革

1992（平成4）年の常設展示の改訂から十数年が過ぎた開拓記念館では、研究の進展や、1971（昭和46）年の開館からの経年による施設の老朽化、博物館をとりまく社会情勢の変化や多様化社会への対応など、博物館機能の充実が大きな課題となっていました。2007（平成19）年4月には、知事公約に掲げられた開拓記念館のリニューアルを含んだ「北海道ミュージアム」の設置構想の検討が道庁内で始まりました。2008（平成20）年5月に知事は、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割」について北海道文化審議会に諮問しました。

一方、国会では、2008（平成20）年6月に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされました。これらのことから、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まり、開拓記念館はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実などの具体的な取組が求められました。

2010（平成22）年9月に道は北海道文化審議会の答申を受けて、「北海道博物館基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定しました。「基本計画」には、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つの基本方針を柱とする北海道博物館を設置することが明記され、さらに「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究などの機能の充実を図ることが示されました。

2011（平成23）年には、「北海道博物館」の開設に向けた取組が道の特定重点事業として予算化されて、「北海道博物館リニューアルプラン」策定など開設に向けた各事業が実施されました。

2015（平成27）年4月1日には、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの2つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として「北海道博物館」が開設されました。開館に先立ち、愛称「森のちゃれんが」（道民公募）と、ロゴ（民間企業等とのタイアップ事業）が決められました。

2008（平成20）年	5月	知事が北海道文化審議会に対し「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問
2009（平成21）年	8月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について答申
	11月	環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム（仮称）基本計画検討委員会」設置
2010（平成22）年	5月	「北海道博物館基本計画（仮称）」素案に対するパブリックコメント募集（5月18日～6月17日）
	9月	パブリックコメントの意見の概要及び道の考え方を公表後、「北海道博物館基本計画」策定
2011（平成23）年	4月	「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化
	7月	外部の専門的立場の方々から指導・助言を受けることを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を開拓記念館が設置
2012（平成24）年	3月	北海道博物館設置プラン検討委員会の「北海道博物館リニューアル検討報告書」を北海道環境生活部長へ提出
	6月	リニューアルプランを踏まえた、バリアフリー化や消火設備の改良など、来館者の安全性・利便性を図るため、展示改修基本計画を含んだ施設改修実施設計を実施（～2013年3月）
2013（平成25）年	7月	常設展示場展示改修実施設計を実施（～2014年3月）
	12月	施設改修工事修正実施設計を実施（～2014年3月）
2014（平成26）年	7月	常設展示室等展示改修工事施工（～2015年3月）
	9月	「北海道博物館」のロゴを作成するにあたり「北海道と民間企業等との協働に関する期間限定型事業提案」募集（～10月）
	10月	「北海道立総合博物館条例」公布 「北海道博物館基本的運営方針—北海道博物館の目指す方向—」を決定
	11月	「北海道博物館」の愛称募集（～12月12日）
2015（平成27）年	12月	札幌市立大学デザイン学部からの提案を受け、同大学との協働により「北海道博物館」のロゴを作成（～1月）
	1月	「北海道博物館」の愛称「森のちゃれんが」決定
	2月	ロゴ決定
	3月	「北海道博物館」のウェブサイト開設
	4月	北海道博物館設置（条例・規則施行）、総務部に総括、企画の2グループ、学芸部に博物館基盤、道民サービス、社会貢献の3グループ、研究部に自然研究、歴史研究、生活文化研究、博物館研究の4グループ、アイヌ民族文化研究センター内にアイヌ文化研究グループを置く 開館記念式典挙行（17日）、開館（18日）

	7月	「北海道博物館赤れんがサテライト」リニューアルオープン
	8月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(記念ホール)
	9月	開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開催(～11月) 累計来館者数が10万人を達成(20日)
	11月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(記念ホール) 北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業「Across Borders: 石川直樹写真展」開催
2016(平成28)年	2月	「北東アジアの中の北海道」研究プロジェクト」ロシア・サハリン州 サハリン州郷土博物館と調印
	3月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州 ロイヤル・アルバータ博物館と調印 平成27年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(本庁別館)
	7月	第2回特別展「ジオパークへ行こう！一恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅」開催(～9月)
	8月	平成28年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(記念ホール) 累計来館者数20万人を達成(11日)
		平成28年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(ホテルポールスター札幌)
2017(平成29)年	3月	平成28年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(本庁別館)
	7月	第3回特別展「プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー」開催(～9月)
	8月	累計来館者数30万人を達成(25日)
	9月	平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	11月	平成29年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
2018(平成30)年	3月	平成29年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	6月	平成30年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	7月	第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 一見る・集める・伝える」開催(～9月)
	7月	平成30年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
	8月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州 ロイヤル・アルバータ博物館と調印 累計来館者数40万人を達成(14日)
	9月	平成30年台風21号および北海道胆振東部地震の影響により臨時休館(6～8日)
	12月	ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想 策定
2019(令和元)年	3月	平成30年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	7月	第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」開催(～9月)
	9月	令和元年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	10月	累計来館者数50万人を達成(22日)
	11月	令和元年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
2020(令和2)年	2月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(2月29日～3月31日)
	3月	令和元年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	4月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(4月14日～5月24日)
	10月	令和2年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
2021(令和3)年	2月	令和2年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)

統合した2つの施設

(1) 北海道開拓記念館

北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の1つとして、「北海道の生い立ち、開拓の足跡を示す資料を収集、保存し、展示して北海道の歴史と未来への課題や可能性の認識に役立てるとともに、今後、道内におけるこの種の施設のセンターとしての役割を果たし、北海道の開発に寄与せしめる」（「北海道開拓記念館構想」（1967（昭和42）年））ことを目的に、1971（昭和46）年に総合的な歴史博物館として設置されました。

1962（昭和37）年	百年記念事業について知事と民間有識者との懇談会において、総合博物館の設置が話題になる
1964（昭和39）年	9月 道政モニターにおいて、百年記念事業のうち、開拓遺物や文化財などを永久に保存するため、郷土館（博物館、記念館）の設置への賛成が96%に達する
1966（昭和41）年	2月 記念建造物等設置検討会を開催し、記念地域・記念塔・記念館について有識者の意見を聴取する
	3月 「北海道百年記念事業実施方針」と事業実施の「準備計画」が決定され、北海道開拓記念館の建設が明文化される
	4月 北海道企画部に北海道百年記念事業準備室を設置する
1967（昭和42）年	5月 北海道百年記念事業事務局設置、業務課に記念館係を置く
	9月 「北海道開拓記念館開設協議会」を設置する（以下、開設協議会と略す）
	11月 第1回開設協議会を開催し、「開拓記念館構想試案」の検討を行い「構想」の決定をみる
1968（昭和43）年	11月 北海道百年記念事業事務局を廃止し、道総務部に北海道百年記念施設建設事務所を設置する 第2回開設協議会を開催する
1969（昭和44）年	11月 学芸職員を中心に「北海道開拓記念館業務計画案」を作成する
	12月 開設協議会を開催し、建設の設計変更、企画運営専門部会設置、業務計画案、展示計画試案等について協議を行う
1970（昭和45）年	4月 北海道開拓記念館開設準備事務所が設置され、北海道百年記念施設建設事務所から独立する。展示係、資料収集係、資料管理係が置かれ、学芸研究職員が増員される
	7月 開設協議会を開催し、昭和45年度事務所機構、館の英名、展示計画について協議を行う
	9月 開拓記念館第1期建築工事竣工及び展示工事開始
	11月 開拓記念館第2期建築工事が竣工
1971（昭和46）年	3月 「北海道開拓記念館条例」公布 開設協議会最終会議を開催する（現地視察）
	4月 北海道開拓記念館が開設（1日） 北海道開拓記念館開館式を挙（14日）

(2) 北海道立アイヌ民族文化研究センター

1983（昭和58）年4月以降、北海道知事を勤めた横路孝弘氏は、その3期目（平成3～7年）の知事公約のなかで、「アイヌ民族文化研究センター設置構想」を盛り込み、当選を果たした1991（平成3）年4月以降、具体的な検討に着手しました。

この公約の背景には、アイヌ語やアイヌの習俗・技術等の生活文化を知る古老が高齢化し、伝承が難しくなる一方で、国内にアイヌ文化を専門的に研究する機関がない状況だったことや、研究に必要な資料（音声テープ、文献等）が散在し、資料の散逸やテープの劣化等も懸念されていた状況がありました。

その後、庁内の検討及び関係者からの意見聴取等を経て、道は「アイヌ文化はアイヌ民族が北海道で育んできた貴重な文化であり、今日の北海道の文化に多くの影響を与えてきた重要な資産であることから、アイヌ文化の研究を振興し、アイヌ文化の継承、発展を図る」ことを目的に、1994（平成6）年6月にアイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進する専門的研究機関として、アイヌ民族文化研究センターを設置しました。

1991（平成3）年	3月 現職の横路孝弘知事が公約「新しい北海道の創造 —素晴らしき人と大地とともに—」の中で「アイヌ民族文化研究センターの設置」を掲げて、再選
	7月 「アイヌ民族文化研究センター構想検討会議」を設置する（～平成4年9月）
	10月 「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会を開催する（2回）（～平成5年9月）
	12月 アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する要望書が知事に提出される
1992（平成4）年	4月 道内外のアイヌ文化研究者等から意見聴取を行う（～8月）
1993（平成5）年	1月 「アイヌ民族文化の研究方策懇話会」を開催する（2回）（～2月）
	5月 「アイヌ民族文化研究センター検討会議」を設置する（～10月）
1994（平成6）年	3月 「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布
	6月 北海道立アイヌ民族文化研究センター開所

4 愛称とロゴ

愛称：森のちゃれんが

北海道博物館がより道民の身近な存在として親しみをもってもらえるよう、同館の愛称を道民からの公募により定めることにしました。短期間でしたが、小さなお子さまからお年寄りまで、多くの方がたから応募がありました。

応募作品のなかから、有識者や利用者代表による選考を経て、札幌市の高校生の作品「森のちゃれんが」が、北海道博物館の愛称に選ばれました。

この愛称には、野幌の森の緑に囲まれた美しいれんが造りの博物館を、道庁の赤れんが庁舎とともに世界に発信したいとの思いがこめられています。また、新しく生まれ変わりチャレンジしていく博物館というイメージをも、感じ取ることができます。

ロゴ

北海道博物館のロゴは、北海道と民間企業などとのタイアップ事業として、札幌市立大学のご協力を得て、作成しました。

札幌市立大学デザイン学部武田ゼミの学生たち9名がチームを組み、まずは北海道博物館の視察を行い、新しく生まれ変わる博物館のイメージを膨らませました。そして、ロゴ案を20案作成し、そのなかから11案を学生自らが厳選し、有識者や利用者代表による選考委員会に提出しました。

選考の結果、愛称として決まった「森のちゃれんが」にちなみ博物館の建物をモチーフとし、配色はれんが色に統一したこのデザインが、北海道博物館のロゴとして選ばれました。

基本型



英語型・館名型・愛称型



愛称組み合わせ型



カラーシステム



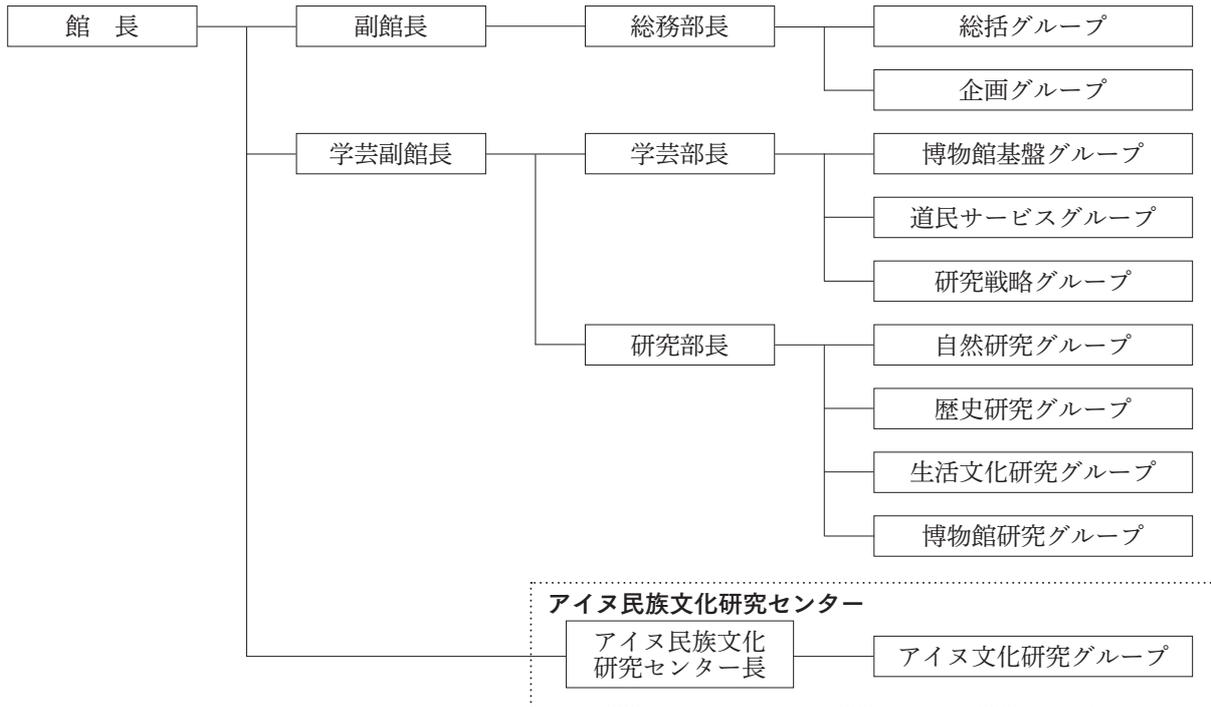
R:173 C:36%
G:55 M:91%
B:35 Y:100%
#AD3723 K:2%

5 組織

歴代館長

初代 石 森 秀 三 2015年4月1日～

組織(2021年4月1日現在)



	グループ	主な事務分担、または研究分野	第2期中期目標・計画の所管
総務部	総括グループ	館の庶務、職員の人事・服務・研修・福利厚生、職員の給与・手当、館の予算・経理・決算、庁中管理、公有財産・物品、式典、指定管理、自然公園法、道立自然公園条例など	7 施設、及び周辺環境の整備
	企画グループ	館業務の総合的企画及び連絡調整、自己点検評価、博物館協会の運営、北海道開拓の村の整備・修繕計画、博物館交流、人材育成、及び社会貢献に係る業務の企画、調整など	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献
学芸部	博物館基盤グループ	資料、展示、及び情報発信に係る業務の企画、調整など	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
	道民サービスグループ	教育普及事業、利用者サービス及び広報に係る業務の企画、調整など	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
	研究戦略グループ	調査研究、及び研究成果の活用に係る業務の企画、調整など	3 調査研究 14 研究成果の発信
研究部	自然研究グループ	自然史系分野(地学、生物学)	
	歴史研究グループ	歴史系分野(考古学、歴史学、美術史学)	
	生活文化研究グループ	生活文化系分野(産業学、生活学)	
	博物館研究グループ	博物館学系分野(展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学)	
アイヌ民族文化研究センター			15 アイヌ民族文化研究センターの事業
	アイヌ文化研究グループ	アイヌ文化系分野(言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術)	

現員 (2021年4月1日現在)

所属	常勤		非常勤		合計
	行政職	研究職	特別職	一般職	
館長			1		1
副館長	1				1
学芸副館長		1			1
部長	1	1(1)			2(1)
アイヌ民族文化研究センター長		(1)			(1)
総括グループ	6(1)				6(1)
企画グループ		6(1)			6(1)
博物館基盤グループ	1	7			8
道民サービスグループ		8			8
研究戦略グループ		3			3
自然研究グループ		(4)			(4)
歴史研究グループ		(6)			(6)
生活文化研究グループ		(6)			(6)
博物館研究グループ	(1)	(4)			(5)
アイヌ文化研究グループ		1(5)	2		3(5)
解説員				10	10
合計	9(2)	27(28)	3	10	50(30)

職員名簿 (2021年4月1日現在)

館長 石森 秀三
副館長 小野寺誠司
学芸副館長 小川 正人

総務部
総務部長 川田 宣人

総括グループ
主幹(GL)(兼) 川田 宣人
主幹 由水 正明
主査 三國 正雄
(総務)
主査 三井 義也
(調整・公園利用)
主査 鈴木 芳彦
(調整・施設管理)
専門主任 西尾 千秋
主事 金子 未来

企画グループ
学芸主幹(GL) 池田 貴夫
研究主幹(兼) 甲地 利恵
学芸主査 東 俊佑
(企画調整)
学芸主査 山田 伸一
(社会貢献)
学芸員 尾曲 香織
学芸員 圓谷 昂史
研究職員 鈴木 明世

学芸部
学芸部長 堀 繁久

博物館基盤グループ
学芸主幹(GL) 鈴木 琢也
学芸主査 山際 秀紀
(資料管理)
学芸主査 会田 理人
(展示)
主査 櫻井万里子
(図書・情報発信)
学芸員 鈴木あすみ
学芸員 亀丸由紀子
研究職員 吉川 佳見
研究職員 大谷 洋一

道民サービスグループ
学芸主幹(GL) 三浦 泰之
学芸主査 青柳かつら
(利用促進)
研究主査 遠藤 志保
(教育普及)
学芸員 表 溪太
学芸員 田中 祐未
学芸員 渋谷 美月
学芸員 久保見 幸
学芸員 右代 啓視

研究戦略グループ
学芸主幹(GL) 水島 未記
学芸主査 大坂 拓
(調査研究)
学芸員 舟山 直治

研究部
研究部長(兼) 小川 正人

自然研究グループ
学芸主幹(GL)(兼) 水島 未記
学芸員(兼) 表 溪太
学芸員(兼) 圓谷 昂史
学芸員(兼) 久保見 幸

歴史研究グループ
学芸主幹(GL)(兼) 三浦 泰之
学芸主幹(兼) 鈴木 琢也
学芸主査(兼) 山田 伸一
学芸主査(兼) 東 俊佑
学芸員(兼) 田中 祐未
学芸員(兼) 右代 啓視

生活文化研究グループ
学芸主幹(GL)(兼) 池田 貴夫
学芸主査(兼) 山際 秀紀
学芸主査(兼) 会田 理人
学芸主査(兼) 青柳かつら
学芸員(兼) 尾曲 香織
学芸員(兼) 舟山 直治

博物館研究グループ
学芸主幹(GL)(兼) 堀 繁久
主査(兼) 櫻井万里子
学芸員(兼) 鈴木あすみ

研究職員(兼) 鈴木 明世
学芸員(兼) 渋谷 美月

アイヌ民族文化研究センター
アイヌ民族文化研 小川 正人
究センター長(兼)

アイヌ文化研究グループ
研究主幹 甲地 利恵
研究主査(兼) 遠藤 志保
学芸主査(兼) 大坂 拓
学芸員(兼) 亀丸由紀子
研究職員(兼) 吉川 佳見
研究職員(兼) 大谷 洋一
研究職員(非常勤) 佐々木利和
研究職員(非常勤) 奥田 統己

解説員
主事(非常勤) 越田 雅子
主事(非常勤) 福嶋奈緒子
主事(非常勤) 堀 泰子
主事(非常勤) 山田日登美
主事(非常勤) 浅井 雅世
主事(非常勤) 工津 尋美
主事(非常勤) 折館 里佳
主事(非常勤) 今村ゆみ子
主事(非常勤) 久保田幸恵
主事(非常勤) 川村 昌江

人事異動

退職(3月31日付)	中村亘(アイヌ民族文化担当副館長)、山岸睦(総務部総括グループ主幹)、杉山智昭(学芸部博物館基盤グループ兼研究部博物館研究グループ学芸主査)、添田雄二(学芸部博物館基盤グループ兼研究部自然研究グループ学芸主査)
転出(3月31日付)	古野健太郎(総務部総括グループ主査)、徳本彩(総務部総括グループ主任)
新任(4月1日付)	金子未来(総務部総括グループ主事)、久保見幸(学芸部道民サービスグループ兼研究部自然研究グループ学芸員)、吉川佳見(学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ民族文化研究センター研究職員)
転入(4月1日付)	由水正明(総務部総括グループ主幹)、鈴木芳彦(総務部総括グループ主査)

6 施設

館の位置と環境

北海道博物館は、札幌市の中心部から東方約15kmの地点にある道立自然公園野幌森林公園の中にあります。この公園は、1968(昭和43)年5月に北海道百年を記念して、自然公園法に基づく自然公園として指定されたものです。札幌市、江別市及び北広島市の3市にまたがる公園の区域は、標高20~90mのなだらかな丘陵地に広がる森林を主とし、2,053haの面積を有し、大都市の近郊にある自然性の高い平地林としては世界的にも例が少ない貴重なものです。

公園の主体をなす国有林約1,600haは、昭和の森・野幌自然休養林として石狩森林管理署が遊歩道を整備し、管理しています。公園内の遊歩道の総延長は30km以上に及び、散策、自然観察や冬の歩くスキーなどに利用されています。国有林の西側に接する道有地の一部は記念施設地区となっており、北海道博物館のほか、野外博物館としての北海道開拓の村や北海道百年記念塔などを集中的に設置しています。また、2001(平成13)年4月には大沢口に、公園利用者の中核施設として、自然ふれあい交流館が設置されました。

公園に接する付近一帯には、道立図書館、道立文書館、道立埋蔵文化財センターや大学、高等学校などがあり、札幌市と江別市の文教地区ともなっています。

野幌森林公園は、一般には野幌原始林として知られていますが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など、何らかの人手が加えられており、実際に人手の加わっていない「原始林」はありません(国指定特別天然記念物「野幌原始林」は、公園区域から離れた北広島市内の国有林内にあります)。それでも公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的良好に残されていて、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる、多様な林相が見られます。人工林も全体の40%ほどを占めるようになっていて、明治の末から林業試験場によって試験植栽されたストロブマツやトウヒなど、60種を超える外来樹種が見られ、大径木も多くあります。

公園内には、キツネ、タヌキ、ユキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、ヒメネズミなどの小・中哺乳動物が生息しています。また、天然記念物のクマガラを始め、ウグイス、オオルリ、キビタキ、シマエナガ、シジュウカラ、アカゲラなど、およそ140種の野鳥が記録されています。



野幌森林公園・記念施設地区



野幌森林公園遊歩道



オオアカゲラ



ベニテングタケ



記念施設地区の配置

国道12号からのアプローチ道路の終点、百年記念塔、北海道博物館が正三角形で結ばれるように配置されています。また、博物館の建物は、周辺の木々で意図的に外からの視線を遮り、建物に近づくと眼前に視界が突如ひろがるよう演出されています(アクシデンタル・トリートメント)。

建物の基本構想と設計

本館は、1970（昭和45）年11月に北海道開拓記念館として建設された建物です。設計は、この建物自体が永く後世に残る記念建造物となるようにとの町村金吾北海道知事（当時）の要望により、その建設計画を北海道と縁の深い佐藤武夫博士が主宰していた佐藤武夫設計事務所に委託し、野幌産出の赤れんが（約75万本）を豪壮に用いた芸術性の高い建物が完成しました。

また、開拓記念館の開館当初の博物館としての性格、機能、展示構想などは、当時北海道史編纂を行っていた犬飼哲夫（開拓記念館初代館長）、高倉新一郎（同第2代館長）が中心となり、展示室の空間計画を飯田勝幸（北海道大学工学部建築工学科助教授（当時））、展示ディスプレイ・デザインを北海道出身のデザイナーである栗谷川健一の「北海道デザイン研究所（当時）」（その後、北海道造形デザイン専門学校となり2015（平成27）年3月閉校）が担当しました。この建築家・学者・

展示の三者連携による博物館づくりの思想は、メキシコの国立人類学博物館をモデルにしたものでした。

なお、1973（昭和48）年に本館は日本建築学会賞を受賞しました。



博物館本館と記念塔の配置

花崗岩の石壁に囲まれた南正面のアプローチデッキ、正面玄関ホール、1階ロビー、北出口、記念塔までが一直線に並ぶよう配置されています。また、博物館の建物の外観は、巨大なレンガ積み正方形の枘の形をしています。

北海道開拓の村

北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の歴史的建造物を移築復元・再現した野外博物館です。貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えるとともに、開拓当時の人びとのくらしを体験的に理解してもらうことを目的として、1983（昭和58）年に開村しました。市街地群、漁村群、農村群、山村群の4つのエリアに52棟の歴史的建造物が建ち、街並や景観が再現され、全体が展示空間になっています。

夏には、「馬車鉄道」が市街のメインストリートを走り、冬には「馬そり」が村内を回ります。季節の移り変わりを知らせる村祭りや年中行事、農作業などの生活体験イベントを行っています。体験学習棟では、伝統遊具づくり、お手玉やおはじき、コマなどの昔の遊びを体験することができます。また、ボランティアによる手フット印刷の実演やわら細工の実演、建造物の解説・ガイドツアーなども行っています。



北海道開拓の村

野幌森林公園自然ふれあい交流館

2001（平成13）年にオープンした「野幌森林公園自然ふれあい交流館」は、道立自然公園野幌森林公園のビジターセンターです。館内では、公園内の自然のつながりをジオラマやイラスト・写真などでわかりやすく紹介しており、野幌森林公園のなりたちや植生、森にすむ生き物のことを知ることができます。

館内では、絵本や図鑑、専門図書など約2,500冊を自由に読むことができ、専門のスタッフに質問することもできます。公園を散策する前に立ち寄れば、樹木の見分け方や花・昆虫の種類などがわかるようになります。

また、月に1回自然観察会を開催しているほか、子どもからお年寄りの方まで楽しく体験できる「もりの工作コーナー」、親子自観察会、親子工作教室、「もりの講演会」など、自然をテーマにした各種イベントを開催しています。このほか、顕微鏡コーナーや鳥の声が聴けるスカントーク、積み木などの木製遊具などもあり、館内でも公園内の自然を学習できます。



自然ふれあい交流館

施設・設備の概要

北海道博物館は、地下2階、地上2階一部中2階建てで、その延面積は12,947㎡です。これを部門別にみると、管理部門14.6%、展示部門28.8%、教育普及部門8.3%、研究部門3.2%、資料管理部門20.8%、共用部門24.3%となります。構造は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨造であり、外装は、主として江別市の野幌産のれんが積みアルミ電解発色材の柱を配しており、内部も、グランドホール、ホール、講堂、記念ホール、休憩ラウンジなどの主要な室の壁はれんが積みとなっています。

主要室の配置は、1階には玄関、グランドホール、記念ホール、館長室、事務室等の管理諸室と総合展示室を配し、2階には総合展示室、特別展示室、中2階は休憩ラウンジを配しています。中地下1階には、約200人収容の講堂、はっけん広場等の教育普及の諸室のほか、書庫、図書室、第4・5収蔵庫、研究室を配しています。地下1階には、第1・2・3収蔵庫と資料搬入搬出のための作業諸室を設け、特に第1収蔵庫は恒温恒湿の管理ができ、重要資料の収蔵にあてています。そのほか冷暖房機械室、給排水ポンプ室、受変電室などを配しています。

1 敷地面積	16,258㎡
2 建築面積	4,018㎡
3 建築延床面積	12,947㎡
4 主要室の床面積（端数整理）	
事務室	314㎡
館長室	37㎡
副館長室	28㎡
応接室	24㎡
会議室	37㎡
機械室	1,446㎡
総合展示室	3,011㎡
特別展示室	665㎡
準備室1	20㎡
準備室2	36㎡
講堂	363㎡
記念ホール	270㎡
はっけん広場	140㎡
はっけん準備室	44㎡
第1書庫	148㎡
第2書庫	75㎡
図書室	86㎡
研究室1 （アイヌ民族文化研究センター）	56㎡
研究室2	39㎡
研究室3	42㎡
研究室4	42㎡
研究室5	39㎡
研究室6	18㎡
研究室7	40㎡
研究室8・9	124㎡
外来研究室	30㎡
電子顕微鏡室	16㎡
第1収蔵庫	415㎡
第2収蔵庫	475㎡
第3収蔵庫	1,096㎡
第4・5収蔵庫	406㎡
書庫	74㎡
資料受入整理室	65㎡
保存処理室	44㎡
資料情報室	44㎡
休憩ラウンジ	391㎡
グランドホール	264㎡
廊下・階段等	2,490㎡

5 外部仕上げ

屋根	アスファルト防水層、コンクリート金こて仕上げ
庇	軒先アルミ板折曲加工、電解発色仕上げ
壁	煉瓦フランス積貼、紋様入
独立柱	キャストアルミ、電解発色仕上げ
南面デッキ	袖壁花崗岩（小叩き）ばり、上部床花崗岩（円盤摺）敷き

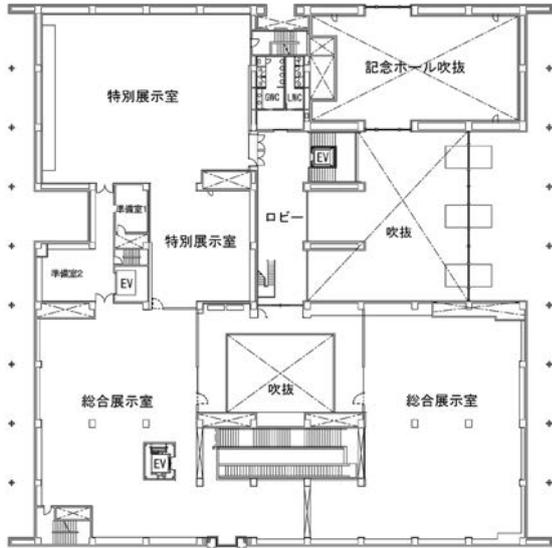
6 内装仕上げ

室名	床	壁	天井
グランドホール	花崗岩（円盤ずり）敷き、ボーダー水みがき仕上げ、一部大理石モザイク紋様ばり	れんがフランス積み（一部紋様入り）	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
記念ホール	カーペット敷	同上	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
講堂	モザイクパーケットブロック張	れんが表手積（黄色）、一部透積、裏面グラスウール ϕ 20mm張	岩綿吸音板張
館長室	カーペット敷	合板練付C.L	同上
副館長室	同上	同上	同上
応接室	同上	同上	特別織り布張
研究室	ビニール系アスベストタイル	キャンバス貼M.P塗装	岩綿吸音板張
総合展示室	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	発泡合成樹脂板打込モルタル塗	岩綿吸音板
はっけん広場	モザイクパーケットブロック	モルタル金こて仕上げ目地切、キャンバス張	同上
収蔵庫	リノリウム張	モルタル金こて仕上げEPおよびフレキシブルボード目透張V.P	コンクリート打ち止め、リシン吹き付けおよびフレキシブルボード目透V.P
休憩ラウンジ	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	れんがフランス積み（黄色）	合板練付C.L
休憩ラウンジ前ロビー	同上	同上	リシン吹付

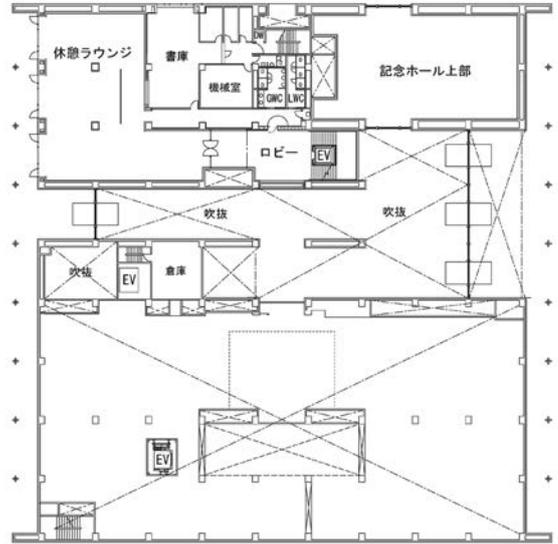
7 付帯設備

空気調節設備	【室内条件】 収蔵庫・展示室＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5% 一般部分＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5% 【冷熱源】吸収式冷凍機1基、冷房能力108万8,760kcal/時 【空調系統】単一ダクト方式＝総合展示室・特別展示室・講堂・事務室・ホール・記念ホール・収蔵庫・休憩スペース
電気設備	変電・自家発電・舞台照明・動力・昇降機・放送・音響・その他
衛生設備	給水＝全館水道水使用、給湯・排水・プロパンガス
消火設備	ハロンガス消火・炭酸ガス消火・スプリンクラー・屋内消火栓

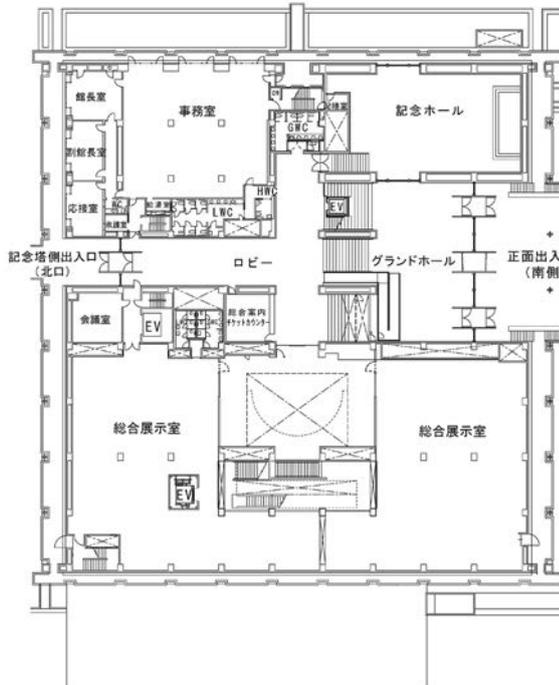
2階(2F)平面図



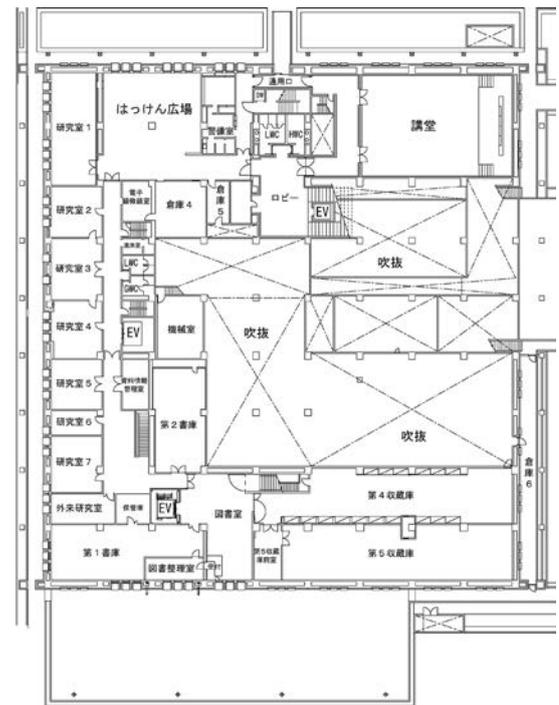
中2階(M2F)平面図



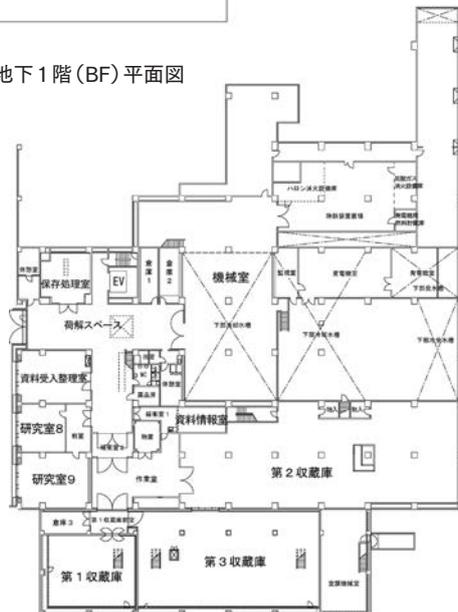
1階(1F)平面図



中地階(MBF)平面図



地下1階(BF)平面図

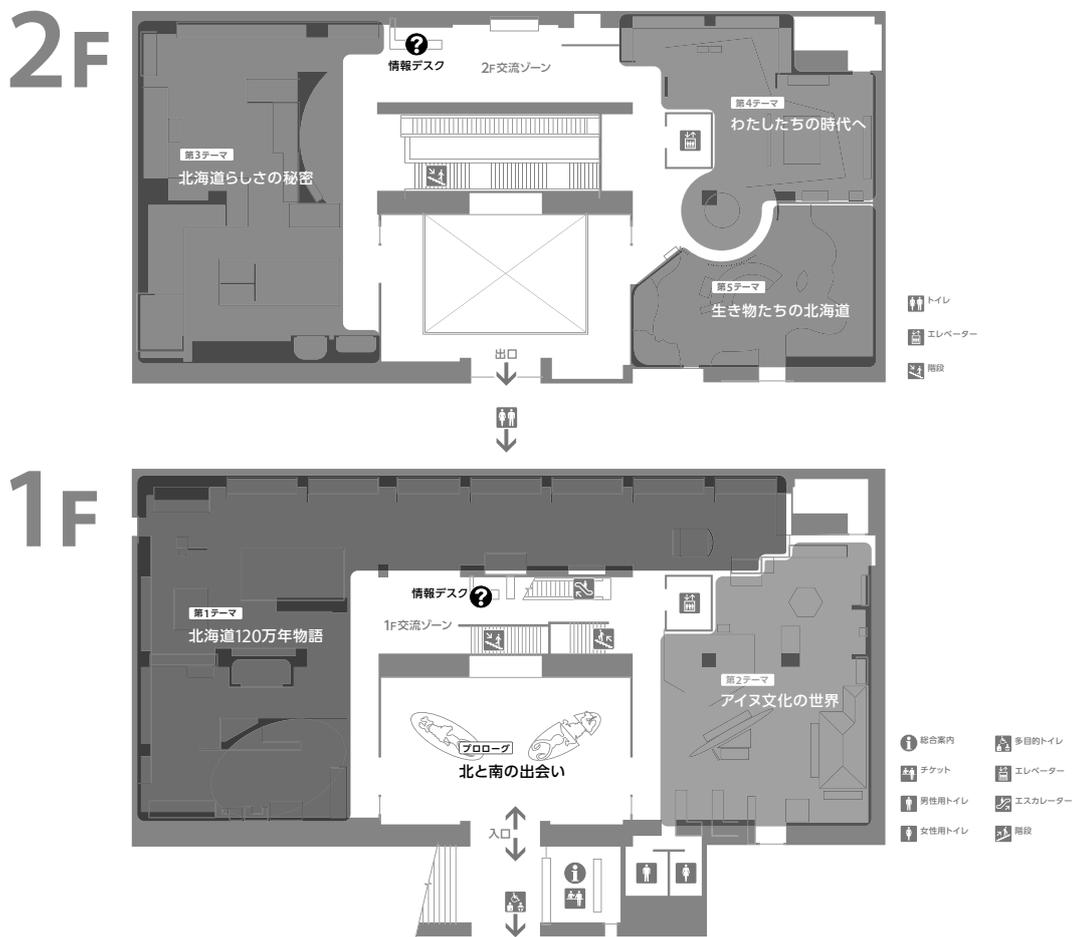


7 館内の施設

総合展示室

総合展示は、1・2階の3,011㎡の面積で展開され、「北東アジアのなかの北海道」、「自然と人とのかかわり」をコンセプトに、幅広い世代が楽しめる展示を設けるとともに、来館者の関心で自由にテーマを選んで観覧できるように、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマにわけて展示しています。1階は歴史と文化を主題とした第1テーマ「北海道120万年物語」と第2テーマ「アイヌ文化の世界」、2階は文化、歴史、自然を主題とした第3テーマ「北海道らしさの秘密」、第4テーマ「わたしたちの時代へ」、第5テーマ「生き物たちの北海道」で構成しています。その他に、五感を刺激する展示や、時期によって展示内容を変える「クローズアップ展示」などもあります。

総合展示室内の各階にある交流ゾーン内には、博物館のスタッフが常駐する情報デスクを設け、来館者の質問等にお答えしています。またこの交流ゾーンで学芸員が総合展示の見どころなどを紹介するミュージアムトーク（一部の祝日のみ）を開催しています。



プロローグ 北と南の出会い

総合展示室に入ると、北海道を中心とする北東アジアの衛星写真が床一面に広がります。その上に、ナウマンゾウとマンモスゾウの復元骨格が、北海道をはさんで向かい合うように展示されています。北海道の上に立ち、まわりを眺めてみたり、正面のスクリーンで映像を見ると、北海道がどんなところなのかを知ることができます。





第1テーマ 北海道120万年物語

およそ120万年前から、開拓が本格的にはじまった19世紀おわりごろまでの北海道と、そこに生きた人びとのあゆみを紹介しています。北海道の大地の成り立ちから、旧石器文化、縄文文化、続縄文文化、擦文文化へと展開する人びとの文化、そして蝦夷地から北海道へと移り変わるころのアイヌ民族と和人の歴史や、開拓初期の歴史について学ぶことができます。



第2テーマ アイヌ文化の世界

アイヌ民族は、北海道をはじめ、サハリン（樺太）、千島列島などを生活の舞台として、さまざまな文化を育んできました。このテーマでは、アイヌ民族の現在や、昔の住まいや衣服などの暮らしの道具、信仰と儀式、アイヌ語や物語・歌などの伝承されてきた文化、さらに近現代を生きるアイヌのすがたを学ぶことができます。



第3テーマ 北海道らしさの秘密

北海道ならではの景色、海や大地の資源を活かし育ててきた数々のモノづくり、多雪寒冷な気候に適応しようと模索した生活スタイルなど、いまの北海道には〈らしさ〉がたくさんあります。このテーマでは、農業・漁業・鉱工業・林業といった産業や産物、人びとのくらしの歩みをたどることにより、北海道の魅力とアイデンティティを再発見することができます。



第4テーマ わたしたちの時代へ

戦後の復興期を経て経済発展が進むなかで、北海道の産業や人びとのくらしは大きく変化しました。このテーマでは、20世紀のはじまりから現代までの、私たちが生きている「いま」と直接結びついている約100年の北海道のあゆみを紹介しています。昭和の戦争の時代や、高度経済成長期の人びとのくらしについて学ぶことができます。



第5テーマ 生き物たちの北海道

明治時代からわずか百数十年で、北海道の自然は急速に変えられました。このテーマでは、ヒグマやエゾシカ、サケなど、生き物の視点で北海道の自然を見つめ、生き物どうしのつながりを知り、ヒトと自然の関係について考えることができます。動物形のソファや、「どんぐりコロコロ」など、子どもが楽しめる展示物もたくさんあります。

総合展示室内の施設

交流ゾーン

交流ゾーンは、「休憩」「案内・情報提供」「交流」の3つの機能をもつ、展示エリアとは異なる総合展示室内の憩いの空間です。1階と2階にそれぞれあり、机やイスが置かれています。また、博物館のスタッフが常駐する情報デスクがあり、展示の内容や館内の案内など、わからないことをいつでもスタッフに質問することができます。2階の交流ゾーンには、北海道開拓のようすを描いた木村捷司作の壁画《開拓》や、博物館スタッフの紹介コーナーもあります。



2階交流ゾーン



壁画《開拓》 木村捷司作 1971(昭和46)年 明治後期の上川地方の開拓地の状況

展望テラス

展望テラスは、2階交流ゾーンに隣接する場所にあり、森林公園や札幌のまちを眺めることのできる憩いのスペースです。晴れていれば、遠くに藻岩山や恵庭岳、羊蹄山も見えます。



クローズアップ展示コーナー

クローズアップ展示は、ふだんの総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵するモノなどを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーです。1階の第1テーマと第2テーマにそれぞれ2か所、2階の第3～5テーマにそれぞれ1か所あり、全部で7か所あります。展示内容や期間、次回のスケジュールなどは、各コーナーの掲示サインで来館者へお知らせするほか、行事案内等の広報物、ウェブサイトなどでも随時情報を発信しています。



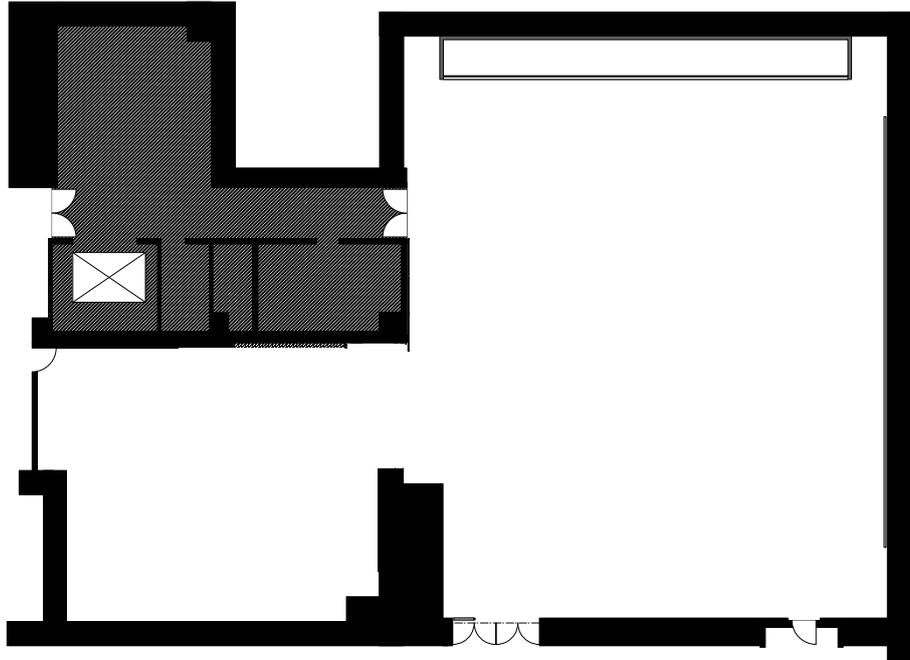
クローズアップ展示1「松前・江差湊のにぎわい」



クローズアップ展示2「新選組の元幹部隊士 永倉新八」

特別展示室

特別展示室は、総合展示室の2階出口を進んだ左側に位置しています。面積665㎡、固定ケースや移動・組立て可能なケース、パネルなどが設備されています。特別展や企画テーマ展など、北海道の自然・歴史・文化をさらに深めるような展示会や、北海道博物館の収蔵資料を紹介するような展示会を定期的に開催しています。



特別展

総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化について、さらに内容を深めた展示、あるいは総合展示では扱うことのできない特定の分野やテーマについて、他機関所蔵の資料などを借用して行う展示会です。年に1回程度、一定期間開催します。観覧料は有料です。



第1回特別展「夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報—」

企画テーマ展

学芸員の日ごろの研究成果をわかりやすく発表したり、当館が所蔵している資料を特定のテーマにもとづいて、より多く公開することを目的とした展示会です。特別展よりは規模の小さい展示会です。年に数回、一定期間開催します。観覧料は無料です。



第1回企画テーマ展「学芸員のおすすめの1点」

はっけん広場

はっけん広場は、グランドホールから下に降りた中地階 (MBF) にあり、「じっくり観察する」「ホンモノにふれる」「道具を使う」「何かをつくる」などの体験ができる部屋です。「毛皮にさわろう」「ムックリを鳴らそう」「なつかしのおもちゃで遊ぼう」などの体験型教材「はっけんキット」が数十種類配置され、自然の不思議や昔の人の知恵など、それまで知らなかった何かを「発見」することができます。この部屋には、博物館のスタッフが数名常駐し、「はっけんキット」の使い方などのサポートをしています。学校団体向けの「はっけんプログラム」の会場としても使われ、また土曜・日曜日や祝日・振替休日などには、利用者が気軽に参加できる講習会「はっけんイベント」を開催しています。



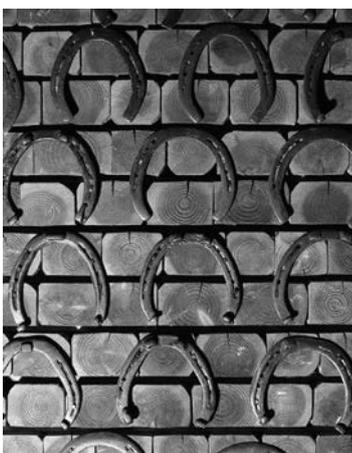
図書室

図書室は、総合展示室1階の交流ゾーンから階段を降りた中地階 (MBF) にあり、館の出版物のほか、一般図書や雑誌、他の博物館の展覧会図録などが自由に閲覧できるようになっています (一部開架、閉架式)。図書室では、司書、または閲覧担当のスタッフが、来館者のさまざまな質問や、より専門的な調査や当館資料の利用についての相談などに応じるレファレンスサービスに対応しています。



記念ホール

記念ホールは館の象徴的な空間で、各種の式典に使用しています。床には赤いカーペットが敷かれ、正面には、北海道の風物を織り込んだタペストリー (壁掛) が掛けられ、反対側の壁面には蹄鉄が打ち付けられています。天井の高い荘厳なホールは、見る者を圧倒させます。



蹄鉄

記念ホールの入口を入って左側、正面と向き合った壁の一面には、明治時代以降の北海道の産業や生活に重要な役割を果たしてきた馬の功績をたたえ、その供養をする意味で、装飾的に蹄鉄が壁面に打ち付けられています。この蹄鉄は、実際に北海道の各地で使われたものを集め、大小約1,600個が見事に打ちつけられており、見る者を驚かせます。



タペストリー

北海道の自然をあらわすものとして、動物ではウマ、ウシ、クマ、ツル、カニ、サケなどが、また植物としてはエゾマツ、ムギ、トウモロコシ、ライラックなどが描かれています。一コマの大きさは90cm角で、全体の大きさは高さが8m、横幅が4.5mあります。重さは200kgもあり、これを天井から吊すのは、当時としては大変な作業だったようです。

講堂

講堂は、グランドホールから階段を下りた中地階(MBF)にあります。2～3人掛けの机を40台、イスを約200脚備えており、机付きで80～120人、机なしで最大200人程度収容可能な空間です。当館主催の講座・講演会など、さまざまな行事に利用しています。また、学校団体などへのグループレクチャーや昼食会場、荷物置き場としても活用しています。



休憩ラウンジ

休憩ラウンジは中2階(M2F)にあり、百年記念塔をながめながらくつろぐことができます。ここでは飲食することができ、ご自身がお持ちのお弁当や飲み物を、絶景のロケーションのなかで楽しむことができます。入口付近には自動販売機が設置されています。



グランドホール

博物館の正面玄関を入ってすぐの空間がグランドホールです。ホール正面に掛けられているのは、道章のタペストリーです。7つの光芒をもつ赤い星は、輝かしく躍進する北海道の姿であり、それを囲む白は風雪をあらわしています。落ち着いたあるレンガの色にかこまれても焦点がこの道章に向くように、色調豊かなものに仕上がっています。このタペストリーをくぐってまっすぐ進むと、広い廊下の突きあたりの大きなガラスを透かして、百年記念塔が見えるように設計されました。



ミュージアムカフェ

ホール内には、ミュージアムカフェがあり、コーヒーなどの飲み物や、パン・ドーナツなどの軽食を楽しむことができます(約40席)。また、オリジナルグッズやお土産、当館刊行物など書籍を販売し、ミュージアムショップの役割も担っています。

正面デッキ

正面出入口の前のデッキには、ツルの彫刻「羽ばたき」があります。ツルの近くで手を打つと、両壁にこだまして音の戯れに挨拶される仕組みになっています。それはツルの羽ばたきを思わせる音で、これから未来に羽ばたいていく人たちに向けたささやかな贈り物なのかもしれません。



屋上スカイビュー

エレベーターで屋上階(RF)へ上がると、外の景色が見渡せる塔屋の中へ出ます。ふだんは塔屋から外へ出ることはできませんが、祝日・振替休日など、暖かくて天候の良い日には、特別に開放するイベントを行い、屋上から見渡すすばらしい眺めを体感していただいています。札幌のまち、森林公園、百年記念塔を一望できる絶景のロケーションです。空気の澄んだ日には、羊蹄山を見ることもできます。



II 北海道博物館の活動 (2020年度)



2020(令和2)年度 業務執行体制(2021年3月31日現在)

	グループ	主な事務分担、または研究分野	第2期中期目標・計画の所管
総務部	総括グループ	館の庶務、職員の人事・服務・研修・福利厚生、職員の給与・手当、館の予算・経理・決算、庁中管理、公有財産・物品、式典、指定管理、自然公園法、道立自然公園条例など	7 施設、及び周辺環境の整備
	企画グループ	館業務の総合的企画及び連絡調整、自己点検評価、博物館協議会の運営及び北海道開拓の村の整備・修繕計画に係る業務の企画、調整など	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献
学芸部	博物館基盤グループ	資料、展示及び調査研究に係る業務の企画、調整など	1 資料の収集・保存 2 展示 3 調査研究 12 情報発信
	道民サービスグループ	教育普及事業、利用者サービス及び広報に係る業務の企画、調整など	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
	社会貢献グループ	博物館交流、研究交流、情報発信、人材育成、研究成果の活用及び社会貢献に係る業務の企画、調整など	11 博物館ネットワーク 12 情報発信 13 人材育成機能の強化と社会貢献 14 研究成果の発信
研究部	自然研究グループ	自然史系分野(地学、生物学)	
	歴史研究グループ	歴史系分野(考古学、歴史学、美術史学)	
	生活文化研究グループ	生活文化系分野(産業学、生活学)	
	博物館研究グループ	博物館学系分野(展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学)	
アイヌ民族文化研究センター	アイヌ文化研究グループ	アイヌ文化系分野(言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術)	15 アイヌ民族文化研究センターの事業

2020(令和2)年度 職員名簿(2021年3月31日現在)

館長	石森 秀三	学芸主査	杉山 智昭	研究部	学芸員(兼)	鈴木あすみ	
副館長	小野寺誠司	(資料管理)			研究部長(兼)	小川 正人	研究職員(兼)
学芸副館長	小川 正人	学芸主査	添田 雄二	自然研究グループ		学芸員(兼)	渋谷 美月
アイヌ民族文化担当副館長	中村 亘	(展示)		学芸主幹(GL)(兼)	水島 未記	アイヌ民族文化研究センター	
総務部		主査	青柳かつら	学芸主査(兼)	添田 雄二	アイヌ民族文化研究センター長(兼)	小川 正人
総務部長	川田 宣人	(調査研究)		学芸員(兼)	表 溪太	アイヌ文化研究グループ	
総括グループ		研究職員	大坂 拓	学芸員(兼)	圓谷 昂史	研究主幹(兼)	甲地 利恵
主幹(GL)(兼)	川田 宣人	学芸員	表 溪太	歴史研究グループ		研究職員(兼)	遠藤 志保
主幹	山岸 陸	学芸員	尾曲 香織	学芸主幹(GL)(兼)	三浦 泰之	研究職員(兼)	大坂 拓
主査	三國 正雄	学芸員	鈴木あすみ	学芸主査(兼)	山田 伸一	学芸員(兼)	亀丸由紀子
(総務)		学芸員	右代 啓視	学芸主査(兼)	鈴木 琢也	研究職員(兼)	大谷 洋一
主査	三井 義也	道民サービスグループ		学芸主査(兼)	東 俊佑	研究職員(非常勤)	佐々木利和
(調整・公園利用)		学芸主幹(GL)	三浦 泰之	学芸員(兼)	田中 祐未	研究職員(非常勤)	奥田 統己
主査	古野健太郎	学芸主査	会田 理人	生活文化研究グループ		解説員	
(調整・施設管理)		(教育普及)		学芸主幹(GL)(兼)	池田 貴夫	主事(非常勤)	越田 雅子
専門主任	西尾 千秋	学芸主査	鈴木 琢也	学芸主査(兼)	山際 秀紀	主事(非常勤)	福嶋奈緒子
主任	徳本 彩	(利用促進)		学芸主査(兼)	会田 理人	主事(非常勤)	堀 泰子
企画グループ		学芸員	田中 祐未	学芸主査(兼)	青柳かつら	主事(非常勤)	山田日登美
学芸主幹(GL)	池田 貴夫	学芸員	亀丸由紀子	学芸員(兼)	尾曲 香織	主事(非常勤)	浅井 雅世
学芸主査	東 俊佑	学芸員	渋谷 美月	博物館研究グループ		主事(非常勤)	工津 尋美
(企画調整)		学芸員	舟山 直治	学芸主幹(GL)(兼)	堀 繁久	主事(非常勤)	折館 里佳
研究職員	遠藤 志保	社会貢献グループ		学芸主査(兼)	杉山 智昭	主事(非常勤)	今村ゆみ子
学芸員	圓谷 昂史	学芸主幹(GL)	甲地 利恵	学芸主査(兼)	櫻井万里子	主事(非常勤)	久保田幸恵
研究職員	鈴木 明世	学芸主査	山際 秀紀	主査(兼)		主事(非常勤)	川村 昌江
学芸部		(博物館交流)					
学芸部長	堀 繁久	学芸主査	山田 伸一				
博物館基盤グループ		(研究交流)					
学芸主幹(GL)	水島 未記	主査	櫻井万里子				
		(図書・情報発信)					
		研究職員	大谷 洋一				

1 資料の収集・保存

当館の収蔵資料は、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産であり、その研究に必要な不可欠な基礎資料です。当館では、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までの一連の流れを、学芸部博物館基盤グループが所管し、各研究グループ、担当学芸職員との連携のもと進めています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。

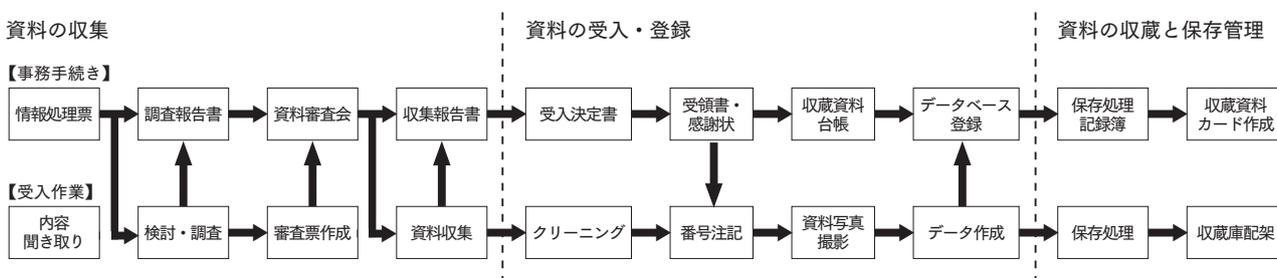
なお、当館は、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けています。

当館の資料

当館の資料は、旧北海道開拓記念館資料、旧北海道立アイヌ民族文化研究センター資料、2015（平成27）年の北海道博物館設置以後収集した資料から構成されています。旧北海道開拓記念館と旧北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は、2015（平成27）年の北海道博物館設置に伴い管理換が行われ、当館は、180,418件の資料を有する博物館として開館しました。2021（令和3）年3月末日現在の資料件数は、184,955件で、そのうち約2,000件が総合展示に供されています。

旧北海道開拓記念館資料	旧北海道立アイヌ民族文化研究センター資料
北海道開拓記念館の資料収集は、1966（昭和41）年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、1968（昭和43）年～1970（昭和45）年の3ヵ年、開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員166名から提供された情報と協力のもとに、嘱託の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、1971（昭和46）年4月の開館までに整理・受入された資料は約15,000件でした。開館後の資料収集は開拓記念館の学芸員によって進められ、管理換、購入、寄贈、製作、採集、寄託資料として収集されました。閉館時（2014（平成26）年度末）の資料数は166,146件でした。	北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料収集は、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により進められました。開所当初の1994（平成6）年には、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈し、1997（平成9）年には、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらのコレクションが道立アイヌ民族文化研究センターの資料の基礎となり、閉所時（2014（平成26）年度末）の資料数は33,319件でした。

資料収集・保存の流れ



資料の収集

当館の資料収集は、所有者からの「寄贈」が大部分を占めます。また、製作や採集、管理換などでも収集します。資料の散逸を防ぐため、特別に購入予算を計上することもあります。

資料情報が寄せられると、「資料情報処理票」を作成し、各研究グループへ連絡します。連絡を受けた研究グループは、寄せられた資料の内容について、電話などで聞き取りをします。

その後、研究グループでは、「資料収集基本方針」に照らし、かつ収集後の収蔵スペースの現状を踏まえ、資料調査の可否を決めます。資料調査を行う場合には、受入担当者を決め、調査を実施します。

調査後、研究グループで、「調査報告書」を作成し、担当者の報告をもとに協議を行います。そこで貴重な資料と判断して収集を希望する場合、「資料審査票」を作成して審査会の開催を求めます。

「資料審査会」は、「北海道博物館資料審査会設置要領」に基づき、その資料の必要性、収集の緊急性、具体的な活用見込み、研究や業務との関係性、保存処理等を協議し、受入の是非を判断します。

審査会で収集が認められると、担当者は速やかに資料を収集します。収集後、資料受入担当者は「調査収集報告書」を作成・提出し、受入の手続きへと進みます。

資料収集基本方針(一部抜粋)

北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つものを対象とし、具体的には以下のような性格を持つ資料を収集の対象としています。

- 1) 北海道の地学に関する資料(岩石、鉱物、化石、土壌など)
- 2) 北海道の生物に関する資料(動物、昆虫、植物、菌類及び生物と人間の関わりに関する資料など)
- 3) 北海道の先史文化および人類史に関する資料(土器、石器、骨角器、金属器、木製品など)
- 4) アイヌ民族を中心とする北方諸民族の文化の特徴、地域差、時代差、歴史等に関する資料(民具、言語、口承文芸、芸能、信仰、伝統的生活様式、歴史等に関する有形・無形の資料)
- 5) 北海道に住んだ人びとの生活に関する資料(衣・食・住など日常生活、儀礼、信仰、芸能など)
- 6) 北海道の産業に関する資料(農業、漁業、林業、鉱業、工業など)
- 7) 北海道の歴史に関する資料(文書、絵画、地図、写真、記録映画など)
- 8) 上記のものに関連する無形文化資料(伝承、技術など)

資料審査会

館資料の適切な収集、保存、活用について協議するため、館内の内部組織として館長を会長とする資料審査会を設置しています。資料審査会は、資料収集基本方針に関することや資料の受入の選定など、協議を要する案件が生じた時点で、案件に係る館内のグループからの要請にもとづき開催しています。

構成メンバー：館長(会長)、各副館長、各部長、各学芸主幹、資料管理主任(博物館基盤グループ主査(資料管理))ほか

資料の受入・登録

受入担当者は、資料を確認した後、適切な資料名、資料点数、寄贈者情報等を記した「資料受入票」と寄贈者から受けた「寄附申出書」を提出します。

博物館基盤グループは、「受払決定書」により資料の受入を決定して、各資料ごとに収蔵番号をつけます。収蔵番号が付された資料は、「資料分類表」に基づき、0総集・1記録・2地学・3生物・4考古・5民族・6生活・7産業・8文書・9美術の10項目のいずれかに分類されます。その後、受領書と感謝状を発行して、資料寄贈者に送付します。

受入担当者は、速やかに資料のクリーニングをして、各々の収蔵番号を注記(直接記入、又は、袋に入れて情報を記入、タグをつけて記入等)します。

受け入れた資料の情報は、資料台帳に登録するとともに資料管理システムに入力して管理されます。受入担当者は、新規資料について観察し、詳細な資料情報を整理します。

登録された資料は、受入担当者が1点ごとに写真を撮影し、資料の年代、地域、形状、由来などの基礎情報を資料管理システムに入力します。

このシステム上で管理された情報は、個々の資料の第一次情報となり、企画展示の計画作りや利用者からのレファレンスなど、当館の博物館活動の原点となるものです。

資料の収蔵と保存管理

新規資料は、博物館内で二酸化炭素処理、低酸素処理、低温処理、市販の薬剤等を使った防虫、70%エタノールを使った殺菌などの処理をする他、必要に応じて外注で燻蒸を行っています。

保存処理にあたっては、二酸化炭素処理等の実施記録簿を作成し、随時実施しています。薬剤燻蒸は、予算が必要なため大規模な収集に限られます。

保存処理が終了した新規資料は、分類別・形態別に割り当てた5室の収蔵庫に収蔵されます。大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱に納め、木製又はスチール棚に配架します。

資料保存環境を維持するために、化学薬剤のみに頼らない方法として、IPM(Integrated Pest Management、総合的有害生物管理)に取り組んでいます。

具体的には、温湿度管理(温度を夏期25℃・冬季22℃、湿度を55±5%に保持)、収蔵庫内専用の備品等の設置、学芸職員による巡回と清掃等、捕虫トラップの設置と確認等を行っています。

それらの環境管理や環境調査の結果は、毎月開かれる「資料収蔵環境等連絡会議」で、収蔵資料環境の維持に重要な役割を果たしている各関係者による情報共有と問題解決を図っています。

収蔵された資料は、データベースの情報などを元にした北海道博物館収蔵資料カード(以下、収蔵資料カード)を作成し、紙媒体での情報も保存します。



資料収蔵風景

IPMに関する作業

- ・捕虫トラップ(展示場と収蔵庫における設置・回収と調査) [年間12回程度]
- ・収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査 [年間1回程度]
- ・特別展示室と収蔵庫の空気質調査 [年間3回程度]
- ・担当職員による収蔵庫清掃 [年間12回程度]
- ・全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除 [年間1回程度]
- ・新展示ケースなどの「からし」(接着剤等に含まれる有害物質の除去) 作業 [都度実施]
- ・収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理 [年間12回程度]
- ・収蔵庫内巡回(庫内点検、ロガー目視、害虫の除去) [恒常的実施]
- ・その他、収蔵環境の環境維持作用・調査(除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応) [都度実施]

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議

全館的なIPM(総合的有害生物防除管理)体制を構築し、収蔵資料に関わる諸問題を横断的に解決するため、学芸副館長が中心となり、収蔵資料環境に重要な役割を果たしている関係者を定期的に招集し、収蔵庫や展示室の温湿度状況の変化、害虫発生状況などの現状を報告し、問題点を話し合う会議を開催しています。

※集範範囲:学芸副館長、学芸部長、博物館基盤グループ(主幹、主査(資料管理)、主査(展示))学芸員(保存科学)、総括グループ主査(施設管理)、指定管理者(施設管理者・空調管理者)

資料情報の管理と活用

資料管理システムは、北海道博物館情報システムの中核をなすシステムであり、資料の管理や利活用を図るため、随時データの追加入力を行っています。

また、他機関や研究者の利用の便宜を図るとともに、利用者の知的興味に応じていくため、収蔵資料目録などを作成するとともに、資料情報の一部を当館のウェブサイトで公開しています。

当館の収蔵資料は、総合展示や特別展・企画テーマ展などに展示され、開拓の村の建造物内でも展示されています。また、他の博物館の展示会への貸出や道内博物館施設への長期貸出も行っています。

展示利用以外では、博物館関係者・研究者・資料寄贈関係者をはじめ、調査・研究等を目的とした一般利用者も収蔵資料の観覧(特別観覧)ができます。

また、博物館資料の撮影物や複写物の利用の受付(模写品等の刊行等)も行っています。

※資料情報の管理と発信については「12 情報発信」(94ページ～)を参照のこと。

資料管理システム(ウェブサイト上の検索画面)

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

1 資料の収集・保存

所 管	博物館基盤グループ	業務責任者	学芸主幹 水島未記
-----	-----------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

(1)資料の収集

- 北海道博物館資料収集基本方針に基づく収集活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込60件程度、年間調査収集件数見込約25件程度]
- 【重点／新規】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受入予定の樺太関係資料(以下「樺連資料」)約6,000点を収集

(2)収蔵機能の強化

- 収蔵資料データベースの適切かつ安全な運用・更新
- 【新規】収集した樺連資料の収蔵・保管
- △収蔵スペースの確保に向けた検討・取組
- △災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討・取組

(3)資料保存環境の維持

- 適切な資料保存環境の維持に向けた取組
- 文化財保護法にもとづく公開承認施設(国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設)の更新 [令和2年8月]

(4)収蔵資料の利用への対応

- 資料の貸出への対応 [年間見込25件500点程度]
- 資料の特別観覧への対応 [年間見込70件1,000点程度]
- 資料の模写品等使用への対応(北海道博物館) [年間見込120件300点程度]
- 資料の模写品等使用への対応(開拓の村) [年間見込40件150点程度]

(1)資料の収集

①「資料収集基本方針」に基づく収集活動

2020年度も前年度同様、「資料審査会」を活用しながら、資料収集活動を行った。

2020年度の資料収集

資料情報件数	30件	調査収集件数	28件
--------	-----	--------	-----

2020年度分類別・受入区分別資料件数

分類	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	2020年度計	2019年度までの累計	累計総件数
0 総集	0	0	0	0	0	0		0	3,047	3,047
1 記録	30	0	22	0	0	0		52	11,111	11,163
2 地学	0	1	76	0	0	0		77	7,431	7,508
3 生物	0	0	0	0	35	0		35	7,947	7,982
4 考古	0	0	84	0	0	0		84	1,717	1,801
5 民族	27	0	14	0	0	0		41	6,135	6,176
6 生活	0	0	172	0	0	0		172	36,400	36,572
7 産業	0	0	12	0	0	0		12	21,430	21,442
8 文書	13	0	54	0	0	0		67	88,413	88,480
9 美術	0	0	4	0	0	0		4	780	784
合計	70	1	438	0	35	0		544	184,411	184,955

2020年度地域別寄贈資料収集件数 730件

地 域	札幌市	江別市	その他道内	道 外	計
資 料 件 数	185件	0件	268件	91件	730件

2020年度資料審査会の構成（2021年3月現在） 年間12回実施

会長	石森 秀三 中村 亘 小野寺誠司 小川 正人 川田 宣人 堀 繁久 池田 貴夫 水島 未記 三浦 泰之 甲地 利恵 杉山 智昭 鈴木あすみ	館長 アイヌ民族文化担当副館長 副館長 学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長 総務部長 兼総務部総括グループ主幹 学芸部長 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹 総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹 学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹 学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼アイヌ文化研究グループ研究主幹 学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部博物館研究グループ学芸主査 学芸部博物館基盤グループ学芸員 兼博物館研究グループ学芸員
----	--	---

②樺太関係資料の収集

2011（平成23）年2月4日付けで社団法人全国樺太連盟より樺太関係資料8,000点の寄贈とそれを保存展示活用するための寄付金の申し出が開拓記念館にあった。それをどう受け入れて活用していくか何度も打合せを行い、最終的に2020（令和2）年11月25日付けで全国樺太連盟と北海道との間で委譲契約書が取り交わされて、北海道文化基金に寄付金8,200万円を積み立て、資料の保管・展示・活用を行って行く計画である。受入資料は生活資料596点、写真2056点、図書1,798点、文書1,230点、美術資料53点の総計5,733点である。

(2) 収蔵機能の強化

①資料管理システムの運用・更新

資料情報をデータベース上で管理するために、パッケージ型の資料管理システム「I.B.MUSEUM」を用いてきたが、契約期間満了により2021年2月1日よりクラウドサービスの形態で提供されている新システム「I.B.MUSEUM SaaS」への移行・更新を行った。

更新に伴い、システム操作画面や公開ページのデザインについても一新した。

新規受入資料の資料情報を随時登録するとともに、既存データの更新を進めている。

※資料情報のウェブサイト公開件数については、「12 情報発信」の95ページを参照のこと。

②樺太関係資料の収蔵・保管

樺太関係資料の保管室として博物館中地下の2部屋を確保して、資料形状に合わせたスチールの整理棚とパンケースおよび中性紙の封筒と保管箱で整理保存をしている。資料は搬入前に苫小牧市の防疫燻蒸で燻蒸して殺虫処理したのち12月9日、16日、23日の3回に分けて博物館に搬入した。保管室1に生活資料、美術資料、図書、保管室2に文書資料、写真資料、生活資料を現在収蔵して、リストとデータベース登録の事前作業に着手している。また、鳥の剥製や漆器類等の温湿度に敏感な脆弱な資料に関しては別の収蔵庫にて個別に管理を行っている。

③収蔵スペース確保に向けた検討

樺太関係資料の収蔵のために、館内の収蔵スペースの再検討により、2室を確保して準備を進めた。

④被災資料の受け入れや保存処理などの機能・体制整備

研修や他館の事例調査を実施し、体制整備に向けて検討を進めた。

(3) 資料保存環境の維持

①資料保存環境の維持

2020年度もこれまで同様、IPMによる保存環境の維持に努めた。また、資料収蔵環境管理に関する連絡会議を12回開催し、情報共有に努めた。

2020年度 IPMによる作業の総実施回数 371回

IPMによる作業の内容	回数	実施日	担当者
① 捕虫トラップの設置・回収・調査(展示室、収蔵庫)	12回	随時	博物館基盤グループ
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	1回	随時	杉山(保存担当)
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	1回	随時	杉山(保存担当)
④ 定期収蔵庫清掃(資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等)	9回	2か月に1回程度	博物館基盤グループ、研究グループ若干名
⑤ 収蔵庫大掃除(資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等)	1回	12月16日	学芸職員全員
⑥ 総合展示室大掃除(資料メンテナンス、ケース内清掃等)	1回	12月17～18日	学芸職員・解説員全員

IPMによる作業の内容	回数	実施日	担当者
⑦ 新展示ケースなどの「からし」(接着剤等に含まれる有害物質の除去)作業	恒常的に実施		杉山(保存担当)
⑧ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理	13回	月1回程度	杉山(保存担当)
⑨ 収蔵庫内巡回(庫内点検、ロガー目視、害虫の除去)	302回	開館日毎日	博物館基盤グループ
⑩ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査(除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応)	31回	随時	博物館基盤グループ

②公開承認施設の更新

当館は、2010(平成22)年に公開承認施設として承認を受けた(第130号)。2015(平成27)年に更新し(第130-2号)、現在は、2020(令和3)年8月10日から2025(令和7)年8月9日までの承認を受けている。

(4)収蔵資料の利用への対応

資料の貸し出し、特別観覧、模写品等使用への対応について、恒常的に対応した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館中(4月14日～5月25日)は来館を伴う資料利用の受付を休止した。再開後は、事前予約の徹底のほか、人数制限(1日1組2名以下)や作業場所の消毒等、感染リスクの低減措置を行ったうえでサービスを再開した。

2020年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用 (北海道博物館)		模写品等使用 (開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係	25	389	16	298	25	206	4	5
報道機関	0	0	2	3	21	51	4	5
官公庁	0	0	0	0	4	24	0	0
出版社	0	0	0	0	27	76	3	3
その他	0	0	16	50	15	108	26	87
計	25	389	34	351	92	465	37	100

2 展示

当館の展示活動は、おもに総合展示室、特別展示室で行われています。各展示室は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、総合展示は、クローズアップ展示などによる資料の定期的な入れ替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく楽しめる展示となるよう努めています。さらには、当館独自の研究成果を積極的に反映した特別展や企画テーマ展などの企画展示を、期間を限って年に数回開催しています。

こうした展示活動は、学芸部博物館基盤グループが運営事務を担い、各展示ごとに各研究グループの担当学芸職員などから構成される実施体制をつくり、進められています。

また、展示室や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。

総合展示の運営

総合展示は、総合展示室で展開され、1階と2階を合わせて3,011㎡の広さがあります。当館の収蔵資料の中から約2,000件の実物資料を厳選し、さらに模型、ジオラマ、映像装置など、さまざまなメディアを使った展示を行っています。1階にはプロログ、第1テーマ、第2テーマ、2階には第3テーマ、第4テーマ、第5テーマを配し、それぞれのテーマに学芸職員を割り当てて担当チームを編成しています。また、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、資料の定期的な入れ替えや、クローズアップ展示の入れ替えなどを行っています。

総合展示のテーマ担当(2021年4月現在)

テーマ名	担当チームメンバー
プロログ 「北と南の出会い」	【自然研究グループ】水島未記(チーフ)、圓谷昂史、久保見幸
第1テーマ 「北海道120万年物語」	【歴史研究グループ】三浦泰之(チーフ)、鈴木琢也、東俊佑、田中祐未、右代啓視 【自然研究グループ】圓谷昂史、久保見幸
第2テーマ 「アイヌ文化の世界」	【アイヌ文化研究グループ】小川正人(チーフ)、甲地利恵、遠藤志保、大坂拓、亀丸由紀子、吉川佳見、大谷洋一
第3テーマ 「北海道らしさの秘密」	【生活文化研究グループ】池田貴夫(チーフ)、山際秀紀、青柳かつら、会田理人、舟山直治
第4テーマ 「わたしたちの時代へ」	【歴史研究グループ】山田伸一 【生活文化研究グループ】会田理人(チーフ)、尾曲香織 【博物館研究グループ】鈴木明世
第5テーマ 「生き物たちの北海道」	【自然研究グループ】水島未記(チーフ)、表溪太 【博物館研究グループ】堀繁久、鈴木あずみ
資料保存担当	【博物館研究グループ】 ※2021年度欠員のため、博物館研究グループ及び博物館基盤グループ職員が担当
全体デザイン・来館者参加型展示担当	【博物館研究グループ】渋谷美月

クローズアップ展示

ふだんの総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に7か所設けています。

来館者参加型展示

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、ともに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、第2テーマの「アイヌ文化Q&A」や総合展示2階出口付近の参加型展示など、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けています。

第4テーマ「今とこれからをつくる」の入れ替え

総合展示室2階・第4テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人々が各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設けています。

北海道博物館スタッフ紹介コーナー

総合展示室2階交流ゾーンに、当館の館長、学芸職員、解説員を紹介するコーナーを設け、定期的に入れ替わりで学芸職員の研究等を展示しています。

企画展示の運営

①特別展

特別展は、総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、ふだんの総合展示では見ることのできない貴重な資料を、他機関などから借用し展示を構成します。多くの国宝・重要文化財を展示するものから、子どもや親子連れをメインターゲットに据えた企画まで、趣向を変えながら、基本的に毎年1回開催しています。特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけています。

特別展を開催するためには、中期的な計画づくりと綿密な事前準備が必須です。当館では、「中期計画」を作成するとともに、数年前から中核メンバーを中心に開催準備を進め、開催1年前ごろに実施プロジェクトチームを立ち上げます。特別展は、展示構成（シナリオ）担当職員が実際の展示を制作するのみならず、資料借用・搬送に係る事務・予算折衝、関連行事（講演会、講座など）の企画・運営、ポスター・チラシなど広報媒体の作成、マスメディアなどとの広報協力体制の構築、展示図録（展示解説書）の作成、開会式に係る各種調整、会期中の運営・危機管理体制の構築など、館職員のほぼ全員が全館的に協力する体制をとっています。また、実際の展示空間の制作や展示作業についても、資料搬送・展示業者にすべて任せるのではなく、かなりの部分を展示構成チームと博物館基盤グループ職員が中心となって、全館的に準備を進めています。

展示プロジェクトチームの構成（例）

総括	副総括	現場責任者	業務担当グループ	業務内容
館長	副館長	研究部長	展示構成チーム（数名程度）	展示シナリオ作成、展示制作、関連行事の企画
		総務部長	総括グループ	調整・予算・式典
			企画グループ	展示評価
		学芸部長	博物館基盤グループ	展示運営管理（事務局）
				資料借用（借用事務・搬送・検品）
				展示環境・資料保存管理
				展示図録作成
		道民サービスグループ		広報（マスメディア、ウェブサイト、SNS等）
				広聴（アンケート等）
				広報媒体（ポスター・チラシ等）作成
				関連行事（講演会、講座等）の調整・運営



展示作業（パネル立て）



展示作業（ライティング）

②企画テーマ展

企画テーマ展は、当館所蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。共同研究プロジェクト等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの館蔵資料を紹介する展示などを実施しています。観覧は無料です。

企画テーマ展は、特別展ほど大規模ではないものの、開催の半年前には展示プロジェクトチームを立ち上げ、開催準備を進めます。資料借用（近隣機関等から借用する場合は職員実行）や開会式の準備、図録の作成などがない分、特別展に比べると業務量は減りますが、展示室のパネル立てやケースの配置、資料の展示、解説パネルや資料キャプションの作成、ライティングなど、あらゆる展示作業を職員実行で行います。

展示プロジェクトチームの構成(例)

総括	副総括	業務担当グループ	業務内容
学芸副館長	研究部長	展示構成チーム(数名程度)	展示シナリオ作成、展示制作、関連行事の企画
	学芸部長	博物館基盤グループ	展示運営管理(事務局)
			展示環境・資料保存管理
			解説リーフレット作成
		道民サービスグループ	広報(マスメディア、ウェブサイト、SNS等)
			広聴(アンケート等)
			広報媒体(ポスター・チラシ等)作成 関連行事(講演会、講座等)の調整・運営

総合展示室・特別展示室の管理

総合展示室には、利用者への案内、解説、誘導、及び監視・安全確保をおもな目的としてスタッフ(解説員等)を常駐させています。解説員は、開館前・閉館後に総合展示室を定時巡回し(閉館後は警備員とともに)、資料や展示の異常等がないかを毎日確認しています。また、開館時間中は、巡回担当スタッフが、逐次展示室内を見回ります。資料や展示什器の破損等が見つかった場合は、博物館基盤グループに連絡し、対応する体制をとっています。

特別展や企画テーマ展等で特別展示室を使用している期間は、開館前・閉館後を含め博物館基盤グループ、及び展示構成チームが定時巡回を行い、利用者と資料の保全に努めています。

展示室は、温湿度(夏季25度・55±5%、冬季22度・55±5%)を基本とし、照度は資料の性質によって適切な環境となるよう変更を加えています。また、展示ケース内には、温湿度計測のためのデータロガーを設置し、資料保存環境の保全に努めています。このように、展示室や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。



大掃除の様子

道民参加型展示

来館中の休憩や飲食などでご利用いただいている休憩ラウンジ(利用可能人数 約100名)において、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しています。

展示ワーキングチーム

総合展示、及び企画展示等の事業を円滑に進めるため、館内の内部組織として学芸部長を座長とする展示ワーキングチームを設置しています。主な任務は、総合展示、及び企画展示の運営方針・内容についての検討、外部からの提案による展示企画等についての検討などです。

展示ワーキングチームの構成

学芸部長(座長)、研究部長、博物館基盤グループ学芸主幹、各研究グループ代表(5名)、展示環境・資料保存担当、事務局(博物館基盤グループ学芸主査・係)

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

2 展示

所 管	博物館基盤グループ	業務責任者	学芸主幹 水島未記
-----	-----------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

<p>(1)総合展示室の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合展示室における展示資料の入替え [年間延べ40点程度] ○クローズアップ展示コーナーの更新 [年間延べ27回] ○来館者参加型展示コーナーの入替え [年間延べ4回程度] <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化Q&A(第2テーマ) [年間3回程度] ・総合展示2階出口付近の参加型展示 [年間1回程度] ○第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え [年間3件] ○学芸員紹介コーナーの入替え [年間1回程度] ○休憩ラウンジにおける道民参加型展示(北海道化石会の協力によるアンモナイトの展示) ●▲【重点/新規】収集した樺連資料に関する展示 △【新規】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成・取組 <p>(2)企画展示の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展の開催 [年間1回] <ul style="list-style-type: none"> ・第6回特別展「恐竜展2020」 開催期間：6月20日(土)～9月27日(日) 会場：特別展示室 ○企画テーマ展の開催 [年間3回] <ul style="list-style-type: none"> ・第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える―北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション―」 開催期間：4月25日(土)～5月24日(日) 会場：特別展示室 ・第18回企画テーマ展「お葬式」(仮題) 開催期間：10月24日(土)～12月13日(日) 会場：特別展示室 ・第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」(仮題) 開催期間：2月6日(土)～4月4日(日) 会場：特別展示室 ○アイヌ文化巡回展の開催 [年間1回] 開催期間：7月～11月頃 会場：木田金次郎美術館 <p>【展示に関わる会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★「北海道博物館展示ワーキングチーム」を活用し、総合展示および企画展示等の事業を円滑に実施 [年間8回程度] ★企画展実施チームによる会議を活用し、企画展の事業を円滑に管理・実施 [都度招集・開催]
--

(1)総合展示室の運営

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年度末に引き続き、感染対策（展示室における観覧者のソーシャルディスタンスの確保、さわられる展示の撤去、ケース・什器類の定時消毒など）を行ったうえで展示室の運営を行った。資料入替、クローズアップ展示の入れ替えなどの展示替えは、当初年度計画のとおり実施した。

①総合展示室利用者数

2020年度総合展示室利用者数

※目標値・達成率は5か年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	目標値	達成率
利用者数	758	697	2,090	3,419	5,590	11,055	7,435	3,143	775	968	3,319	4,415	43,664	400,000	10.9%
うち外国人利用者数	15	3	25	105	100	53	28	37	17	21	48	47	499	34,000	1.5%

②総合展示の資料入替

2020年度総合展示資料入替件数(場面替を含む)

場所	4～5月	6～7月	8～9月	10～11月	12～1月	2～3月	計
プロローグ	1	0	1	0	1	0	3
第1テーマ	クローズアップ展示1	1	1	1	1	1	6
	クローズアップ展示2	1	1	1	1	1	6
	その他	1	0	1	0	2	4
第2テーマ	クローズアップ展示3	1	0	1	0	1	3
	クローズアップ展示4	1	0	1	0	1	3
	その他	1	0	0	0	2	3
第3テーマ	クローズアップ展示5	1	0	1	0	1	4
	その他	1	1	1	1	3	8
第4テーマ	クローズアップ展示6	1	0	1	0	1	3
	その他	0	0	0	0	0	0
第5テーマ	クローズアップ展示7	1	0	1	0	1	3
	その他	0	0	0	0	0	0
計	11	3	10	3	15	4	46

③クローズアップ展示

2020年度のクローズアップ展示(27テーマ、資料点数:361点、展示替:27回)

場所	テーマ	展示期間	担当	資料点数	展示替回数	
第1テーマ	近世文書を読む① フラージュ・コレクション	4月11日(土)～6月11日(木)	東俊佑	9	1	
	近世文書を読む② 林家文書	6月12日(金)～8月13日(木)	東俊佑	30	1	
	近世文書を読む③ 工藤家文書	8月14日(金)～10月15日(木)	東俊佑	8	1	
	近世文書を読む④ 村山家文書	10月16日(金)～12月16日(水)	東俊佑	14	1	
	近世文書を読む⑤ 岩野家文書	12月19日(土)～2月18日(木)	東俊佑	26	1	
	近世文書を読む⑥ 近藤家文書	2月19日(金)～4月15日(木)	東俊佑	10	1	
	第2テーマ	新選組の元幹部隊士 永倉新八	4月11日(土)～6月11日(木)	三浦泰之	5	1
		新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	6月12日(金)～8月13日(木)	三浦泰之	8	1
		船絵馬	8月14日(金)～10月15日(木)	田中祐未	3	1
		旧松前藩士 南條家資料	10月16日(金)～12月16日(水)	三浦泰之	7	1
		北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	12月19日(土)～2月18日(木)	三浦泰之	37	1
第3テーマ	新しく仲間入りした歴史資料たち	2月19日(金)～4月15日(木)	三浦泰之	36	1	
	伝承者が生きた近現代 平賀サダさん	4月11日(土)～8月13日(木)	大谷洋一	2	1	
	祈りの造形一狐神の舟	8月14日(金)～12月16日(水)	大坂拓	3	1	
	キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料	12月19日(土)～4月15日(木)	奥田統己	5	3	
	灰場武雄さんがつくったトンコリ(五弦琴)	4月11日(土)～8月13日(木)	甲地利恵	3	1	
第4テーマ	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	8月14日(金)～12月16日(水)	亀丸由紀子	4	1	
	澁沢栄一・澁沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化	12月19日(土)～4月15日(木)	小川正人	3	1	
	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月11日(土)～8月13日(木)	舟山直治	12	1	
	馬追いの道具	8月14日(金)～12月16日(水)	青柳かつら	11	1	
第5テーマ	吉田初三郎と北海道	12月19日(土)～4月15日(木)	田中祐未	5	1	
	みんなが夢中になった子ども雑誌	4月11日(土)～8月13日(木)	会田理人・鈴木明世	5	1	
	北海道とオリンピック	8月14日(金)～12月16日(水)	尾曲香織	3	1	
第6テーマ	たくぎん(北海道拓殖銀行)	12月19日(土)～4月15日(木)	山田伸一	8	1	
	北海道のいろいろなカタツムリ	4月11日(土)～8月13日(木)	堀繁久	54	1	
第7テーマ	恐竜と鳥をつなぐ骨	8月14日(金)～12月16日(水)	表溪太	36	1	
	リンゴはなぜ赤い? 木の実・草の実の不思議な世界	12月19日(土)～4月15日(木)	水島未記	16	1	



クローズアップ展示5
「吉田初三郎と北海道」



クローズアップ展示7
「北海道のいろいろなカタツムリ」

④来館者参加型展示コーナー

2020年度来館者参加型展示コーナー参加件数

件名	参加件数
アイヌ文化Q&A(第2テーマ)	250
北海道の美味しいお肉と言えば……(総合展示2階出口付近)	2,721

⑤第4テーマ「いまとこれからの創る」

2020年度は、次のとおり展示を更新した。

2020年度「いまとこれからの創る」(展示替：2件)

番号	テーマ	執筆者	展示期間	備考
1	絶滅危惧種シマフクロウの繁殖を市民の目で見守る	早矢仕有子氏(北海学園大学工学部)	2019年8月23日～2021年3月31日	継続
2	稚内市歴史・まち研究会の活動と稚内赤れんが通信所	富田伸司氏(稚内市歴史・まち研究会)、斉藤譲一氏(稚内市教育委員会)	2020年12月19日～2021年3月31日	新規
3	ジャッカ・ドフニーサハリン少数民族の文化を伝える資料館	笹倉いるみ氏(北海道立北方民族博物館)	2020年12月19日～2021年3月31日	新規

⑥北海道博物館スタッフ紹介

退職者にともない学芸職員の個別ボードを更新した。学芸職員の研究等紹介展示は、実施しなかった。

2020年度学芸職員研究等紹介展示(展示替：0件)

期間	展示内容	担当

⑦総合展示の改修計画

総合展示の担当チームから改修箇所の意見・要望を募り、展示ワーキングチームにて集約し、2021(令和3)～2024(令和6)年度の4か年で順次改修する中期改修計画を作成した。

(2)企画展示の開催

①特別展示室利用者数

2020年度特別展示室利用者数

※目標値・達成率は5か年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	目標値	達成率
利用者数	1,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,523	5,167	12,563	260,000	0.48%

②特別展

2020年度は、「恐竜展2020」実行委員会が主催する展示会「恐竜展2020」を第6回特別展として6月20日(土)～9月27日(日)の会期で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「恐竜展2020」実行委員会で開催中止が検討され、5月1日に正式に中止が決定された。実施予定の体制、及び展示構成等は以下のとおりである。なお、「恐竜展2020」は規模を縮小した形で、2021年2月12日(金)～3月14日(日)に特別企画展「北海道の恐竜」として開催した。

2020年度の特別展(企画1件、中止1件(ただし特別企画展「北海道の恐竜」として規模縮小のうえ開催))

【開催中止】 第6回特別展「恐竜展2020」	
会期(開催日数)	2020年6月20日(土)～9月27日(日) 休館日を除く86日間
主 催	「恐竜展2020」実行委員会(北海道博物館、北海道新聞社、NHK札幌放送局、NHKエンタープライズ北海道、一般財団法人北海道歴史文化財団)
後 援	北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会
協 賛	宮坂建設工業株式会社
特 別 協 力	北海道恐竜・化石ネットワーク研究会
制 作 協 力	NHKプロモーション
協 力	足寄動物化石博物館、一般財団法人進化生物学研究所、浦幌町立博物館、小平町教育委員会、群馬県立自然史博物館、国立科学博物館、ゴビサポートジャパン、中央大学理工学部、栃木県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、名古屋市科学館、北海道大学総合博物館、三笠市立博物館、むかわ町穂別博物館
観 覧 者 数	-
観 覧 料	一般【高校生以上】1,300円(1,100円)、小・中学生600円(500円)、小学生未満無料 ※()内は前売り及び10人以上の団体料金
監 修	小林快次氏(北海道大学総合博物館 教授)
展示構成チーム	圓谷昂史(チーフ)、添田雄二
展 示 構 成	北海道むかわ町穂別地域でほぼ完全な全身骨格として発見され、2019年に新属新種となった、「パーフェクト恐竜、カムイサウルス(むかわ竜)。本展では、圧倒的存在感を放つ実物化石と、悠然たる姿で立ち上がる全身復元骨格を同時に公開！ティラノサウルスやトリケラトプスなど、さあ、この夏、恐竜たちに会いに行こう！ (1)日本の恐竜研究事始め 主な展示資料：ニッポノサウルス全身復元骨格・実物化石 (2)北海道の恐竜研究最前線 主な展示資料：カムイサウルスなど北海道産の恐竜化石、クビナガリュウ全身復元骨格など (3)アジアと北米の恐竜世界 主な展示資料：タルボサウルス、ティラノサウルス全身復元骨格など (4)巨大隕石の衝突と生物大量絶滅 主な展示資料：始祖鳥、羽毛恐竜、K/Pg境界剥ぎ取りなど

関連行事	講演会「北海道恐竜研究最前線」小林快次氏(北海道大学総合博物館) 講演会「北海道の化石リレー講座 ①三笠市の化石とその魅力」唐沢與希氏(三笠市立博物館) 講演会「北海道の化石リレー講座 ②中川町の化石とその魅力」疋田吉識氏(中川町エコミュージアムセンター) 講演会「北海道の化石リレー講座 ③足寄町の化石とその魅力」澤村寛氏(足寄動物化石博物館) 講演会「北海道の化石リレー講座 ④野幌丘陵の化石とその魅力」添田雄二・圓谷昂史(当館職員) 講演会「北海道の化石リレー講座 ⑤むかわ町の化石とその魅力」櫻井和彦氏(むかわ町穂別博物館) 子どもワークショップ「始祖鳥カイトを飛ばそう」講師：表溪太・圓谷昂史(当館職員) ※講演会はすべて中止。「始祖鳥カイトを飛ばそう」は一般普及行事として開催(61ページ参照のこと)
印刷物	広報用ポスター、チラシ無し(作成有、配布無) ※展示図録は当初刊行予定であったが、刊行前に開催中止となったため、刊行を中止



第6回特別展「恐竜展2020」チラシ



第17回企画テーマ展「楽器」チラシと展示室風景



③企画テーマ展

2020年度は、第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション」、第18回企画テーマ展「お葬式(仮)」、第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫(仮)」の3つの展示会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第17回企画テーマ展を開催中止/オンライン開催とし、「お葬式(仮)」展、「久保寺逸彦文庫(仮)」は開催順位を改めたくうえで次年度以降への開催延期となった。

2020年度の企画テーマ展(企画3件、実施1件(オンライン開催)、延期2件)

【開催中止/オンライン開催】 第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション」	
会期(開催日数)	【当初予定】2020年4月25日(土)~5月24日(日) 休日を除く26日間 【オンライン開催】2020年4月25日(土)~
主催	北海道博物館
協力	柘谷隆男氏、北海道立北方民族博物館
観覧者数	-
観覧料	無料
展示構成チーム	甲地利恵(チーフ)、池田貴夫
展示構成	さまざまな楽器をじっくり見るとともに、音を出して何かをするための道具(音具)について深く知り、幅広く楽器について考えることをとおして、音の文化への関心を広げてみましょう。本展示では、北海道博物館が所蔵する楽器・音具資料などのほか、楽器学の幅広い見識と音楽教育現場での豊富な経験を有する柘谷隆男さん(札幌市)のコレクションの一部も、あわせて展示します。 (1)見る 北海道博物館にたどりついた「楽器」、 (2)知る 人の暮らしにかかわる「音具」、 (3)考える 楽器いろいろ
関連行事	スペシャルミュージアムトーク「楽器 見る・知る・考える」トーク：柘谷隆男氏(札幌大谷大学・北翔大学ほか非常勤講師) 講演会「音の考古学~出土品から楽器の源流を探る」講師：荒山千恵氏(石狩市教育委員会) 講演会「音が出る道具のおはなし~音具と楽器の起源と役割を探る」講師：柘谷隆男氏(札幌大谷大学・北翔大学ほか非常勤講師) 子どもワークショップ「身近な材料で音の出るおもちゃをつくろう!」講師：甲地利恵(当館職員) ※関連行事はすべて中止(60~61ページを参照のこと)。
印刷物	広報用ポスター・チラシ、展示解説パンフレット(4月25日発行、A4判、4頁、3,000部)

そ の 他	オンライン開催としてウェブサイト上に特設ページを設け、次の①～③の「オンライン公開」を行った。 ①展示解説パンフレット(PDFファイル)の公開 ②オンライン観覧：展示室内の様子を360度写真で閲覧できるPOLYのサービス(2021年6月まで公開) ③オンライン解説：各コーナーの詳細な解説と解説動画(28本)を配信した。
【開催延期】第18回企画テーマ展「お葬式(仮)」	
会期(開催日数)	2020年10月24日(土)～12月13日(日)
主 催	北海道博物館
展示構成チーム	【暫定】尾曲香織(チーフ)、大坂拓ほか
【開催延期】第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫(仮)」	
会期(開催日数)	2021年2月6日(土)～4月4日(日)
主 催	北海道博物館
展示構成チーム	【暫定】小川正人(チーフ)ほか

④特別企画展

2020年度開催予定の第6回特別展「恐竜展2020」が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったことを受け、規模を縮小した形で、特別企画展「北海道の恐竜」を開催した。なお、開催にあたっては、オンライン予約システムによる完全事前予約制、観覧時間制限による総入替制など、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をとったうえで開催した。また、来館が困難な北海道民に対してもより広く展示観覧の機会を提供できるよう、オンライン公開も実施した。

2020年度の特別企画展(1件)

特別企画展「北海道の恐竜」	
会期(開催日数)	2021年2月12日(金)～3月14日(日) 休館日を除く27日間
主 催	北海道博物館
協 力	足寄動物化石博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団、小平町教育委員会、国立科学博物館、中川町エコミュージアムセンター、にっぽん恐竜協議会、北海道恐竜・化石ネットワーク研究会、北海道大学総合博物館、三笠市立博物館、むかわ町徳別博物館
観 覧 者 数	10,690人
観 覧 料	無料
学 術 協 力	小林快次氏(北海道大学総合博物館 教授)
展示構成チーム	圓谷昂史(チーフ)、添田雄二
展 示 構 成	北海道むかわ町徳別地域で発見された“パーフェクト恐竜”カムイサウルス(むかわ竜)や、ティラノサウルスの仲間など、道内で研究された7つの恐竜化石を一挙公開するとともに、カムイサウルスと同じ時代に“海”でくらしていたクビナガリュウやアンモナイト、“空”を飛んでいたプテラノドンの仲間など、北海道が誇る化石資料を展示することで、恐竜世界のロマンと化石を通してみた北海道の魅力を紹介します。 おもな展示資料：カムイサウルス、ニッポノサウルスほか
オンライン公開	バーチャルトゥアー(Matterport)：展示室の高精細360度写真を公開
関 連 行 事	オンラインギャラリートーク(YouTubeで配信) 小林快次氏(北海道大学総合博物館) Chapter 1 ココがスゴい！北海道の恐竜 Chapter 2 恐竜？恐竜じゃない？クビナガリュウ！ Chapter 3 日本初の恐竜化石？ニッポノサウルス Chapter 4 パーフェクト恐竜！カムイサウルス Chapter 5 北海道初の恐竜化石！ハドロサウルス類 Chapter 6 ヨロイをまとった恐竜！ノドサウルス類 Chapter 7 巨大なツメ！テリジノサウルス類 Chapter 8 北海道にもいたんだ！ティラノサウルス類 Chapter 9 もっと知りたい！カムイサウルスQ&A Chapter 10 恐竜絶滅！そしてそれから...
印 刷 物	展示解説パンフレット
そ の 他	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 ・会場内のソーシャル・ディスタンスを確保するため、観覧空間、展示レイアウト(展示物間の間隔)を広めに設定した。 ・展示室入場制限：同時入室者数を制限するため、オンライン予約システムを導入し、完全事前予約制かつ総入替制(1日につき①9:30-11:00、②11:20-12:50、③13:10-14:40、④15:00-16:30の4回)とした。 ・入替時間中に展示室内の消毒を実施した。 ・予約来館者に対し、入館時にマスク着用、検温、手指消毒の確認を行った。



特別企画展「北海道の恐竜」パンフレット



特別企画展「北海道の恐竜」展示室風景

⑤巡回展(アイヌ文化巡回展)

アイヌ民族文化研究センターが中心となって開催してきた「アイヌ文化巡回展」を、前年度に引き続き、道内市町村等の協力のもと開催した。2020年度は、木田金次郎美術館主催の「岩内町町制施行120周年記念 2020年特別展示 アイヌ語地名と木田金次郎」として実施し、「北海道博物館第9回アイヌ文化巡回展」との共催という形をとった。

※詳細は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」の115ページを参照のこと。

(3) 道民参加型展示

前年度に引き続き、休憩ラウンジにおいて、北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を実施した。

団体名	北海道化石会
会期	2016年1月29日～2021年3月31日(継続中)
会場	休憩ラウンジ
資料	アンモナイト化石28点(北海道化石会所蔵)

(4) その他の展示

前年度に引き続き、休憩ラウンジにおいて、北方領土に関する広報コーナーとして、北海道総務部北方領土対策本部の協力によりパネル等の展示を実施した。

(5) 樺太連盟関係資料の展示

2020年度は資料搬入の年となったため、実施しなかった。



休憩ラウンジにおける道民参加型展示の様子

3 調査研究

当館では、北海道の自然・歴史・文化を明らかにするための基礎研究として、①当館が収集し、保管し、展示する資料（開拓の村歴史的建造物を含む）に関する基礎的情報の調査と専門的な研究、②資料の保管・保存、展示、及び教育普及等の業務をより効果的に進めるための博物館学的研究を行っています。また、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするための総合研究として、③専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、道費による5つの研究プロジェクト、及び文部科学省の科学研究費などの競争的外部資金を獲得した調査研究を実施しています。そのほか、「樺太記憶継承事業」による調査研究（樺太連盟関係資料を活用した調査研究）も進められています。その成果は館の各種刊行物（→「14 研究成果の発信」）、展示（→「2 展示」）、教育普及（→「5 教育普及」）などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

こうした調査研究活動は、学芸部研究戦略グループ（2020年度は博物館基盤グループ）が運営事務を担い、各研究グループの学芸職員、あるいは数名から構成される研究チームにより進められています。また、各研究グループの主幹は、グループ構成メンバーの研究活動を統括し、研究部長及びアイヌ民族文化研究センター長は、各研究グループ主幹から構成される「調査研究ワーキングチーム」によりこれを統合しています。「調査研究ワーキングチーム」は、館調査研究活動の運行に責任を持つとともに、研究課題の採択、課題ごとの研究評価を実施しています。

- ① **館資料に関する基礎的・専門的調査研究**：当館の収蔵資料は、資料1点ごとに、年代、地域、形状、由来などの資料情報が収蔵資料データベースに登録されます。これらは、個々の資料がもつ第一次情報となり、博物館施設としての当館の諸活動の原点となるものです。
- ② **館活動に関する基礎的・技術的調査研究**：当館が博物館施設として特に展示、教育普及、資料保存等の業務をより効果的に進めるための博物館学的研究が日常的に行われています。
- ③ **館資料の総合化のための研究プロジェクト**：収蔵資料の総合化を進めるため、特定の研究課題や特定地域を選定した共同調査など総合的な研究を道費、及び競争的外部資金により実施しています。

道費による5つの研究プロジェクト

道費による研究プロジェクトは、次の5つのカテゴリーに区分されます。各カテゴリーのなかに数件の研究課題を設定し、数名の研究チームによる共同研究、または個別研究を実施しています。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト
道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです。(2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト
道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにしたりなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです。(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト
「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を総合的に行うプロジェクトです。ここ最近では、ロシア・サハリン州のサハリン州郷土博物館、及びカナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館の2館と友好協定を結んで実施しています。(4) 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究
アイヌ文化に関する基礎的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです。(5) アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
アイヌ文化に関する専門的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです。 <p>※(1)～(3)は北海道博物館、(4)および(5)はアイヌ民族文化研究センターに配当された予算で行う研究プロジェクト</p> |
|--|

「樺太記憶継承事業」による調査研究（樺太連盟関係資料を活用した調査研究）

2020（令和2）～2034（令和16）年度までの15年計画で調査研究を実施します。

公開講座

当館の研究プロジェクトに係る成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開講座を開催しています。

定例研究報告会

学芸職員の研究レベルの向上に資することを目的に、道費による研究や個人研究の成果、外部資金による研究の成果などについて発表し、知見を共有する場とする報告会を開催しています。月1回定例的に継続実施。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

3 調査研究

所 管	博物館基盤グループ	業務担当者	学芸主幹 水島未記
-----	-----------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

<ul style="list-style-type: none"> ○道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施 [道費による研究：5課題] ○北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施 [道費による研究：4課題] ○アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト [道費による研究：2課題] ○北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施 [道費による研究：2課題] ●【重点/新規】収集した樺連資料に関する調査研究 [道費による研究] ○科学研究費による研究(当館職員が研究代表者であるもの)の実施 [競争的外部資金による研究：12課題] ○科学研究費による研究(当館職員が研究分担者であるもの)の実施 [競争的外部資金による研究：5課題] ○科学研究費以外の競争的外部資金による研究(当館職員が研究代表者であるもの)の実施 [競争的外部資金による研究：1課題] ○定例研究報告会の実施 [年間12回] <p>【調査研究に関わる会議】</p> <p>★「北海道博物館調査研究ワーキングチーム」を活用し、調査研究事業を円滑に実施 [年間6回程度]</p>

A 道費による5つの研究プロジェクト

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト(5課題)

北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用 継続			
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配当額	335,000円(2020年度)
研究代表者	水島未記(自然研究グループ)	メンバー	圓谷昂史・表溪太(自然研究グループ)、堀繁久(博物館研究グループ)
研究概要	海岸に漂着する生物からは、その生態や周辺の生物相がわかるだけでなく、環境変化や気候変動などの影響を知ることができる。本研究では、一般道民や他の研究者との連携により漂着生物に関する情報収集・標本採集を行い、海域ごとの傾向および経年変化等を把握する。また、採集した標本の展示や普及イベント等での効果的な活用法についても研究する。		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・漂着貝類相調査：主に日本海側南部の海岸で南方系貝類を中心とした漂着状況調査を実施し、記録・採集を行った。 ・漂着鯨類調査：ストランディングネットワーク北海道を通じて漂着鯨類の情報を集積したが、調査可能な範囲での重要な鯨類漂着は見られず、現場での現地調査・標本採取は実施できなかった。 		
野幌森林公園の生物インベントリー調査(第二次) 継続			
研究期間	2019年度～2023年度(5年間)	配当額	140,000円(2020年度)
研究代表者	水島未記(自然研究グループ)	メンバー	表溪太(自然研究グループ)、堀繁久・鈴木あすみ(博物館研究グループ)
研究概要	野幌森林公園の生物相および生態系の現況を明らかにし、生物インベントリーの作成を進めることで、当該地域の環境変化や希少種の動向、外来種の動向をモニタリングし、保全のための基礎資料を蓄積する。過去の調査内容・成果を踏まえつつも、同じ目的・手法で調査を継続することで、長期的な変化の把握にも貢献する。		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫相調査：双翅目昆虫を中心に継続して調査を行った。 ・植物相調査：維管束植物相を継続調査した。 ・クマゲラ生息数調査……新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。 		
北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究 継続			
研究期間	2019年度～2022年度(4年間)	配当額	296,900円(2020年度)
研究代表者	三浦泰之(歴史研究グループ)	メンバー	山田伸一・鈴木琢也・東俊佑・田中祐未・右代啓視(歴史研究グループ)
研究概要	風景には、その土地の歴史が刻まれている。風景の移り変わりには、その土地の自然環境、産業、生活文化などの変化が反映されている。また、風景を描く、風景を写すという行為には、その土地に対する人びとの認識も反映されている。そうしたさまざまな「風景」の歴史的な変遷を探る上では絵画資料や写真資料などが基礎的な史料になる。これらの資料を時系列的に集積することで、上記の変化や認識の推移に迫ることが出来るが、その環境整備はいまだ不十分な状況にある。また、近年、博物館施設や報道機関などから、ある土地に関する画像資料の有無についての照会が増加傾向にあるが、なかなか十分な回答をしない現状でもある。そこで、本研究では、①北海道博物館が所蔵する関連資料の調査研究及びデータベース化、デジタル化を図り、利活用のための環境整備を行うこと、②他の機関が所蔵する関連資料について情報の集積を図ること、を主な目的とする。②については、他機関などと連携しながら、情報の集積を図ることとする。以上の作業を通じて、北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する資料及びその情報を集積することで、当該地域の歴史などを視覚的に理解するための環境整備を行い、総合展示や企画展示などでの利活用を図るとともに、各種照会に対する回答に資することとする。		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館所蔵の写真・絵葉書・絵画資料について、再調査の上、データベースへの未記載情報や写真データの追加を行った。 ・北海道開拓記念館の開館直前にHBC映画社によって撮影された16mm記録映画「北海道開拓記念館 46年度2号」のデジタル化作業を行った。 ・当初計画していた道外における資料調査は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 		

北海道における戦中・戦後の暮らしの変化に関する聞き書き調査				新規
研究期間	2020年度～2024年度(5年間)	配当額	299,000円(2020年度)	
研究代表者	山際秀紀(生活文化研究グループ)	メンバー	池田貴夫・会田理人・青柳かつら・尾曲香織・舟山直治(生活文化研究グループ)、鈴木明世(博物館研究グループ)	
研究概要	戦中・戦後を生き抜いた人びとの生活の記憶を聞き取ることのできる時間はすでに限られている。一方、これまで戦争に関わる生活体験の記録は各地で蓄積されてきたとはいえ、特に日常生活に関し、これまで見過ごされ、記録に残されてこなかった事象も多岐にわたるものと推定される。また、北海道の中核的な博物館としては、引揚げの体験や引揚者の戦後生活を含め、戦中・戦後の混乱期から復興過程に至る道民生活の変遷に関する情報や資料の集積と展示の充実が求められている。以上を背景に、本プロジェクトでは、喫緊の課題である戦中・戦後の生活の変遷について、地域と連携した総合的な情報集積を行うとともに、特に日常生活についてこれまで記録されてこなかった記憶の聞き書きを重点的に進めていく。また、それらを基に、当館総合展示のさらなる充実について検討を加えていく。			
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 2020年10月に、山際・会田・鈴木明(科研費旅費を使用)の3名が稚内市に出張し、稚内市に現存する旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別通信所の保存・整備活動を展開している「稚内歴史・まち研究会」の活動について聞き取り調査を実施した。あわせて、稚内北星学園大学と稚内市教委とが連携して進めている戦中・戦後の稚内、日本領時代の樺太に関する映像製作活動・アーカイブ化に関する聞き取り調査を実施した。 2020年9月に、池田・尾曲が留萌市に出張し、鋸製造業者に関わる資料の収集と戦後の留萌市街での暮らしに関する聞き書き調査を実施した。 青柳が名寄市に出張し(科研費旅費を使用)、昭和期の学校生活、生活史の聞き取り調査を実施し、天塩川支流の川魚・貝・エビ等利用、冬山造材での人力集材技術など地域知を明らかにした。 2020年8月に、舟山・尾曲が厚沢部町における盆行事調査を実施し、墓地等での鹿子舞の記録をとった。 2020年9月に、尾曲が積丹半島における女性の信仰に関する聞き取り調査を実施した。 2020年度に、鈴木(明)がサハリンにおいて日本統治期に建てられた建造物で現存するものを地図上にまとめた。 2020年度中に山際が予定していた余市町での聞き取り調査は、新型コロナウイルス感染に伴う自粛措置により出張できなかったが、これまで余市町で聞き取りを進めてきた調査データの整理を行った。 			
モノ、コト、ヒトをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究				継続
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配当額	330,000円(2020年度)	
研究代表者	堀繁久(博物館研究グループ)	メンバー	櫻井万里子・杉山智昭・鈴木あすみ・鈴木明世・渋谷美月(博物館研究グループ)	
研究概要	多様な資料を保有する博物館には、未活用の貴重な資源(情報)が眠っている。これらの情報をどのように蓄積するか、どのように情報処理するか、そしてどのような形で一般社会へわかりやすく公開するか、といったことは、今後の博物館のあり方を考える上で大変重要である。そこで本研究では、地理情報システム(GIS)を活用して、博物館で保有する多様な分野の資料情報を、位置情報を付加してWeb地図上でアーカイブ化することで、分野横断的な学術研究の促進、視認性の高い一般公開の手法について模索する。			
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 開拓の村建造物関係資料データベースの作成 サハリンに残る日本統治期の建造物マップの作成 「おうちミュージアム」の参加ミュージアムを対象にしたアンケート調査と交流会の実施 北海道の小型哺乳類標本の収蔵状況に関する情報収集と文献調査 博物館に保管されている冷凍鳥類遺体の状況調査とまとめ(現地調査と聞き取り) 			

(2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト

石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ				新規
研究期間	2020年度～2024年度(5年間)	配当額	400,000円(2020年度)	
研究代表者	圓谷昂史(自然研究グループ)	メンバー	添田雄二(自然研究グループ)	
研究概要	本研究では、野幌丘陵を含む石狩低地帯北部地域の新生代(約6600万年前～現在)の地質や古生物を対象に、外部機関とも連携した調査を実施し、本地域の地質や産出する化石から古環境を解明するとともに、地学のさらなる振興を図ることを目的とする。具体的には、第Ⅰ期で実施した北広島市及び月形町における野外調査を継続し、道内各地や道外との比較・検討も行う。また各地の博物館等と連携し、地学資料の収集と関連情報の集積を行うとともに、各地の地学的な研究課題を明らかにする。さらに、研究成果を活用した展示や教材の開発を行うことで、道民へのアウトリーチ活動も行う。			
2020年度活動概要	<p>北広島市における野外調査等：</p> <ul style="list-style-type: none"> 北広島市教育委員会と連携し、ポールパーク建設予定地付近で数度野外調査を実施したが工事作業の都合により十分な調査は行えなかった。 鯨類下顎骨化石を採集できたため同建設現場事務所内で化石発見の速報展示を実施した。 同委員会と連携し、本地域から産出した貝化石等を用いて教材・教育プログラムを開発し、当館の普及行事で公表した。 <p>月形町における地質調査：天候不順や外部機関の都合等により実施できなかった。 「2020 忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業」への協力：幕別町教育委員会からの依頼を受け各種協力を実施した。</p>			
湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究				新規
研究期間	2020年度～2021年度(2年間)	配当額	481,200円(2020年度)	
研究代表者	表溪太(自然研究グループ)	メンバー	表溪太・水島未記(自然研究グループ)、山田伸一(歴史研究グループ)、山際秀紀・尾曲香織(生活文化研究グループ)、堀繁久・鈴木あすみ・渋谷美月(博物館研究グループ)	

研究概要	北海道には国内で最大の湿原である釧路湿原を筆頭に、全国50箇所のラムサール登録湿地のうち13箇所が位置する。湿地は生態系の中で重要な機能を担っており多くの希少生物の生息地であるとともに、海産物や泥炭などを産出しており、北海道独特の景観として観光資源にもなっている。しかしながら、開拓期以降に湿地の多くが失われ現在も縮小が進んでいる。そこで、北海道の湿地の自然環境と地域の産業や文化の現状を把握することを目標に研究を行う。湿地の自然環境や生物多様性を確認するために、各地の湿地(特にラムサール条約登録湿地)で現地の湿地を調査する。また、生物相調査のために付近の博物館・ビジターセンター等保管の標本も利用する。さらに、各地で動植物や泥炭を活用した産業や伝統文化、開発の歴史や現状を調査する。		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 2020年6月に江別市・美瑛市、7月に根室市・別海町、10月に美瑛市等で湿地の自然環境、および湿地に関連する歴史・文化等についての現地調査を実施した。 2020年6月に苫小牧市、9月に石狩市、10月に美瑛市・岩見沢市・釧路市・網走市等で博物館等の所蔵する資料の調査を実施した。 調査結果は2021年7～9月の北海道博物館特別展「あっちこっち湿地」で活用するために集約した。 		
北方四島の考古・歴史学的総合研究 継続			
研究期間	2019年度～2022年度(4年間)	配当額	266,000円(2020年度)
研究代表者	右代啓視(歴史研究グループ)	メンバー	鈴木琢也・東俊佑(歴史研究グループ)
研究概要	<p>本研究は、北方四島の歴史・文化を総合的に考古・歴史学からの視点で明らかにすることを目的に、四島在住の共同研究をもとに北海道と北方四島の学術交流・友好を深め、博物館交流の進展を目指すものである。この研究は、継続研究として科学研究費や外務省等の外部資金による研究と連携し、次の4つの研究計画により進める。また、研究を推進するため、内閣府、外務省、北方領土問題対策協会、道北方領土対策本部、北方領土復帰期成同盟などの関係団体との連携をはかる。また、研究協力者として道東の学芸員等の協力を求め実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①北方四島の遺跡・史跡などの現地調査(遺跡分布や特性の把握、史跡・文化財等の確認)。 ②北方四島研究者招へいによる歴史・文化等の共同調査(博物館、大学、研究施設等)。 ③国内の博物館、大学等に所蔵される北方四島考古資料の調査。 ④北方四島の歴史・文化情報等の聞き取り調査(元北方四島在住の方々を対象)。 		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で北方四島交流が中止となったため現地調査は実施できなかった。 宮城県図書館所蔵『エトロフ嶋全圖廿五ヶ場所之圖』の撮影、計測など実施した。 羅臼町で、同町教委と共同で公開講座「北方四島の歴史・文化を探る―国後・色丹・択捉の調査より―」を開催した。 		
北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究 継続			
研究期間	2019年度～2023年度(5年間)	配当額	521,000円(2020年度)
研究代表者	尾曲香織(生活文化研究グループ)	メンバー	表溪太・圓谷昂史(自然研究グループ)、田中祐未(歴史研究グループ)、鈴木明世・鈴木あすみ(博物館研究グループ)、亀丸由紀子(アイヌ文化研究グループ)
研究概要	<p>本研究の目的は、道内の各地域を分野横断的に調査し、地域誌の作成やアウトリーチ活動などの方法で道民に還元することである。各市町村には分野の異なる複数名の学芸員を配置できない自治体も多く、本研究を進めることで、道内各地の情報の蓄積の促進や学術的な交流の深化とともに、対象地域の博物館等における活動の一助となることを目指す。本研究では、自然や文化に独自の特色や、地理的な特徴から一つのまとまりをもち、その評価や他地域との対比がしやすい離島を対象とする。まず、人の住む離島のうち、道内で最も南に位置する奥尻島を対象とし、下記研究計画のとおり、各分野担当により調査を実施する。その後、その他の離島でも同様の調査を行い比較し、各地域の特徴を捉える。これらの作業を通し、地域と協働することで多様な情報の収集を行う。</p>		
2020年度活動概要	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、先方と調整した結果、10月と2月に予定していた実地調査を中止した。		

(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト

北海道とサハリン(仮) 新規			
研究期間	2020年度～2024年度(5年間)	配当額	1,631,460円(2020年度)
研究代表者	【暫定】 小川正人(研究部長)	メンバー	【暫定】 三浦泰之・山田伸一・東俊佑(歴史研究グループ)、圓谷昂史・表溪太(自然研究グループ)、山際秀紀・会田理人・尾曲香織・舟山直治(生活文化研究グループ)、堀繁久・鈴木あすみ・鈴木明世(博物館研究グループ)、大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子(アイヌ文化研究グループ)
研究概要	<p>北海道と隣接するロシア極東地域とは、自然、文化、歴史のそれぞれにおいて深いつながりがあり、互い様々な特徴を持ちつつも、多くの共通点も有している。北海道とサハリンに焦点を合わせ、サハリン州郷土博物館との交流のなかで、自然、歴史及び文化についての多面的な研究を進める。並行する「北方文化共同研究事業」とも連携を図り、個々の調査研究の成果の蓄積とともに、博物館交流・地域間交流を通して北海道の総合博物館としての基本的機能や諸事業の充実を目指す。</p>		
2020年度活動概要	<p>【研究者の招へい、研究交流協定などに関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サハリン州郷土博物館からの招聘：感染症拡大のため、双方協議のうえ見送り。 ○研究交流協定の締結：締結年度であったが、感染症拡大のため協議を延期。8月に、世界的な感染症拡大下であるが今後も交流を継続していきたい旨の館長メッセージを相手方に送信。年度末に双方協議し、締結の意思を確認しつつ、感染拡大・収束状況を見極めるため、協議を次年度に延伸。 <p>【個別課題の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○樺太引き揚げ者からの聞き取り調査(9月) ○樺太連盟資料の受け入れ・整理計画との調整：樺太連盟資料の整理を通じた記憶継承事業と本プロジェクトの棲み分けを図ることとした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たなメンバー編成と個別課題設定が課題であったが、プロジェクトの中心である学芸員の招聘及び協定の締結が未確定なまま推移する中で着手できず、R3年度に持ち越しとなったことは大きな反省点。 		

寒冷地の自然と適応			継続
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配当額	1,723,000円(2020年度)
研究代表者	表溪太(自然研究グループ)	メンバー	圓谷昂史(自然研究グループ)、池田貴夫・青柳かつら・尾曲香織(生活文化研究グループ)、鈴木明世(博物館研究グループ)、甲地利恵・亀丸由紀子(アイヌ文化研究グループ)
研究概要	互いに姉妹提携を結び、また気候としては亜寒帯に属するなど類似した地理的環境にある北海道とアルバータ州の自然・歴史・文化および博物館について、ロイヤルアルバータ博物館との交流のなかで学際的な調査研究をおこない、ともに亜寒帯地域研究のセンター的な博物館づくりを目指すとともに、両地域の相互理解・相互友好をいっそう推進する。		
2020年度活動概要	ロイヤルアルバータ博物館職員の招聘による共同研究を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。		

(4) 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究

(5) アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト

上記(4)、(5)の研究プロジェクトは、アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトである。詳細は、「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」の112～113ページを参照のこと。

B 「樺太記憶継承事業」による調査研究(樺太連盟関係資料を活用した調査研究)

2020年度は、年度末に資料の収集を行い、所在確認作業を実施した。具体的な研究、及び研究実施体制は、2021(令和3)年度以降に立ち上げることとなった。

C 競争的外部資金による調査研究

(1) 科学研究費補助金による調査研究(当館職員が研究代表者であるもの) 17課題

北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究			継続
研究期間	2018年度～2021年度(4年間)	配分額	17,160千円(直接経費:13,200千円、間接経費:3,960千円)
研究種目	基盤研究(B)	研究代表者	右代啓視(歴史研究グループ)
巨大噴火・津波の痕跡を軸とした17世紀アイヌ文化と環境に関する学際研究			継続
研究期間	2019年度～2022年度(4年間)	配分額	17,030千円(直接経費:13,100千円、間接経費:3,930千円)
研究種目	基盤研究(B)	研究代表者	添田雄二(自然研究グループ)
蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究			終了
研究期間	2016年度～2020年度(5年間)	配分額	3,510千円(直接経費:2,700千円、間接経費:810千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	東俊佑(歴史研究グループ)
北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究			終了
研究期間	2016年度～2020年度(5年間)	配分額	4,550千円(直接経費:3,500千円、間接経費:1,050千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	会田理人(生活文化研究グループ)
北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究			継続
研究期間	2017年度～2021年度(5年間)	配分額	4,420千円(直接経費:3,400千円、間接経費:1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	池田貴夫(生活文化研究グループ)
少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発			継続
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配分額	4,420千円(直接経費:3,400千円、間接経費:1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	青柳かつら(生活文化研究グループ)
アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査			継続
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配分額	4,420千円(直接経費:3,400千円、間接経費:1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	甲地利恵(アイヌ文化研究グループ)
リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源採取における空間利用の解析			継続
研究期間	2019年度～2022年度(4年間)	配分額	4,290千円(直接経費:3,300千円、間接経費:990千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	水島未記(自然研究グループ)
近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究			新規
研究期間	2020年度～2023年度(4年間)	配分額	3,250千円(直接経費:2,500千円、間接経費:750千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	小川正人(アイヌ文化研究グループ)
北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究			新規
研究期間	2020年度～2023年度(4年間)	配分額	4,290千円(直接経費:3,300千円、間接経費:990千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	鈴木琢也(歴史研究グループ)

アイヌ口承文学における話型分類の研究			新規
研究期間	2020年度～2023年度(4年間)	配分額	4,160千円(直接経費:3,200千円、間接経費:960千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	遠藤志保(アイヌ文化研究グループ)
考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究			継続
研究期間	2018年度～2021年度(4年間)	配分額	3,250千円(直接経費:2,500千円、間接経費:750千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	大坂拓(アイヌ文化研究グループ)
貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発			継続
研究期間	2018年度～2022年度(5年間)	配分額	3,510千円(直接経費:2,700千円、間接経費:810千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	圓谷昂史(自然研究グループ)
明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究			継続
研究期間	2019年度～2021年度(3年間)	配分額	2,600千円(直接経費:2,000千円、間接経費:600千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	鈴木明世(博物館研究グループ)
DNA半減期の解明—生物標本の保存環境と分析可能性について			新規
研究期間	2020年度～2022年度(3年間)	配分額	1,820千円(直接経費:1,400千円、間接経費:420千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	表溪太(自然研究グループ)
北海道の小型哺乳類標本コレクションの可視化および収集傾向の時空間解析			新規
研究期間	2020年度～2023年度(4年間)	配分額	3,120千円(直接経費:2,400千円、間接経費:720千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	鈴木あすみ(博物館研究グループ)
地理情報システムを用いた、北海道に現存する船絵馬の保存と活用に向けた試み			終了
研究期間	2019年度～2020年度(2年間)	配分額	1,170千円(直接経費:900千円、間接経費:270千円)
研究種目	研究活動スタート支援	研究代表者	田中祐未(歴史研究グループ)

(2) 科学研究費補助金による調査研究(当館職員が研究分担者であるもの) 5課題

狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究			終了
研究期間	2018年度～2020年度(3年間)	研究代表者	青野友哉(東北芸術工科大学)
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	添田雄二(自然研究グループ)
官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質			終了
研究期間	2018年度～2020年度(3年間)	研究代表者	林部均(国立歴史民俗博物館)
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	鈴木琢也(歴史研究グループ)
古代末期防衛的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築			継続
研究期間	2019年度～2022年度(4年間)	研究代表者	小口雅史(法政大学)
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	右代啓視・鈴木琢也(歴史研究グループ)
自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築			継続
研究期間	2019年度～2023年度(5年間)	研究代表者	三橋弘宗(兵庫県立大学)
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	水島未記(自然研究グループ)
自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか?次世代ネットワーク管理の模索			継続
研究期間	2019年度～2021年度(3年間)	研究代表者	佐久間大輔(地方独立行政法人大阪市博物館機構)
研究種目	挑戦的研究(萌芽)	研究分担者	堀繁久(博物館研究グループ)

(3) その他の競争的外部資金による研究(当館職員が研究代表者であるもの) 3課題

博物館と地域の連携による鳥類標本データベース構築—未利用個体の活用に向けたモデルづくり—			新規
研究助成	笹川科学研究助成	研究期間	2020年4月1日～2021年2月10日
助成金額	350,000円	研究代表者	鈴木あすみ(博物館研究グループ)
「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化			新規
研究助成	国土地理協会学術研究助成	研究期間	2020年7月31日～2022年3月31日
助成金額	960,000円	研究代表者	小川正人(アイヌ民族文化研究センター長)
吉田初三郎の鳥瞰図に関する研究—北海道旭川市と層雲峡に関連する作品を中心に			新規
研究助成	戸部眞紀財団研究助成	研究期間	2020年10月1日～2023年3月31日
助成金額	1,000,000円	研究代表者	田中祐未(歴史研究グループ)

D 公開講座 1回

2020年度は、北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト「北方四島の考古・歴史学的総合研究」に関する公開講座を羅臼町で実施した。

北方四島の歴史・文化を探る			
主催	北海道博物館、羅臼町教育委員会(羅臼町郷土資料室)	会場	羅臼町役場3階 会議室5・6
日時	2021年2月21日(日) 10:00～12:00	参加者数	20名
内容	10:00～10:05 開会のあいさつ 10:05～11:00 「国後島の郷土史家 村田吾一の足跡を探る」 天方博章(羅臼町郷土資料館学芸員) 11:00～11:55 「北方四島の歴史・文化を探る」 右代啓視(当館学芸員) 11:55～12:00 閉会のあいさつ		

E 定例研究報告会

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、月1回・1名の発表とした(従前は月1回・2名の発表)。また、「緊急事態宣言」の発令、その他業務の諸事情などの理由により、開催数は6回となった。

2020年度定例研究報告会開催実績 6回

回数	開催日	発表者	テーマ	参加者数
第1回	6月24日	添田雄二	忠類ナウマンゾウの発見・カボチャプロジェクト	20名
第2回	7月29日	杉山智昭	木造文化財の精密診断	14名
第3回	10月14日	渋谷美月	おうちミュージアムについて	22名
第4回	10月28日	山田伸一	開拓使による河川のサケ漁規制について	17名
第5回	1月27日	池田貴夫	開拓の村の今後にむけて—わたしたちは何をなしていくべきか—	24名
第6回	3月24日	表溪太	①サハリンの調査報告 ②湿地展の進捗報告	21名

F 調査研究ワーキングチーム

2020年度は、調査研究ワーキングチーム会議(座長:研究部長、座長代理:学芸部長、構成員:各研究グループ主幹、事務局:研究戦略グループ)を4回実施した。

2020年度調査研究ワーキング開催実績 4回

回数	開催日	おもな議題
第1回	4月21日	2019年度道費研究実績報告、2020年度道費研究計画
第2回	5月28日	2020年度道費研究計画・配当案等、科研費の執行
第3回	9月1日	2021年度道費研究予算要求とシーリング、2021年度科研費申請スケジュールと申請者応募資格、科研費執行残の多い課題のその後の経過
第4回	10月7日	科研費執行残の多い課題の執行計画、2020年度研究紀要スケジュール、2021年度道費研究予算要求とシーリング

4 北海道開拓の村の整備

1983（昭和58）年4月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、北海道開拓記念館と、1971（昭和46）年4月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て2010（平成22）年度をもって廃止）とで推進され、特に開拓の村の歴史的建造物の移築復原・再現、および内部展示（屋内展示）の制作は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や内部展示の維持・管理は当館の重要な業務となっています。

歴史的建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修復・修繕は限定的に行うことを原則としており、この方針の基に屋根や外壁などを中心に毎年数棟ずつの修復工事を実施してきました。しかし、野外展示であると同時に寒冷多雪地域であるという条件は、建造物の保存にとっては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽や劣化が進んでおり、その対応が大きな課題となっています。

また、内部展示については、「史実に忠実に再現し、演出もその範囲内で行う」、あるいは「実際に使用してみる道具類は消耗品的になるのでこわれやすいものや数少ないものについては複製を使用」といった展示構想（「北海道開拓の村展示構想」、1980年6月策定）に基づき、建造物に付随する実物資料の展示による「再現」を基本としてきましたが、経年劣化が進んできており、その対応も中長期的な課題となっています。

こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となり、総括グループ（指定管理者、施設・設備関係発注業務等）や学芸部博物館基盤グループ（内部展示関係）と連携しながら進めています。

大規模改修工事基本計画策定業務

大規模な改修工事は、2019（令和元）年度より道建設部が主体となって事業を実施することになりました。しかし、歴史的建造物の改修工事は、通常の建造物の改修工事と同じ手法では多くの問題が生じてしまいます。そこで、2020（令和2）年度には、前年度の改修工事をふまえ、今後の開拓の村建造物の改修工事に関する基本計画の検討が道建設部主催で実施されました。

補修工事、小破修繕など

開拓の村建造物の維持・修繕業務としては、大規模改修のほかにも、建造物の日常的な管理・点検によって発見された部分的な劣化・損傷の補修を行っています。また、当館による補修工事以外にも、指定管理者である北海道歴史文化財団発注による小破修繕などが適宜実施されています。

老朽度調査

開拓の村建造物の大規模改修工事計画の策定などに向けて、毎年2棟、建物全体の劣化度や破損部分の調査を実施しています。また、2020年度からの試みとして、簡易的な耐震診断も行っています。

歴史的建造物の内部展示等改修

開拓の村歴史的建造物の内部展示や、村内の看板・サイン等は、北海道博物館の管理対象となっています。当館では、指定管理者による日常的な点検、及び「展示資料破損・亡失報告書」を受け、展示物の入れ替えや撤去、パネルの改修などを行っています。また、必要に応じて、看板・サイン等の設置や修繕を行っています。

現状では、破損・劣化の激しい展示資料は、展示からの撤去と博物館への引き上げ・収蔵以外に手立てがない状況です。開拓の村における内部展示のあり方を含めた開拓の村全体の中長期的なあり方と今後の活用に向けた検討が「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の大きな課題となっています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

4 北海道開拓の村の整備

所	管	企画グループ	業務責任者	学芸主幹 池田貴夫
---	---	--------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

- 旧近藤染舗の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）
- 旧小樽新聞社の実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）
- 旧樋口家農家住宅の老朽度調査
- 旧岩間家農家住宅の老朽度調査
- 令和元年6月の落雷により故障した火災報知設備等の修繕実施設計 [延べ31か所、発注：建設部、指導・助言：博物館]
- スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6カ国語、110コンテンツ]
- △開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟+インフラ）
- △開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟）
- △【新規】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討

(1) 大規模改修工事基本計画策定業務

次年度以降、実施設計と改修工事を予定している旧小樽新聞社及び旧近藤染舗を事例に、開拓の村建造物を今後計画的かつ合理的に改修していくための基本計画の検討が北海道建設部主催で実施された。本業務実施に当たって、受託事業者を主体として、有識者（歴史的建築物、伝統構法）、及び関係者（建設部建築局、環境生活部、北海道博物館）による意見交換会が4回開催された。

意見交換会開催実績 4回

回数	日時
第1回	2020年9月4日 13:30-16:20
第2回	2020年10月15日 14:00-16:00
第3回	2021年1月15日 13:30-15:30
第4回	2021年2月18日 9:30-11:30

・第1回会場：北海道開拓の村旧札幌停車場会議室
 ・第2～4回会場：北海道開拓の村旧開拓使札幌本庁舎（ビジターセンター）研修室

(2) 補修工事、小破修繕など

2020年度補修工事、小破修繕 6件（北海道博物館発注分）

工事名	工期	受注業者
旧手宮駅長官舎内壁塗喰（応急）補修工事	2020年7月1日～9月4日	株式会社高橋組
旧開拓使札幌本庁舎（ビジターセンター）建具修理工事	2020年10月8日～10月30日	株式会社高橋組
旧手宮駅長官舎・旧開拓使爾志通洋造家（白官舎）補修工事	2020年11月10日～12月10日	株式会社高橋組
旧土屋家はねだし基礎外壁等補修工事	2021年2月16日～3月26日	株式会社高橋組
ビジターセンター電気室内高圧コンデンサ更新工事	2021年1月13日～3月19日	株式会社創英電工
開拓の村ろ過装置塩素・PACポンプ更新工事	2021年2月10日～3月25日	イカリ設備株式会社

(3) 老朽度調査

2020年度老朽度調査 1件

工事名	受注業者
旧樋口家農家住宅及び旧岩間家農家住宅老朽度調査業務	株式会社札幌企画設計

(4) 内部展示等改修

2020年度は、指定管理者からの「展示資料破損・亡失報告書」が10件（18点）提出され、これを受けて実物資料14点、複製資料1点を展示から撤去し、博物館へ引き上げた。また、野外看板について修繕を行った。

2020年度内部展示等改修工事 1件

工事名	受注業者
開拓の村野外看板修繕業務	株式会社ナーカル

(5) その他

2019（令和元）年6月の落雷により故障した火災報知設備等の修繕は、2020～2021年度の2年間で修繕を実施することとなった。スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」の運用検証は、新型コロナウイルス感染症拡大による外国人観光客の激減等により十分な検証ができないことから、実施しなかった。

内部展示改修・改訂計画は、「北海道歴史・文化・自然『体感』空間構想」（環境生活部策定）に関わる具体的取組として検討することとした（※「構想」の詳細は117ページを参照のこと）。

5 教育普及事業

当館の教育普及事業は、道民の学習支援事業として、利用者の視点に立って展開することを心がけています。生涯学習施設かつ社会教育施設としての博物館の役割を果たすべく、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう配慮した個々の事業を展開しています。

総合展示室における展示解説や各種イベントをはじめ、はっけん広場における学習活動・イベント、学校団体などへの「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」、館内外での講座・講演会・ワークショップ・自然観察会などの各種普及行事など、展示および資料の公開を除く広い範囲の活動を行っています。

総合展示室における展示解説

当館では、ヨーロッパやアメリカの博物館におけるドーセント（普及教師、ボランティア）の活動を参考に、1971（昭和46）年の旧開拓記念館開館以来、展示室に解説員を常時配置し、来館者の質問などに随時対応するサービスを提供しています。また、総合展示第1～5テーマの見どころを約1時間で解説しながら一巡する「ハイライトツアー」なども行っています。総合展示室における解説員の業務内容は、①来館者への展示解説、②来館者への案内・誘導、③展示資料の監視と来館者の安全確保・介添えなど多岐にわたり、総合展示室1階と2階の「情報デスク」にそれぞれ常駐し、定期的に展示室内を巡回し、来館者とじかに接して来館者と博物館をつなぐ役割を果たしています。来館者からの質問事項や案内・誘導、その他特記事項はすべて毎日作成する「解説員活動日誌」に記録し、博物館職員同士でこれを回覧し、情報共有を図っています。

そのほか、壁面グラフィックパネルやキャプション（ネームカード）による個々の資料の展示解説も充実させ、案内リーフレット、展示解説書、外国語による解説ボード（多言語解説ボード）、音声ガイド（展示解説器）、スマートフォンによる展示解説アプリ「ポケット学芸員」なども用意し、来館者の多様なニーズにも対応しています。

展示室におけるイベント

総合展示室では、来館者がわかりやすく、おもしろく展示を観覧することができるよう、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や、「ハンズオン」、「ミュージアムトーク」、「ちゃれんがラリー」など、来館者が気軽に参加できるイベントを随時行っています。

※特別展や企画テーマ展などの開催中に、特別展示室にて「ミュージアムトーク」を開催する場合があります。



情報デスク

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに設置しています。



ハイライトツアー

総合展示第1～5テーマの展示の見どころを1時間程度で説明する展示解説を行っています。（毎日14:00-15:00）



案内リーフレット 館内マップと各施設の概要を記したリーフレットです。大人用(日本語・英語・中国語(簡体中文)・中国語(繁体中文)・韓国語・ロシア語の6種)とこども用(日本語のみ)の7種類を用意しています。 ※ほかに広報用のリーフレットを1種作成しています。

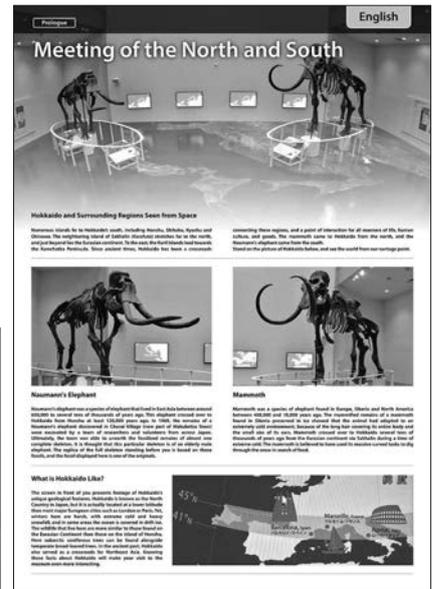


総合展示解説書『ビジュアル北海道博物館』2016年4月刊。A4版120ページ。総合展示室や図書室に配置するとともに、館内のミュージアムショップで販売しています。



多言語解説ボード

各展示コーナーごとに解説ボードを配置しています(総合展示室内16か所)。解説ボードは、1か所につき日本語、英語、中国語(簡体中文)、中国語(繁体中文)、韓国語、ロシア語の6種類を用意し、その展示コーナーの詳細内容や見どころを記しています。解説パネルは日本語と英語の2言語による表示のため、それを補う役割をもたせています。



音声ガイド(展示解説器)

総合展示室内の壁面グラフィックパネルの解説文(全部で67コンテンツ)を各国語(日本語、英語、中国語(中国)、中国語(台湾)、韓国語、ロシア語)で読み上げる機器を総合案内で貸し出しています(1回280円)。



ポケット学芸員

当館では、スマートフォン用の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を導入しています。総合展示室内のパネル解説文、個々の展示資料など約350項目の解説を、日本語、英語、中国語(簡体中文)、中国語(繁体中文)、韓国語、ロシア語の6言語でそれぞれ見ることができます。アプリは無料でインストールできます。※展示室内は、無料のWi-Fi環境が整備されています。



ちゃれんがラリー

親子などで来館された小さいお子様でも総合展示の内容を楽しく学ぶことができるよう、展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリーを実施しています(毎日実施)。こども用リーフレットの裏面(写真右)がクイズシートになっていて、情報デスク配置の職員がクイズを出題します(写真上)。最後は、はっけん広場でクイズに答えて大きなスタンプをもらうしくみになっています。

学芸員ハローデスク

1階と2階の交流ゾーンにある情報デスクでは、学芸員が研究活動などの通常業務を行いながら、北海道の自然・歴史・文化に関して、より専門的に知りたいという来館者の質問・疑問にお答えしています。(祝日のみ)



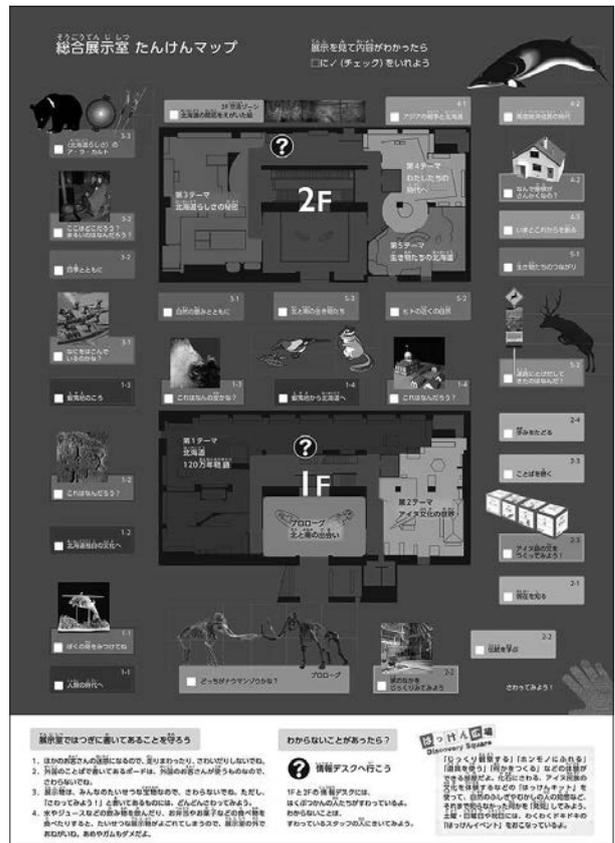
ハンズオン

普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナーを開設したり、学芸員が道具の使い方などを実演するイベントを実施しています。(一部の祝日のみ)

はっけん広場

はっけん広場は、「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子どもから大人までホンモノに触れて何かを発見できる場となるよう設置しています。化石にさわる、アイヌ民族の文化を体験するなどの「はっけんキット」を配置しているほか、期間とテーマを定めて年間数回、気軽に参加できる「はっけんイベント」を開催しています。

はっけん広場には解説員が常駐し、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行っています。



ミュージアムトーク

学芸員が総合展示のみどころや最新の研究などについて展示室内で30分程度解説を行うイベントです。(一部の祝日のみ)



(1) はっけんキット

来館者が自由に手に取って遊んだり体験したりする中で、自然の不思議や昔の知恵など、これまで気がつかなかったり、知らなかったりする何かを〈はっけん〉してもらおうことを目的に、体験型教材「はっけんキット」を開発・改良しています。

はっけんキット一覧 (2021年3月31日現在)

【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラン

【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察しよう
- ・アンモナイト化石を観察する

【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らそう
- ・いろいろな繊維にさわってみよう
- ・着物を着てみよう (小さな着物)
- ・着物を着てみよう (大きな着物)
- ・刺繍を観察しよう
- ・アイヌ語かるたに挑戦!
- ・アイヌパズルに挑戦!
- ・背負い縄(タラ)で荷物を運んでみよう
- ・背負い袋(サラニブ)を背負ってみよう
- ・サケ皮靴(模型)を組み立てよう
- ・木彫りを観察しよう

【歴史に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣り針

【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①-1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪下駄」
- ・昔の衣服を着る①-2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ぎん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人になってみよう」
- ・昔の衣服を着る⑤「戦時中の暮らし」
- ・昔の道具ではかる①「杵でお米をはかってみよう」
- ・昔の道具ではかる②「さおばかりでおいもをはかろう」
- ・包んで しばって①「わらで卵を包んでみよう」
- ・包んで しばって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しばって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・いろいろな〈せんい〉「この布は何からできているのかな?」
- ・ヒツジの毛にふれる「ふわふわの毛をとかしてみよう!」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとり おはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおとし」
- ・パズルで脳をきたえよう!「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう!「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう!「ダイヤモンドゲーム コピットゲーム 十六武蔵」
- ・すごろくで、もりあがろう!「蝦夷土産道中寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・地図記号、全部正解できるかな? はめこみ地図記号



はっけんキットのいろいろ



はっけんキット「はめこみ地図記号」
2019年度に新たに開発したはっけんキット

(2) はっけんイベント

一般来館者を対象として、土曜・日曜日や祝日・振替休日を中心に、簡単なものづくりの体験ができるイベントを期間ごとにテーマを変えて実施しています。羊毛を用いたイベントや、毎年12月ごろに実施する「しめ縄づくり」は、毎年の定番行事となっています。



はっけんイベント「しめ縄」



はっけんイベント実施例

グループプレクチャー

グループプレクチャーは、学校団体や一般団体を対象とした教育プログラムです。学芸員が団体の要望に応じて、総合展示の見どころや、北海道の自然・歴史・文化などの個別テーマに関する話題について、20～25分程度講話を行います(事前申込)。基本的に講堂を会場として実施します。

グループプレクチャーのメニュー

メニュー	内容
① 総合展示ダイジェスト	総合展示第1～5テーマの内容をダイジェストでお話しします。総合展示を観覧する前にどんな展示なのかの概要を学ぶのに最適なメニューです。
② 北海道の生き物	北海道の動物、植物、昆虫などの生き物の概要や、自然環境とヒトとの関わりなどについてお話しします。理科や生物の授業と組み合わせたり、総合展示第5テーマ「生き物たちの北海道」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
③ 北海道の化石	北海道から見つかる恐竜やアンモナイト、ナウマンゾウ、マンモスゾウ、貝の化石などについてお話しします。理科や地学の授業と組み合わせたり、総合展示第1テーマ「北海道120万年物語」の「1人類の時代へ」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
④ アイヌ文化の世界	アイヌ民族の現在、伝統文化、ことば、近現代の歩みなどアイヌ文化について体系的にお話しします。郷土学習の授業と組み合わせたり、総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
⑤ 北海道の歴史	北海道の旧石器文化、縄文文化、統縄文文化、擦文文化・オホーツク文化から中世・近世の蝦夷地のころ、そして明治の開拓使設置から大正、昭和の高度経済成長の時代まで、北海道の歴史のあゆみを概説します。社会や日本史の授業と組み合わせたり、総合展示第1テーマ「北海道120万年物語」や第4テーマ「わたしたちの時代へ」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
⑥ 北海道の暮らし	明治以後本州から渡ってきた移住者の暮らし、開拓期の人びとの暮らしを彩る道具、厳しい寒さや雪にそなえ冬を過ごしやすくするための知恵や工夫などについてお話しします。小学校社会科の「昔の暮らし」に関する授業と組み合わせたり、総合展示第3テーマ「北海道らしさの秘密」や第4テーマ「わたしたちの時代へ」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
⑦ 北海道の産業	農業、漁業、林業、鉱工業、交通・運輸業など明治以後の北海道の産業のあゆみについて体系的にお話しします。小学校社会科の授業や総合展示第3テーマ「北海道らしさの秘密」や第4テーマ「わたしたちの時代へ」の内容をより深く理解するのに最適なメニューです。
⑧ 博物館・学芸員の仕事	博物館で働く学芸員の普段の仕事についてお話しします。小学校の「総合的な学習の時間」、中学校・高等学校のキャリア教育(職場体験)、大学の博物館学・博物館実習等での利用に最適なメニューです。学芸員が事前に利用者側から送付された質問に答える形で対応したり、ディスカッション形式で対応することも可能です。
⑨ 北海道博物館のあらし	北海道博物館の沿革、使命、基本理念、事業の内容、組織体制などについてお話しします。博物館関係者や議員等の視察、各種研究会、大学の博物館学・博物館実習等での利用に最適なメニューです。
⑩ その他【要相談】	利用団体の要望に応じて、学芸員が専門的な内容のテーマでお話しします。

はっけんプログラム

小学校、中学校などの学校団体を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための体験型学習プログラムです。はっけん広場のスタッフ(解説員)が最初に説明や演示をし、そのあとに10分程度体験学習を行います。

はっけんプログラムのメニュー

メニュー	内容
① ヒグマ	ヒグマの毛皮にさわったり、頭骨やフンをじっくり観察したり、足跡シートで動物の歩き方を体験することで、ヒグマの生態や一年の暮らしについて学習します。 【おもな補助教材】ヒグマの頭骨(レプリカ)、ヒグマのフン、ヒグマの毛皮、ヒグマ足跡シート
② アンモナイト	ホンモノのアンモナイト化石にさわったり、観察したり、貝の化石やオウムガイなどと比較しながら、アンモナイトの殻のつくりや特徴、及び生態について学習します。 【おもな補助教材】アンモナイト、オウムガイ、化石・現生の貝類
③ アイヌ文化	着物を着る、ムックリを鳴らす、仕掛け弓を使う、アイヌ語カードでアイヌ語にふれる、着物パズルで衣服の模様を観察する、といった体験を通して、アイヌ文化について学習します。 【おもな補助教材】木綿衣、手甲、脚絆、鉢巻、ムックリ、仕掛け弓(わな)、アイヌ語カード、着物パズル
④ 縄文文化の暮らし	火おこしの道具で火種をつくったり、石斧で丸太を切ったりしながら、縄文文化の人びとの暮らしについて学習します。 【おもな補助教材】火おこし道具(弓切り式、舞切り式)、石斧と丸太
⑤ 昭和の暮らし	天秤棒で水を運ぶ、洗濯板で洗う、風呂敷で包む、一升瓶で精米するといった体験を通して、昭和のはじめごろから現在までの人びとの暮らしの移り変わりについて学習します。 【おもな補助教材】洗濯板とたらい、電気洗濯機、羽釜、電気炊飯器、玄米の入った一升瓶と棒、風呂敷、買物かご、天秤棒、バケツ
⑥ はっけんキットを使ってみよう	はっけん広場に置いてある「はっけんキット」を自由に使って学ぶプログラムです。 【対象：保育園、幼稚園のみ】

普及行事とイベント

当館では、利用者(参加者)の学習目的が明確な教育プログラムを普及行事と呼んでいます。普及行事は、開催日時、募集人数、内容、進め方等を前年度中に計画し、事前予約制での開催を基本に実施しています。これに対し、博物館

を訪れた人びとが事前の予約申し込みなしで気軽に参加できる行事をイベントと呼んでいます。前者は、博物館・学芸員を利用して北海道の自然・歴史・文化などに関する学習を深めたい利用者の学習支援に重きを置き、後者は、ふだん博物館をあまり利用されない人びとに博物館活動を知っていただくことに重点を置いています。

普及行事は、一般普及行事と特別展・企画テーマ展関連行事とに分けられます。一般普及行事は、当館所蔵の資料、学芸員の調査研究、総合展示などの内容をより深めていただくことを目的とし、毎年定番のものから少しテーマを変えて実施するものまでさまざまです。受講者の参加体験に重きをおく「ちゃれんがワークショップ」「子どもワークショップ」「自然観察会」や、学芸員による講話を中心とする「ミュージアムカレッジ」「アイヌ語講座」「古文書講座」などを開催しています。行事への参加をとおして博物館の多様な活動に興味をもってもらい、博物館を継続的に利用して学習する人びとを増やすことを目的としています。

特別展・企画テーマ展関連行事は、毎年テーマを変えて開催する特別展・企画テーマ展の内容をより深めていただくことを目的としています。外部講師を招いての講演会や、展示を担当した学芸員による解説講座、展示に関連するワークショップなどを開催しています。

イベントとしては、「北海道ジオパークまつり」などの大型体験イベントや、文化の日に開催するミュージアムコンサート、祝日の天気の良い日に開催する「屋上スカイビュー特別開放」などを実施しています。

教材の開発

当館では、学校団体をはじめとした各種団体や、障害のある方、外国語を母語とする方など、博物館を訪れるすべての人びとが当館の資料や展示をより深く理解することができるよう、社会的ニーズに合わせた教材の開発に取り組んでいます。2015年度には総合展示解説書『ビジュアル北海道博物館』、展示解説アプリ「ポケット学芸員」提供コンテンツ、2016年度には『学校利用ガイド』（運用は2017年度から）、2017年度には学校団体用ワークシート「ちゃれんがワーク」（運用は2018年度から）、2018～19年度には貸出用体験教材の開発（貸出事業は2020年度から）、2019年度には視覚障害者向け「さわれる博物館キット」、2019～20年度には「おうちミュージアム」提供コンテンツの開発に取り組みました。

※『学校利用ガイド』、「ちゃれんがワーク」については「6 ミュージアムエデュケーター機能の強化」（66ページ）を参照のこと。

おうちミュージアム

2020（令和2）年の新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、北海道内の小・中学校等で長期休校が実施されたのを契機に、子どもたちが家庭で楽しみながら学ぶための素材として、インターネットでさまざまな学習コンテンツをダウンロードできるウェブサイト「おうちミュージアム」を公開しました。また、この取り組みが、より多くの方に届くよう、道内外の博物館等とロゴを共有し、「おうちミュージアム」の活動に参加する博物館等の情報を集約してウェブサイトに掲載しています（2021年3月31日現在230機関）。そのほか、SNS等を活用した連携や参加機関担当者との交流を図っています。



「おうちミュージアム」ロゴ

当館の「おうちミュージアム」提供コンテンツ（2021年3月31日現在）

No.	コンテンツ名	No.	コンテンツ名
第1弾	松浦武四郎のかいた絵にぬりえしよう！	第17弾	アヒル笛で音のしくみを体験しよう
第2弾	ならべて楽しもう アイヌ語ブロック	第18弾	空き箱ではたおりをしよう！
第3弾	つなげてみよう！北海道地名しりとり	第19弾	いももちを作ろう！
第4弾	夜に飛ぶ動物を飛ばそう	第20弾	疫病よけ？ 江戸時代の人魚の絵にぬりえしよう！
第5弾	指織りプレスレットの作り方	第21弾	なつかしいボードゲーム「十六武蔵」であそんでみよう！
第6弾	アンモナイト折り紙を折ろう！	第22弾	平面わら馬をつくってみよう
第7弾	120年くらい前の札幌をすごろくで体験しよう！	第23弾	バーチャル北海道博物館① 総合展示第1テーマ「北海道120万年物語」
第8弾	北海道ふくわらい	第24弾	バーチャル北海道博物館② 総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」
第9弾	むかしの教科書で工作をしてみよう！	第25弾	バーチャル北海道博物館③ 総合展示第3テーマ「北海道らしさの秘密」
第10弾	おうちでアイヌの伝統料理を作ろう！	第26弾	楽器のクロスワードパズルに挑戦！
第11弾	くるくるピックチャー大作戦！	第27弾	バーチャル北海道博物館④ 総合展示第4テーマ「わたしたちの時代へ」
第12弾	ポップアップカードでつくる春の野幌森林公園	第28弾	バーチャル北海道博物館⑤ 総合展示第5テーマ「生き物たちの北海道」
第13弾	松浦武四郎がつくったすごろくであそぼう！	第29弾	サイエンスパーク・ファン シカ笛
第14弾	アイヌの遊び歌のアニメを見てみよう！	第30弾	JR北海道駅名標シート
第15弾	どんな漢字から、どんなひらがなができたのかな？	第31弾	めざせ横綱！恐竜紙ずもうを作ろう
第16弾	くずし字を読んでみよう（中学生・高校生向け）		

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

5 教育普及事業

所 管	道民サービスグループ	業務責任者	学芸主幹 三浦泰之
-----	------------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

(1) 魅力あるイベントの充実

- 「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時]
- 解説員による総合展示の展示解説 [常時]
- 総合展示室における「ハイライトツアー」の実施 [5～9月の毎日、4月および10～3月の土日祝、14:00～15:00]
- 情報デスクを活用した「学芸員ハローデスク」の実施 [祝日・振替休日]
- 総合展示室や特別展示室における「ミュージアムトーク」の実施 [一部の祝日・振替休日]
- 総合展示室における「ハンズオン」の実施 [一部の祝日・振替休日]
- 総合展示室およびはっけん広場における子供向け「ちゃれんがラリー」の実施 [常時]
- 諸行事の実施 [年間48件63回]：自然観察会(4件4回)、子どもワークショップ(11件11回)、ちゃれんがワークショップ(8件11回)、講演会(外部講師による講演)(8件8回)、ミュージアムカレッジ(当館職員による講義形式の講座)(11件11回)、古文書講座(1件10回)、アイヌ語講座(1件3回)、特別イベント(4件5回)

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

- 学校団体および一般団体を対象とした「グループプレクチャー」の実施 [10メニュー、年間150件7,000人参加見込]
- はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6メニュー、年間220クラス7,000人参加見込]
- スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 [現在6カ国語、374コンテンツ]
- 展示解説器(音声ガイド)を利用した総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 [6カ国語、67コンテンツ]
- 令和元年度に開発した視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充

(3) はっけん広場の運営

- 「はっけんキット」の運用 [一般来館者向け、41メニュー]
- 「はっけんイベント」の実施 [一般来館者向け、年間7メニュー]

(1) 魅力あるイベントの充実

① 総合展示室における利用者への対応(案内・誘導・解説・レファレンス等)

2020年度総合展示室における利用者対応件数 1,993件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	案内・誘導	1	0	5	1	2	1	0	0	1	1	2	1	15
	展示解説	23	8	75	88	133	136	102	45	22	29	68	97	826
	ご意見等	1	2	10	10	11	10	14	13	3	0	3	14	91
	計	25	10	90	99	146	147	116	58	26	30	73	112	932
2階	案内・誘導	1	2	2	1	1	3	1	3	1	1	4	3	23
	展示解説	25	14	72	91	121	167	110	65	29	32	94	102	922
	ご意見等	5	5	3	13	13	14	14	10	1	5	19	14	116
	計	31	21	77	105	135	184	125	78	31	38	117	119	1,061
合計	案内・誘導	2	2	7	2	3	4	1	3	2	2	6	4	38
	展示解説	48	22	147	179	254	303	212	110	51	61	162	199	1,748
	ご意見等	6	7	13	23	24	24	28	23	4	5	22	28	207
	計	56	31	167	204	281	331	241	136	57	68	190	231	1,993

※2020年4月14日～5月24日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により臨時休館。

② 祝休日における職員の利用者対応

祝休日は本来休館日とされているが、利用者のニーズに応えるため開館日とし、職員が祝日出勤をし、さまざまな利用者サービスに努めることとしている。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、4月14日～5月24日が臨時休館となったことにもない、4月29日～5月6日の祝休日は休館日となった。7月23日以降の祝休日は開館日とし、学芸職員・解説員を総合展示室等に配置し、利用者サービスに努めた。

③総合展示室等におけるイベント

開館日に毎日実施しているハイライトアーやちゃれんがラリー、祝休日に実施している学芸員ハローデスク、ハンズオン、ミュージアムトークなどのイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止した。

祝休日に開催するイベントは、前年度の年度計画立案段階で、開催日と開催回数のみ定め、実施を決定している。当年度はじめに、祝休日の出勤者が決まり次第、具体的な内容や配置人員を調整する予定であったが、調整中に新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館が決まり、上記イベントはすべて中止となった。

2020年度総合展示室におけるイベント参加者数 0名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハンズオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ミュージアムトーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイライトツアー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ちゃれんがラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により展示室におけるイベントは通年休止。

2020年度ハンズオン内訳 4件予定・実施0件、0名

開催日	テーマ	開催場所	担当	参加者数
5月 3日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 4日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 5日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 6日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止

2020年度ミュージアムトーク内訳 4件予定・実施0件、0名

開催日	テーマ	開催場所	担当	参加者数
5月 3日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 4日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 5日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止
5月 6日	未定(具体的なテーマ企画中に臨時休館が決まり中止)			中止

④普及行事と特別イベント

2020年度は、62件の普及行事、及び特別イベントの開催を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止もしくは規模縮小のうえで開催せざるをえなかったものが多く、31件の開催となった。内訳は以下のとおりである。

- ・当初の予定どおり開催したもの：1件(4月11日開催の自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」)
- ・募集人数を縮小して開催したもの：30件(うち行事内容、または開催日を変更して開催したもの：3件)
- ・中止したもの：31件(うち特別展・企画テーマ展の開催中止にともない中止したもの：13件)

2020年度普及行事・特別イベント実施件数・参加者数 31件、783名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施件数	参加者数
普及行事	自然観察会	31	0	0	0	0	18	0	0	0	0	30	0	3	79
	ちゃれんがワークショップ	0	0	0	0	0	0	0	0	7	17	0	0	2	24
	子どもワークショップ	0	0	0	0	23	21	29	0	27	38	16	0	7	154
	講演会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミュージアムカレッジ	0	0	0	0	0	29	25	37	27	24	28	41	7	211
	古文書講座	0	0	0	0	0	0	19	39	22	42	47	51	10	220
	アイヌ語講座	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別イベント	0	0	0	0	0	0	0	72	0	23	0	0	2	95	
実施件数		1	0	0	0	1	3	4	4	4	6	5	3	31	
参加者数		31	0	0	0	23	68	73	148	83	144	121	92		783

2020年度普及行事・特別イベント開催内訳 31件(開催予定62件、中止31件)

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
4月11日	自然観察会	エゾアカガエルのラブコールを聴こう	水島未記・堀繁久・表溪太、自然ふれあい交流館スタッフ	31名
4月18日	アイヌ語講座	アイヌ語講座(全3回) アイヌ語 はじめの一步①	遠藤志保	中止
4月26日	特別イベント	アイヌ音楽ライブ トンコリ演奏会	OKI氏(アーティスト、トンコリ伝承者)	中止
5月2日	アイヌ語講座	アイヌ語講座(全3回) アイヌ語 はじめの一步②	遠藤志保	中止
5月9日	子どもワークショップ	身近な材料で音の出るおもちゃをつくろう!	甲地利恵	中止
5月10日	講演会	音の考古学～出土品から楽器の源流を探る	荒山千恵氏(石狩市教育委員会)	中止
5月16日	特別イベント	北海道ジオパークまつり2020	道内ジオパーク関係者	中止
5月17日	アイヌ語講座	アイヌ語講座(全3回) アイヌ語 はじめの一步③	遠藤志保	中止
5月24日	講演会	音が出る道具のおはなし～音具と楽器の起源と役割を探る	枡谷隆男氏(札幌大谷大学、北翔大学ほか非常勤講師)	中止
6月7日	ちゃれんがワークショップ	縄文土器をつくる(全2回) 第1回 つくる	右代啓視・鈴木琢也	中止
6月13日	ちゃれんがワークショップ	のこぎりでネームプレートをつくろう	青柳かつら・山際秀紀・池田貴夫・鈴木明世	中止
6月20日	講演会	北海道恐竜研究最前線	小林快次氏(北海道大学総合博物館)	中止
6月27日	自然観察会	落ち葉の下のカタツムリをさがそう	堀繁久・水島未記・表溪太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	中止
6月27日	講演会	北海道の化石リレー講座①三笠市の化石とその魅力	唐沢與希氏(三笠市立博物館)	中止
6月28日	ちゃれんがワークショップ	縄文土器をつくる(全2回) 第2回 焼く	右代啓視・鈴木琢也	中止
7月4日	講演会	北海道の化石リレー講座②中川町の化石とその魅力	疋田吉識氏(中川町エコミュージアムセンター)	中止
7月11日	講演会	北海道の化石リレー講座③足寄町の化石とその魅力	澤村寛氏(足寄動物化石博物館)	中止
7月12日	ちゃれんがワークショップ	展示×言葉でフォトカードをつくろう	鈴木あすみ・渋谷美月・櫻井万里子・尾曲香織	中止
7月18日	ミュージアムカレッジ	北海道の化石リレー講座④野幌丘陵の化石とその魅力	添田雄二・圓谷昂史	中止
7月19日	ちゃれんがワークショップ	石器をつくる	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	中止
7月25日	講演会	北海道の化石リレー講座⑤むかわ町の化石とその魅力	櫻井和彦氏(むかわ町穂別博物館)	中止
7月26日	子どもワークショップ	小さな野球盤づくり	舟山直治・尾曲香織	中止
8月15日	子どもワークショップ	草原の主・トノサマバッタをさがそう	堀繁久・水島未記・表溪太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	23名
8月29日	ちゃれんがワークショップ	大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」①	甲地利恵	中止
8月30日	ちゃれんがワークショップ	大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」②	甲地利恵	中止
9月6日	ミュージアムカレッジ	択捉島紗那の学校と高城重吉	小川正人	29名
9月13日	子どもワークショップ	始祖鳥カイトを飛ばそう	表溪太・圓谷昂史	21名
9月26日	自然観察会	木の実・草の実の大ぼうけんをたどろう	水島未記・堀繁久・表溪太、自然ふれあい交流館スタッフ	18名
10月11日	子どもワークショップ	糸電話・風船電話で、もしもしコンニチハ	会田理人	14名
10月18日	ミュージアムカレッジ	島にキツネを放つ	山田伸一	25名
10月24日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回) 第1回	東俊佑	19名
10月25日	子どもワークショップ	たのしいな♪ アイヌ音楽 うたおう・おどろう	スルク&トノト	15名
11月3日	特別イベント	アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート	MAREWREW	72名
11月3日	文化の日講演会	※企画テーマ展「お葬式」関連講演会	山田慎也氏(国立歴史民俗博物館)	中止
11月7日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回) 第2回	東俊佑	18名
11月8日	ミュージアムカレッジ	映画「シンヌラッパ 沙流アイヌの祖霊祭り」一解説つき上映会	大坂拓・佐々木利和	中止

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
11月15日	ちゃれんがワークショップ	稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！ ※新型コロナウイルス感染症対策のため、ミュージアムカレッジ「わらはむだにならず」として開催予定であったが、感染症拡大により中止。	池田貴夫・舟山直治	中止
11月21日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第3回	東俊佑	21名
11月29日	ミュージアムカレッジ	建物を通してみる、サハリンに残る「樺太」	鈴木明世	37名
12月5日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第4回	東俊佑	22名
12月6日	子どもワークショップ	貝の化石で標本をつくろう！	圓谷昂史、畠誠氏(北広島市エコミュージアムセンター知新の駅)	27名
12月13日	ミュージアムカレッジ	アイヌの物語を聞いてみようーカッパの神様登場ー	大谷洋一	27名
12月20日	ちゃれんがワークショップ	博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり	田中祐未・三浦泰之・水島未記	7名
1月10日	ミュージアムカレッジ	北海道の正月料理	尾曲香織	24名
1月16日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第5回	三浦泰之	22名
1月17日	子どもワークショップ	雪のなかで宝さがし ※「博物館のなかで宝さがし」として開催	舟山直治・池田貴夫	38名
1月23日	ちゃれんがワークショップ	野鳥のつばさの標本をつくろう!① ※新型コロナウイルス感染症対策として、「野鳥の標本 見どころと作り方」として1回開催	鈴木あすみ・表溪太	17名
1月24日	ちゃれんがワークショップ	野鳥のつばさの標本をつくろう!②	鈴木あすみ・表溪太	中止
1月30日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第6回	三浦泰之	20名
1月31日	特別イベント	博物館のウラ側を見てみよう	杉山智昭・山際秀紀・鈴木あすみ・鈴木明世・渋谷美月	23名
2月7日	ミュージアムカレッジ	アイヌの英雄叙事詩を聞くーうたと言葉	奥田統己	中止
2月13日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第7回	三浦泰之	22名
2月14日	子どもワークショップ	はじめての草木染め	会田理人	16名
2月21日	ミュージアムカレッジ	近世における「アットゥシ」の地域差と流通	大坂拓	28名
2月27日	自然観察会	動物の足跡を解読しよう	表溪太・水島未記・堀繁久・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	30名
2月27日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第8回	三浦泰之	25名
2月28日	ミュージアムカレッジ	久保寺逸彦文庫ー見る、聞く、読むー	佐々木利和・小川正人	中止
3月7日	ちゃれんがワークショップ	アイヌ民族の耳飾りをつくろう！	亀丸由紀子	中止
3月13日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第9回	東俊佑	26名
3月21日	ミュージアムカレッジ	一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史	小川正人	41名
3月21日	子どもワークショップ	画材のふしぎー貝殻からつくられる白い絵の具	田中祐未・圓谷昂史	中止
3月28日	古文書講座	はじめての古文書講座(全10回)第10回	東俊佑	25名

2020年度イベント参加者数(総合展示室等におけるイベント+普及行事+特別イベント) 783名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目 達 成 率
総合展示室等イベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.98%
普及行事	31	0	0	0	23	68	73	76	83	121	121	92	688	688	
特別イベント	0	0	0	0	0	0	0	72	0	23	0	0	95	95	
合計	31	0	0	0	23	68	73	148	83	144	121	92	783	783	

※イベント参加者数(5年間)の目標値：80,000人

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

① 団体利用件数・利用者数

2020年度団体利用件数・利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
予 約 団 体	学 校 団 体	件数	0	0	1	2	13	101	59	19	1	2	2	4	204
		人数	0	0	44	52	903	7,494	4,205	1,050	61	52	201	259	14,321
	一 般 団 体	件数	0	0	0	4	4	2	4	3	1	0	0	0	18
		人数	0	0	0	115	32	41	118	72	7	0	0	0	385
	福 祉 団 体	件数	4	0	3	4	13	9	12	7	1	2	3	11	69
		人数	53	0	23	52	159	72	134	87	13	21	26	148	788
	そ の 他 団 体 (利用料金免除)	件数	1	0	0	7	0	2	1	2	0	1	3	1	18
		人数	7	0	0	46	0	7	2	2	0	1	32	1	98
	合 計	件数	5	0	4	17	30	114	76	31	3	5	8	16	309
		人数	60	0	67	265	1,094	7,614	4,459	1,211	81	74	259	408	15,592
総 合 展 示 室	件数	5	0	7	24	79	99	92	35	5	7	9	18	380	
	人数	60	0	80	262	1,240	5,544	4,721	1,236	91	81	260	411	13,986	
グ ル ー プ レ ク チ ャ ー	件数	0	0	0	2	2	21	22	11	1	2	0	4	65	
	人数	0	0	0	45	104	1,498	1,281	446	61	39	0	259	3,733	
は っ け ん プ ロ グ ラ ム	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
講 堂 使 用	件数	0	0	0	2	0	17	22	8	1	1	0	4	55	

※2020(令和2)年4月14日～5月24日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により臨時休館

※2020(令和2)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策によりはっけんプログラムは通年中止

※グループレクチャー実施回数は団体ごとに1メニュー1回として集計(コロナ対策のため1メニューを複数回に分けて実施した場合も1回とした)。

2020年度学校団体利用件数・利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
小 学 校	団 体 件 数	0	0	1	0	11	83	36	5	1	1	2	4	144	
	人 数	引 率	0	0	3	0	48	393	172	22	5	5	9	15	672
		被 引 率	0	0	41	0	598	5,229	2,346	309	56	34	192	244	9,049
		合 計	0	0	44	0	646	5,622	2,518	331	61	39	201	259	9,721
中 学 校	団 体 件 数	0	0	0	0	1	17	14	11	0	0	0	0	43	
	人 数	引 率	0	0	0	0	12	130	93	68	0	0	0	0	303
		被 引 率	0	0	0	0	189	1,721	996	583	0	0	0	0	3,489
		合 計	0	0	0	0	201	1,851	1,089	651	0	0	0	0	3,792
高 等 学 校	団 体 件 数	0	0	0	1	0	0	4	1	0	1	0	0	7	
	人 数	引 率	0	0	0	1	0	0	29	2	0	1	0	0	33
		被 引 率	0	0	0	31	0	0	483	26	0	12	0	0	552
		合 計	0	0	0	32	0	0	512	28	0	13	0	0	585
幼 稚 園 保 育 園	団 体 件 数	0	0	0	1	1	0	3	2	0	0	0	0	7	
	人 数	引 率	0	0	0	6	5	0	7	6	0	0	0	0	24
		被 引 率	0	0	0	14	51	0	54	34	0	0	0	0	153
		合 計	0	0	0	20	57	0	61	40	0	0	0	0	178
特 別 支 援 学 校 ・ 学 級	団 体 件 数	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	
	人 数	引 率	0	0	0	0	0	9	8	0	0	0	0	0	17
		被 引 率	0	0	0	0	0	12	17	0	0	0	0	0	29
		合 計	0	0	0	0	0	21	25	0	0	0	0	0	46
合 計	団 体 件 数	0	0	1	2	13	101	59	19	1	2	2	4	204	
	人 数	引 率	0	0	3	7	65	532	309	98	5	6	9	15	1,049
		被 引 率	0	0	41	45	838	6,962	3,896	952	56	46	192	244	13,272
		合 計	0	0	44	52	903	7,494	4,205	1,050	61	52	201	259	14,321

②団体向け教育プログラム

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、「はっけんプログラム」は中止し、「グループレクチャー」は所要時間15分(+消毒・入替時間15分)・定員40名、後に80名で実施した。団体向け教育プログラムの検証・運用見直しは、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてから改めて行うこととした。

2020年度グループレクチャー実施件数・利用者数 59件、3,733名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数		0	0	0	2	2	21	22	11	1	2	0	4	65
人数		0	0	0	45	104	1,498	1,281	446	61	39	0	259	3,733
メニュー別実施件数	①総合展示ダイジェスト	0	0	0	0	1	6	7	2	1	1	0	1	19
	②北海道の生き物	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4
	③北海道の化石	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4
	④アイヌ文化の世界	0	0	0	2	1	8	4	3	0	0	0	0	18
	⑤北海道の歴史	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	6
	⑥北海道の暮らし	0	0	0	0	0	4	1	3	0	0	0	2	10
	⑦北海道の産業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧博物館・学芸員の仕事	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	⑨北海道博物館のあらし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑩その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1

※2020(令和2)年4月14日～5月24日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により臨時休館

※グループレクチャー実施回数は団体ごとに1メニュー1回として集計。(コロナ対策のため1メニューを複数回に分けて実施した場合は1回とした)

2020年度はっけんプログラム実施件数・利用者数 0件、0名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
プログラム別実施件数	クラス数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	①ヒグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	②アンモナイト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③アイヌ文化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	④縄文文化の暮らし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑤昭和の暮らし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策によりはっけんプログラムは通年中止

③補助教材の開発、検証・運用見直し、貸出

「おうちミュージアム」提供コンテンツを12件開発し、ウェブサイトにて公開した。既存補助教材の検証、運用見直しは、コロナ収束後の利用者サービスのあり方の検討を見据え、改めて考え直すこととなった。

2020年度補助教材開発件数 12件

種別	種類	名称	公開日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	疫病よけ? 江戸時代の人魚の絵にぬりえしよう!(第20弾)	4月23日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	なつかしいボードゲーム「十六武蔵」であそんでみよう!(第21弾)	4月25日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	平面わら馬をつくってみよう(第22弾)	5月1日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	バーチャル北海道博物館① 総合展示第1テーマ「北海道120万年物語」(第23弾)	5月19日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	バーチャル北海道博物館② 総合展示第2テーマ「アイヌ文化の世界」(第24弾)	5月24日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	バーチャル北海道博物館③ 総合展示第3テーマ「北海道らしさの秘密」(第25弾)	5月31日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	楽器のクロスワードパズルに挑戦!(第26弾)	6月26日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	バーチャル北海道博物館④ 総合展示第4テーマ「わたしたちの時代へ」(第27弾)	7月22日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	バーチャル北海道博物館⑤ 総合展示第5テーマ「生き物たちの北海道」(第28弾)	7月22日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	サイエンスパーク・ファン シカ笛(第29弾)	7月28日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	JR北海道駅名標シート(第30弾)	1月6日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	めざせ横綱! 恐竜紙ずもうを作ろう(第31弾)	3月5日

2020年度補助教材貸出件数・利用件数 0件

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
音声ガイド(展示解説器)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、音声ガイドの貸出を休止した。

(3) はっけん広場の運営

はっけん広場は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度は閉鎖することとした。はっけんイベントは、前年度中に実施を決定していた2020年度のイベントをすべて中止し、夏休みを含む6～9月に作成用キットの配布を代替イベントとして実施した。

2020年度はっけん広場利用者数 0名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
はっけん広場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
はっけんキット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
はっけんイベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※はっけん広場利用者数(5年間)の目標値：100,000人

2020年度はっけんイベント開催内訳 中止7件、代替イベント(キット配布)3件開催

開催日	行事名	開催日数	参加者数
4～5月の土曜日・日曜日・祝休日	作ってならそう「ゲロゲロガエル」	—	中止
6～7月の土曜日・日曜日・祝休日	めざせ横綱! 恐竜紙ずもうを作ろう	—	中止
8～9月の土曜日・日曜日・祝休日 ※夏休み中は開館日毎日	きょうりゅう FAN FUN FAN (恐竜好きの楽しい扇子)	—	中止
10～11月の土曜日・日曜日・祝休日	羊毛でスイーツマグネットをつくろう	—	中止
12月1日～16日の開館日毎日	しめ縄づくり	—	中止
1月5日～17日の開館日毎日、 1月23日～2月11日の土曜日・日曜日・祝休日	未来来る(ミラクル)カード	—	中止
2月13日～3月の土曜日・日曜日・祝休日	羊毛でプチマフラーをつくろう	—	中止
5月31日～7月31日の開館日にキットを配布	めざせ横綱! 恐竜紙ずもうを作ろう	53日間	694枚 (配布数)
8月1日～9月30日の開館日にキットを配布	きょうりゅう FAN FUN FAN (恐竜好きの楽しい扇子)	52日間	864枚 (配布数)
10月1日～11月29日の開館日にキットを配布	羊毛でスイーツマグネットをつくろう	52日間	534枚 (配布数)

(4) その他—おうちミュージアム

前年度より開始した「おうちミュージアム」の取り組みを2020年度も継続することとし、道内外の博物館等に対しウェブサイト等を通じて参加を呼びかけた。また、参加機関担当者とのオンライン交流会を2回開催した。

2020年度おうちミュージアム活動実績

当館コンテンツの提供期間	2020年3月4日(水)～2021年11月現在継続中
参加機関の募集	2020年3月5日(木)より募集開始 2020年3月31日現在：33機関 2021年3月31日現在：230機関
参加機関担当者との交流(オンライン交流会)	2020年12月11日(金)、参加者数54名 2021年1月22日(金)、参加者数48名



交流会で話し合われた内容の記録(一部)

6 ミュージアムエドゥケーター機能の強化

当館では、学校教育、社会教育との連携事業を重要な事業と位置づけています。そのため、博物館を学校教育や生涯学習などの場においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めています。

また当館では、博物館教育は職員全員で担うとの考えのもと、小・中学校などの学校団体に専属で対応するような教育専門職員（ミュージアムエドゥケーター）を配置せず、学芸職員、あるいは解説員が、「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」などの学校団体等への教育プログラム（学習支援活動）を持ち回りで実施する体制をとっています。あわせて、学校団体（学校教職員）向けの教材の開発、学校団体の受入体制の整備・強化、学校教職員への研修の機会提供、個々の教育活動を担う学芸職員・解説員の専門的知識及び技能の向上などにより、博物館全体のミュージアムエドゥケーター機能の強化に努めています。

こうした取り組みは、学芸部道民サービスグループが中心となって進めています。

職員の専門的知識及び技術の向上

学芸職員の教育普及に関する理解と資質の向上を目的に、文化庁や北海道博物館協会等において実施されるミュージアムエドゥケーター養成関連研修会へ職員を派遣しています。そして、研修会等に派遣された職員が得た知見や技術は、博物館内で共有を図っています。

また、解説員・指定管理者職員など利用者とはじかに接する職員の専門知識（案内・解説）の向上を目的に、総合展示や企画展示、学芸職員の調査研究などに関する研修会を定期的に開催しています。

学校団体の受入体制の整備—『学校利用ガイド』と下見対応

小学校、中学校、高等学校などの学校団体が、現地学習や社会科見学、修学旅行などで当館を利用する際に必要な手順や情報をまとめた『学校利用ガイド』を作成しています。当館の概要のほか、当館利用の手続きや当館が提供する教育プログラムなどについて記載しています。道内の学校に送付しているほか、当館のウェブサイト上でも配信しています。

学校教職員が当館見学前に実施する展示室等の下見については、道民サービスグループ職員が中心となって対応しています。下見には、冒頭に施設や展示室等の場所や特徴などの概要を10分程度説明をし、その後教職員に自由に見学をしていただく「下見A」と、職員が教職員に付き添って展示室や施設を60～90分程度で一巡しながら説明する「下見B」の2パターンをメニューとして用意し、教職員の要望に寄り添ったきめ細かい対応に心がけています。

また、旅行会社のクルーズコンサルタントや、通訳案内士など、団体利用を仲介する人びとへの対応も、随時行っています。



学校利用ガイド

学校教職員向けの博物館研修会

博物館を利用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の利用の仕方、「アイヌ文化」や「昔の道具とくらし」の学習とその指導方法、教材のつくり方と活用の仕方などについて解説する研修会を開催しています。

学校団体向け教材開発と教材貸出

学校団体などでの見学学習の際に、総合展示の学習を効果的に進めるためのワークシート「ちゃれんがワーク」を数種類開発しています。また、事前学習やオリジナルワークシートなどの教材作成で利用可能な展示資料などの画像の提供も行っています。ともに、ウェブサイト上にて配信しています。

また、学校の授業などで活用できる補助教材（体験用教材）の貸出も行っています。



ちゃれんがワーク

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

所	管	道民サービスグループ	業務責任者	学芸主幹 三浦泰之
---	---	------------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

- 文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣〔都度実施〕
- 解説員研修の実施〔都度実施〕
- 令和元年度に実施した研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」（主催：北のミュージアム活性化実行委員会）において得られた知見と技術を博物館内で共有
- 「博物館教育プログラム研修会」の実施〔年間1回、8月、対象：学校教員等〕
- 学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充
- 令和2年度より学校教育用補助教材の貸出を本格実施

(1) 職員の研修会派遣

職員の研修会派遣は、新型コロナウイルス感染症拡大により、職員の不要不急の移動や出張自粛が求められたことから、実施を見送ることとした。

(2) 職員研修の実施

職員研修は、新型コロナウイルス感染症拡大により、予定していた企画展が中止となったことなどから、例年より開催回数を減らした形での開催となった。

2020年度職員研修 実施回数4回、実施延べ人数13名

開催日	研修会名	参加者数
5月17日	第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」解説付き観覧	解説員5名
2月12日	特別企画展「北海道の恐竜」研修会1	解説員3名
2月13日	特別企画展「北海道の恐竜」研修会2	解説員2名
2月14日	特別企画展「北海道の恐竜」研修会3	解説員3名

(3) 学校団体の受入体制

2020（令和2）年度版の『学校利用ガイド』は作成しなかった。2020年度の学校団体の下見対応は、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、職員が長時間付き添って対応する「下見B」を中止し、「下見A」のみ実施した。

2020年度学校利用ガイド作成実績

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
学校利用ガイド（令和2年度版）	作成中止		

2020年度学校団体等下見対応 93回、243人

実施日	学校名	人数	種類	時間	実施日	学校名	人数	種類	時間
6月11日	札幌市立月寒中学校	5名	下見A	15分	8月5日	札幌市立向陵中学校	5名	下見A	15分
6月12日	江別市立文京台小学校	2名	下見A	15分	8月5日	千歳市立日の出小学校	2名	下見A	15分
6月13日	札幌市立北辰中学校	6名	下見A	15分	8月5日	恵庭市立恵庭小学校	4名	下見A	15分
7月4日	札幌市立新琴似北中学校	1名	下見A	15分	8月5日	大阪商業大学堺高等学校	4名	下見A	15分
7月17日	札幌市立日幸中学校	1名	下見A	15分	8月6日	札幌市立南月寒小学校	3名	下見A	15分
7月18日	札幌市立新琴似中学校	4名	下見A	15分	8月6日	千歳市立北陽中学校	7名	下見A	15分
7月23日	札幌市立東白石中学校	6名	下見A	15分	8月6日	札幌市立百合が丘小学校	3名	下見A	15分
7月28日	認定こども園 大谷オアシス保育園	3名	下見A	15分	8月7日	千歳市立北栄小学校	2名	下見A	15分
7月30日	江別市立江別第一小学校	2名	下見A	15分	8月7日	江別市立東野幌小学校	2名	下見A	15分
7月31日	当別町立当別小学校	2名	下見A	15分	8月7日	札幌市立日章中学校	6名	下見A	15分
8月4日	江別市立野幌若葉小学校	4名	下見A	15分	8月10日	札幌市立丘珠小学校	1名	下見A	15分
8月4日	札幌市立栄南小学校	4名	下見A	15分	8月12日	札幌市立北栄中学校	2名	下見A	15分
8月4日	札幌市立澄川南小学校	2名	下見A	15分	8月12日	北広島市立大曲東小学校	2名	下見A	15分
8月5日	札幌市立手稲中央小学校	6名	下見A	15分	8月14日	北広島市立北の台小学校	1名	下見A	15分
					8月15日	北海道真駒内養護学校	1名	下見A	15分

実施日	学校名	人数	種類	時間
8月16日	江別市立いづみ野小学校	1名	下見A	15分
8月18日	札幌市立手稲東小学校	3名	下見A	15分
8月18日	千歳市立祝梅小学校	2名	下見A	15分
8月18日	札幌市立あいの里東小学校	2名	下見A	15分
8月18日	江別市立大麻東中学校	4名	下見A	15分
8月18日	札幌市立旭小学校	2名	下見A	15分
8月19日	もみじ台幼稚園	3名	下見A	15分
8月19日	恵庭市立恵み野旭小学校	2名	下見A	15分
8月20日	札幌市立藻岩中学校	5名	下見A	15分
8月21日	札幌市立山鼻中学校	6名	下見A	15分
8月22日	新札幌とまと保育園	23名	下見A	15分
8月22日	札幌市立西陵中学校	1名	下見A	15分
8月22日	岩見沢市立第一小学校	1名	下見A	15分
8月22日	滝川市立滝川第二小学校	1名	下見A	15分
8月22日	赤平市立赤間小学校	1名	下見A	15分
8月23日	北広島市立大曲小学校	1名	下見A	15分
8月23日	札幌市立北園小学校	3名	下見A	15分
8月23日	石狩市立南線小学校	1名	下見A	15分
8月26日	札幌市立西野小学校	3名	下見A	15分
8月28日	札幌市立新川小学校	2名	下見A	15分
8月29日	札幌市立信濃中学校	3名	下見A	15分
8月29日	北広島市立西部小学校	1名	下見A	15分
8月29日	石狩市立樽川中学校	1名	下見A	15分
8月29日	北広島市立緑ヶ丘小学校	1名	下見A	15分
8月29日	恵庭市立恵庭小学校	1名	下見A	15分
8月30日	恵庭市立恵み野小学校	2名	下見A	15分
8月30日	北広島市立西部小学校	1名	下見A	15分
8月30日	浦臼町立浦臼小学校	1名	下見A	15分
8月30日	岩見沢市立総合病院	1名	下見A	15分
9月3日	兵庫県立東灘高等学校	4名	下見A	15分
9月4日	千歳市立信濃小学校	3名	下見A	15分
9月4日	札幌市立清田小学校	3名	下見A	15分

実施日	学校名	人数	種類	時間
9月4日	札幌市立平岡小学校	2名	下見A	15分
9月5日	札幌市立八軒北小学校	3名	下見A	15分
9月6日	岩見沢市立岩見沢小学校	1名	下見A	15分
9月6日	南幌町立南幌小学校	1名	下見A	15分
9月9日	小樽市立北陵中学校	1名	下見A	15分
9月9日	江別市立大麻泉小学校	1名	下見A	15分
9月11日	恵庭市立島松小学校	2名	下見A	15分
9月13日	札幌市立屯田小学校	5名	下見A	15分
9月13日	札幌市立三角山小学校	1名	下見A	15分
9月13日	江別市立対雁小学校	1名	下見A	15分
9月18日	札幌市立三里塚小学校	2名	下見A	15分
9月21日	江別市立野幌小学校	1名	下見A	15分
9月25日	札幌市立北郷小学校	4名	下見A	15分
9月27日	札幌市立新川中学校	1名	下見A	15分
10月2日	札幌市立清田小学校	4名	下見A	15分
10月3日	上砂川町立中央小学校	1名	下見A	15分
10月3日	札幌市立中央中学校	1名	下見A	15分
10月4日	江別市立文京台小学校	2名	下見A	15分
10月9日	東京都立園芸高等学校	1名	下見A	15分
10月10日	札幌市立栄小学校	2名	下見A	15分
10月11日	東京都立桐ヶ丘高等学校	2名	下見A	15分
10月17日	札幌市立南白石小学校	1名	下見A	15分
10月21日	学校法人東学園 美晴幼稚園	3名	下見A	15分
10月25日	恵庭市立柏小学校	1名	下見A	15分
11月3日	足立学園高等学校	2名	下見A	15分
11月27日	タビーズ(旅行会社)	1名	下見A	15分
12月8日	兵庫県立神戸高校	3名	下見A	15分
1月13日	札幌市立しらかば台小学校	4名	下見A	15分
1月13日	札幌市立真駒内桜小学校	3名	下見A	15分
2月4日	札幌市立丘珠中学校	1名	下見A	15分
3月31日	滋賀県立八日市高校	2名	下見A	15分
3月31日	札幌市立札幌中学校	1名	下見A	15分

(4) 学校教職員向けの博物館研修会

新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年度は開催を中止した。

2020年度博物館研修会 0回、参加者数0名

研修会1 教員のための博物館の日 in 札幌					
日 時	中止	場 所		参加者数	
対 応 者					
研 修 内 容					
研修会2 博物館教育プログラム研修会					
日 時	中止	場 所		参加者数	
対 応 者					
研 修 内 容					

(5) 学校団体向け教材開発と教材貸出

既存ワークシート「ちやれんがワーク」の検証、新規教材開発は、新型コロナウイルス感染症拡大による感染対策業務の増大により、今年度は見送ることとし、学習指導要領改訂を踏まえ、改めて次年度に検討することとした。学校教育用補助教材(体験用教材)の貸し出しは、ウェブサイトにて要領を掲載し、受付を行った。

2020年度補助教材貸出件数 0件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校教育用補助教材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7 施設及び周辺環境の整備

道民とともに歩み、愛される博物館として豊かな時間と空間を提供し続けるために、関係機関と連携を図りながら周辺環境の整備や利用者の安全確保に努めるとともに、記念ホールなどの館内施設の活用を図っています。こうした取り組みは、総務部総括グループが中心となって進めています。

館内施設・設備の整備

当館は1971(昭和46)年に竣工して以来数度にわたり施設改修や設備の補修を実施してきました。2015(平成27)年の北海道博物館へのリニューアルに際しては、展示室・収蔵庫の大規模改修とガス消化設備の設置、展示改訂、体験学習室(現はっけん広場)や情報サービス室(現図書室)の拡充などの施設改修を行うとともに、利用者の安全確保・利便性向上の観点から、総合展示室内のエレベーター新設、グランドホールのスロープ改修、トイレの改修、多目的トイレの新設、屋上のフェンス設置、館内サインの設置などの設備改修も行いました。

開館後も、引き続き利用者の安全確保と利便性向上を目的に、館内設備の補修や周辺環境の整備に取り組んでいます。また、年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に施設を利用できるよう、アメニティ設備の充実にも取り組んでいます。

館内施設と博物館資源の活用

祝休日における屋上スカイビューの特別開放や、特別展開会式などの記念式典や各種イベントに際した記念ホール・講堂・グランドホールなどの館内施設の活用に取り組んでいます。また、総合展示や企画展に関連したオリジナルグッズの提案について、指定管理者などと連携しながら、開発に取り組んでいます。

周辺環境の整備、野幌森林公園内施設との一体的な取組

当館は、道立自然公園野幌森林公園のなかに位置し、周辺施設として北海道開拓の村、自然ふれあい交流館があります。そのため、公園内施設との連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努めながら、公園の環境整備や利用者の利便性と満足度の向上に積極的に取り組んでいます。具体的には、利用者のアクセス環境の改善、公園内サインの統一化、野外展示の実現などをめざしており、関係機関との連携を図りながら、「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実現に向けて検討しています。

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」

道立自然公園野幌森林公園内にある北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔等の今後のあり方について、北海道環境生活部が2018(平成30)年12月に策定。施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生をめざすとする。

※「構想」の詳細については、117ページを参照のこと。

関係機関との連携

北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館及び道立自然公園野幌森林公園の一体的かつ効果的な管理・運営に努めていくため、関係機関との一層の連携を進めています。

(1) 北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議

北海道立総合博物館の管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上を図ることを目的に、月1回のペースで定期的に開催しています。

構成：北海道博物館、指定管理者

(2) 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会

道立自然公園野幌森林公園の関係機関相互の情報交換や連絡調整を図り地域内の合意形成を行うとともに、道立自然公園における保護と利用促進に必要な施策を実施することで、実情に応じた保護・利用形態を創出することを目的として、2001(平成13)年4年6日に設置されました。

構成(2020年4月時点)

石狩森林管理署、空知総合振興局森林室、札幌市、北広島市、江別市、一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道博物館(事務局)

(3) 野幌森林公園林野火災予消防対策会議

野幌森林公園における林野火災の予防及び消火に万全を期すため、関係機関との連絡調整をはじめ、公園区域内のパトロールや林野火災予防のための普及啓発活動を実施することを目的に設置されています。

会議に参加している機関(2020年4月時点)
野幌森林愛護組合、一般財団法人北海道歴史文化財団、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、石狩森林管理署、空知総合振興局、札幌市、江別市、北広島市、北海道博物館(事務局)など

指定管理者業務

北海道博物館では、旧北海道開拓記念館だった2006(平成18)年より指定管理者制度を導入しています。現在、指定管理者は以下のような責任の分担により、施設や設備の維持管理などを行っています。

項目	区分	内容	道	指定管理者	
施設の管理運営	利用提供業務	・利用窓口(利用の受付、案内、承認、制限、取消し)、苦情対応、利用指導等 ・駐車場における利用の承認、利用指導、苦情対応 ・特別展示室の貸室事業等の実施		◎	
	利用料金の収受	利用料金の決定、収受、減免	○	◎	
	博物館事業	(資料収集) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集 (資料の保存) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を保存管理 (資料の展示) ・展示及び特別展示の企画運営・解説 (調査研究) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料等の調査研究 ・調査研究に伴う紀要、調査報告書等の発行等 (教育普及事業の実施) ・講演会、体験学習会等の開催による学習の場の提供等 ・体験学習室の運営 (案内書等の作成配布) ・展示物に関する案内書、解説書等の作成及び配布 (記念ホール等の使用) ・使用の受付、承認、制限又は取消及び付随業務 (特別観覧) ・資料の特別観覧の受付、承認、指示及び付随業務 (模写品等の刊行) ・資料の模写品等の刊行等の受付、承認 (資料の貸出) ・資料の貸出の受付、承認	◎		
	利用促進業務	パンフレット、ポスター、営業等による広報活動		○ 報道発表	◎
		インターネット・広報紙等による情報提供事業		◎	○
		利用者満足度調査の実施、結果の公表		◎	◎
	事故処理等	事故発生時の応急処置、道・警察等への連絡等	◎	○	
	災害時対応	災害発生時の応急処置、道・警察等への連絡等	◎	○	
	利用者の利便性向上等に資する業務	利用者の理解・利用の促進に資する行催事又は事業等の実施 食堂、売店等の設置による飲食物等の販売提供		◎	
	施設設備等の維持管理	植物等管理	敷地内芝生・樹木等の管理		◎
		施設の保守点検	設備等の法定点検、供与物品の管理、管理施設及び備品等の修繕・更新、消耗資材の交換等	○	◎
		衛生管理	日常清掃、特別清掃、ゴミ処理		◎
警備業務		警備業務(敷地内巡回点検等を含む)		◎	
除排雪		管理用道路、記念塔前ロータリー、百年記念広場区の遊歩道、業務用駐車場、記念塔前駐車場(博物館側)、博物館前庭等の除雪		◎	
展示施設の管理		・総合展示室の展示の保守業務(映像展示機器等の保守業務を含む)		◎	
有害駆除		・博物館建物内の防虫防鼠 ・記念施設地区内の蜂、カラスの巣等駆除		◎	
備品等の管理		調査研究業務に係る研究備品等の維持、管理、更新等		◎	
	調査研究業務以外に係る施設及び備品等の維持、管理、更新等			◎	
安全確保	施設利用者の安全確保		◎		
その他	指定管理業務に伴う財務、契約、記録管理等			◎	

※「北海道立総合博物館指定管理者公募要項」(平成30年10月)より抜粋

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

7 施設及び周辺環境の整備

所 管	総括グループ	業務責任者	総務部長兼主幹 川田宣人
-----	--------	-------	--------------

年度計画（2020年度）

<p>(1)館内施設の整備と活用</p> <p>○屋上スカイビューの特別開放を実施 [4月29日～9月22日までの祝日・振替休日、10:00～16:00、年間10回]</p> <p>○令和元年度に視覚障がい者を含む利便性向上を目的として整備した階段の段差識別シートおよびトイレ誘導看板の運用・検証</p> <p>○第6回特別展「恐竜展2020」等に連動したオリジナルグッズの開発</p> <p>○老朽化した設備の補修・取替</p> <p>△総合展示室その他館内における案内板等のユニバーサルカラー化等、視覚障がいに対応した博物館づくりに向けた検討・取組</p> <p>△記念ホールおよびグランドホールの一層の活用に向けた検討・取組</p> <p>(2)周辺環境の整備</p> <p>○野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修</p> <p>△JR北海道、ジェイ・アール北海道バス、指定管理者等と連携し、特にインバウンドを対象としたアクセス向上に向けた検討・取組</p> <p>△【新規】平成30年度の台風被害や令和元年度のヒゲマ出沒等をふまえ、野幌森林公園の健全性と安全性の確保に向けた検討・取組</p> <p>△サインの統一化に向けた検討・取組</p> <p>△野外展示の具体化に向けた検討・取組</p> <p>(3)野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進</p> <p>△【新規】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討</p>

(1)館内施設の整備と活用

新型コロナウイルス感染症拡大による2020（令和2）年2月からの断続的な休館措置や感染対策を徹底したうえでの館の運営など、新型コロナウイルス感染症に係る最優先の業務が新たに生じたことから、アメニティ施設の充実やオリジナルグッズの開発、及び階段の段差識別シート・トイレ誘導看板の運用検証、視覚障害者に対応した博物館づくりに向けた取組などに関しては、具体的な検討を進められなかった。また、記念ホールやグランドホールなどの館内施設の活用や、館内施設活用促進のための「活用基準（仮）」の策定についても、具体的な検討を進められなかった。屋上スカイビューについては、臨時休館による中止を除き、例年どおり春季～秋季における祝休日に特別開放を実施した。

2020年度館内施設の活用

施設	実施日または期間	内 容	主催・企画者
記念ホール	2020年11月3日	ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	北海道博物館
講堂	2020年4月17日	かるちやる net(文化施設連絡協議会)令和2年度第1回全体会議	かるちやる net(文化施設連絡協議会)
講堂	2021年2月9日	令和2年度アイヌ文化財専門職員等研修会	北海道教育委員会
講堂	2021年2月10日	北海道博物館特別企画展「北海道の恐竜」報道機関向け展示説明会	北海道博物館
休憩ラウンジ	2021年2月12日～3月14日	北海道博物館特別企画展「北海道の恐竜」の予約者待機場所、及び特別整理券配布場所	北海道博物館
休憩ラウンジ	2021年2月12日～3月14日	第5回北のまんが大賞「恐竜イラスト」展	北海道環境生活部文化局文化振興課
グランドホール	2020年4月1日～2021年3月31日(休館日を除く)	新型コロナウイルス感染症対策(利用者検温・消毒等)	北海道博物館
グランドホール	2021年2月12日～3月14日	にっぽん恐竜協会パネル展	にっぽん恐竜協会・北海道博物館
2階ロビー	2020年8月1日～8月30日	北方領土返還要求運動強調月間パネル展「わたしたちが考える北方領土問題」	北海道総務部北方領土対策本部北方領土対策課
2階ロビー	2021年1月23日～2月7日	北海道・アルバータ州姉妹提携40周年記念パネル展	北海道総合政策部国際局国際課
特別展示室	2021年2月6日	文化庁「文化芸術収益力強化事業」オンライン講座	凸版印刷株式会社

2020年度屋上スカイビュー特別開放利用者数 4日、延べ1,053名

開催日	利用者数	開放状況
4月29日 昭和の日	-	臨時休館のため中止
5月3日 憲法記念日	-	臨時休館のため中止
5月4日 みどりの日	-	臨時休館のため中止
5月5日 こどもの日	-	臨時休館のため中止
5月6日 振替休日	-	臨時休館のため中止
7月23日 海の日	233名	開放
7月24日 スポーツの日	301名	開放
8月10日 山の日	-	天候不良のため中止
9月21日 敬老の日	291名	開放
9月22日 秋分の日	228名	開放

2020年度オリジナルグッズ開発件数 0件

区分	グッズ名
総合展示関連(9品) (2015年度より販売中)	付箋、定規、コットンバッグ、メモ帳、鉛筆2本セット、木札ストラップ、消しゴム、珪藻コースター、B5ノート



総合展示関連グッズの一部
※オリジナルグッズは、北海道博物館グランドホールのミュージアムショップ(指定管理者運営)で販売

(2) 周辺環境の整備

2020年度設備及び周辺環境の整備(6件)

実施日または期間	内容
2020年7月15日～8月6日	野幌森林公園外周倒木等処理
2020年9月18日～9月25日	野幌森林公園倒木等処理
2020年9月24日～10月9日	大地の手補修
2020年10月23日～11月20日	瑞穂の池堤体観測測量業務
2020年12月2日～12月8日	野幌森林公園支障木処理
2021年2月8日	北海道博物館駐車場入口案内看板

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

関係機関との連絡会議・協議会に参加し、施設管理上の問題点の把握や対応方針の協議などを行った。

2020年度関係機関との連絡会議・協議会の実施参加 11回

連絡会議・協議会名	実施回数	開催日	備考
北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議	9回	7月1日	4月、5月、6月は中止
		8月4日	
		9月1日	
		10月2日	
		11月4日	
		12月1日	
		1月8日	
		2月2日	
		3月2日	
道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会	1回	5月28日	書面開催
野幌森林公園林野火災予消防対策会議	1回	3月12日	書面開催

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、さまざまな広報活動を行っています。そのような広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾野を広げていくという側面があります。

当館では、当館の役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、館自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、館の資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいます。広報は学芸部道民サービスグループ、情報発信は学芸部博物館基盤グループを中心に業務を担っています。

※情報発信は「12 情報発信」の項を参照のこと。

広報用印刷物の作成と配布による広報

館のリーフレットや企画展・行事のポスター・チラシなどの印刷物を作成し、道内外の博物館、公共施設や観光案内所を中心に配布し、掲示や配置を依頼しています。当館では、宣伝・PR用に以下のような印刷物を作成しています。

①広報用リーフレット

施設紹介、交通案内を中心としたリーフレットで、当館の存在を知らない方や観光客などへのPRを目的に作成しています。※作成、及び配布は指定管理者が行っています。

②行事案内

特別展や企画テーマ展、一般普及行事等の半期のスケジュールを紹介するパンフレットです。当館の事業PRと利用促進を目的に作成しています。当館が作成し、指定管理者と共同で配布を行っています。

作成回数：年間2回（前期・後期）、各回20,000部作成。

配布先：道内1,080か所、道外660か所、当館内、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか

③企画展・普及行事・イベントなどのポスター・チラシ

当館主催の事業をPRするためのもので、行事ごとに作成しています。デザインは外注、または担当職員が行い、当館が作成し、指定管理者と共同で配布を行っています。

○特別展ポスター、チラシ

作成回数：年間1回、ポスター3,000部、チラシ200,000部

配布先：道内、道外ほか（特別展の性格に合わせて配布先を調整）

○企画テーマ展ポスター、チラシ

作成回数：年間3回、ポスター150部、チラシ3,000部

配布先：近隣関係施設・機関、当館内、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか

○その他行事のポスター、チラシ

作成回数・配布先：回数・部数等は都度判断

④広報誌『森のちゃれんがニュース』

収蔵資料紹介、学芸職員の調査研究の近況、展示会や各種行事などの博物館活動全般を定期的に発信することを目的に発行しています。館内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

作成回数：年間4回（季刊）刊行、各回3,500部

配布先：道内約900か所、道外約350か所、北海道博物館・北海道開拓の村年間パスポートユーザー、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他



館刊行物の配布による広報

特別展展示図録、企画テーマ展リーフレット、研究紀要、資料目録、要覧など、当館の資料・調査研究・展示・教育活動に係る各種刊行物を道内外の博物館、図書館などの公共施設、研究機関に送付し、博物館活動の情報配信に努めています。また、『学校利用ガイド』を道内の小学校、中学校、高等学校へ配布しています。

- ・特別展展示図録(年1回刊行、1,000部程度作成、配布先:特別展開会式出席者、協力機関・協力者、道内外博物館・美術館・図書館など)
- ・企画テーマ展リーフレット(年3回程度発行、3,000部程度作成、配布先:特別展示室入口に配置し来館者へ配布)
- ・『北海道博物館研究紀要』(年1回刊行、900部程度作成、配布先:道内外博物館・美術館・図書館など)
- ・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』(年1回刊行、900部程度作成、配布先:道内外博物館・美術館・図書館など)
- ・『北海道博物館資料目録』(年1回刊行、900部程度作成、配布先:道内外博物館・美術館・図書館など)
- ・『北海道博物館要覧』(年1回刊行、500部程度作成、配布先:北海道内の博物館・美術館・図書館など)
- ・『北海道博物館学校利用ガイド』(年1回発行、3,000部程度作成、配布先:道内の学校2,000か所ほか)

マスメディア等を通じた広報

各新聞社や放送局、地域の情報誌などに対し、事業の内容についての積極的な情報提供を行っています。各媒体からの照会に応じて情報提供・取材協力を行うほか、テレビやラジオへの出演、ミニコミ誌・雑誌への寄稿、新聞への寄稿・連載なども行っています。また、館からマスメディア側へ戦略的に働きかけていく広報として、企画展の開催などに合わせた事前説明会、内覧会などを企画し、実施しています。

インターネットによる広報

館の事業や活動などさまざまな情報をリアルタイムで発信することを目的に、インターネットを活用した広報活動を行っています。ウェブサイトでは、館の概要、交通案内、展示案内などの基本情報のほか、研究および成果の紹介、企画展や各種行事の案内などを随時更新し、最新の情報を提供するように努めています。また、情報提供の迅速性と拡散性にすぐれたソーシャルメディアとして、Twitterを活用した情報配信も行っています。

外部イベントへの出展・参画、周辺施設とのネットワークを通じた広報

各種団体が主催する事業への出展・参画や、当館が周辺施設や関係機関と構築したネットワーク事業のなかで実施するイベントへの出展・参画により、当館の活動や事業のPR活動を行っています。

①サイエンスパーク

子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催で開催され、民間企業等も参加しているイベントです。当館の前身である北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターは毎年この事業に参画してきました。北海道博物館としても、この取組を引き継ぎ、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業のPR活動を行っています。

②カルチャーナイト

札幌市内の文化施設が夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベントです。当館では、北海道の自然・歴史・文化に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と解説活動を実施してきました。

※2019年度より「赤れんがサテライト」閉鎖のため、職員による広報活動は休止しています。

③教員のための博物館の日 in 札幌

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館によりはじめられた事業で、地域の学校の教員などにより博物館利用のメリットや可能性を伝える事業です。

④ネットワーク事業のなかの広報

かるちゃんnetなどのネットワーク事業のなかで実施するイベント開催時に、当館のリーフレットや企画展チラシなどの広報用印刷物を配置し、広報活動に努めています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

8 広報

所 管	道民サービスグループ	業務責任者	学芸主幹 三浦泰之
-----	------------	-------	-----------

年度計画（2020年度）

<p>(1) 広報活動の強化</p> <p>○報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、その他）[掲載・報道見込：年間延べ400件程度]</p> <p>○マスメディア向け事前説明会、内覧会の開催 [年2回程度]</p> <p>○職員全員の専門性を活かした広報活動（協力、寄稿、出演等）[年間延べ100件程度]</p> <p>○広報誌・広報媒体の発行・発送 [作成：10件程度、発送：10回程度]</p> <p>○館刊行物の発送 [年5回程度]</p> <p>○ウェブサイトの利便性向上（システムを更新）による情報発信の強化 [年間アクセス件数見込、約260,000件]</p> <p>○ソーシャルメディア（ツイッター）を活用した情報発信 [年度末時フォロワー数見込、約3,500件]</p> <p>○愛称やロゴの積極的活用</p> <p>△【新規】愛称およびロゴの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討・取組</p> <p>△海外に向けた情報発信の強化に向けた検討・取組</p> <p>△修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組</p> <p>(2) 他機関との連携による広報活動の強化</p> <p>○他機関との連携による広報活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かるちやる net による連携事業の実施 ・CISE ネットワークによる連携事業の実施 ・サイエンスパークへの出展 ・教員のための博物館の日 in 札幌への出展 <p>△【新規】赤れんが庁舎（北海道庁日本庁舎、改修工事中）のリニューアル事業と連動した北海道博物館のPR</p>
--

(1) 広報活動の強化

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのさまざまな入館対策や各種行事の中止などを考慮し、限られた範囲内で広報活動を実施した。一方で、感染症対策を考慮した、おうちミュージアム、オンライン展示公開等の事業実施とその広報活動によって、前年度と同程度の掲載・報道実績が得られた。

① マスメディア等を通じた広報

2020年度報道機関等への対応（掲載・報道実績） 235件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新聞	23	32	17	7	7	9	9	4	7	5	14	9	143
雑誌	5	4	2	2	3	2	5	1	1	0	1	1	27
単行本	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	2	6
テレビ	5	6	1	0	0	1	0	1	1	1	3	2	21
ラジオ	2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	6
その他	5	6	2	0	1	0	6	1	3	3	1	4	32
合計	40	49	22	10	11	13	20	8	13	11	20	18	235

2020年度事前説明会・内覧会開催実績 2件

特別企画展「北海道の恐竜」事前説明会			
日時	2021年2月10日 10:00～11:00	場所	北海道博物館 講堂
参加者数	21名		
対応者	圓谷昂史・添田雄二・水島未記（自然研究グループ）、道民サービスグループ		
概要	報道機関関係者を対象に、まず講堂にてオンライン予約システム、展示概要について説明し、次に特別展示室にて、展示構成チームへの質疑を交えた、自由見学・撮影の時間を設けた。コロナ禍での開催となったが、ソーシャル・ディスタンスの確保、マスクの着用等の感染症対策をとったこともあり、例年の企画展説明会と同程度の参加者が得られた。		
特別企画展「北海道の恐竜」内覧会			
日時	2021年2月10日 13:30～15:00	場所	北海道博物館 特別展示室
参加者数	34名		
対応者	圓谷昂史（自然研究グループ）		
概要	開催に協力いただいたむかわ町や北海道大学総合博物館をはじめ、関係機関による内覧会を開催した。なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、自由観覧とした（展示担当者を特別展示室内に配置し、参加者からの質問等に個別に対応した）。		

2020年度職員の報道機関等への学術的な情報・知見の提供 27件

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
水島末記	北の事始め 56.捕鯨 戦後 国内有数の漁場に	北海道新聞 2020年4月23日 朝刊	北海道新聞社	寄稿
三浦泰之	サタデーどうしん 武四郎 上川 一十勝越え アイヌ民族逃避行 「偽ルート案内」説も	北海道新聞 2020年5月2日 朝刊	北海道新聞社	協力
三浦泰之	武四郎樺太紀行ロシア語に サハリン有志 足跡たどり翻訳	北海道新聞 2020年6月28日 朝刊	北海道新聞社	協力
会田理人	樺太「宝の湖」今も 寒天製造復活の動き 資源保護と観光両立目指す	北海道新聞 2020年6月10日 夕刊	北海道新聞社	協力
青柳かつら	「ちえぶん学」スタート 地域高齢者 歴史、文化語り合う 北海道博物館学芸主査が協力	北都新聞 2020年7月18日 朝刊	北都新聞社	協力
青柳かつら	ちえぶん学講座 学校教育の歴史など まちづくり学習会がスタート	名寄新聞 2020年7月18日 朝刊	名寄新聞社	協力
青柳かつら	智恵文の暮らし 講座で懐かしむ	北海道新聞 2020年7月28日 朝刊	北海道新聞社	協力
青柳かつら	6日に昭和期の学校生活を学ぶ講座	名寄新聞 2020年8月1日 朝刊	名寄新聞社	協力
青柳かつら	昭和の教育語り合う ちえぶん学講座 子供時代の思い出次々	北都新聞 2020年8月8日 朝刊	北都新聞社	協力
青柳かつら	昭和の学校生活振り返る ちえぶん学講座 教育勅語、奉安殿などで話も	名寄新聞 2020年8月9日 朝刊	名寄新聞社	協力
青柳かつら	10日 食文化で「ちえぶん学講座」	名寄新聞 2020年9月4日 朝刊	名寄新聞社	協力
青柳かつら	10日に「ちえぶん学講座」	北海道新聞 2020年9月8日 朝刊	北海道新聞社	協力
青柳かつら	ちえぶん学講座あす開催	北都新聞 2020年9月9日 朝刊	北都新聞社	協力
青柳かつら	「かてめし」懐かしむ 名寄ちえぶん学講座が本年度最終回	北都新聞 2020年9月12日 朝刊	北都新聞社	協力
青柳かつら	地域の食文化を学ぶ ちえぶん学講座 まちづくり学習会	名寄新聞 2020年9月12日 朝刊	名寄新聞社	協力
青柳かつら	昔の食の思い出 高齢者語り合う 朝日町郷土資料室	北海道新聞(名寄・士別) 2020年9月17日 朝刊	北海道新聞社	協力
堀繁久	北の虫から②② ヒメギフチョウ 謎多き「春の女神」	北海道新聞 2020年4月22日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②③ エゾハルゼミ 1匹鳴きだすと大合唱に	北海道新聞 2020年5月27日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②④ オオミズアオ 長い尾 コウモリを惑わす	北海道新聞 2020年6月24日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②⑤ クロヒカゲ 捕食者だます「眼状紋」	北海道新聞 2020年7月22日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②⑦ アカギカメムシ 色彩鮮やか 南方から飛来	北海道新聞 2020年9月23日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②⑧ キバネクロバエ ヒグマの存在知らせる	北海道新聞 2020年10月31日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から②⑨ ムネモンコナガクチキ 初冬 キノコに集まる甲虫	北海道新聞 2020年11月28日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から③① ウスバキチョウ 「高山植物の女王」食べ成長	北海道新聞 2021年1月30日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から③② オツネトンボ 岩の隙間や屋根裏で越冬	北海道新聞 2021年2月27日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から③③ エゾミツボシキリガ 翅の白紋 愛称「ミッキー」	北海道新聞 2021年3月27日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
大坂拓	稚内アイヌ作イナウあった 儀礼具 宗谷の文化物語	読売新聞 2020年11月6日 朝刊	読売新聞社	寄稿

※報道機関等への学術的な情報・知見の提供のうち、職員個人が依頼を受けて対応したものは、「外部刊行物等への執筆協力」として整理し、「13 人材育成機能の強化と社会貢献」へ掲載した。詳細は103ページを参照のこと。

②広報用印刷物の作成

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催予定の特別展・企画テーマ展が中止となったことから、企画展に係る広報用印刷物の作成は行わなかった。ただし、第6回特別展「恐竜2020」ポスター・チラシについては、印刷業者への発注後に特別展の中止が決定したことから、印刷物納品後に廃棄を行った。

また、『行事あんない』については、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催予定の行事の中止や変更の可能性が想定されたことから、例年よりも発行部数を減らし、また発行回数を2回に分けて掲載内容を減らすなどの工夫を行った。『森のちゃれんがニュース』は、例年通り年4回発行した。

2020年度広報用印刷物 作成4件

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
第6回特別展「恐竜2020」ポスター	2020年6月	B2判	20,000部
第6回特別展「恐竜2020」チラシ	2020年6月	A4判	20,000部
行事あんない(2020年10～12月)	2020年10月	A4判、2頁	2,000部
行事あんない(2021年1月～3月)	2021年1月	A4判、2頁	2,000部

2020年度森のちゃれんがニュース 4回発行

第20号 2020夏 2020年6月30日		
	第17回企画テーマ展『楽器 見る・知る・考える』オンライン公開	渋谷美月
	収蔵資料紹介 社会人野球の強豪『たくぎん(北海道拓殖銀行)』	会田理人
	総合展示資料紹介 ヒグマとサケ、キツネ、カラスの関係は? 第5テーマ「生き物たちの北海道」の動物たち	水島未記
	研究活動紹介 木村捷司による壁画『開拓』をめぐって	田中祐未
	臨時休館をきっかけにはじめた「おうちミュージアム」ってどんな取り組み?	渋谷美月
	だれもが利用しやすい博物館を目指して—館内の施設設備の改修について	圓谷昂史 鈴木明世
活躍ダイアリー/人事異動/来館者数	—	
第21号 2020秋 2020年9月29日		
	北海道博物館でも、ソーシャルディスタンス! 新型コロナウイルス感染対策をしながらオープンしています。	渋谷美月
	収蔵資料紹介 再発見 音吉さんのイナウ	大坂拓
	博物館事業紹介 北海道開拓の村『酒屋さん』『そば屋さん』の展示	会田理人
	研究活動紹介 人と植物と自然環境 サハリン先住民の植物利用を調査する	水島未記
	はっけん広場 秋の活動報告「はっけん広場での活動記」	川村昌江
	海外研究交流事業紹介 サハリンの湿地を巡って	表溪太
アイヌ民族文化研究センターだより アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を木田金次郎美術館(岩内町)で開催しています	遠藤志保	
活躍ダイアリー/来館者数	—	
第22号 2020冬 2020年12月31日		
	文化の日特別イベント ヴォーカルグループ MAREWREW(マレウレウ)によるアイヌ音楽ライブ	渋谷美月
	収蔵資料紹介 白亜紀の海生爬虫類の歯	添田雄二
	博物館事業紹介 北海道開拓の村 建物の大規模改修工事について	鈴木明世
	研究活動紹介 リンゴ農家の農具の収集と展示、その後 —「掛け袋(左袋)」を探して—	山際秀紀
	はっけん広場 冬の活動報告 お持ち帰りキット「きょうりゅう FAN FUN FAN」	折館里佳
	アイヌ民族文化研究センターだより アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を開催しました	小川正人
2020年度博物館実習について	大谷洋一	
活動ダイアリー/来館者数	—	
第23号 2021春 2021年3月25日		
	特別企画展『北海道の恐竜』を開催(2021年2月12日～3月14日)	舟山直治
	収蔵資料紹介 「甗」1300年前の文化を考える	鈴木琢也
	総合展示クローズアップ展示紹介 クローズアップ5「岩手県から北海道へ渡った神楽」	舟山直治
	研究活動紹介 冷凍庫の中には...死体!?	鈴木あずみ
	はっけん広場活動報告 暮らしの中で色をはっけん!	浅井雅世
	活動紹介 北海道湿地フォーラム2020「シツクスイッチ」開催	表溪太
トピックス カナダ・アルバータ州との友好40周年記念のいろいろ	山田伸一	
アイヌ民族文化研究センターだより アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」この春、幕別町で開催します	小川正人	
活動ダイアリー/来館者数	—	

③広報用印刷物・刊行物の配布による広報

2020年度広報用印刷物・刊行物配布実績 10件

刊行物名称	部数	配布開始日	おもな配布先
行事あんない(2020年10～12月)	2,000	2020年10月	道内120か所、当館内、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館ほか
行事あんない(2021年1月～3月)	2,000	2021年1月	道内120か所、当館内、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館ほか
行事あんない(2021年4月～9月)	20,000	2021年3月	道内1,080か所、道外660か所、当館内、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館ほか
『森のちゃれんがニュース』第20号	3,500	2020年7月	道内900か所、道外360か所、北海道博物館、北海道開拓の村年間パスポートユーザーほか
『森のちゃれんがニュース』第21号	3,500	2020年10月	道内900か所、道外360か所、北海道博物館、北海道開拓の村年間パスポートユーザーほか
『森のちゃれんがニュース』第22号	3,500	2021年1月	道内900か所、道外360か所、北海道博物館、北海道開拓の村年間パスポートユーザーほか
『森のちゃれんがニュース』第23号	3,500	2021年3月	道内900か所、道外360か所、北海道博物館、北海道開拓の村年間パスポートユーザーほか
『北海道博物館要覧2019』	500	2020年8月	道内250か所、北海道博物館利用者(視察、博物館実習生、協議会関係者など)ほか
『北海道博物館研究紀要』第6号	900	2021年3月	道内330か所、道外270か所、海外3か所ほか
『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号	900	2021年3月	道内350か所、道外190か所、海外18か所ほか

④インターネットによる広報

2020年度インターネット広報活用実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	目 標 成 度
ウエブサイト	アクセス件数	30,671	56,448	26,397	25,769	26,269	21,648	19,645	17,862	13,974	16,718	45,227	32,648	333,276	25.6%
	投稿件数	75	19	14	20	22	4	11	7	13	6	10	12	213	
ツイッター	インプレッション数	175,976	133,606	65,292	63,942	60,164	24,167	30,942	129,403	207,906	64,067	171,137	110,620	1,237,222	
	フォロワー数	3,275	3,345	3,369	3,390	3,445	3,461	3,488	3,588	3,606	3,627	3,794	3,810		

※ウェブサイトのアクセス数の目標値(5年間):1,300,000件

※インプレッション数:利用者のタイムラインまたは検索結果にツイートが表示された回数

動画共有サービス「YouTube」による広報

当館の活動に関するさまざまな情報をわかりやすく発信するため、2021年3月23日、動画共有サービス「YouTube」上に公式チャンネル「北海道博物館チャンネル」を開設した。2020年度は特別企画展「北海道の恐竜」の学術協力者である小林快次氏(北海道大学総合博物館教授)の協力をいただき、同展の見どころを解説する「ダイナソー小林のギャラリートーク(全10回)」を公開した。

⑤イベント等を活用した広報

2020年度外部イベントへの出展・参画 3件

サイエンスパーク(今年度は「サイエンスパーク・ファン」としてオンライン開催)			
主 催	北海道、地方独立行政法人北海道総合研究機構		
後 援	札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道市長会、北海道町村会、北海道小学校理科研究会		
日 時	2020年7月20日～8月31日		
U R L	http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kgs/sp/2020/index.htm		
概 要	参加機関が提供したコンテンツから構成されたオンラインイベントである「サイエンスパーク・ファン」が開催され、当館は「シカ笛づくり」を出展した。そのなかで当館のPR活動を行った。		
カルチャーナイト(今年度はオンライン開催)			
主 催	認定NPO法人カルチャーナイト北海道(カルチャーナイト実行委員会)		
日 時	2020年7月17日～19日	場 所	北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎) 参加者数 131名
概 要	当館はオンライン参加(動画配信)に参加し、「家族みんなでおうちミュージアム ぐるぐるまきのアンモナイト折り紙を折ろう!」を配信した。そのなかで当館のPR活動を行った。		
かるちやるnet光の広場パネル展			
日 時	2020年10月4日	場 所	サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)
概 要	かるちやるnet参加施設とその活動内容について、パネル展示で紹介した。あわせて当館のリーフレット、チラシなどを配置し、広報活動を行った。		

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

利用者と共に歩み、親しまれ、よりよい博物館となるためには、自らの行いを自己点検し、評価を行い、問題点を認識し、改めるべき点の改善を図っていくことが必要です。当館では、前年度の事業実績を年度当初にまとめ、その実績報告書としての『要覧』を編集・刊行し、自己点検評価、及び博物館協議会による外部評価(協議会評価)を行い、その結果を次年度計画、あるいは中期目標・計画に反映させることで、PDCAサイクルの実現を図っています。また、アンケート調査や来館者調査などのオーディエンス・リサーチにより、利用者からの意見聴取にも積極的に取り組んでいます。こうした業務は総務部企画グループが中心となり進めています。

第2期中期目標・計画期における評価のあり方

2010(平成22)年9月に道が策定した「北海道博物館基本計画」の中で「博物館運営の評価」について、「運営が適切に行われているか否かを的確に検証し、改善に努める。」ことが示されました。これを受け、2015(平成27)年8月に開催された第1回北海道立総合博物館協議会において、知事から協議会に対して「北海道博物館の評価方法のあり方について」の諮問が行われました。評価方法のあり方については、会長を中心とする3名の協議会委員による「評価作業部会」において検討され、2016(平成28)年3月に開催された第2回の協議会で答申案が承認され、知事に提出されました。答申書の項目は以下のとおりです。

- 1 北海道博物館(以下「博物館」という)の評価については、博物館による「内部評価」に加え、第三者による「外部評価」が必要である。
- 2 博物館が実施する「内部評価」は、博物館の基本的運営方針及び中期目標・計画に基づいて評価項目を設定し、評価判定を行う。
- 3 「内部評価」に関する資料は、別添の北海道博物館内部評価委員会設置要綱(資料1)、北海道博物館内部評価実施要領(資料2)、北海道博物館内部評価実施シート(資料3)である。
- 4 第三者による博物館の「外部評価」は、北海道立総合博物館協議会が実施する。また、北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会は、外部評価のための基礎的な意見交換の役割を担うこととする。
- 5 「外部評価」に関する資料は、別添の北海道博物館外部評価実施要領(資料4)である。
- 6 「道民参加型組織」を立ち上げ、外部としての意見聴取・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える組織をつくることが望ましい。

※「資料1」「資料2」「資料3」は省略

この答申に基づき、第1期中期目標・計画期(2015～2019年度の5か年)に「内部評価」及び「外部評価」を実施しました(評価の結果については『北海道博物館要覧2019』参照のこと)。しかし、実際に評価を行ってみると、館のガバナンスの姿が見えづらいなど、評価方法自体の問題点も明らかとなりました。そのため、「評価のしくみ、それ自体もPDCAサイクルに則って改善を図るべきとの考えから、第2期中期目標・計画期(2020～2024年度の5か年)は、従前の「内部評価」を博物館自身が行う「自己評価」、「外部評価」を博物館協議会が行う「協議会評価」とし、評価実施要領、及び評価実施シートの記載内容を改めたくて「博物館総合評価」として実施することとしました。

事業実績のとりまとめと『要覧』の編集・刊行

当館では、「北海道博物館基本的運営方針」の「Ⅲ 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施」に基づき、5か年の中期目標・計画を策定し、これに基づいて毎年度、「年度計画」を作成します。「年度計画」に基づく運営が終了した後は、運営状況の点検及び評価を実施するため、資料、調査研究、展示、教育などあらゆる博物館活動の事業実績をとりまとめます。これを編集・刊行したものが本誌『要覧』となります。『要覧』は、評価の根拠であると同時に、毎年度の当館博物館活動の記録でもあります。

自己点検評価の実施

前年度事業が「年度計画」および「中期目標・計画」に基づいて遂行されたかどうかの自己点検評価を『要覧』に基づいて実施しています。「中期目標・計画」および「年度計画」の各項目(1～16。本誌第2章の部分)の自己点検は所管グループが行い、管理職員による第一次評価、第二次評価を行います。

北海道立総合博物館協議会と「協議会評価」

北海道立総合博物館条例に基づき、北海道立総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、「北海道立総合博物館協議会」を設置しています。「協議会」は7名の委員から組織されています。また、アイヌ民族文化に関することを専門に調査審議する必要から、特別委員を6名委嘱し(うち2名は「協議会」委員と兼任)、「アイヌ民族文化研究センター専門部会」を「協議会」のなかに設置しています。

「協議会」は年2回、「専門部会」は年1回開催し、前年度事業実績、当年度事業経過、次年度事業計画、中期目標・計画、そのほか特別な事項の調査審議を行っています。この調査審議のなかで、当館が行った自己点検評価に対する外部評価「協議会評価」を実施しています。

2021年4月現在の協議会委員、及び専門部会特別委員の任期は2年(再任あり)で、2015年度に第1期委員を委嘱して以来、2021年4月現在で第3期となっています。2020年度の委嘱委員は、以下のとおりとなっています。

第3期北海道立総合博物館協議会委員 7名 任期2019年9月6日～2021年9月5日

氏名	所属	委嘱開始時期	任期数
宇佐美暢子	株式会社北海道二十一世紀総合研究所 顧問	第1期(2015年8月1日)より ※2020年5月26日付けで退任	3期目
大原昌宏(会長)	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	第1期(2015年8月1日)より	3期目
児島恭子	札幌学院大学 教授	第1期(2015年8月1日)より	3期目
佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館 館長	第2期(2017年9月6日)より	2期目
住吉徳文	和弘食品株式会社 管理本部 総務部	第3期(2019年9月6日)より	1期目
中川充子	北海道新聞社 経営管理局 局総務	第3期(2020年10月16日)より	1期目
中村吉雄(副会長)	公益財団法人北海道アイヌ協会 副会長 千歳アイヌ協会 会長	第3期(2020年3月27日)より	1期目
湯浅万紀子	北海道大学総合博物館 副館長(教授)	第2期(2017年9月6日)より	2期目

第3期北海道立総合博物館アイヌ民族文化研究センター特別委員 6名 任期2019年11月1日～2021年10月31日

氏名	所属	委嘱開始時期	任期数
大島稔	小樽商科大学 名誉教授	第1期(2015年11月1日)より	3期目
小川悠治	公益財団法人北海道アイヌ協会 理事 標津アイヌ協会 会長 標津町議会 副議長	第3期(2020年3月27日)より	1期目
児島恭子(兼任)	札幌学院大学 教授	第1期(2015年11月1日)より	3期目
酒井奈々子	帯広カムイトゥウボボ保存会 会長	第1期(2015年11月1日)より	3期目
関根真紀	平取アイヌ文化保存会 理事	第1期(2015年11月1日)より	3期目
中村吉雄(部会長・兼任)	公益財団法人北海道アイヌ協会 副会長 千歳アイヌ協会 会長	第3期(2020年3月27日)より	1期目

利用者ニーズの把握(オーディエンス・リサーチ)

利用者からの意見・要望を幅広く集め、今後の展示の企画や教育普及事業、広報活動といった博物館活動や運営の改善に活かすため、さまざまな方法で利用者ニーズの把握に努めています。具体的には、質問紙法によるアンケート用紙の設置・回収と、観察法・面接法による来館者調査を実施しています。また、旧開拓記念館の「ミュージアム・メイト」のようなモニター制度の導入も検討しています。

アンケート調査は、展示(総合展示と企画展)の内容について実施しています。主に2階ロビー(特別展示室出口付近)にアンケート用紙を設置し、利用者の年代・居住地・同伴者・情報源・満足度などを調査しています。また、講堂には自由記述式のアンケート用紙を設置し、普及行事に関する利用者ニーズを把握しています。

来館者調査は、博物館実習生による実習の一環として、総合展示室とはっけん広場を対象にインタビュー調査と動向調査を実施しています。

一方、展示室・図書室・総合案内などで、解説員や指定管理者などに対し利用者から直接寄せられた意見・要望・苦情は、日々の日報(解説員活動日誌、図書室業務日誌、指定管理者日報)に記録し、これを館内で供覧し、対応を協議します。また、緊急に対応が必要なものは、即時管理職員などに連絡され、利用者に対応します。重要なものや電話・メール、手紙などで寄せられた意見・要望・苦情等は、「口頭受理票」を作成し、館内で供覧します。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

所	管	企画グループ 道民サービスグループ	業務責任者	企画グループ学芸主幹 池田貴夫 道民サービスグループ学芸主幹 三浦泰之
---	---	----------------------	-------	--

年度計画（2020年度）

<p>(1) 評価制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度事業実績のとりまとめと『要覧』の編集・刊行（7月頃） ○自己点検評価の実施（8月頃） ○「北海道立総合博物館協議会」による重要事項の調査審議 <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回、7月頃および2月頃） ・「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回、8月頃） ○「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、内部評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年間計画の作成 <p>△評価のあり方についての検討・取組 △協議会の進め方についての検討・取組</p> <p>(2) 利用者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 ○利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施） ○来館者調査（出口調査・追跡調査）の実施（年1回） ○日報・口頭受理票による利用者ニーズの把握 <p>△広聴の実施方法についての検討・取組</p>
--

(1) 評価制度の活用

①『要覧』の編集・刊行

2019（令和元）年度の事業実績をとりまとめ、『北海道博物館要覧2019』を編集・刊行した。

2020年度の要覧作成実績

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
北海道博物館要覧2019	2020年7月	A4判・140頁	500部

②自己点検評価の実施

第1期中期目標・計画期の「北海道博物館内部評価委員会設置要綱」、および「北海道博物館内部評価実施要領」に則って、2019（令和元）年度事業実績に係る内部評価委員会を2020（令和2）年9月3日に開催し、「内部評価」を実施した。評価の結果は「令和元年度北海道博物館事業実績報告書（事業実績に関する内部評価）」（令和2年10月付け）にまとめた。

2020年度 北海道博物館内部評価委員会 委員名簿

委員長	石森 秀三	北海道博物館	館長
副委員長	小野寺誠司	北海道博物館	副館長
副委員長	中村 亘	北海道博物館	アイヌ民族文化担当副館長
副委員長	小川 正人	北海道博物館	学芸副館長兼研究部長兼アイヌ民族文化研究センター長
委員	川田 宣人	北海道博物館	総務部長
委員	堀 繁久	北海道博物館	学芸部長
委員	池田 貴夫	北海道博物館	総務部企画グループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	三浦 泰之	北海道博物館	学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	甲地 利恵	北海道博物館	学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	井田 操	北海道環境生活部	文化局 文化振興課主幹
委員	小島 圭介	北海道環境生活部	アイヌ政策推進局主幹

2020年度 北海道博物館内部評価結果(2019年度事業の総括評価) ※項目別評価は省略

総括評価No.	評価すべき取り組み	改善・注視を要する取り組み	総体的な評価	評価基準
1・2	(1)博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 (2)道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置 ○資料の収集保存・調査研究・展示など、博物館としての根幹に関わる基本的な事業は実施できている。 ○開拓の村整備事業については、予定していた2棟の補修工事及び内部展示更新を完了した。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のなかで、館外での調査研究活動について、どの程度実施可能か、引き続き感染状況を注視しながら検討することが必要。 ○開拓の村については、歴史的建造物の修繕方針の策定や内部展示のあり方など、中長期的な計画の策定が引き続き課題である。	項目別評価は概ね妥当であり、B評価の項目も見られるものの、総合博物館としての根幹に関わる基本的な機能を維持するための取組は実施できているものと判断し、総体としてA評価とする。	A
3	(3)利用者の視点に立った博物館づくりへの措置 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館となった際に、同じく感染拡大の影響により休校となった小中学校等の子どもたちが自宅で楽しく学べる、ウェブ上の教材提供コンテンツ「おうちミュージアム」事業を企画・実施するとともに、ロゴマークの共有により道内外の博物館等に参画を呼びかけ、全国展開を図った。	○学校団体向け教育プログラムである「はっけんプログラム」の実績値(108件)は目標値(220件)に達しなかった。前年度実績(114件)を踏まえると大きくは変わらないが、今後は実施可能なプログラムの改善や周知など学校への働きかけが必要である。 ○教育普及活動に必要な知識・技術向上のための館職員の研修については、キャリアプランに応じた研修派遣など、中長期的な人材育成として考えていくことが課題として残っている。 ○野幌森林公園園内でのヒギマ出沒により、公園内の巡視や公園利用者への注意喚起などの安全対策業務を最優先したことにより、館運営の一部にも影響が生じた。	項目別評価は概ね妥当であり、B評価の項目も見られるものの、休館中における利用者ニーズを踏まえた新たな取組などもあり、利用者の支持は高く保たれているものと判断し、総体としてA評価とする。	A
4	(4)道民との連携、協働する博物館づくりへの措置 ○道民参加型組織の創設については、段階的に推進していく一環として、サークル型学習活動の「ちゃれんが古文書クラブ」を企画・立案した。	○第2期中期目標・計画については、作成方針の検討に時間を要し、年度内に作成ができなかった。目標管理体制が徹底していなかったことによるものと認識している。 ○道民参加型組織については、これまで「どうすべきか」という理念的な目標・あり方の議論が中心になっていたが、今後は、目標達成のための戦略を年次目標に落とし込むような形で具体的に進めていくことが必要であり、その際には、担当グループ内でとりまとめつつも、館内で共有しながら取り組むことが必要。	項目別評価は概ね妥当であり、計画のあり方・進め方、目標管理体制のあり方を含め、優先して今後の改善・充実化を図るべきものと判断し、B評価とする。	B
5	(5)北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置 ○全国的な博物館組織である全国歴史民俗系博物館協議会と連携し、北海道を会場とした令和元年度年次集会和、北海道博物館・北海道開拓の村において開催し、全国(道外20施設・道内7施設)から多くの参加を得ることができた。	○今後は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をふまえた、日本博物館協会や道内外の博物館等の連携協力が必要となる。	項目別評価は概ね妥当であり、地域の博物館等とのネットワークが着実に機能しているものと判断し、A評価とする。	A
6	(6)道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置 ○図書室については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りながら、順調な運営ができた。	○レファレンスについては、依然として記録率の向上が課題として残っている。 ○現状では学芸職員が来館・電話・メール等で受けた質問のみをレファレンス数としてカウントしているが、博物館全体としては、学芸職員以外でも質問も受けている(解説員が観覧中の来館者から受ける質問など)ため、目標・実績におけるカウントの基準について、明確にする必要がある。	評価の妥当性の観点から改善を要する課題が浮かび上がったものの、項目別評価は概ね妥当であり、情報発信機能およびレファレンス機能が着実に発揮されているものと判断し、A評価とする。	A
7	(7)研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置 ○突出した実績数はないが、実習・インターンシップの受け入れ、研究紀要の発行など、順調に実施できている。 ○外部資金を活用して、「視覚障がい者に対応した博物館づくり」をテーマに道内の博物館等の職員を対象とした研修会を開催し、博物館のバリアフリー化に向けた利用者の声を認識する機会を創出した。	○外来研究員の制度化に向けて検討を進めることが必要。 ○研究成果の発信として、「新聞・報道対応」と「学会発表」「学術雑誌等への寄稿」を同じウエイトとしてカウントするのは厳しい。 ○学会発表や論文投稿数については、学芸職員の数(30人)に対しての妥当な数字を目標値とするべき。 ○数字の出し方について、明示・共有しておくことが必要。具体的には、「研究成果発信」のうち「新聞・報道対応」については、2015年以来、学術的な知見の提供以外にも、博物館に関する広報も含めてカウントしていたが、項目別評価シートを見ただけでは、それがわからない。	評価の妥当性の観点から改善を要する課題が浮かび上がったものの、項目別評価は概ね妥当であり、北海道の未来に貢献する研究機関としての活動が着実になされているものと判断し、総体としてA評価とする。	A
8	(8)アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置 ○学習指導要領の変更等により、アイヌ文化の学習の需要が高まっているため、アイヌ関係のグループレクチャーやレファレンスが多かったと分析できる。	○2020年度に民族共生象徴空間がオープンしたが、依然としてアイヌ文化に対する注目度が高い状態が続いていることから、アイヌ関係のグループレクチャーや道内自治体からのレファレンス等の需要が高い状態が続くと考えられる。 ○道内自治体との連携・協力については、自治体がアイヌ文化に関する取組を進める中で、自治体が所蔵している資料のレファレンス等が増えている。過年度には北海道博物館所蔵資料に関する報告会を関連地域で実施して、研究成果を地元と共有したこともあるが、引き続き、地域での文化資源を活かすためにどのような形で北海道博物館が関わられるかを検討する必要がある。	項目別評価は概ね妥当であり、着実にアイヌ文化の振興に寄与できているものと判断し、総体としてA評価とする。	A
9	(9)各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置 ○博物館においては、管理職による「運営会議」を定期的開催するなど、博物館内の意思決定の迅速化や情報共有を図るとともに、重要な案件については、本庁とも協議しながら予算の確保にも努め、課題解決に当たっている。	○北海道博物館と本庁(文化振興課)との情報共有・協議については、都度都度行っているが、問題点の整理や進捗の共有を図るために定期的な打ち合わせの機会を持つなど、より密に協力・連携を強化する体制が必要。 ○アイヌ民族文化研究センター内においては定期的な打ち合わせを設けているが、結果の共有などは不十分で、引き続き課題。	項目別評価は概ね妥当であり、A評価の項目も見られるものの、課題の共有とその解決に向け、より強固なガバナンス体制・目標管理体制が不可欠と判断し、総体としてB評価とする。	B

③北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催

北海道立総合博物館協議会を2回開催した。アイヌ民族文化研究センター専門部会は、2020年11月16日（金）に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大などを考慮し、2021年3月に延期した。しかし、感染状況が落ち着きを見せないことから、今年度の開催を見送ることとし、特別委員の任期中の2021年4～10月に改めて開催する方向で再調整することとなった。

2020年度北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催実績 2件

令和2年度第1回北海道立総合博物館協議会	
日 時	2020年10月16日（金） 13:30～15:45
場 所	北海道博物館 講堂
出席者	【委員】 大原昌宏会長、中村吉雄副会長、児島恭子委員、佐々木史郎委員、住吉徳文委員、中川充子委員、湯浅万紀子委員 【事務局】 井田操文化振興課課長補佐、石森秀三北海道博物館長 ほか
議 題	(1) 令和元年度北海道博物館事業実績報告（内部評価実施報告） (2) 「第2期中期目標・計画」について (3) 令和2年度北海道博物館事業経過報告 (4) 令和3年度北海道博物館事業年度計画概要報告 (5) 北海道立総合博物館協議会のあり方について（第1期中期目標・計画期の総括と反省） (6) その他
【延期】令和2年度アイヌ民族文化研究センター専門部会	
日 時	2020年11月16日（金） 13:30～15:30（予定）
場 所	北海道博物館 講堂（予定）
出席者	－
議 題	－
令和2年度第2回北海道立総合博物館協議会	
日 時	2021年2月19日（金） 10:00～12:15
場 所	北海道博物館 講堂
出席者	【委員】 大原昌宏会長、中村吉雄副会長、児島恭子委員、佐々木史郎委員、住吉徳文委員、中川充子委員、湯浅万紀子委員 【事務局】 矢嶋裕一文化振興課総括主査、小島圭介アイヌ政策課主幹、石森秀三北海道博物館長 ほか
議 題	(1) アイヌ民族文化研究センター専門部会の延期について（報告） (2) 令和2年度北海道博物館事業経過報告 (3) 令和3年度北海道博物館年度計画（素案）について (4) 第2期中期目標・計画期における協議会の役割（案）について (5) その他

④年度計画の作成

内部評価の結果、博物館協議会委員からの指摘・提案、オーディエンス・リサーチなどを総合的に勘案し、「令和3年度 北海道博物館年度計画（素案）」を作成し、「令和2年度第2回北海道立総合博物館協議会」において調査審議を行った。なお、2021年4月に館組織体制の改変が予定されていたことから、計画の決定行為は、次年度新体制のもとで業務と計画の整合性を図り再検討したうえで実施することとなった。

⑤その他（評価のあり方、協議会の進め方の検討）

第1期中期目標・計画期における「外部評価」結果を踏まえ、従前の「内部評価」「外部評価」のあり方を見直し、「第2期中期目標・計画期 博物館総合評価実施方針（案）」を作成し、「令和2年度第2回北海道立総合博物館協議会」において調査審議を行った。この結果、2020（令和2）年度事業より、新しい評価体系のもとで自己点検評価、外部評価を実施していく方針が定まった。

博物館が行う自己点検評価は、「中期目標・計画」で示された15項目と4つのビジョンを加えた16項目を対象に毎年度実施することとし、この自己点検評価につき、毎年度第1回の博物館協議会において、自己点検評価がきちんと行われているかを主な評価観点とし、委員が外部評価（協議会評価）を実施することとなった。また、「中期目標・計画」自体の評価については、「中期目標・計画期」終了翌年度に自己点検評価、協議会評価をそれぞれ実施することとなった。

(2) 利用者ニーズの把握

① 来館者アンケート調査

2020年度は、特別企画展「北海道の恐竜」、および第9回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」の開催時にアンケート調査を行った。結果は以下のとおり。

2020年度利用者調査結果

No.	企画展名	期 間	観覧者数	アンケート回答数					
				回答率	総数	男性	女性	その他	無回答
No.1	特別企画展 北海道の恐竜	2021年2月12日～3月14日	10,690	3.6%	383	171	206	2	4
	総合展示(上記の1項目として実施)	2021年2月12日～3月14日	5,619	6.8%	383	171	206	2	4
No.2	第9回アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名と木田金次郎	2020年7月3日～11月3日	2,935	1.6%	46	18	25	2	1

■年代

No.	企画展名	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代以上	無回答	計
No.1	特別企画展 北海道の恐竜	25	15	22	82	116	66	22	23	11	1	0	383
No.2	第9回アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名と木田金次郎	1	4	3	5	6	14	2	3	6	1	1	46
	計	26	19	25	87	122	80	24	26	17	2	1	429

■居住地

No.	企画展名	札幌市内	江別市	岩内町	その他道内	道外	無回答	計
No.1	特別企画展 北海道の恐竜	280	32	0	65	2	4	383
No.2	第9回アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名と木田金次郎	22	2	6	14	1	1	46
	計	302	34	6	79	3	5	429

■同伴者

No.	企画展名	ひとりで	友人・仲間	カップル	家族	家族・パートナーと	子供連れ	学校で	その他	無回答	計
No.1	特別企画展 北海道の恐竜	80	22	8	269	154	115	0	3	1	383
No.2	第9回アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名と木田金次郎	18	3	2	22			0	0	1	46
	計	98	25	10	291			0	3	2	429

■情報源

No.	企画展名	新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	口コミ	SNS	当館の広報	当館Twitter	当館ウェブサイト	当館イベント	館外看板	ポスター	チラシ	木田金次郎美術館の広報	来館して	その他
No.1	特別企画展 北海道の恐竜	161	5	115	2	38	67	116	29	52	2	8	25	0	-	2	28
No.2	第9回アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名と木田金次郎	0	0	0	0	4	0	2							11	14	17
	計	161	5	115	2	42	67	118	29	52	2	8	25	0	11	16	45

② 利用者満足度調査

上記来館者アンケート調査により満足度を調査した。結果は以下のとおり。

展示に対する満足度

No.	企画展名	期 間	満足度	内訳					計	
				たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	見ていない		無回答
No.1	総合展示	2021年2月12日～3月14日	96.4%	76	111	7	0	184	5	383
No.1	特別企画展「北海道の恐竜」		99.7%	284	97	1	0	0	1	383
No.2	第9回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」		97.6%	20	20	1	0	0	5	46
	計			380	228	9	0	184	11	812

③来館者調査

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、来館者との直接的な接触を避けるために、調査の実施を見送った。

④日報・口頭受理票等による利用者ニーズの把握

⑤その他(広聴の実施方法についての検討・取り組み)

上記①～③以外の利用者ニーズの把握方法として、これまで「解説員活動日誌」(道民サービスグループ対応)、「指定管理者日報」(総括グループ対応)、「図書室業務日誌」(社会貢献グループ対応)、「アイヌ文化Q&A」(総合展示室第2テーマ「アイヌ文化の世界」内にコーナーを設置。アイヌ民族文化研究センター対応)、「電話(メール)口頭受理票」(対応職員が個別に作成)に明記された利用者意見・苦情等を館内職員で共有し、即時対応できるものは都度対応している。対応に予算の伴うもの、あるいは中長期的な検討が必要なものについては、意見を集約し、次年度計画や次期中期計画に反映させるようにしている。2020年度も同様に対応したが、広聴については、一元的な対応・集約が望ましいことから、実施方法についての検討が必要だと認識している。2020年度は、「広聴」業務と「利用者ニーズの把握」業務の所管(組織体制)が道民サービスグループと企画グループにまたがったままとなったため、意見集約は各所管グループにおいて個別に実施するにとどめ、具体的な検討を行うことはできなかった。

10 道民参加の推進

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開しています。

こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となって進めています。

道民参加型組織

旧北海道開拓記念館では、来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイデアや意見をお寄せいただくことを目的として、2005（平成17）年度から「ミュージアム・メイト」制度を導入し（任期2年）、2014（平成26）年度まで実施してきました。「ミュージアム・メイト」は、当初、当館が運営改善を図っていくためのモニター制度としてはじまりましたが、北海道博物館へのリニューアルに係る議論のなかで、道民の自主的な学習サークル活動やボランティアとしてのあり方も模索されました。

北海道博物館の開設とともに、「ミュージアム・メイト」制度は終了しましたが、道民が「ミュージアム・パートナー」として博物館活動に参加していくあり方について継続して検討しています。2018（平成30）年度からは、組織の創設への試行的な取組として、当館の図書室における「図書室支援員制度」を実施しました。また、2020（令和2）年度からは、学習サークル活動として「チャレンジ古文書クラブ」を試行的にスタートさせました。

今後、学習サークル活動、ボランティア、モニター制度について、第2期中期・目標計画の期間中に、活動の一部を実験的にスタートさせ、当館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織＝ミュージアム・パートナー制度の整備に向けて検討していきます。

図書室支援員制度

2018（平成30）年6月から開始した、当館の図書室で蔵書の整理等をお手伝いいただくボランティア制度です。数名の方に「支援員」をお願いし、週1回程度の活動をしていただいております。

チャレンジ古文書クラブ

当館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により読み進めていく参加型の古文書学習サークルです。できあがった古文書の翻刻文は、研究紀要などに「資料紹介」として掲載し、調査研究活動の普及・公開を図る予定です。

調査研究・展示などの博物館活動における道民参加の推進

道民が発信者として博物館活動に参画する機会の一つとして、当館の調査研究や展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取り組みを進めています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

10 道民参加の推進

所	管	企画グループ	業務責任者	企画グループ学芸主幹 池田貴夫
---	---	--------	-------	-----------------

年度計画（2020年度）

<p>(1)道民参加型組織の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【重点／新規】「ちゃれんが古文書クラブ」の創設・運営 [月1回、年間12回] ○ボランティアによる図書室の閲覧対応、季節に応じた配架工夫、蔵書整理 ▲【重点】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー）の整備に向けた検討・取組 ▲【重点／新規】地域住民の北海道博物館に対する理解促進と愛着醸成、および各種支援・協力による博物館活動の活性化に向けた施策の検討・取組 <p>(2)博物館活動への道民の参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査(第二次)」への市民参加 ○来館者参加型展示コーナー（再掲）の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化Q&A(総合展示室第2テーマ) ・総合展示2階出口付近の参加型展示 ○第4テーマ「今とこれからをつくる」(再掲)の運営 ○休憩ラウンジにおける道民参加型展示の実施(再掲)の運営 ○博物館実習生が企画・作成した展示コーナーの運営(年間夏期1回実施) ▲【重点】さらなる博物館活動への道民参加促進に向けた企画・立案

(1)道民参加型組織

①ボランティア活動：図書室支援員制度

2020年度は、図書室業務の経験のある当館解説員OBの方3名に「図書室支援員」をお願いし、蔵書整理などの活動に従事していただいた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、昨年度より活動及び内容を縮小した形(1人につき3時間程度。2人同日の場合は午前・午後に分散し、密を回避)での活動となった。

2020年度図書室支援員 3名 延べ活動日数43日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室支援員活動日数	0	0	0	2	9	5	11	4	0	0	0	2	33
おもな活動	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の整理 ・季節に応じた配架の工夫 ・図書展示コーナー設営の補助 												

②学習サークル活動：ちゃれんが古文書クラブ

2020年度より、当館所蔵の古文書を参加者とともに講読する学習サークルとして「ちゃれんが古文書クラブ」が立ち上がり、活動をスタートさせた。年間12回の活動を予定していたが、第1回予定の5月9日は、新型コロナウイルス感染症拡大・緊急事態宣言発令にともなう臨時休館のため中止となった。また、第7回予定の11月14日は、新型コロナウイルス感染症拡大の傾向が見られたことから、活動を自粛し、中止とした。合計で年間10回の開催となった。

2020年度ちゃれんが古文書クラブ開催実績 10回 登録者数13名

回	開催日	参加者数	世話人(当館職員)	活動内容
第1回	5月9日	中止		※臨時休館期間中のため中止
第2回	6月13日	12名	三浦泰之・東俊佑	ガイダンス
第3回	7月19日	10名	東俊佑	当館所蔵資料(林梅家資料B1・B2の講読)
第4回	8月15日	11名	東俊佑	当館所蔵資料(林梅家資料B3・B4の講読)
第5回	9月19日	10名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B4の講読)
第6回	10月17日	9名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B4の講読)
第7回	11月14日	中止		
第8回	12月12日	8名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B5の講読)
第9回	1月9日	10名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B6・B7の講読)
第10回	2月6日	9名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B7の講読)
第11回	3月6日	10名	三浦泰之	当館所蔵資料(林梅家資料B8の講読)
第12回	3月27日	9名	東俊佑	当館所蔵資料(林梅家資料B8の講読)

③その他(道民参加型組織の整備に向けた検討)

次年度も新型コロナウイルス感染症対策の継続が予想されたことから、ボランティア活動、学習サークル活動の新たな立ち上げは見送ることとした。また、道民参加型組織のあり方や、モニター制度についての検討は、感染症が落ち着いてから、コロナ後の状況を見据えたいうで改めて検討を行うこととした。

(2) 博物館活動への道民の参画

①調査研究活動への道民の参画

2020年度は、道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査(第二次)」への市民参加を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、具体的な活動を実施することはできなかった。

※研究プロジェクトの詳細は「3 調査研究」の45ページを参照のこと。

②展示活動への道民の参画

2020年度も下記の展示コーナーを継続して設置し、道民の参画を促した。

- 来館者参加型展示コーナー(再掲)の運営
 - ・アイヌ文化Q&A(総合展示室第2テーマ)
 - ・総合展示2階出口付近の参加型展示
- 第4テーマ「今とこれからをつくる」(再掲)の運営
- 休憩ラウンジにおける道民参加型展示の実施(再掲)の運営

※各コーナーの詳細は「2 展示」の39～40、43ページを参照のこと。

③博物館実習生が企画・作成した展示コーナーの運営

博物館実習生が実習期間で企画・作成した展示を、8月28日～9月11日の会期で、総合展示室2階出口前(回廊)に展示した。

2020年度博物館実習生による展示の運営

班	内容
A班	ヒグマとサケと、それから私。
B班	昔のカメラー見る・比べる・知るー
C班	個性ゆたかな くずし字

※2020年度博物館実習の概要は「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の98ページを参照のこと。



④その他(博物館活動への道民参加促進の検討)

新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いてから、改めて検討することとなった。

11 博物館ネットワーク

当館は、道内の博物館や資料館などとの連携をとおして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力強化のためのネットワークづくりをすすめています。北海道内の中核的な博物館としての役割を果たすべく、北海道博物館協会、日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などの各種博物館団体の事務局・幹事館業務を担うことで、道内博物館と全国の博物館をつなぎ、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。また、当館周辺の関係施設との連携・協力を密にすることにより、札幌市・江別市周辺地域の文化事業の活性化にも取り組んでいます。

こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となって進めています。

博物館ネットワーク

①日本博物館協会との連携

当館は、博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会に加盟しています。また、当館館長は、同協会北海道支部長、及び参与を委嘱され、当館は同協会北海道支部の支部長館を担っています。当館は、支部長館として、全国規模の組織と道内の博物館をつなぎ役割を果たし、協会および支部会員館との連絡・協力体制の維持に努めるため、さまざまな連絡調整業務を担っています。また、北海道支部の声を全国に届けるため、年に1回開催される参与会、支部長会、全国博物館会議へ館長が出席するほか、全国博物館大会へも職員を積極的に派遣し、連携と親睦の強化に努めています。

- 【北海道支部加盟館】37館(2021年4月1日現在)
- 【おもな業務】協会および支部会員館との連絡調整
 - ・支部会員館の入退会に係る連絡調整
 - ・博物館功労者顕彰の推薦に係る連絡調整
 - ・会誌『博物館研究』への寄稿等に関する連絡調整(執筆者の推薦)
 - ・参与会・支部長会・全国博物館長会議への出席(北海道支部(北海道博物館協会)の活動報告)
 - ・全国博物館大会への出席
 - ・その他、協会から依頼された事項(寄付金募集、館園調査など)への協力

②全国歴史民俗系博物館協議会との連携

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道ブロックの幹事館として、全国と道内博物館をつなぎ中継館としての役割を担っています。幹事館として、協議会およびブロック会員との連絡・協力体制の維持に努めるほか、北海道ブロックの声を全国に届けるため、幹事館会、年次集会へ職員を積極的に派遣し、連携と親睦の強化に努めています。

- 【北海道ブロック加盟館】56館(2021年4月1日現在)
- 【おもな業務】協議会およびブロック館との連絡調整
 - ・ブロック館の入退会に係る連絡調整
 - ・総会・年次集会への出席
 - ・その他、協議会から依頼された事項への協力

③北海道博物館協会の事務局館としての庶務

北海道博物館協会は、1961(昭和36)年に発足した道内博物館のネットワークです。当館は、旧北海道開拓記念館が1981(昭和56)年度から事務局を担ってきたのを引き継ぎ、協会の事務局館として、各種活動の企画運営に携わっています。北海道博物館協会は、北海道博物館大会、ミュージアム・マネージメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、道内の博物館活動の振興発展に寄与することを目的としています。これらの事業は、ブロック別博物館等施設連絡協議会(道南ブロック、道央地区、日胆地区、道北地区、オホーツク管内、道東3管内の6ブロック)と各研究部会・研修会・連絡協議会(学芸職員部会、動物園・水族館連絡協議会、青少年科学館連絡協議会、美術館学芸員研究協議会の4団体)の代表などから構成される役員会が運営を担い、当館は事務局として運営を補佐する立場にあります。そのため、事務局が担う具体的な業務は、役員会の開催に係る連絡調整、大会・研修会の開催に係る連絡調整を含め、非常に多岐にわたっています。

- 【会員】団体会員126、個人会員27、賛助会員11、計164(2021年4月1日現在)
- 【おもな業務】役員会理事、各地区ブロック、加盟館園との連絡調整
 - ・役員会の運営および連絡調整(年3回程度開催)
 - ・大会・研修会等の日程や関係機関との連絡調整(年各1回開催)
 - ・各地区ブロック等との連絡調整
 - ・道内博物館園等の実態調査(『加盟館園現況』の発行、2年に1回発行)
 - ・『道博協ニュース』の編集・発行および執筆者との連絡調整(年2回発行)
 - ・協会表彰に係る庶務
 - ・協会の会計
 - ・その他の連絡調整に係る庶務

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」(愛称ブンカラ)は、国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館・美術館・研究機関及びその他博物館等事業に関係のある団体とネットワークを独自に形成し、アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進やさまざまな事業の活性化を図るとともに、アイヌ文化の振興・啓発に寄与することを目的としたものです(主催:国立アイヌ民族博物館)。当館は、2021(令和3)年1月にネットワークへの参加申し込みを行いました。今後、当館アイヌ民族文化研究センターを中心に諸事業へ対応していく予定です。

周辺施設とのネットワーク

①かるちるnet

2010(平成22)年2月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちるnet」(文化施設連絡協議会)が発足しました。参加施設は10施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、2009(平成21)年12月に北海道とイオン北海道株式会社の間で締結された包括連携協定(道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施)を活用し、より広い層へのPRを行っています。

【参加施設】10施設

札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、北海道立文書館、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館

【おもな事業】

スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など

②CISEネットワーク

北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークです。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っています。当館は2015(平成27)年4月に北海道博物館が総合博物館として開館したことにより、自然史系・科学系の博物館等との連携を深めるため、2015(平成27)年度に正式メンバーとして加わりました。

【連携自治体】札幌市、札幌市教育委員会、石狩市、小樽市、北広島市

【運営委員会】北海道大学総合博物館、札幌市円山動物園、札幌市中央図書館、いしかり砂丘の風資料館、小樽市総合博物館、北広島市エコミュージアムセンター、札幌市博物館活動センター、札幌市環境プラザ、札幌市定山溪自然の村、札幌市北方自然教育園、石狩市海浜植物保護センター、札幌市青少年科学館、札幌市豊平川さけ科学館、おたる水族館、北海道博物館、サケのふるさと千歳水族館、プロジェクト・とっかり

【おもな事業】

博物科学教材(CISEトランクキット)の開発と運用、「海の学び石狩湾トランクキット」開発と啓発事業の推進、博物科学プログラムの開発、CISEサイエンスターニング(施設連携実物科学教育講座)の運用、CISEサイエンス・フェスティバルなど

③生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市内の環境関連施設のネットワークです。札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークです。当館は2015(平成27)年度から参画しました。

【参加施設】

札幌市水道記念館、札幌市円山動物園、札幌市下水道科学館、札幌市環境プラザ、札幌市百合が原緑のセンター、サッポロさとらんど、札幌市豊平公園緑のセンター、札幌市博物館活動センター、札幌市平岡樹芸センター、サンピアザ水族館、北海道博物館、札幌市豊平川さけ科学館、札幌市保養センター駒岡、札幌市青少年山の家、札幌市滝野自然学園、札幌市北方自然教育園、サッポロピリカコタン、札幌市定山溪自然の村、札幌市動物管理センター

【事務局】

札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課

【おもな事業】

いきものつながりクイズラリーなど

周辺地域とのネットワーク

①あつべつ区民協議会

「あつべつ区民協議会」は、厚別区の住民が自分たちの住んでいる厚別区に興味を持ち、住みよい街にするための取り組みについて、区民一人一人が地域の中で共に考え、共に行動し、創意と工夫でより良い街に作り上げていくことを目的とした会議です(事務局:厚別区市民部地域振興課)。北海道博物館は、厚別区にある文化施設の一つとして、その前身の一つである北海道開拓記念館の時代から協議会委員として参画してきました。

②三笠ジオパーク推進協議会

三笠ジオパーク推進協議会は、地域経済の活性化及び文化の発展に寄与することを目的として、ジオパークに関する各種事業を行う団体です(事務局:三笠市役所)。当館は2015(平成27)年度の開館以来、同協議会の正会員として参画し、事業への協力や、専門的見地からの助言なども行ってきています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

11 博物館ネットワーク

所	管	企画グループ 社会貢献グループ	業務責任者	企画グループ学芸主幹 池田貴夫 社会貢献グループ学芸主幹 甲地利恵
---	---	--------------------	-------	--------------------------------------

年度計画（2020年度）

<p>(1)各種博物館団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本博物館協会との連携、及び北海道支部長館としての連絡調整業務の実施 ○全国歴史民俗系博物館協議会との連携、及び北海道ブロック幹事館としての連絡調整業務の実施 ○北海道博物館協会との連携、及び事務局館としての運営補佐と連絡調整業務の実施 ●▲【新規】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め北海道内博物館の活性化 <p>(2)博物館交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かるちやる net の運営と連携事業の実施 ○CISE ネットワークによる連携事業の実施 ○生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施 ○周辺地域とのネットワーク会議への参加
--

(1)各種博物館団体との連携

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、諸会議、大会・研修会などの行事が中止ないしオンライン開催となった。その分、職員の派遣などは縮小したが、感染症対策などに係る業務が増大した。また、国立アイヌ民族博物館との連携強化に関する取り組みを、次年度より新たに進めることとなった。

①日本博物館協会との連携

2020年度日本博物館協会北海道支部としての連絡調整

項目	摘要
職員の委嘱	公益財団法人日本博物館協会 参与：石森秀三館長 日本博物館協会 北海道支部長：石森秀三館長
北海道支部会員館の入退会	入会申請に係る推薦1件（浦幌町立博物館）
参与会・支部長会・全国博物館長会議への出席	参与会、支部長会、全国博物館長会議とも新型コロナウイルス感染症拡大により中止
全国博物館大会への職員派遣	第68回全国博物館大会へ1名の職員を派遣 ・日時：2020年11月25日（水）～26日（木） ・場所：神奈川県横浜市（横浜市開港記念会館） ・派遣職員：池田貴夫（総務部企画グループ学芸主幹）
博物館功労者顕彰	・支部会員館へ推薦を依頼 ・支部会員館から回答のあった2名を推薦（北海道博物館解説員2名）
『博物館研究』執筆者推薦	・支部会員館へ『博物館研究』令和2年9月号（vol.55-9）執筆者を募集 ・執筆者2名を推薦（支部情報：渋谷美月氏（北海道博物館）、コレクション：西村智弘氏（むかわ町立穂別博物館）
照会事項への対応	・博物館に関する基本情報の調査（新設博物館、既存博物館で「博物館統計に関する基礎調査」未掲載の博物館情報についての照会）

2020年度日本博物館協会との連絡調整（当館に関するもの）

項目	摘要
照会事項への協力	・アンケート3件（新型コロナウイルス感染予防に関する対応状況について、新型コロナウイルス感染予防の対応状況に係る緊急アンケート、入館者数・入館料収入に関する緊急アンケート） ・令和元年度博物館園活動調査 ・令和2年度版全国博物館園職員録 ・北海道支部令和元年度事業報告・令和2年度事業計画 ・令和2年度当館休館情報・展覧会・事業等の報告（毎月、日本博物館協会ウェブサイトにて登録）
その他	・大規模災害に係る被災博物館等の復興支援募金・寄附金募集への協力（募金箱設置期間：2020年5月13日～2021年3月21日、22,453円） ・「被災博物館復興支援事業」への参加登録（1名）

②全国歴史民俗系博物館協議会

2020年度全国歴史民俗系博物館協議会との連絡調整

項目	摘要
ブロック会員館の入退会	なし

項目	摘要
総会・年次集会への出席	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度年次集会の開催は1年延期となったため、今年度の派遣は行わなかった。 ・総会の書面開催に係る回答を送付した。
照会事項への協力	2020年度は照会事項がとくになかった。
その他	とくになし

③北海道博物館協会との連携

2020年度北海道博物館協会事務局としての庶務

項目	摘要
事務局体制	事務局長：小川正人 事務局次長：山田伸一 事務局員：山際秀紀、舟山直治、池田貴夫、尾曲香織
会員の入退会	入会：団体会員1件(沼田町化石体験館) 退会：個人会員2名
役員会の運営	第1回役員会(5月下旬、書面会議) 第2回役員会(日時：12月18日、会場：北海道博物館講堂、オンライン開催)
総会の運営	6月26日～7月28日、書面議決
北海道博物館大会の運営	第59回北海道博物館大会は6月30日(火)～7月1日(水)に士別市で開催することを予定し、三密を避けるなど新型コロナウイルス対策を考慮した開催方法を模索しながら準備を進めてきた。しかし、5月下旬時点で札幌市内と市外との行き来を控える呼びかけが北海道知事から発せられ、一時的に状況が改善するとしても、全道各地から移動して大人数が集会する催しを6月末頃に予定するのは難しかった。また、会員館園は、臨時休館園や感染防止に配慮した開館園に対応しなければならない状態にあり、年度内に延期とし日程を再設定しても、再延期を検討しなければならなくなる可能性も高く、負担が大きいことが懸念された。以上から、2020年度の博物館大会は中止することとした。
表彰	前年度役員会において決定された2団体への博物館大会での表彰を予定していたが、大会中止となったため、表彰式も延期となった。うち1団体は、事務局長が網走に出向き表彰状等を渡した。もう1団体は次年度の表彰式で表彰を行う予定となった。
研修会・部会等への事務局員派遣	・ミュージアム・マネージメント研修会(11月5日～6日、北海道立文学館・札幌市円山動物園)に山際秀紀・遠藤志保事務局員を運営補助として派遣。研修会のテーマは「地域の暮らし、文化を潤す動物園の姿～札幌市丸山動物園の新たな取り組み～」 ・学芸職員部会(9月24日に第44回研修会をオンラインにて開催。事務局員の派遣はなし) ・道央地区博物館等連絡協議会(総会・第1回研修会・第1回役員会は中止。第2回研修会は、ミュージアムマネージメント研修会として実施。第2回役員は書面開催)
各種調査	・2020年度各館園の普及事業および展示事業調査(『道博協ニュース』第127・128号に掲載) ・会員館園の現況調査(『2020年度北海道博物館加盟館園等現況』に反映) ・新型コロナウイルス感染症拡大に対する対応調査(メーリングリストで各館園に照会し、回答を集約してウェブサイトに掲載)
ウェブサイトの運営	・道博協ニュースのPDF配信、大会案内等の掲示、会員館園のリンクの修正等
印刷物の刊行	・『2020年度北海道博物館協会総会資料』(6月26日発行、A4判40頁)200部 ・『道博協ニュース』第127号(9月末) ・『道博協ニュース』第128号(3月末) ・『2020(令和2)年度北海道博物館協会加盟館園等現況』(3月31日発行、A4判142頁)300部
その他	・会計に係る庶務 ・各地区博物館等連絡協議会など関係団体への協力に係る庶務 ・文化事業への後援に係る庶務 ・あり方検討委員会の事務 ・北海道胆振東部地震の被災地支援に係る事業協力は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、特段の活動はなかった。

2020年度北海道博物館協会との連絡調整(当館に関するもの)

項目	摘要
職員の委嘱	北海道博物館協会 会長：石森秀三館長 北海道博物館協会道央地区博物館等連絡協議会 監事：小川正人学芸副館長 北海道博物館協会あり方検討委員会 委員：尾曲香織学芸員
役員会への出席	・第1回役員会(書面会議のため出席者なし) ・第2回役員会(日時：12月18日、会場：北海道博物館講堂、オンライン開催、出席者：石森秀三館長)
総会・博物館大会への出席	・総会・大会とも中止となったため、職員の派遣は行わなかった。 ・総会は書面議決となり、回答をもとめられたため、書面議決書を送付した。
研修会等への職員派遣	・学芸職員部会第44回研修会
照会事項への協力	・『道博協ニュース』第127号掲載行事予定調査票(2020年10月～2021年3月) ・『道博協ニュース』第128号掲載行事予定調査票(2021年4月～9月) ・2020年度北海道博物館協会加盟館園等現況調査 ・協会表彰顕彰者の推薦(該当者なしで回答)
その他	・北海道博物館協会のあり方検討会への職員派遣

④アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク

国立アイヌ民族博物館より、参加の打診があり、2021(令和3)年1月にネットワークへの参加申し込みを行った。次年度以降、当館アイヌ民族文化研究センターを中心に、国立アイヌ民族博物館との連携を強め、意見交換や各種事業への協力・協働などを通じて、北海道内博物館の活性化を図っていくこととなった。

(2) 博物館交流の促進

①かるちやる net

2020年度活動概要

項目	摘要
スタンプラリー	昨年度まで春休み、夏休み期間を中心に2回実施していた「てくてく、べったん！かるちやるスタンプラリー」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、春・夏とも中止した。
共同イベント	新型コロナウイルス感染症対策のため、ワークショップ・イベントは実施せず、施設紹介パネル展を実施した。実施日には加盟館職員(サンピアザ水族館及び札幌市青少年科学館)による巡回のみとしたため、入場者数のカウントやアンケートは実施しなかった。 ・日時：2020年10月4日(日)10:00～21:00 ・場所：サンピアザ 光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)
共通行事予定チラシの作成・発行	年4回(3か月ごと)発行している『かるちやる通信』は、予定どおり発行した。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、紙での配置は休止し、ウェブサイト版のアップロードのみとした。 ・『かるちやる通信』2020年4～6月号、2020年4月 ・『かるちやる通信』2020年7～9月号、2020年6月 ・『かるちやる通信』2020年10～12月号、2020年9月 ・『かるちやる通信』2021年1～3月号、2020年12月
商業施設における広報活動	商業施設にチラシラックを設置し、各施設のリーフレットやチラシ等を配置した。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、『かるちやる通信』(紙面)の配置は休止とした。 ・サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目) ・イオンモール札幌平岡(札幌市清田区平岡3条5丁目3-1)
ウェブサイトの運営	当館ウェブサイト内の「かるちやる net」のページから情報発信を行った。
その他	北海道立教育研究所が退会し、北海道立文書館が新規加入した。

②CISE ネットワーク

2020年度活動概要

項目	摘要
CISEサイエンスフェスティバル	昨年度まで実施していたCISEサイエンスフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度は行われなかった。
その他事業	とくに実施されなかった。

③生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

2020年度活動概要

項目	摘要
クイズラリー	昨年度まで実施していた「いきものつながりクイズラリー」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加各機関のウェブサイトを巡ってクイズに答え、クロスワードパズルを完成させる「いきものつながりオンラインクイズラリー2020」として実施された。当館は、例年どおり第5テーマからクイズを出題した。 実施期間：2020年7月23日～8月31日

④周辺地域とのネットワーク会議への参加

2020年度ネットワーク会議参加

項目	摘要
あつべつ区民協議会	第8期委員(2019-20年度)：水島未記学芸主幹。※2020年度より甲地利恵研究主幹
三笠ジオパーク推進協議会	昨年度まで出席していた定期総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催となった。書面表決書を送付した。

12 情報発信

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などをより多くの人に知っていただくためには、さまざまな広報活動が欠かせません。当館では、当館の役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、館自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、館の資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいます。広報は学芸部道民サービスグループ、情報発信は学芸部博物館基盤グループを中心に業務を担っています。

※広報・利用促進は「8 広報」の項を参照のこと。

北海道博物館情報システムの管理

当館の情報システムは、資料情報を管理する資料管理システムを核とし、インターネットで広報・情報発信を行うためのサーバー及びウェブサイト、アイヌ語音声資料をインターネット上で検索・視聴できる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」、図書室の蔵書管理のための図書管理システム、重要なデジタルデータの保管に用いるファイルサーバー、専用端末及び回線により構成され、一体的な管理運用を行っています。データの安全な保存とセキュリティ対策の強化に努めるとともに、システムの設計や、情報公開のあり方、関係機関とのネットワーク構築についての検討も進めています。

博物館基盤情報のアーカイブ化と発信

利用者の「知りたい」気持ちに応えるためには、利用者に提供する情報の質と量の向上を図る必要があります。資料情報の内容を充実させるため、学芸職員による資料の調査研究、写真撮影、目録整備を推進し、資料情報や画像データの資料管理システムへの入力などによる資料情報の基盤整備に努めています。また、旧北海道開拓記念館・旧アイヌ民族文化研究センターを含め、過去の各種刊行物・広報物のデジタル化を進め、資料、調査研究、展示、教育など博物館活動に関するあらゆる情報のアーカイブ化により、記録保存と情報発信機能の強化に努めています。

一方、構築した基盤情報は、図書室等でのレファレンスでの活用や、ウェブサイトでの公開を進めています。

図書室の運営と収蔵図書の充実

図書室には閲覧スペース、図書カウンターを設置しています。閲覧スペースには、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌、図録などを配架するとともに、映像や音声などが視聴できるスペースや、企画展やクロージアップ展示開催にあわせて、展示に関連する図書を配架するコーナーを設けています。

図書カウンターでは、総合展示、博物館の資料を含め、北海道の自然・歴史・文化に関する利用者からの質問に対応しています。また、より充実した対応ができるよう、専門的な研究用図書や利用者の学習支援に有用な図書の購入を行っています。

図書室では、当館の刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料（専門書・一般書、道内外の博物館等の刊行物）を所蔵しています。これらの図書資料は、主に書庫で管理し、その一部を図書室内の閲覧スペースに配架しています。

レファレンス機能の強化

利用者からの展示や資料に関する質問は、総合展示室1階・2階の情報デスクなどで解説員が対応し、より深く「知りたい」利用者には、図書室へ案内したり、専門分野の学芸職員に連絡をし、個別に対応しています。また、北海道の自然・歴史・文化に関する電話などでの問い合わせにも対応しています。

当館は、北海道立の総合博物館のため、電話での問い合わせの件数は多く、個人、報道機関関係者などさまざま利用者から、さまざまな問い合わせが寄せられます。多種多様な問い合わせの担当職員への取り次ぎや、特定職員に問い合わせが集中するなどの問題が課題となっています。利用者にとストレスを与えないスムーズな受け答えを可能にするための対応策を検討する必要があります。

また、利用者の「学習アクセス」をより効率化するための関係機関とのネットワーク構築も課題となっています。

※当館では、図書室または学芸職員が対応するものをレファレンスとして集計し、展示室での解説員等による対応は「5 教育普及事業」の「利用者対応」で集計しています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

12 情報発信

所	管	博物館基盤グループ 社会貢献グループ	業務責任者	博物館基盤グループ学芸主幹 水島未記 社会貢献グループ学芸主幹 甲地利恵
---	---	-----------------------	-------	---

年度計画（2020年度）

<p>(1)情報発信機能の強化（博物館基盤グループ所管） ○情報システムの更新による北海道博物館の資料情報の管理・発信（資料情報の一元管理、データの安全な保存、情報セキュリティ対策の実施、情報へのアクセス機能の向上） △情報システムを活用した関係機関とのネットワーク構築に向けての検討・取組 △【新規】『北海道博物館資料目録』の刊行計画の作成</p> <p>(2)道民の「知りたい」気持ちへの支援（社会貢献グループ所管） ○図書室の充実〔年間利用者見込3,500人程度（うち図書室のみの利用者35人程度）、年度末時蔵書数見込153,000冊程度〕 ・北海道の自然・歴史・文化についての道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入 ・北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入 ・図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 ・企画展示および総合展示の理解を深めるための図書の展示を充実 ○レファレンス機能の強化〔年間見込560件程度〕 ・さまざまな機関、個人からの問い合わせに対し、北海道博物館の専門性と博物館ネットワークを活用し真摯に対応 写真提供〔年間見込120件程度〕 レファレンス〔年間見込420件程度〕 アンケートへの協力、その他〔年間見込20件程度〕 △【新規】レファレンス数の拡充に向けた広報の検討・取組 △多様な方法による多様な分野に関わる問い合わせに対し、利用者にストレスを与えないスムーズな受け答えを可能にするための対応策を検討</p>

(1)情報発信機能の強化

①北海道博物館情報システムの更新

2020年度は、情報システムの5か年運用期間満了にともない、北海道博物館情報システムの更新を行った。更新にあたっては効率化と防災の観点から、システム全体のクラウド化を進めた。また収蔵庫などバックヤードまわりのWi-Fi環境の整備を実施し、収蔵庫内全域でシステムを利用可能になった。

②資料情報の登録・更新

2020年度は、北海道博物館情報システムの更新を行い、従来の収蔵資料管理や資料情報入力、検索方法などのあり方を見直し、資料管理システムを一新し管理者および利用者の利便性の向上に努めた。

2020年度資料情報の登録・更新

	当年度（2020年度）	前年度（2019年度）
資料管理システム累計登録件数	204,930件	204,170件
うち新規登録件数	762件	935件
資料情報（データ）更新件数	※	1,303件
ウェブサイト公開件数	10,786件	10,789件

※北海道博物館情報システムの更新により集計せず。

③資料情報の活用・他機関との連携

当館は、当館資料管理システムと他機関が構築・公開するシステムとの連携を積極的に進めている。現在は北海道立図書館の「北方資料デジタルライブラリー」に横断検索参加館として参加しているほか、資料管理システム「I.B.MUSEUM SaaS」を利用する全国の博物館の資料情報が横断検索できるシステム「MAPPS Gateway」に参加し、資料情報の効果的な発信と利活用の促進に努めている。

④資料目録の刊行 0件

資料目録の中長期的な刊行計画を作成するため、各研究グループへ検討を依頼した。

⑤その他（博物館基盤情報のアーカイブス化）

当初計画外の事項として、旧北海道開拓記念館や旧アイヌ民族文化研究センターが印刷・発行した刊行物や写真等のデジタル化を推進するなどの博物館基盤情報のアーカイブス化と、その公開・発信に向けた検討が必要であることを懸案事項として確認した。具体的な進め方については、次年度以降に検討することとした。

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

① 図書室の運営

2020年度図書室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室利用者数	71	26	191	233	495	299	348	265	107	173	261	346	2,815
うち図書室のみ	3	0	1	2	1	0	1	0	1	5	0	3	17

2020年度新規受入図書数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受入図書数													
単行本図書	31	0	29	11	0	0	3	8	9	2	8	187	288
雑誌	9	20	12	13	4	11	22	10	37	19	16	10	183
博物館関係出版物	155	30	74	98	65	52	125	34	103	89	64	98	987
除籍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	195	50	115	122	69	63	150	52	149	110	88	295	1,458
図書資料数累計	156,351	156,401	156,516	156,638	156,707	156,770	156,920	156,972	157,121	157,231	157,319	157,614	157,614

② 図書紹介コーナーの展示

総合展示クローズアップ展示の入れ替えに合わせて、関係図書等の紹介コーナーを設けた（入替回数6回）。また、特別企画展「北海道の恐竜」の開催に合わせて、関係図書（図鑑、絵本、研究書等）の紹介コーナーを設けた。

③ レファレンス対応

2020年度レファレンス対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	目標達成度		
レファレンス対応総件数	9	14	21	25	21	25	22	16	8	19	23	18	221	0.08%		
程度別内訳	30分未満の対応	6	4	8	13	10	11	9	7	2	7	15	8	100		
	30分以上の対応	3	10	13	12	11	14	13	9	6	12	8	10	121		
状況別内訳	来館	図書室	0	1	1	5	0	1	1	3	0	0	1	2	15	
		学芸職員対応	1	0	4	6	2	5	7	4	1	4	1	1	36	
	非来館	電話	5	10	11	11	15	15	12	2	4	11	15	13	124	
		その他(メール等)	3	3	5	3	4	4	2	7	3	4	6	2	46	
利用者別内訳	来館	個人	0	1	3	9	2	6	6	4	1	4	2	3	41	
		その他	1	0	2	2	0	0	2	3	0	0	0	0	10	
	非来館	個人	5	8	4	9	12	11	3	4	4	7	3	10	80	
		報道機関	0	3	8	3	4	2	5	1	1	5	9	2	43	
内容別内訳	その他	3	2	4	2	3	6	6	4	2	3	9	3	47		
	自然研究関連	0	1	2	0	2	0	4	2	0	4	2	1	18		
	歴史研究関連	1	2	10	8	8	9	2	6	2	3	7	7	65		
	生活文化研究関連	0	2	0	3	1	2	3	0	1	2	4	0	18		
	アイヌ文化研究関連	6	9	9	14	10	13	12	6	4	8	9	7	107		
	博物館研究関連	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4		
その他	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	9			

※レファレンスの目標値(5年間)：2,800件

13 人材育成機能の強化と社会貢献

職員の専門的知識及び教育普及活動等の技能の向上を図るために、館外で実施される研修会などへの当館職員の派遣・参加を行っています。また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などの研修協力や各種委員の派遣、博物館実習生の受け入れなどを行っています。

博物館実習生・インターンシップなどの受け入れによる人材育成

当館の館務の体験による博物館活動への深い理解と必要な技術習得の普及を目的に、学芸員資格取得をめざす大学生を博物館実習生として積極的に受け入れ、将来の博物館経営を担う人材の育成に取り組んでいます。また、短期・中期に人材を受け入れ、当館学芸職員が研修を行うインターンシップや、中学校、高校、大学のカリキュラムの一環として行われる職場体験、見学実習等についても積極的に受け入れています。

博物館実習	<ul style="list-style-type: none"> 対象：学芸員資格取得をめざす大学生(学芸員資格取得科目「博物館実習」等履修生) 実習期間：10日間程度(実習日数は当館が指定します。実習日数の変更は認めておりません) 実施回数・募集人数：年1回・20人程度(状況により変更する場合があります) 実施時期：8月中旬～下旬ごろ 実習内容：館務の概要(講義)、館内施設見学、資料整理、普及行事の企画・準備、利用者調査、グループによるミニ展示制作等
インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> 対象：博物館等の施設に勤務し、学芸員としての専門的知識・技術の習得を必要とする方、または当館学芸職員の専門的研究に関する指導を必要とする方 受入期間：数日程度～1年以内 内容：学芸員としての館務の研修、専門分野の論文・研究指導など
職場体験	<ul style="list-style-type: none"> 対象：中学校、高校の職場体験で学芸員の仕事の体験を希望する生徒、教職員研修・企業研修などで博物館学芸員の仕事の体験を希望する方 実習期間：数時間～1日程度 内容：館務の概要(講義)、館内施設見学など
見学実習	<ul style="list-style-type: none"> 対象：当館博物館活動や学芸職員の仕事の内容を総合的に理解することを目的に、大学の「博物館実習」などの授業の一環で当館を利用される団体 実習期間：数時間～1日程度 実習内容：館務の概要(講義)、館内施設見学など

外来研究員の受け入れ

博物館学や北海道の自然・歴史・文化に関する研究に精通した研究者(大学卒業程度以上)を外来研究員として受け入れ、当館の資料整理、調査研究、展示、教育普及などの活動を当館学芸職員とともに担っていただく制度の構築に向け、検討を行っています。

当館職員の資質向上

博物館職員としての知識・技術の向上に資する研修会等へ職員を派遣し、当館職員の人材育成に努めています。

職員の対外貢献

- ①人材育成事業への貢献：大学において開講されている学芸員資格取得関係科目や、北海道の自然・歴史・文化に関する専門科目などに非常勤講師として当館職員を派遣し、人材育成に努めています。また、文化技術の担い手育成などを目的とする各種団体への技術指導なども行っています。
- ②社会貢献：当館学芸職員の知識・技術、研究成果などを広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などが主催する研修会・講演会などへの講師派遣、各種委員等への委嘱、学術的な専門的知見や情報の提供(指導助言・監修など)、執筆依頼への協力を行っています。

外部機関との事業連携・協力

当館の利用促進、及び北海道の自然・歴史・文化や博物館活動の普及啓発に寄与する他機関・他団体主催の諸事業への協力を行っています。

※上記目的外で、単に営利を目的とする事業への協力は、公共施設という性格上行っていません。

【対象】文化施設(博物館・図書館など)、行政機関(国・都道府県・市町村など)、学術団体(学会・研究会など)、民間企業、市民団体
 【諸事業の例】後援名義、展示協力・監修、研修、スタンプラリー事業、印刷物の配置、資料情報の提供、ポータルサイトへのリンク

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

13 人材育成機能の強化と社会貢献

所	管	企画グループ 社会貢献グループ	業務担当者	企画グループ学芸主幹 池田貴夫 社会貢献グループ学芸主幹 甲地利恵
---	---	--------------------	-------	--------------------------------------

年度計画（2020年度）

<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ○博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間20人程度] ○職場体験・見学実習の受入れ [年間10件・延べ100人程度]</p> <p>(2) 外来研究員の受入 △外来研究員(外部研究者や大学院生等)の受入に関する検討・取組・制度整備</p> <p>(3) 当館職員の資質向上 ○博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の派遣 [年間見込10件、延べ20人程度]</p> <p>(4) 職員の対外貢献 ○招待講演(講座・講演会)等への職員派遣、各種委員・非常勤講師等への就任、学術的な協力(指導助言等)・執筆依頼等 [年間150件程度]</p> <p>(5) 外部機関との事業連携 ○他機関等との連携・協力 [年間20件程度]</p> <p>(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 ○「北海道総合計画」(平成28年度～令和7年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・公表を推進 ○アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する研究の推進 ▲【重点/新規】権太記憶継承事業の展開計画の作成 ▲【重点/新規】北海道開拓記念館開館50年(2021年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(2021年)、北海道開拓の村開村40年(2023年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(2024年)を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組</p>

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

2020年度の博物館実習は、20名を上限として募集し、8月に10日間の日程で、14名を受け入れた。インターンシップ、職場体験、見学実習は、申し込みがなかった。

2020年度博物館実習(館務実習)の受入 14名

日	程	2020年8月18日(火)～28日(金) 10日間		
実習生内訳		学年別内訳：大学3年生3名、大学4年生8名、大学院生3名 地域別内訳：道内10名、道外4名		
プログラム	実施日	実習内容		対応
	第1日目	8月18日	施設・設備の見学と資料保存に関する課題の検討	社会貢献グループ
	第2日目	8月19日	生活関係資料の受入・整備	生活文化研究グループ
	第3日目	8月20日	文書資料の整理作業等	歴史研究グループ
	第4日目	8月21日	博物館の資料管理とデータベース、推薦図書のPOP作成など	博物館研究グループ
	第5日目	8月22日	自然観察会の企画と実施	自然研究グループ
	第6日目	8月23日	綿布団づくり、アイヌ衣服の整理作業など	アイヌ文化研究グループ
	第7日目	8月25日	展示制作実習 (企画づくり)	社会貢献グループ
	第8日目	8月26日	展示制作実習	社会貢献グループほか
	第9日目	8月27日	展示制作実習	社会貢献グループほか
第10日目	8月28日	展示発表会、総括・意見交換など	社会貢献グループほか	

2020年度インターンシップの受入 0名

期間	所属・氏名	内容	対応者

2020年度職場体験の受入 ※5件受入予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

実施日・期間	団体名・学年	研修名	人数	内容
7～8月ごろ	北海道教育長石狩教育局教育支援課 在職2年の教員	初任段階教員研修	中止	

実施日・期間	団体名・学年	研修名	人数	内容
9月9日	札幌市立高等学校(藻岩高校2年・新川高校2年・清田高校1年)	札幌市立高校「職場体験学習」1日コース	中止	
9月16日	札幌市立高等学校(平岸高校2年・旭丘高校1年)	札幌市立高校「職場体験学習」1日コース	中止	
11月4日～5日	札幌市立高等学校(平岸高校2年・旭丘高校1年)	札幌市立高校「職場体験学習」2日コース	中止	
11月12日～13日	札幌市立高等学校(大通高校2年)	札幌市立高校「職場体験学習」2日コース	中止	

2020年度見学実習の受入 3件、19名

実施日・期間	団体名	人数	内容
7月25日	北翔大学「博物館実習」履修学生	3名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
10月30日	北海道大学「博物館実習」履修学生	8名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
11月8日	苫小牧駒澤大学「博物館実習」履修学生	8名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

(2) 外来研究員の受入

外来研究員制度の立ち上げには、外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受け入れに関する規定類の整備などの検討が必要なことから、研究実施体制や組織体制の改変も視野に入れつつ、前年度に引き続き、中長期的な視点で検討を継続していくこととなった。

(3) 当館職員の資質向上

2020年度職員の研修 9件 10名

研修名	主催	研修内容	期間	研修場所	受講職員
デジタルアーカイブ推進コンソーシアム(DAPCON)シンポジウム	デジタルアーカイブ推進コンソーシアム	Out-of-commerce コンテンツをビジネス活用する—公共利用を基盤として—	9月25日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子 鈴木あずみ
第25回ビジネスアーキスト研修講座	企業史料協議会	アーカイブズの意義とアーキストの役割	10月1日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
第25回ビジネスアーキスト研修講座	企業史料協議会	社史とアーカイブズ概論	10月14日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
令和2年度文化財防災研究会	独立行政法人国立文化財機構	文化財レスキューと心理社会的支援	10月19日	国立アイヌ民族博物館	田中祐未
第25回ビジネスアーキスト研修講座	企業史料協議会	社風に応じた企業アーカイブズ—企業史料を現在と未来に活かす—	10月30日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
第22回図書館総合展 ONLINE	図書館総合展運営委員会	機関リポジトリについて考えよう！アーカイビングポリシーデータベース連携と制限公開からみる将来像(プログラム主催:国立情報学研究所)	11月6日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
第22回図書館総合展 ONLINE	図書館総合展運営委員会	NDCをめぐる三つのハテナ(プログラム主催:株式会社樹村房)	11月11日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
第25回ビジネスアーキスト研修講座	企業史料協議会	デジタル資料の管理と活用 基礎と応用	11月17日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子
第25回ビジネスアーキスト研修講座	企業史料協議会	企業ミュージアム概論	12月4日	北海道博物館(オンライン)	櫻井万里子

(4) 職員の対外貢献

① 職員の各種委員・非常勤講師等への就任

2020年度各種委員への就任 37件

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
水島未記	評議員	公益財団法人北海道新聞野生生物基金評議員	公益財団法人北海道新聞野生生物基金	2018年6月8日～2022年5月31日
水島未記	委員	第8期あつべつ区民協議会	あつべつ区民協議会	2019年6月1日～2020年5月31日
水島未記	構成員	北海道恐竜・化石ネットワーク研究会構成員	北海道総合政策部地域創生局地域政策課	2020年7月10日～
水島未記	委員	札幌市環境影響評価審議会	札幌市	2020年8月9日～2022年8月8日
水島未記	監事	特定非営利活動法人ストラディングネットワーク北海道	特定非営利活動法人ストラディングネットワーク北海道	2020年11月19日～2022年12月31日

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
表溪太	委員	北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	北海道教育委員会	2020年5月1日～2024年3月31日
圓谷昂史	委員	北広島市旧島松駅通所整備基本計画検討委員会	北広島市教育委員会	2020年9月29日～計画策定(2021年度中)
三浦泰之	委員	石狩市文化財保護審議会(文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議)	石狩市教育委員会	2020年5月1日～2022年4月30日
三浦泰之	委員	令和3年度アイヌ工芸品展企画委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2020年10月21日～2022年3月31日
三浦泰之	委員	平取町文化的景観に関する有識者・学識者意見交換会	平取町	2020年10月21日～2021年3月19日
右代啓視	委員	江別市文化財保護委員会	江別市教育委員会	2018年8月1日～2020年7月31日
右代啓視	委員	標津町文化財保存活用検討委員会	標津町教育委員会	2019年7月31日～2021年3月31日
右代啓視	委員	江別市文化財保護委員会	江別市教育委員会	2020年8月1日～2022年7月31日
田中祐未	委員	令和3年度アイヌ工芸品展企画委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2020年10月21日～2022年3月31日
尾曲香織	委員	北海道博物館協会あり方検討会	北海道博物館協会	2020年8月26日～2021年7月31日
舟山直治	委員	小樽市文化財審議会	小樽市教育委員会	2019年11月8日～2021年10月31日
舟山直治	調査員	文化庁より特に指定された専門的事項に関する調査	文化庁文化財第一課	2020年5月1日～2021年3月31日
堀 繁久	アドバイザー	北海道新幹線(新青森・札幌間(環境影響評価 事後調査)国土交通大臣意見対応)について、貴重な昆虫類に関する今後の調査方針、調査計画及び環境保全措置の内容等についてのアドバイザー	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局	2020年5月8日～2021年3月31日
堀 繁久	構成員	北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議昆虫専門部会	北海道環境生活部	2020年6月22日～2021年3月31日
小川正人	研究協力員	北海道立北方民族博物館の研究協力員	北海道立北方民族博物館	2018年7月24日～2022年3月31日
小川正人	委員	展示プロジェクト「〈教え〉と〈学び〉の日本近代史」	大学共同利用機関法人人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館)	2020年4月1日～2021年3月31日
小川正人	共同研究員	令和2年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員・「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」	大学共同利用機関法人人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館)	2020年4月1日～2021年3月31日
小川正人	専門委員	北海道史編さん委員会	北海道総務部	2020年6月25日～2022年6月24日
小川正人	構成員	北海道の文化観光の推進に関する協議会	北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	2020年6月26日～2021年3月31日
小川正人	委員	国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会	国立アイヌ民族博物館	2020年9月1日～2021年3月31日
小川正人	構成員	国立アイヌ民族博物館運営会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2020年11月19日～2022年3月31日
小川正人	委員	「北の絵コンテ大賞」アニメーション動画制作委託事業にかかるプロポーザル審査会	北海道環境生活部文化局	2020年12月25日
甲地利恵	委員	札幌市文化財保護審議会	札幌市市民文化局	2019年4月1日～2021年3月31日
甲地利恵	研究協力員	北海道立北方民族博物館の研究協力員	北海道立北方民族博物館	2018年7月24日～2022年3月31日
甲地利恵	委員	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員会	北海道立北方民族博物館	2019年4月1日～2021年3月31日
甲地利恵	委員	第8期あつべつ区民協議会	あつべつ区民協議会	2020年6月1日～2021年6月
甲地利恵	委員	「北の絵コンテ大賞」アニメーション動画制作委託事業にかかるプロポーザル審査会	北海道環境生活部文化局	2020年12月25日
大坂 拓	編集委員	上ノ国町史編さん編集委員	上ノ国町教育委員会	2019年12月28日～2023年3月31日
大坂 拓	委員	令和3年度アイヌ工芸品展企画委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2020年9月14日～2022年3月31日
大坂 拓	委員	アイヌ工芸品展中長期計画策定委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2020年9月14日～2021年3月31日
大坂 拓	特別客員准教授	学術資源研究開発センター・「近現代におけるアイヌの物質文化の変容に関する研究」	国立民族学博物館	2020年4月1日～2021年3月31日
亀丸由紀子	委員	令和3年度アイヌ工芸品展企画委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2020年9月14日～2022年3月31日

2020年度非常勤講師への就任 13件

氏名	講義科目	大学名	委嘱期間	授業実施日
添田雄二	自然科学入門Ⅰ	北海道教育大学岩見沢校	2020年4月10日～9月30日	前期、月曜日・5講目
三浦泰之	博物館展示論	札幌大学	2020年4月6日～9月14日	前期、月曜日・2講目
三浦泰之	歴史資料論B	藤女子大学	2020年9月12日～2021年3月12日	後期、月曜日・3講目
東 俊佑	博物館教育論	北海学園大学	2020年9月19日～2021年3月18日	後期、金曜日・7講目(夜間)
右代啓視	博物館展示論	札幌学院大学	2020年4月14日～9月30日	前期、水曜日・6講目(夜間)
右代啓視	考古学	北海道教育大学札幌校	2020年4月14日～9月30日	前期、月曜日・4講目
右代啓視	博物館展示論	東海大学	2020年4月14日～2021年3月31日	前期、月曜日・2講目
右代啓視	博物館実習Ⅰ	東海大学	2020年4月14日～2021年3月31日	後期、3日間・集中講義
池田貴夫	博物館実習Ⅲ	北海学園大学	2020年4月1日～2021年3月31日	後期、木曜日・7講目(夜間)
池田貴夫	寒冷地生活支援看護学特論	札幌市立大学	2020年4月1日～2021年3月31日	9月の2日間(3コマ)
舟山直治	民俗学A	札幌学院大学	2020年4月14日～9月30日	前期、月曜日・4講目
舟山直治	民俗学B	札幌学院大学	2020年9月23日～2021年3月31日	後期、月曜日・4講目
舟山直治	北海道の文化	北翔大学	2020年9月24日～2021年3月31日	後期、月曜日・1講目

②職員の派遣

2020年度職員派遣 39件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
添田雄二	会議出席	発掘50周年記念事業打合せ及び足跡化石発掘調査の事前協議	忠類ナウマン象発掘50周年記念事業	忠類ナウマン象記念館(幕別町)	幕別町教育委員会	7月7日～7月8日
添田雄二	指導	ナウマンゾウ足跡化石発掘調査の実施・指導	忠類ナウマン象化石発掘50周年記念事業	忠類ナウマン象記念館(幕別町)	幕別町教育委員会	10月18日～23日
添田雄二	指導	ナウマンゾウ足跡化石発掘調査の実施・指導	忠類ナウマン象化石発掘50周年記念事業	忠類ナウマン象記念館(幕別町)	幕別町教育委員会	10月25日～29日
添田雄二	協力	発掘50周年記念事業の特別展撤収業務	忠類ナウマン象化石発掘50周年記念事業	忠類ナウマン象記念館(幕別町)	幕別町教育委員会	11月4日～5日
圓谷昂史	協力	展示設営作業	第13回「地質の日」記念展「北海道に地震」	北海道大学総合博物館	「地質の日」記念展実行委員会	5月15日
圓谷昂史	同行	海岸漂着物物の現地調査	北海道新聞社の取材	石狩の海岸	北海道新聞社くらし報道部	7月3日
圓谷昂史	講師	海岸漂着物からプラスチックを考える～プラスチックスマート、私たちができること～	令和2年度公開講座(くらしのセミナー)	北海道立消費生活センター(札幌市)	北海道立消費生活センター 指定管理者(一社)北海道消費者協会	7月8日
圓谷昂史	協力	展示撤収作業	第13回「地質の日」記念展「北海道に地震」	北海道大学総合博物館	「地質の日」記念展実行委員会	7月9日
圓谷昂史	講師	博物館学概論	エコミュージアム普及推進事業「まちを好きになる市民大学」	広葉交流センター(北広島市)	北広島市教育委員会	8月8日
圓谷昂史	講師	博物館の展示と調査研究：海洋プラスチックを含む海岸漂着物を題材に	さっぽろ市民カレッジ2020	ちえりあ(札幌市)	札幌市教育委員会	10月9日
圓谷昂史	講師	「海岸漂着物からプラスチックゴミを考える～今、私たちができること～」	消費者学習会	芽室駅前プラザめむろーど(芽室町)	芽室消費者協会	1月28日
三浦泰之	講師	歴史担当学芸員からみた、北海道の美術史について	令和2年度美術講座プレミアム	北海道立近代美術館(札幌市)	一般社団法人北海道美術館協力会	10月22日
三浦泰之	会議出席	調査及び検討会	様似町指定文化財「矢本家文書」の資料調査	様似町中央公民館(様似町)	様似町教育委員会	10月30日～31日
三浦泰之	講師	3つのキーワードでひもとく松浦武四郎の生涯と人物像	アイヌ民族文化祭2020	民族共生象徴空間ウポポイ(白老町)	公益社団法人北海道アイヌ協会	11月7日
三浦泰之	講師	北海道の歴史	大麻東小学校4年生特別講演	江別市立大麻東小学校(江別市)	江別市立大麻東小学校	11月13日
三浦泰之	講師	記録でふりかえる豊平館のあゆみ	札幌市豊平館「豊平館誕生140年記念講座」	札幌市豊平館(札幌市)	札幌市豊平館 指定管理者 一般財団法人北海道歴史文化財団	1月24日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
鈴木琢也	同行	オホーツク海沿岸の古代文化にかかわる調査	科学研究費基盤研究(B)「官衙機構の動態からみた日本古代境界領域の特質」に関わる調査協力	紋別市立博物館(紋別市)、北海道立オホーツク流水科学センター(紋別市)、オホーツクミュージアムえさし(枝幸町)、稚内市北方記念館(稚内市)、稚内樺太記念館(稚内市)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	7月29日～8月1日
鈴木琢也	講師	北海道の歴史	令和2年度北海道職員研修「新採用職員Ⅰ(後期)」(第3回)	札幌コンベンションセンター(札幌市)	北海道知事	10月7日
鈴木琢也	講師	北方四島の遺跡と擦文文化	第7回カリンバ講演会	恵庭市市民会館(恵庭市)	恵庭市教育委員会	12月5日
山田伸一	講師	北海道の歴史	令和2年度北海道職員研修「新採用職員Ⅰ(後期)」(第1回)	札幌コンベンションセンター(札幌市)	北海道知事	9月3日
山田伸一	会議出席	打合せと会場予定施設の調査	第59回北海道博物館大会(白老町)にかかわる打合せ	国立アイヌ民族博物館(白老町)	北海道博物館協会	10月29日
山田伸一	講師	一歴史研究者から見た河野常吉	市立小樽文学館特別展河野常吉展 特別講座	市立小樽文学館(小樽市)	市立小樽文学館	12月20日
東 俊佑	講師	北海道の歴史	令和2年度北海道職員研修「新採用職員Ⅰ(後期)」(第2回)	北海道自治労会館(札幌市)	北海道知事	9月4日
右代啓視	講師	北の縄文道民会議バスツアー講師(訪問先での縄文文化に関する解説等)	縄文遺跡群ツアー	北海道内世界遺産推薦候補の縄文遺跡など(千歳市、伊達市、洞爺湖町、森町、函館市)	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	10月3日～10月4日
右代啓視	講師	北海道の歴史	令和2年度北海道職員研修「新採用職員Ⅰ(後期)」(第4回)	札幌コンベンションセンター(札幌市)	北海道知事	10月14日
右代啓視	講師	北の縄文道民会議バスツアー講師(訪問先での縄文文化に関する解説等)	縄文遺跡群ツアー	北の縄文遺跡など(名寄市、浜頓別町、枝幸町)	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	10月31日～11月1日
山際秀紀	協力	研修会の運営補助	2020年度ミュージアムマネージメント研修会	札幌市円山動物園(札幌市)	北海道博物館協会	11月6日
尾曲香織	講師	女性と食事～女性による食事と地域のつながり	厚沢部町郷土学講座	厚沢部町町民交流センターあゆみ(厚沢部町)	あっさぶ文化遺産調査プロジェクト	8月14日
舟山直治	会議出席	打合せと会場予定施設の調査	第59回北海道博物館大会(白老町)にかかわる打合せ	国立アイヌ民族博物館(白老町)	北海道博物館協会	10月29日
鈴木あすみ	講師	標本作製指導	科学部のための標本作製講座	札幌啓成高校(札幌市)	札幌啓成高校 科学部	3月26日
鈴木明世	講師	開拓の村整備事業紹介：開拓の村のこれまでとこれから	さっぽろ市民カレッジ2020	ちえりあ(札幌市)	札幌市教育委員会	10月9日
鈴木明世	講師	北海道博物館の取り組み・改修事例について	北海道ヘリテージ・マネージメント専門職育成講座	北海道開拓の村	北海道文化遺産活用活性化実行委員会	10月10日
渋谷美月	講師	「おうちミュージアム」の事例発表	令和2年度博物館長研修	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(東京都)	文化庁、国立教育政策研究所(社会教育実践研究センター)	10月1日
渋谷美月	講師	おうちミュージアムとしてネット上に現れた全国のミュージアムの学びのコンテンツ	アーバンデータチャレンジ2020全体イベント	室蘭市生涯学習センター(室蘭市)	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	11月14日
小川正人	講師	アイヌ民族の歩んだ近現代	高校3学年IR「国際社会講座」	立命館慶祥高等学校(江別市)	立命館慶祥中学校・高等学校	8月28日
小川正人	会議出席		国立アイヌ民族博物館ネットワーク会議	国立アイヌ民族博物館(白老町)	国立アイヌ民族博物館	9月5日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
小川正人	講師	北海道博物館における「アイヌ文化の世界」の展示に向けて	文化財・博物館関係団体の交流会	白老町コミュニティセンター(白老町)	文化財・博物館関係労組連絡会	9月19日
遠藤志保	協力	研修会の運営補助	2020年度ミュージアムマネージメント研修会	北海道立文学館講堂(札幌市)	北海道博物館協会	11月5日
大坂 拓	講師	製作技術から探るアイヌの編物—刀帯と荷縄	企画展「織る×編む シタイキ・オシケ・テセ〜釧路地方のアイヌ女性の手仕事〜」関連講演会	釧路市立博物館(釧路市)	釧路市立博物館	10月25日

③職員の外部執筆協力(広報をのぞく)

2020年度職員の外部刊行物等への執筆協力 29件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行月日	ページ
鈴木琢也	擦文文化と奥州藤原氏—北日本中世初期の交流史—(特集「北日本の中・近世史」)	『Arctic Circle (北海道立北方民族博物館・友の会季刊誌)』No.116	北海道立北方民族博物館・友の会	6月19日	4-9
東 俊佑	秦檜丸の遺産とその継承者たち	『アイヌをもっと知る図鑑：歴史を知り、未来へつなぐ(別冊太陽280)』	平凡社	5月20日	66-73
池田貴夫	北海道における博物館園の交流・連携(特集 博物館協会の役割)	『博物館研究』第55巻第9号	公益財団法人日本博物館協会	8月25日	19-22
渋谷美月	おうちミュージアムのはじまりとこれから(支部情報)	『博物館研究』第55巻第9号	公益財団法人日本博物館協会	8月25日	26-29
渋谷美月	大きなコミュニティとなったおうちミュージアム(特集 博物館の新たな魅力発信(2))	『博物館研究』第55巻第10号	公益財団法人日本博物館協会	9月25日	22-25
渋谷美月	臨時休館と学校休校をきっかけに始まった「おうちミュージアム」とは?	文化庁広報誌ぶんかる いきいきミュージアム～ミュージアムエデュケーションの視点から～	文化庁	9月30日	55
渋谷美月	コロナ禍をきっかけとした「おうちミュージアム」の試み	『歴史学研究』No.1004	歴史学研究会	1月15日	50-59
遠藤志保	「アイヌ語地名と木田金次郎」展の開催にあたって	『木田金次郎美術館ニュース 群暉』2020夏 Vol.100	群暉 オフィス	7月22日	3
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑫病魔よけの守護神 腰に刀、手にはヤリ 流行前に作る	朝日新聞 2020年4月1日 夕刊	朝日新聞社	4月1日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑬雑穀用の穂摘み具 女性が栽培・収穫暮らしを支える	朝日新聞 2020年4月8日 夕刊	朝日新聞社	4月8日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑭カジキ漁の銚先 裾が八の字 獲物に合わせ工夫	朝日新聞 2020年4月15日 夕刊	朝日新聞社	4月15日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑮仕掛け弓の部品 毒矢禁令 狩猟文化の変容語る	朝日新聞 2020年4月22日 夕刊	朝日新聞社	4月22日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑯河川用の魚突き鉤 獲物逃がさぬよう刺さると回転	朝日新聞 2020年6月17日 夕刊	朝日新聞社	6月17日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑰樹皮衣製の容器 縦に1枚剥いて折る 軽くて丈夫	朝日新聞 2020年6月24日 夕刊	朝日新聞社	6月24日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑱能登西雄のイナウ 「伝統」と近代交錯した時代を想像	朝日新聞 2020年8月5日 夕刊	朝日新聞社	8月5日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑲荷縄 伝統的な葬儀でも必需品	朝日新聞 2020年8月19日 夕刊	朝日新聞社	8月19日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ⑳戦後の荷縄 編み方を変え継承し続ける	朝日新聞 2020年8月26日 夕刊	朝日新聞社	8月26日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ㉑死者の脚絆 仕上げの一步手前で保管?	朝日新聞 2020年10月7日 夕刊	朝日新聞社	10月7日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ㉒死者の靴 東と西 系統ごとに違い	朝日新聞 2020年10月14日 夕刊	朝日新聞社	10月14日	-

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行月日	ページ
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○病気よけのお守り アホウドリの頭 骨包み窓や戸口に	朝日新聞 2020年10月21日 夕刊	朝日新聞社	10月21日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○天川恵三郎のイクパスイ 土地問題 に尽力した人生と共に	朝日新聞 2020年10月28日 夕刊	朝日新聞社	10月28日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○イオマンテの花矢 神の国に旅立つ クマを祝い射る	朝日新聞 2020年12月2日 夕刊	朝日新聞社	12月2日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○木幣の刻印 家系や神を示す印...で も、これは？	朝日新聞 2020年12月9日 夕刊	朝日新聞社	12月9日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○「又十」の椀 珍重された漆器、元は 労働対価	朝日新聞 2020年12月16日 夕刊	朝日新聞社	12月16日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○キセルの吸い口 彫っても崩れず熱 にも割れず	朝日新聞 2020年12月23日 夕刊	朝日新聞社	12月23日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○首飾りのガラス玉 大陸や和人と交 流 解明道半ば	朝日新聞 2021年2月3日 夕刊	朝日新聞社	2月3日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○首飾りの飾り板 合金製の特注品 驚きの軽さ	朝日新聞 2021年2月10日 夕刊	朝日新聞社	2月10日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○キケウシパスイ 祈りに一度だけ使う 特別な祭具	朝日新聞 2021年2月17日 夕刊	朝日新聞社	2月17日	-
大坂 拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 ○余市のイナウ 激動の時代 神々へ の祈りとともに	朝日新聞 2020年2月24日 夕刊	朝日新聞社	2月24日	-

④その他の対外貢献

2020年度その他対外貢献 20件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
表溪太	出演	シマフクロウについてのイン タビュー	ラジオ番組「世界の あこがれ～北海道ブ ランド」	エフエム北 海道(札幌 市)	株式会社エフエム北 海道	2月17日
圓谷昂史	講師	「漂着物からわかること」漂着 物の観察や分類」、質問・応答	北海道の漂着物と環 境問題に関する講話	北海道博物 館 講堂	古平町立古平中学校	11月6日
圓谷昂史	講師	北海道博物館の学校利用や見 学方法、または海洋漂着物を 用いた環境教育	「教職実践演習」にお けるオンライン講座	北海道博物 館(オンラ イン)	北海道教育大学札幌 校	11月上旬
三浦泰之	協力	プロジェクションマッピング・ 展示パネル等の校正・監修	様似町アポイ岳ビジ ターセンター展示改 修に係る監修	北海道博物 館	北海道地図株式会社	2月22日～3 月26日
鈴木琢也	協力	寄贈資料(石槍・薄片・両面調 整石器・石斧・化石・鉱石)の鑑 定	新十津川町開拓記念 館所蔵品の鑑定につ いて	北海道博物 館	新十津川町開拓記念 館	2月9日
山田伸一	専門的知 識の提供	サケ漁や土地に対するアイヌ 民族の権利の近代史について	「アイヌ民族の先住権 を考える集い」に先 立つ調査	北海道博物 館 応接室	日本共産党国会議員 団北海道事務所	9月1日
右代啓視	情報提供	文化資源プロジェクト「展示分 野(特別展など)／社会連携分 野」にかかる審査意見書作成		自宅等	国立民族学博物館	2021年1月15 日～2021年3 月31日
池田貴夫	出演	番組の事前打ち合わせと番組 収録(出演)	「一掘二掘三掘」(北 海道の文化について 取り上げる番組)の 制作	北海道博物 館 応接室、 総合展示室 2階	NHKエンタープライ ズ北海道支社	12月15日13 時～、12月 25日10時～
会田理人	講師	北海道を中心とする北方圏水 産業の歴史と現状	海洋水産学特別講義	北海道博物 館(オンデ マンド授業 による録画 の講義)	東京農業大学生物産 業学部海洋水産学科	12月7日～1 月31日

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
尾曲香織	出演	番組の事前打ち合わせと番組収録(出演)	「一掘二掘三掘」(北海道の文化について取り上げる番組)の制作	北海道博物館 応接室、総合展示室 2階	NHKエンタープライズ北海道支社	12月15日13時～、12月25日10時～
堀繁久	協力		厚真町の海岸に風力発電建設計画に関する昆虫類生息状況のヒアリング	北海道博物館	日本気象協会	10月11日
渋谷美月	講師	学校休校と臨時休館をきっかけに生まれた「おうちミュージアム」とは	日本地質学会「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」	北海道博物館(オンライン)	一般社団法人日本地質学会	9月27日
渋谷美月	講師	おうちミュージアムとしてネット上に現れた全国のミュージアムの学びのコンテンツ	アーバンデータチャレンジ2020全体イベント	北海道博物館(オンライン)	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会ほか	11月14日
渋谷美月	講師	全国のミュージアムがオンラインで手を組んだ「おうちミュージアム」の1年間	第68回日本生態学会大会・生態学教育フォーラム「コロナ禍で生物学の実験・実習はどう変わるか」	北海道博物館(オンライン)	日本生態学会生態学教育専門委員会	3月21日
小川正人	講師	アイヌ文化・アイヌ史に関する展示解説	大学一年生の入門演習	北海道博物館 講堂	札幌大学地域共創学群	7月30日
小川正人	講師	北海道博物館見学及び講義の実施	高校3学年IR「国際社会講座」	北海道博物館講堂	立命館慶祥中学校・高等学校	7月31日
小川正人	講師	アイヌの人びとの歴史と文化	北海道博物館での学外授業の講義「人類と文化」	北海道博物館 講堂	北海道武蔵女子短期大学教養学科	10月3日
遠藤志保	協力	アイヌ語について(質問への回答)	学校祭調査研究発表(総合学習)	北海道博物館	江別市立大麻東中学校	8月18日
遠藤志保	協力	プロジェクションマッピング・展示パネル等の校正・監修	様似町アポイ岳ビクターセンター展示改修に係る監修	北海道博物館	北海道地図株式会社	2月22日～3月26日
亀丸由紀子	講師	アイヌの人びとの歴史と文化	北海道博物館での学外授業の講義「人類と文化」	北海道博物館 講堂	北海道武蔵女子短期大学教養学科	10月3日

(5) 外部機関との事業連携

2020年度他機関との連携・協力 16件

種別	事業名	主催者・団体等	開催日・期間	会場・内容等
事業協力	北海道スマホスタンプラリー	NEXCO東日本 北海道支社	4月24日～3月31日	スタンプ取得ページ表示協力(スマホのGPS機能により自動的にページが表示されることの許可)
共催	第13回「地質の日」記念展「北海道に地震」	「地質の日」記念展実行委員会	5月16日～7月8日	北海道大学総合博物館1階展示室
事業協力	2020年度「北海道はゴールデンカムイを応援しています。」スタンプラリー3	公益財団法人北海道観光振興機構	6月19日～3月31日	1階ロビーにQRコード読み取りパネルを設置
出展	カルチャーナイト2020(オンライン開催)・「おうちミュージアム」を楽しもう!	カルチャーナイト実行委員会	7月17日～19日	動画配信
出展	サイエンスパーク・ファン	北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構	7月20日～8月31日	オンライン開催
参画	北海道・ロシア協力プラットフォーム	北海道総合政策部国際局国際課	8月6日～	-
事業協力	トヨタ自動車「ドライブスタンプラリー」	トヨタ自動車株式会社	9月1日～10月31日	QRコードの印刷されたポスターをグランドホールのガラス面に掲示(外側に向けて)
共催	北海道湿地フォーラム「シッチ・スイッチ2020」	日本湿地学会北海道支部	10月24日～25日	札幌市民交流プラザ
名義後援	松浦武四郎北海道命名150年記念・アイヌ民族文化祭2020	公益財団法人北海道アイヌ協会	11月7日	民族共生象徴空間ウポポイ

種別	事業名	主催者・団体等	開催日・期間	会場・内容等
事業協力	オンライン ウテカンパフェスティバル	文化庁	11月30日～3月31日	ポータルサイトに当館ウェブサイトへのリンク掲載許可など
事業協力	北海道・アルバータ州姉妹提携40周年記念巡回パネル展	北海道総合政策部国際局国際課	1月22日～2月7日	北海道博物館2階ロビー、ロイヤル・アルバータ博物館紹介コーナー付近にパネル10枚を設置
事業協力	ほっかいどう恐竜・化石カード	北海道総合政策部地域創生局地域政策課	2月12日～3月14日	「ほっかいどう恐竜・化石カード」の配置(特別展示室内)
撮影協力	道民カレッジ「大学インターネット講座」	道民カレッジ	2月26日	特別企画展「北海道の恐竜」展示資料の撮影立ち合い(特別展示室内)
撮影協力	恐竜レプリカの撮影作業	むかわ地域商社同会社 M Dino	3月16日	特別企画展「北海道の恐竜」展示資料の撮影立ち合い(特別展示室内)
事業協力	北海道・北東北の美術館・博物館ポータルサイト	北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	3月31日～	ポータルサイトに当館ウェブサイトへのリンク掲載許可
事業協力	忠類ナウマンゾウ化石発掘50周年記念事業	幕別町教育委員会		

(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

①研究・公表の推進

「北海道総合計画」(2016(平成28)年度～2025(令和7)年度)の政策の方向性「北海道独自の歴史・文化の発信と継承」の実現に向け、調査研究活動とそれに伴う展示活動、教育普及活動、研究成果発信活動等を実施した。

※詳細は、「2 展示」、「3 調査研究」、「5 教育普及」、「14 研究成果の発信」等を参照のこと。

②アイヌ文化の保存・伝承と振興の推進

※詳細は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」(110～116ページ)を参照のこと。

③樺太記憶継承事業の展開計画の作成

2020年度は、樺太連盟関係資料の受け入れ作業に終始し、具体的な展開計画を作成することはできなかった。

④野幌森林公園エリア活性化事業の実施計画の作成

※詳細は「16 4つのビジョン」の117～118ページを参照のこと。

14 研究成果の発信

学芸員・研究職員の個別研究課題、道費による研究プロジェクト、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。

当館刊行物による成果公表に関するものは学芸部研究戦略グループが中心となり、編集・刊行作業を進め、その他の当館以外の刊行物への寄稿や講師派遣に関するものは、職員の対外貢献に関するものとして、総務部企画グループで一括管理しています(「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の項を参照のこと)。

学術刊行物などの刊行

当館では、研究成果の定期刊行物として、『北海道博物館研究紀要』、および『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を毎年1回発行しています。また、道費による研究プロジェクトのなかで、報告書の刊行を念頭に研究計画をとりまとめ予算要求したものについては、成果報告書を刊行し、研究成果の還元に努めています。

定期刊行物

- ・『北海道博物館研究紀要』3月刊行、900部
- ・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3月刊行、900部

学術刊行物などの編集・企画

定期刊行物である『北海道博物館研究紀要』および『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集にあたっては、各研究グループから数名を選出して組織した「北海道博物館学術刊行物編集委員会」により、編集方針、掲載論考の選定、査読・校閲(外部に委託する場合もあり)などを行っています。また、定期刊行物以外の研究成果の発信方法についても、「調査研究ワーキングチーム」と連携しながら、望ましいあり方について検討を行っています。

学会・研究会等への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、当館の研究成果を積極的に発信しています。学会・研究会などからの依頼により発表・寄稿を行う場合と、職員が積極的に学会発表・学術雑誌への投稿を行う場合があります。職員が積極的に学会発表・投稿を行えるよう、職場として職員を支援する体制を構築することが課題となっています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

14 研究成果の発信

所 管	社会貢献グループ	業務責任者	社会貢献グループ学芸主幹 甲地利恵
-----	----------	-------	-------------------

年度計画（2020年度）

(1) 学術刊行物などの刊行

- 『北海道博物館研究紀要』第6号の刊行（3月刊行、900部）
- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号の刊行（3月刊行、900部）
- 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「北海道とサハリン（仮題）」研究成果報告書の刊行（3月刊行、900部）
- ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」を活用し、『北海道博物館研究紀要』ならびに『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保障【『研究紀要』編集委員会：年間5回程度、『センター研究紀要』編集委員会：年間5回程度】

(2) 学会への発信

- 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆【年間35件程度】
- 学会、研究会等での発表【年間20件程度】

(1) 学術刊行物などの刊行

2020年度は、『研究紀要』2冊の編集・刊行を行った。また、そのための「編集委員会」を定期的に開催した。研究プロジェクト「北海道とサハリン」研究成果報告書の刊行は、新型コロナウイルス感染症拡大による海外研究交流途絶のため刊行を見送った。北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などの刊行検討については、2021年度より新設の学芸部研究戦略グループにより進められることとなった。

『北海道博物館研究紀要』第6号（2021年3月25日発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
研究ノート	堀繁久・野村昭英	2020年秋に北海道へ飛来及び漂着したアカギカメムシ	1-10
研究ノート	東俊佑	北蝦夷地ウシヨロ場所アイヌの軽物上納	11-50
調査報告	水島末記・齋藤央・首藤光太郎・表溪太・小川貴由樹・森紘隆・内田暁友・武田忠義	徳富南湿原の植物相	51-66
調査報告	鈴木あすみ	博物館等施設に冷凍保管される鳥類遺体の状況調査—2020年度調査報告—	67-74
調査報告	会田理人（編）	『樺太日日新聞』掲載スペイン・インフルエンザ関係記事 目録と紹介	75-98
調査報告	舟山直治	旧樺太における野草を活用した手工—1910年代の大泊・留多加で行われた冬期の副業—	99-110
調査報告	鈴木明世	現サハリン南部における日本統治期建造物の残存状況について	111-126
調査報告	渋谷美月	全国のミュージアムと取り組んだ「おうちミュージアム」—参加ミュージアムを対象としたアンケート調査の結果報告—	127-138
資料紹介	尾曲香織・池田貴夫	留萌兼光の鋸と鋸製造用具—2020年度寄贈資料から—	139-154
博物館活動報告	鈴木明世	開拓の村建造物関係資料データベース化に向けた作業報告	155-160
博物館活動報告	杉山智昭	令和2年度 北海道博物館資料保存修復報告	161-182
研究ノート	山田伸一	開拓使による河川サケ漁の「テス網」と夜漁の禁止	183-200

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号（2021年3月25日発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
論文	大坂拓	後志地方の近代アイヌ社会と民具資料収集の射程—旧開拓使札幌本庁管下後志国9郡を対象として—	1-50
論文	安田千夏	アイヌ口承文芸（散文説話）にみる神の衣装表現について—アイヌ語アーカイブ資料の分析—	51-60
調査報告	大谷洋一・小川正人・遠藤志保	平賀サダ書誌	61-112
調査報告	大谷洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」—カッコウの神から守られた女—	113-130
調査報告	鈴木明世	沙流郡平取町二風谷に現存する明治40年建築のアイヌ家屋について	131-140
資料紹介	亀丸由紀子・大坂拓	2020年度新収蔵資料の紹介—山田秀三氏旧蔵アイヌ民具資料ほか—	141-160

2020年度北海道博物館研究紀要編集委員会 6回開催

編集委員長	堀繁久(学芸部長)
編集委員	小野寺誠司(副館長) 小川正人(研究部長) 水島未記(研究部自然研究グループ) 添田雄二(研究部自然研究グループ) 三浦泰之(研究部歴史研究グループ) 鈴木琢也(研究部歴史研究グループ) 池田貴夫(研究部生活文化研究グループ) 尾曲香織(研究部生活文化研究グループ) 堀繁久(研究部博物館研究グループ)※兼任 杉山智昭(研究部博物館研究グループ)
事務局	学芸部社会貢献グループ

2020年度北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要編集委員会 6回開催

編集委員長	小川正人(アイヌ民族文化研究センター長)
編集委員	中村亘(アイヌ民族文化担当副館長) 佐々木利和(北海道大学アイヌ・先住民族研究センター客員教授/北海道博物館非常勤研究職員) 奥田統己(札幌学院大学人文学部教授/北海道博物館非常勤研究職員) 甲地利恵(アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究主幹)
事務局	学芸部社会貢献グループ

(2)学会への発信

①学会・研究会等での発表(研究成果の自主的な発表)

2020年度学会・研究会での発表 5件

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場	備考
鈴木明彦・ 圓谷昂史	西南北海道黒松内地域の更新世岩石 穿孔性二枚貝とその生痕化石	日本貝類学会(令和2年度大会)	12月5日	オンライン	科研費研究 成果発表
山田伸一	アイヌ民族の川でのサケ漁はいつ禁 止されたのか	カムイチュエブ・プロジェクト・ 2020年の研究会(第3回)	7月17日	オンライン	
鈴木あすみ	冷凍鳥類遺体の情報共有から地域 ネットワークによる標本収集の仕組 みを模索する(ポスター発表)	日本生態学会第68回大会	3月19日	岡山(オンラ イン)	笹川科学研 究助成成果 発表
鈴木あすみ	鳥の標本をどう集めるかー冷凍庫調 査ははじめましたー	北海道自然史研究会(2020年度研 究大会)	2月21日	オンライン	笹川科学研 究助成成果 発表

※外部機関等からの依頼によるものは、「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の「②職員の派遣」(101～103ページ)及び「④その
他の対外貢献」(104～105ページ)に一括。

②学術雑誌等への投稿(研究成果の自主的な発表)

2020年度学術雑誌などへの投稿 8件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行日	ページ	備考
圓谷昂史・ 鈴木明彦	2019年秋季の北部北海道日本海側に おけるギンカクラゲの漂着	『漂着物学会誌』18	日本漂着物学会	12月1日	43-44	科研費研究 成果発表
鈴木明彦・ 圓谷昂史	西南北海道の更新統から産出した岩 石穿孔性生痕化石	『漂着物学会誌』18	日本漂着物学会	12月1日	29-30	科研費研究 成果発表
圓谷昂史・ 鈴木明彦	北海道奥尻島の打ち上げ貝類	『漂着物学会誌』18	日本漂着物学会	12月1日	19-26	科研費研究 成果発表
圓谷昂史・ 鈴木明彦	北海道古譚海岸における暖流系穿孔 二枚貝ハネマツカゼの漂着	『漂着物学会誌』18	日本漂着物学会	12月1日	35-36	科研費研究 成果発表
鈴木明彦・ 圓谷昂史	北海道焼尻島東浜海岸へ打ち上げら れたメガネカスベの卵殻	『漂着物学会誌』18	日本漂着物学会	12月1日	44-45	科研費研究 成果発表
鈴木明世	開拓使による洋風建築ー旧開拓使工 業局庁舎を事例にー「北海道開拓の 村」にみる木造建築 その1	『ウッディエイジ』 69(8)	一般社団法人北海 道林産技術普及協会	8月25日	1-6	科研費研究 成果発表
鈴木明世	住宅における和と洋の融合ー旧開拓 使爾志通(にしどおり)洋造家(白官 舎)を事例にー「北海道開拓の村」に みる木造建築 その2	『ウッディエイジ』 70(2)	一般社団法人北海 道林産技術普及協会	2月25日	8-14	科研費研究 成果発表

※外部機関等からの依頼によるものは、「13 人材育成機能の強化と社会貢献」の「③職員の外部執筆協力」(103～104ページ)に一括。

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、北海道の貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、1994（平成6）年6月に設立されました。開設後は、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。

北海道博物館においても、内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

アイヌ文化巡回展

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催してきました。

北海道博物館の開設初年度であった2015（平成27）年度は実施を見送りましたが、北海道の中核的博物館としてアイヌ文化の理解促進に資する役割を果たすため、2016（平成28）年度から、道内市町村等との協力のもと、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」や「物語」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を再開しました。また、開催にあたっては、開催地の博物館等と連携し、アイヌ文化を紹介する講座等も実施しています。

資料の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料や写真、録画などは、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重な資料です。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要です。

博物館が収蔵する資料は、公共財として速やかに利用に供することが基本ですが、当館では、このような採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害される恐れがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料についてはCD、DVD等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。

種別		2020年度までに公開準備を終えた点数
音声映像資料	当館（アイヌ民族文化研究センター）採録・複製資料（職員による採録など）	285 (265)
	山田秀三文庫	91 (64)
	久保寺逸彦文庫	77 (112)
	小計	448 (441)
文書資料	山田秀三文庫	102 (-)
	久保寺逸彦文庫	10 (-)
	小計	112 (-)
写真資料	久保寺逸彦文庫	483 (-)
合計		1043

- ・数字は累計点数。
- ・（ ）内は作成した公開用資料の点数。
- ・文書資料・写真資料は紙焼き（プリントアウト）等で供覧。

アイヌ文化紹介小冊子の発行

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」（1994（平成6）年12月～2004（平成16）年12月）の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子（アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』）を、毎年1冊ずつ発行しました。

北海道博物館においても、アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するために、引き続き『ボン カンピソシ』の活用・配布を行っており、北海道博物館ウェブサイトには、各巻の最新版（増版時に補訂を行っている）のPDFファイルをアップロードしています。

2020（令和2）年度には、第2巻「着（衣服）」の増刷を行いました。



アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』発行一覧

巻	タイトル(テーマ)	発行年月日	判型等	当初発行部数	増刷
1	はなす(アイヌ語)	1996(平成8)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2003(平成15)年3月 (1,000部) 3刷：2007(平成19)年3月 (500部) 4刷：2010(平成22)年3月 (2,000部) 5刷：2014(平成26)年6月 (2,000部) 6刷：2019(平成31)年3月 (2,000部)
2	着る(衣服)	1997(平成9)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2003(平成15)年3月 (500部) 3刷：2007(平成19)年3月 (500部) 4刷：2010(平成22)年3月 (2,000部) 5刷：2014(平成26)年6月 (2,000部) 6刷：2019(平成31)年3月 (2,000部) 7刷：2020(令和2)年5月 (2,000部)
3	食べる(食事)	1998(平成10)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2010(平成22)年3月 (2,000部) 3刷：2014(平成26)年6月 (2,000部) 4刷：2019(令和元)年3月 (2,000部)
4	住まい	1999(平成11)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2011(平成23)年2月 (2,000部) 3刷：2017(平成29)年7月 (2,000部) 4刷：2019(平成31)年3月 (2,000部)
5	祈る(信仰)	1999(平成11)年11月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2012(平成24)年7月 (2,000部) 3刷：2019(平成31)年3月 (2,000部)
6	口頭文芸	2000(平成12)年10月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2012(平成24)年7月 (2,000部) 3刷：2019(平成31)年3月 (2,000部)
7	芸能	2001(平成13)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2012(平成24)年7月 (2,000部) 3刷：2019(令和元)年3月 (2,000部)
8	民具	2002(平成14)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷：2019(平成31)年3月 (2,000部)
9	地名	2004(平成16)年2月	A5判、32ページ	6,000部	2刷：2008(平成20)年3月 (1,000部) 3刷：2011(平成23)年2月 (2,000部) 4刷：2016(平成28)年3月 (2,000部) 5刷：2019(平成31)年3月 (2,000部) 6刷：2019(令和元)年9月 (2,000部)
10	総集編	2005(平成17)年3月	CD-ROM	5,000部	
計				91,000部	(51,500部)

ウェブサイトによる情報提供

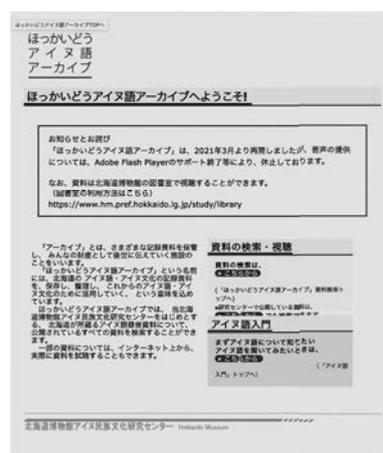
旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、2001(平成13)年度からウェブサイトを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきました。

北海道博物館の開館後は、館のウェブサイトの中にこれらのページを移行して運用しています。

ほっかいどうアイヌ語アーカイブ

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、2011(平成23)～2012(平成24)年度に、国(内閣府)の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施し、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めました。また、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。

現在は北海道博物館のウェブサイト内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、アーカイブに搭載している音声資料などを検索できるようにしています。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けています。



学習・伝承活動の支援

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じています。また、アイヌ文化に関する情報や当館資料についての問合せは、レファレンスの一環として電話等により日常的に対応しています。

2020（令和2）年度活動実績

業務執行体制（2020年度）

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

所 管	アイヌ民族文化研究センター	業務責任者	アイヌ民族文化研究センター長 小川正人
-----	---------------	-------	---------------------

年度計画（2020年度）

<p>(1) 重点を置いて取り組むべき計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み <p>(2) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及</p> <p>〈調査研究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進（2課題：課題名等は112～113ページ参照） ・北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進（「北東アジアの中の北海道」等：課題名、参加メンバー等は113ページ参照） ・日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進（2020年度の研究課題名等は113ページ参照） ・北海道博物館で取り組む樺太記憶継承事業への参画（樺太連盟資料の受入と整理の開始） <p>〈資料の収集と整理・公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化に関する資料の収集と整理 ・採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施（諸手続含む） <p>〈研究成果の発信と普及〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（第6号）の編集計画の策定と投稿の奨励・推進 ・館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み ・当館における企画展示の立案・実施（第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」、第18回企画テーマ展「お葬式（仮題）」、第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫（仮題）」） ・当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新（詳細は114～115ページ参照） ・道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催（岩内町での開催を計画） ・アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』（全1～9巻）の増刷・配布〔都度実施〕 ・当館広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信 <p>(3) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約 ・「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信 <p>〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地からの助言・支援・協力等 ・国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業（設立準備）への参画

(1) 重点を置いて取り組むべき計画

- ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会への委員派遣 ・国立アイヌ民族博物館運営委員会及び同展示ワーキング会議及び学術交流ワーキング会議への委員派遣 ・国立アイヌ民族博物館による展示事業への協力（資料貸出等）
--

(2) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

〈調査研究〉

- アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進

①北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究			新規
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	726,000円（2020年度）
研究代表者	小川正人（アイヌ民族文化研究センター長）	メンバー	甲地利恵・大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子・佐々木利和・奥田統己（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	博物館事業の基礎である収蔵資料の整理を着実に進め、さらにそれらの分析や背景・関連情報の調査収集による資料や情報の集積と利活用を図るとともに、その成果に基づく各分野さらには横断的・総合的な研究テーマの策定や研究成果の充実を図る。本プロジェクトは中・長期的な視点により定めるが、本プロジェクトの5年間について、現在の収蔵資料ならびに収集計画を踏まえ、主に次の資料群を対象とする。		
個別課題 〔3件〕	北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）〔新規：2020年度～2024年度〕		
	北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）〔新規：2020年度～2024年度〕		
	キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）〔新規：2020年度～2024年度〕		
2020年度活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要における新着資料紹介（大坂・亀丸） ・アイヌ文化巡回展の開催（岩内）→新たな資料調査・収集（積丹） ・クローズアップ展示（新着資料紹介） ・課題：資料整理の計画策定（特に文書、音声、映像：旧道立アイヌ民族文化研究センター資料の“整理・公開の積み残し”を踏まえた中期的計画が必要）、アーカイブのあり方 		

②アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト				新規
研究期間	2020年度～2024年度(5年間)	配当額	958,000円(2020年度)	
研究代表者	小川正人(アイヌ民族文化研究センター長)	メンバー	甲地利恵・大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子・佐々木利和・奥田統己(アイヌ文化研究グループ)	
研究概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野別・個別の研究、あるいは分野横断的な共同研究を実施し、それぞれの専門分野における諸問題の解明に取り組むことを通じて、広くアイヌ文化・アイヌ史の研究の発展とアイヌ文化の振興にアイヌ民族文化研究センターとして寄与することを目指す。			
個別課題 [5件]	アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究(仮題) [継続: 2016年度～2020年度]			
	アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究(仮題) [新規: 2020年度～2022年度]			
	北東アジアの中のアイヌ音楽(仮題) [継続: 2017年度～2022年度]			
	1945年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査(仮題) [新規: 2020年度～2023年度]			
2020年度 活動概要	近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査(仮題) [新規: 2020年度～2023年度]			
	<p>このプロジェクトに該当する、各職員個別の本年度計画詳細については別添(個人研究調書)のとおり。なお現時点でこのプロジェクトでの項目と担当職員については下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の物質文化に関する基礎的研究(大坂、亀丸) ・先住民族と博物館の関わりに関する研究(亀丸) ・物質文化から見た北海道アイヌの近現代史(大坂)※科研費課題 ・アイヌ英雄叙事詩に関する研究(遠藤) ・アイヌ口承文芸・説話の資料批判的「読み」(遠藤) ・アイヌ口承文芸資料の話型分析(遠藤)※科研費課題 ・近代アイヌ史に関する調査研究(小川)※2023年度まで ・戦時・戦後のサハリン、千島のアイヌ史(小川) ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」に関する研究(大谷)※2021年度まで(予定) ・アイヌ歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する研究(甲地)※科研費課題、2022年度まで(予定) ・北東アジア・北米における先住民族の音楽文化と比較的観点からのアイヌ音楽の類似点・特徴に関する研究(甲地)※同上 ・アイヌ口承文芸の語りかたに関する研究(奥田) 			

○北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進

研究プロジェクト名	研究期間	参画メンバー
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「北海道とサハリン」	2020年度～2024年度	【暫定】小川正人・大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「寒冷地の自然と適応」	2018年度～2022年度	甲地利恵・亀丸由紀子

※各研究プロジェクトの詳細は47～48ページを参照のこと。

○日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進

2020年度アイヌ民族文化研究センター研究職員による外部資金を活用した調査研究 5件(再掲)

種別	研究課題名	研究期間	研究メンバー
日本学術振興会科学研究費	アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査 [基盤研究(C)]	2018年度～2022年度(継続)	甲地利恵(研究代表者)
日本学術振興会科学研究費	考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究 [若手研究]	2018年度～2021年度(継続)	大坂拓(研究代表者)
日本学術振興会科学研究費	近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究 [基盤研究(C)]	2020年度～2023年度(新規)	小川正人(研究代表者)
日本学術振興会科学研究費	アイヌ口承文学における話型分類の研究 [基盤研究(C)]	2020年度～2023年度(新規)	遠藤志保(研究代表者)
国土地理協会学術研究助成	「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化	2020年8月～2021年7月(新規)	小川正人(研究代表者)

○調査研究の成果を踏まえた事業展開

<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化巡回展開催にあわせた開催地および近隣での資料調査とその成果の活用(2020年度の例では、積丹の調査→研究紀要など) ・調査研究プロジェクトの成果の展示等への展開(アイヌ民族文化財団工芸品展、国立歴史民俗博物館企画展示、当館クローズアップ展示や次年度以降の巡回展企画など)
--

○更なる調査研究の展開・充実に向けた外部資金獲得を目指す検討

<ul style="list-style-type: none"> ・「アイヌ語地名資料データベース」(令和2年度申請、獲得)など資料・情報の収集・整理の成果をより充実させ対外的に発信するための取り組み

〈資料の収集と整理・公開〉

○資料の収集と整理

- ・これまでの未整理資料の整理作業を継続、新たに収集した資料について整理を進め、主要なものは研究紀要に資料紹介を掲載（「2020年度新収蔵資料の紹介—山田秀三氏旧蔵アイヌ民具資料ほか—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号）
- ・キーステン・レフシン資料の整理（アナログ音声テープのデジタル化等）

○採録資料等の公開

- ・資料の公開手続に基づく関係者との協議の実施
- ・公開資料の作成は計画も含め次年度に繰り越し

〈研究成果の発信と普及〉

○『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（第6号）の編集計画の策定と投稿の奨励・推進

※再掲。詳細は108ページを参照のこと。

○館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み

項目	内 訳
①館内実施の教育普及事業 6件	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムカレッジ「択捉島紗那の学校と高城重吉」 ・子どもワークショップ「たのしいな♪ アイヌ音楽 うたおう・おどろう」 ・特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」 ・ミュージアムカレッジ「アイヌの物語を聞いてみよう—カッパの神様登場—」 ・ミュージアムカレッジ「近世における「アットゥシ」の地域差と流通」 ・ミュージアムカレッジ「一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史」 ※詳細は61～62ページを参照のこと
②アイヌ文化巡回展関連講座 4件	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館講座第2回「山田秀三の地名調査について—岩内、寿都、積丹半島、倶知安などの調査をたどる—」 ・第26回木田金次郎生誕祭記念講演会「木田金次郎が見たアイヌ語地名」 ・町民講座「アイヌ語 はじめの一步」 ・町民講座「岩宇地域のアイヌ文化誌」 ※詳細は115ページを参照のこと
③対外派遣	
各種委員等 18件	詳細は100ページを参照のこと
非常勤講師 0件	
招待講演（講座・講演会）等への職員派遣 3件	詳細は102～103ページを参照のこと
学術的な協力（指導助言等） 1件	詳細は102ページを参照のこと
④その他館内における対外貢献	
学校団体へのグループレクチャー 18件	「アイヌ文化の世界」のレクチャー。詳細は64ページ参照のこと
外部機関からの協力案件 6件	詳細は105ページを参照のこと

○当館における企画展示の立案・実施（再掲）

展示会名称	会期	参画メンバー
第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+栢谷隆男氏コレクション—」	4月25日（土）～5月24日（日）を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にともなう臨時休館のため中止。代替としてオンライン開催を実施。	甲地利恵
第18回企画テーマ展「お葬式（仮題）」	新型コロナウイルス感染症対策のため2020年度は中止（延期：時期未定）	大坂拓（予定）ほか
第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫（仮題）」	新型コロナウイルス感染症対策のため2020年度は中止（延期：時期未定）	小川正人（予定）ほか

※詳細は、「2 展示」の41～42ページを参照のこと。

○当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新

①総合展示室第2テーマにおける展示資料の入れ替え【年間延べ16点】

- ・衣服（4回）、装身具・祭具等（1回）、筆録ノート等（1回）の入替え、および入替え計画の作成
- ・新型コロナ感染症拡大防止対策として、次のとおり実施した。
- ・総合展示全体でのハンズオン展示の一部休止にともない、第2テーマ「アイヌ文化の世界」ではめくり式展示各種をカウンター解説に切り替えて継続した。
- ・体験コーナーの「アイヌ語ブロック」については、切り抜いてアイヌ語ブロックを作って遊べるシートを制作し、持ち帰り自由の配布で代替した。

②クローズアップ展示コーナーの更新 [年間延べ6回]

場所	テーマ	展示期間	参画メンバー
第2テーマ	伝承者が生きた近現代 平賀サダさん	4月11日(土)～8月13日(木)	大谷洋一
	祈りの造形—狐神の舟	8月14日(金)～12月16日(水)	大坂拓
	キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料	12月19日(土)～4月15日(木)	奥田統己
4	灰場武雄さんがつくったトンコリ(五弦琴)	4月11日(土)～8月13日(木)	甲地利恵
	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	8月14日(金)～12月16日(水)	亀丸由紀子
	渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化	12月19日(土)～4月15日(木)	小川正人

※詳細は、「2 展示」の39ページを参照のこと。

○道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催

2020年度のアイヌ文化巡回展(1件)

岩内町町制施行120周年記念 2020年特別展示「アイヌ語地名と木田金次郎」 第9回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」	
会期(開催日数)	2020年7月3日(金)～11月3日(火・祝) 休館日を除く106日間
主催	木田金次郎美術館(岩内町教育委員会・NPO法人岩内美術振興協会)
共催	北海道博物館
観覧者数	2,935人
観覧料	一般600円(500円)、高校生以下無料 ※()内は10人以上の団体料金 及びJAF割引・リピーター割引料金
担当	岡部卓(木田金次郎美術館)、小川正人・遠藤志保(北海道博物館)
展示構成	北海道を代表する画家のひとりである木田金次郎(1893-1962)が描いた北海道各地の風景と、その場所にまつわる、アイヌ語地名研究者・山田秀三の研究資料とを展示する、初めての試みです。アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三(1899-1992)の研究資料などから、土地の特徴などを木田の描いた作品からたどります。 第一部 岩内を歩く 第二部 北海道各地を歩く(札幌を歩く、道北を歩く) おもな展示資料: 木田金次郎作品、山田秀三の地名調査資料ほか
関連行事	<ul style="list-style-type: none"> 美術館講座第2回「山田秀三の地名調査について—岩内、寿都、積丹半島、俱知安などの調査をたどる—」7月11日(土)、講師: 小川正人、参加者: 25名(定員20名) 第26回木田金次郎生誕祭記念講演会「木田金次郎が見たアイヌ語地名」7月18日(土)、講師: 佐々木利和、参加者: 28名(定員30名) 海上からの地名観察会、8月1日(土)、参加者: 13名 ※木田金次郎美術館の単独実施。センター職員も参加。 町民講座「アイヌ語 はじめの一步」8月8日(土)、講師: 遠藤志保、参加者: 25名(定員30名) 美術館講座③「アイヌ語地名探訪バスツアー」9月12日(土)、講師: 岡部卓(木田金次郎美術館学芸員)、参加者: 20名(定員20名) ※木田金次郎美術館の単独実施 秋のナイトオープン ※木田金次郎美術館の単独実施 開館記念日にお贈りするアニバーサリー無料開放 町民講座「岩宇地域のアイヌ文化誌」10月17日(土)、講師: 大坂拓、コメンテーター: 谷本晃久氏(北海道大学教授)、参加者: 30名(定員30名)
印刷物	広報用チラシ、展示図録(発行は木田金次郎美術館)
その他	<ul style="list-style-type: none"> Googleストリートビューの実施 関連調査研究: 2020年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)による研究課題「近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究(研究代表者: 小川正人)」の一環として、積丹地方のアイヌ民族の近代史にかかる現地資料調査を踏まえた研究会を開催、日時: 11月1日(日)13:30～15:30、会場: 積丹町運上屋旅館(積丹郡積丹町来岸町42)、報告者: 亀丸由紀子、コメンター: 古原敏弘氏(元北海道立アイヌ民族文化研究センター研究主幹、国立アイヌ民族博物館委託アイヌ民族資料調査員)、その他: 大坂拓・小川正人ほか



第9回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」ポスター・図録・展示室風景

○アイヌ文化紹介小冊子『ポン キンピソシ』（全1～9巻）の増刷・配布

- ・第2巻「着る 衣服」の増刷（7刷、2020年5月、2000部）
- ・配布は都度実施。

○当館広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信

号	記事件数	内容
第20号（2020年夏）	0件	※「アイヌ民族文化研究センターだより」は休載
第21号（2020年秋）	2件	・収蔵資料紹介「再発見 音吉さんのイナウ」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を木田金次郎美術館（岩内町）で開催しています」
第22号（2020年冬）	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を開催しました」
第23号（2021年春）	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」この春、幕別町で開催します」

※詳細は「8 広報」の77ページを参照のこと。

(3)アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

○アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約

- ・収蔵資料データの新規登録、文献資料の集約等を実施。

○「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信

- ・北海道博物館ウェブサイト内に「アイヌ文化を学ぶために」のページを設け、アイヌ文化紹介小冊子のPDFファイル版搭載等を実施。
- ・旧道立アイヌ民族文化研究センターホームページの情報も残しつつ、順次整理を進めている。
- ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」については、これまで音声試聴に用いていたFlashPlayerの更新停止に伴い、音声試聴をいったん休止、新たな整備のあり方を検討中。

〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉

○市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地からの助言・支援・協力等

- ・「アイヌ施策推進法」の施行に伴い、市町村等からの事業企画・実施に当たっての照会、協力要請が増えつつあり、適宜対応を進めている。
- ・レファレンス等においても、総件数は大きな増加は見られないものの、内容において、副読本・教材作成や雑誌の特集記事等にかかる照会や情報提供依頼が増えており、適宜対応している（レファレンス件数等は96ページを参照のこと）
- ・北海道教育委員会によるアイヌ民俗文化財専門職員等研修会（2021年2月9日、会場：北海道博物館講堂）への協力など。

○国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業（設立準備）への参画

- ・国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会にアイヌ民族文化研究センター職員が参画。
- ・オリンピック・パラリンピック開催（開催は2021年度に延期）を契機とした理解促進事業等に協力、また事業のあり方に関する助言依頼等に対応している。

16 4つのビジョン(重点目標)

- ① 北海道開拓記念館開館50年(令和3年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(令和3年)、北海道開拓の村開村40年(令和5年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(令和6年)を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-4に依拠)
- ② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-2に依拠)
- ③ ウポポイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-3に依拠)
- ④ 樺太(サハリン)に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。(北海道博物館基本的運営方針Ⅱ-1に依拠)

業務執行体制(2020年度)

16 4つのビジョン(重点目標)

所 管	業務責任者
北海道博物館	副館長 小野寺誠司 学芸副館長 小川正人 アイヌ民族文化研究センター副館長 中村亘

年度計画(2020年度)

- 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討
- 道民参加型活動の推進
- ウポポイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携
- 樺太(サハリン)に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進

(1)「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(北海道環境生活部策定)

道立自然公園野幌森林公園は、昭和40年代の北海道百年記念事業の一環として公園指定され、公園内に所在する北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔は、北海道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の遺業、そして自然に触れることができる場として、多くの方々に親しまれ、利用されてきました。

しかし、開設から約50年が経過したこともあり、施設の老朽化や利用者数の減少など様々な課題が生じていることから、北海道環境生活部では、50年後を見据えて、道民の財産であるこれらの施設を、歴史・文化・自然を体感し交流できる空間として再生し、次世代に伝えていくための基本構想として「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」を2018(平成30)年12月に策定しました。

構想の概要(基本方針・主な施設の方向性)

施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生を目指します。

(1)北海道博物館

- ・本道の中核的博物館、道民参画型博物館として、さらなる魅力向上に努める。
- ・2020年に開設される国立アイヌ民族博物館等との役割分担を考慮に入れながら幅広い連携を図る。

(2)北海道開拓の村

- ・博物館としての役割を基本としながら、国内外からの旅行者をターゲットにした観光拠点や、古民家再生等人材の育成拠点としての活用を図る。

(3)百年記念塔・塔前広場

- ・長く道民の皆さんに親しまれてきたが、老朽化に伴う利用者への安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断し、耐久性や維持コストにも配慮した新たなモニュメントを配置した交流空間とする(発展的継承)。

(4)野幌森林公園・近隣施設との連携

- ・良好な自然環境を保全するとともに、安心して利用できる環境づくりを進める。
- ・周辺の文化・スポーツ施設等と連携を図ることにより、より魅力的な交流空間として再生する。

【2020年度の主な取り組み】

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』構想」を実現していくため、「野幌森林公園エリア活性化事業」の計画案の検討を行った。

(2) 道民参加型活動の推進

詳細は86～88ページの「10 道民参加の推進」を参照のこと。

(3) 国立アイヌ民族博物館との連携

詳細は110～116ページの「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。

(4) 「樺太記憶継承事業」の推進

社団法人全国樺太連盟より樺太関係資料5,733点を寄贈として受け入れ、2020年12月に当館へ搬入した。2020年度は、受入資料の確認（樺太連盟作成のリストとの照合作業）を行った。「樺太記憶継承事業」における調査研究、展示等の各種活動は、次年度以降、実施体制をつくり進めることとなった。資料搬入・収蔵の詳細については「1 資料」の33ページを参照のこと。

新型コロナウイルス感染症拡大に係る対応の状況(2020年度)

A 感染拡大にともなう臨時休館措置の状況

前年度末の2020(令和2)年2月からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、北海道は独自の緊急事態宣言を発令し、当館は2月29日(日)から3月31日(日)まで臨時休館となった。

2020年度は、4月2日(火)から開館(再開)したが、全国的な感染拡大傾向を受け、国は全国に緊急事態宣言を発令し、当館は4月14日(火)から5月24日(日)まで再び臨時休館となった。

臨時休館中、当館では、「北海道博物館 再開に向けた館運営のガイドライン」を策定し、ガイドラインに沿って再開の準備を進め、5月26日(火)より開館(再開)した。以後、年度末までは、徹底した感染防止対策を講じたうえで開館した。

2020年度新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう
国の緊急事態宣言発令による臨時休館

2020年4月14日(火)～5月24日(日)

B 「北海道博物館 再開に向けた館運営のガイドライン」

「道立施設再開に向けた新型コロナウイルス感染防止対策について」(令和2年5月11日付け財産第167号総務部長通知)における「以下の徹底した感染防止対策が講じられている場合に限り、再開する」との趣旨を踏まえ、「北海道博物館 再開に向けた館運営のガイドライン」を策定した(2020年5月策定)。

なお、策定に当たっては、上記通知の別紙記載事項のほか、公益財団法人日本博物館協会によるガイドラインや他府県の博物館等における感染防止対策の事例などを踏まえ、必要な事項を追加した(★印の項目)。

I 施設管理者が実施する事項

1 3つの「密」の防止

(1) 入口、展示室等は、十分な間隔をとるため、立ち位置を表示

- ①総合案内(受付)及び展示室内等は、利用者の十分な間隔を確保するため、2m間隔で立ち位置を表示する。
 - ・総合案内前にフットマークを設置
 - ・総合展示室、特別展示室に動線に基づき距離を保つためのライン表示
 - ・エレベーター内のフットマークの設置
 - ・カフェ窓口にフットマークを設置

(2) 座席等がある場合は、十分な間隔を空け(四方を開けた席配置等)対面しないように利用座席を使用させないところは、ソーシャルディスタンスを表示

- ①館内(展示室内、図書室、グランドホール、ロビー等)のソファ、ベンチ等は、配置間隔を拡げるか、又は、ソーシャルディスタンスを表示する。
 - ・総合展示室内のソファ等の撤去、配置間隔の確保、ソーシャルディスタンス表示
 - ・グランドホール等のソファ等の撤去、配置間隔の確保、ソーシャルディスタンス表示
 - ・図書室の対面座席の撤去
 - ・カフェの対面座席の撤去
- ②講堂等におけるイベント実施時は、テーブル(幅180cm)1つ当たり座席1席とする。

(3) 公園等は、十分な間隔を取るための工夫

- ①公園案内所周辺において、百年記念塔前広場の利用者に対するソーシャルディスタンス促進に係る注意喚起のための掲示を行う。
 - ・塔前広場入口、休憩所に注意喚起の掲示
- ②森林公園内の駐車場や主要な遊歩道の入口において、公園利用者に対するソーシャルディスタンス促進に係る注意喚起のための掲示を行う。
 - ・大沢口、登満別、瑞穂口、トド山口の各駐車場に掲示
 - ・主要な遊歩道入口(バリケードを活用)に掲示

(4) 約2mの間隔をとれる最大入場人員を把握し、この人数を超える場合は、入場制限を実施。なお、入場制限を実施した場合は、待ち時間が長時間にならず、かつ、間隔を開けて順番待ちができるよう努める。

- ① 総合展示室の密集回避の目安を各階（1階、2階）100名（※後に150名へ修正）とし、一定時間ごとの入場者数または目視による確認により在室者数の概況を把握する。
 - ・入館受付における時間単位の入館者数を把握するとともに必要に応じて展示室内を巡回し、入場制限の要否を判断する。
 - ・入場制限する場合の来館者の待機場所として、館外（正面アプローチ）、館内（記念ホール、グランドホール、ロビー等）を確保し、状況に応じて判断する。※ 展示室内の密状態の確認方法や入場制限の判断などに係る具体的な手順について要検討。
- ② 特別展示室において企画展を開催する場合には、企画展ごとに上限人数を定め、一定時間ごとに在室者数の状況を把握するなどし、総合展示室と同様の対応を行う。
- ③ 講堂は40名とし、これをもとに実施行事の定員を定める。
 - ※ 10月以降60名に定員を緩和。

(5) 団体利用の制限★

- ① 団体利用については、混雑時の入場制限や、団体向けプログラム・サービスの一部休止など、当面の間は制限を加えた上で受け入れる。
- ② 高齢者福祉施設の団体利用については、感染時の重症化のリスクなどを考慮し、特に注意喚起を行う。
- ③ 見学予約を受け付けた団体に対しては、見学にあたっての注意事項などをFAX等で通知する。

(6) 定期的に外気を取り入れる換気の実施（可能であれば、2つの方向の窓を同時に開ける）

- ① 総合展示室、特別展示室、講堂については、館の空調設備が換気基準を満たしていることから、窓の開放等による外気の取入れは実施しない。
- ② 空調の稼働時間を、「開館時から閉館時まで」とする。
 - ・夏期（5月～9月）における総合展示室の空調稼働時間を午後5時まで1時間半延長
- ③ 換気を実施できない、休憩ラウンジ及び記念ホールについては、通常の利用を休止する。

2 飛沫感染・接触の防止

(1) 施設職員のマスク着用、手指の消毒、咳エチケット、手洗いの励行

- ① 全職員に、手指消毒・咳エチケット・手洗いの励行及び、特に来館者対応時並びに館内での打合せ時等におけるマスク着用を徹底させる。
 - ・手指消毒液を館内要所に設置。指定管理者にも館から必要数を供給。
 - ・マスク不所持には自製マスクの供与等に対応
 - ・来館者対応時にはフェイスシールドを併用する。
- ② ユニフォーム等（博物館ジャンパー）をこまめに洗濯する。

(2) 施設内の座席・器具など共有物の定期的な消毒

- ① 施設共用部のうち特に高頻度接触部位については、指定管理者に定期的な消毒を依頼
 - ・トイレ、玄関ドア、車いすスロープの手すり、エレベーター（ボタン）、コインロッカー、自販機ボタンなど
 - ・トイレの使用休止（総合展示室、中2階、個室の使用削減）
 - ・機器の使用中止（トイレ内のハンドドライヤー、水飲み機）
- ② 入館受付の連絡先記入台（机、椅子）は館で定期的な消毒を実施
- ③ 総合展示室内の展示ケース前のカウンター、映像機器やジオラマのボタン類、情報デスク等については、館職員が定期的に消毒を実施する。
- ④ ベビーカー、車椅子などの貸出物の消毒を行う。（指定管理者）

(3) 利用者と対面する場合（入場料徴収、売店など）は、ビニールシートなどで仕切を設置

- ① 総合案内、総合展示室情報デスク（1・2階）、行事受付、図書室カウンター等、利用者との対面となる場所に飛沫防止の仕切りを設置
 - ・予備も含めた十分な台数を館で確保
 - ・入館受付、展示室内など、仕切り整備までの間はフェイスシールドを活用

(4) 利用者と対面する博物館事業等の中止など★

- ①利用者との接触感染のおそれのある下記の事業、施設は当分の間休止する。
 - ・ハイライトツアーの休止
 - ・総合展示室における「さわれる展示」の撤去又は休止
 - ・ミュージアムトーク、ハンズオンの休止
 - ・音声解説機器の貸出休止
 - ・はっけん広場、休憩ラウンジの利用休止
- ②資料の特別観覧及び来館を伴う模写品使用（来館し、職員と対面のうえ資料の熟覧、撮影等を行うもの）は当分の間休止する。
- ③パンフレット等の配布物は手渡しで配布せず据置き方式とする。

3 業種別のガイドライン等の取組

(1) 業種別のガイドラインに沿った感染防止対策の徹底

- ①公益財団法人日本博物館協会が公開した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（2020.5.14）」に沿った感染防止対策の徹底
 - ・リスク評価
 - ・具体的な対策～①総論、②来館者の安全確保、③従事者の安全確保、④展覧会実施の留意事項、⑤施設管理、⑥広報・周知

(2) 「新北海道スタイル」安心宣言の掲示

- ①道が示す「7つの習慣化」に関し、当館における館長名の「安心宣言」を定め、総合案内等において掲示する。

4 施設利用者への協力依頼

(1) 入口に感染予防対策（新型コロナウイルス感染拡大防止通知等）の掲示

- ①正面入口に、博物館利用に当たっての注意事項等に係る掲示物を設置する。
 - ・体調不良の方の入場自粛
 - ・検温の実施及び緊急時連絡先の記入の依頼
 - ・マスク着用と手指の消毒など感染予防の徹底
 - ・人と人との十分な間隔（2m目安）をとること
 - ・大声での会話の自粛
 - ・混雑時の入場制限の実施
 - ・サービスや施設の利用休止（触れる展示、ハイライトツアー、はっけん広場など）
- ②館のホームページにおいて、同様の内容により周知を図る。
- ③館内放送により、ソーシャルディスタンスの確保、大声での会話の自粛、展示ケースには触れないよう呼びかけを行う。（指定管理者）

(2) マスクをしていない利用者へのマスク（手作り可）を用意（可能な範囲で対応）

- ①入館受付時にマスク着用を求める（症状の有無にかかわらず原則として全員に求める）
 - ・館のホームページにおいて、マスク着用による来館を呼びかける。
 - ・マスク不持参者には、館で作製した簡易マスクを交付

(3) 入口に消毒液の設置

- ①正面入口、総合展示室入口・出口、カフェに消毒用アルコールを設置
※事務室内に予備の消毒薬を常に用意し、適宜補充する。

(4) 非接触型体温計などによる、検温・体調管理

- ①入館受付で検温を実施
 - ・正面入口に入館受付を設置し、非接触式温度計による検温を実施する。

(5) 大声での会話を行わないよう呼びかけ（声援などは控える）

- ①上記(1)による

(6) 業種別ガイドラインに基づき、利用者の氏名・緊急連絡先を把握し、利用者名簿を作成する。

入館者の連絡先の把握については、次の①又は②により実施する。

①「北海道コロナ通知システム」の導入

- ・経済部が開発した「北海道コロナ通知システム」を当館において先行導入し、QRコードを活用したメールアドレスの登録を実施。

②入館受付で緊急連絡先の記入を依頼

- ・万一の感染発生や濃厚接触者発生の場合に備え、すべての入館者に連絡先等の申告（カード形式の紙に記入し投函する形式）を求める。
- ・合わせて体調の確認欄を設ける

II 施設利用者へお願いする事項

(1) 発熱または風邪の症状や体調不良の場合の入場を制限 ※I-4(1)、I-4(4)による

①事前及び館における周知（軽微であっても控えていただく）

- ・ホームページや入口の掲示により、来館自粛を呼びかける

②入館受付で検温を実施（非接触式温度計）

- ・館正面玄関に受付及び検温実施スペースを確保

(2) 症状がなくてもマスクを着用 ※I-4(1)、I-4(2)による

①入館者にマスク着用を求める（症状の有無にかかわらず原則として全員に求める）

- ・マスク不持参者には、館で作製した簡易マスクを配付

(3) 入口に消毒液の設置 ※I-4(3)による

①正面入口、総合展示室入口・出口、カフェに消毒用アルコールを設置

(4) 咳エチケットや手洗いの励行 ※I-4(1)による

①正面入口に、博物館利用に当たっての注意事項等について、掲示物により周知する。

②館のホームページにおいて、同様の内容により周知を図る。

③館内放送により、マスク着用や手指の消毒などの呼びかけを行う。

④トイレ内に、トイレの蓋を開けて汚物を流すように表示する。

III 職員の健康管理等★

(1) 職員の健康管理、出勤体制の確保等

①職員は、出勤前に必ず検温を実施する。

- ・出勤時において、検温の結果（異常の有無）を「検温チェック表」に記載。
- ・検温の結果、発熱がある場合は所属のグループ主幹に報告し、自宅療養する。

②体調不良時には、自宅での経過観察及び医師の受診等を指示する。

③道の方針に基づき、在宅勤務や時差出勤を活用し、職場内の感染症まん延防止に取り組む。

（※館運営に必要なスタッフ数の確保に留意する）

(2) 感染が疑われる利用者への対応等

①来館者のなかで、館内で体調を崩し感染が疑われる者が発生した場合、以下のように対応・記念塔側出入口（北口）に、救護用テントを設置する。

（※当面、館内の救護室（密閉空間）は授乳の目的としてのみ利用し、感染が疑われる人の救護場所としては利用しない。）

- ・館内で体調を崩し感染が疑われる者が発生した場合、速やかに救護用テントに移し隔離する。

- ・対応する職員は、マスクや手袋の着用等適切な防護対策を講ずる。

- ・救急搬送を要請し医療機関へ搬送するとともに事後の状況を把握する。

- ・当該者が感染していた時には保健所等との連携の下に、速やかな情報公開等事後の対策を講ずる。

C 各種活動の対応状況

1 資料

臨時休館中(4月14日～5月24日)の来館を伴う資料利用の受付を休止した。再開後は、事前予約の徹底のほか、人数制限(1日1組2名以下)や作業場所の消毒等、感染リスクの低減措置を行ったうえでサービスを再開した。その他の活動は、「ガイドライン」に則って通常どおり対応した。

2 展示

(1) 特別展・企画テーマ展の中止

① 第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」(4月25日から開催予定)

前年度より開催準備を進め、展示制作も完了したが、臨時休館(4月14日～5月24日)にともない開催を中止した。代替措置として、オンライン公開を行った。関連行事はすべて中止とした。

※企画テーマ展の概要については41～42ページを参照のこと。

② 第6回特別展「恐竜展2020」(6月20日から開催予定)

前年度より開催準備を進めていたが、国の緊急事態宣言発令による県境をまたいだ移動の自粛要請にともない、本州からの借用資料搬送が不可能となり、展示構成の大幅な見直しが必要になったことや、新型コロナウイルス感染対策としての「3密」回避策の徹底が困難であることなどを主な理由として、5月1日に中止が決定された。関連行事はすべて中止とした。

※特別展の概要については40～41ページを参照のこと。

③ 第18回企画テーマ展「お葬式(仮)」及び第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫(仮)」

前年度より開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況が予測できないことから、次年度以降に改めて開催することで延期が決定された。関連行事はすべて中止とした。

(2) 特別企画展「北海道の恐竜」の開催

第6回特別展「恐竜展2020」の規模を縮小した形で、2021年2月12日(金)～3月14日(日)に特別企画展「北海道の恐竜」を開催した。開催にあたっては、「ガイドライン」I-1-(4)に則って、特別展示室の入場上限人数を120名とし、完全事前予約制(オンライン予約システム)かつ総入替制(1日につき①9:30-11:00、②11:20-12:50、③13:10-14:40、④15:00-16:30の4回)で行った。また、来館が困難な利用者のために、展示室の高精細360度写真を閲覧できるバーチャルツアー(Matterport)をオンライン公開し、関連行事として、小林快次氏(学術協力、北海道大学総合博物館教授)によるオンラインギャラリートーク(YouTube)を10回にわたって配信した。

(3) 総合展示室の運営

「ガイドライン」に則って運営を行った。

- ・総合展示室内における入場人数の上限の設定(1階、2階各150名)
- ・十分な距離(2メートル程度)を保つための足型表示やマーキングの設置
- ・総合展示室内の「さわれる展示」の休止

3 調査研究

道外との往来(または時期により札幌市とそれ以外の地域との往来)の自粛要請にともない、学芸職員の出張調査の予定等に影響が出て、年度当初の計画どおりに研究を進めることができなかった研究課題が多数あった。また、海外との往来が困難な状況となったため、ロシア・サハリン州やカナダ・アルバータ州との海外学術交流をとまらぬ研究課題は事実上停止となった。

4 教育普及

(1) 普及行事と特別イベント

2020年度は、普及行事及び特別イベント62件の開催を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止もしくは規模縮小のうえで開催せざるをえなかったものが多く、31件の開催となった。内訳は以下のとおりである。

- ・当初の予定どおり開催したもの：1件(4月11日開催の自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」)
- ・募集人数を縮小して開催したもの：30件(うち行事内容、または開催日を変更して開催したもの：3件)
- ・中止したもの：31件(うち特別展・企画テーマ展の開催中止にともない中止したもの：13件)

※詳細は60～62ページを参照のこと。

(2) 総合展示室における展示解説

ガイドラインI-2-(4)「利用者と対面する博物館事業等の中止」により、以下の諸項目が休止となった。

- ・音声解説器の貸出しの休止
- ・ハイライトツアーなどの解説員による展示解説活動の休止
- ・総合展示室内におけるイベント（ハンズオン、ミュージアムトーク等）の休止

(3) はっけん広場

ガイドラインI-2-(4)「利用者と対面する博物館事業等の中止」により、利用休止となった。開催予定の「はっけんイベント」も中止となったが、代替措置として「めざせ横綱！恐竜紙ずもうを作ろう」などのお持ち帰り用キットの配布を行った。

※詳細については65ページを参照のこと。

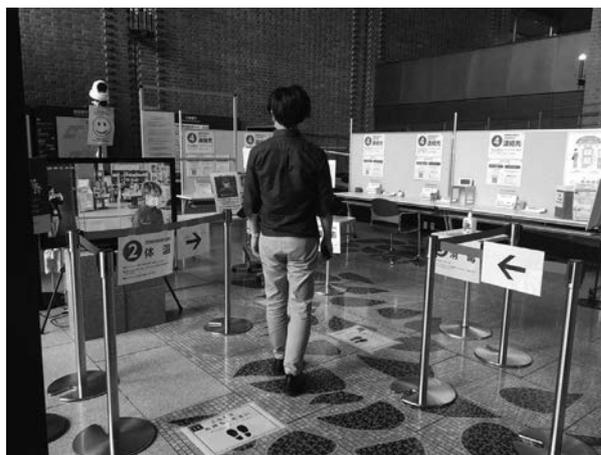
(4) 団体向け教育プログラム

- ・はっけんプログラムは中止した。
- ・グループレクチャーは所要時間15分（+消毒・入替時間15分）・定員40名（のち80名へ）で実施した。

(5) 「おうちミュージアム」の継続

前年度から開始した「おうちミュージアム」事業は2020年度も継続し、提供コンテンツを新たに12件開発し、ウェブサイトにて公開した。

※「おうちミュージアム」については58ページ、及び65ページを参照のこと。



正面玄関グランドホールでの入館受付
(検温・消毒・緊急時連絡先記入)



総合案内・チケット売り場でのフットマークの設置



飛沫防止用の仕切りの設置



距離（ソーシャルディスタンス）を保つための2m間隔ライン表示

III 資料



1 館長の紹介

館長

石 森 秀 三	ISHIMORI Shuzo	職 名	館長
		称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
		専 門	文化人類学、博物館学、観光文明学
受 賞	1986年、大平正芳記念賞		
職 歴	京都大学人文科学研究所研究員(1971) 国立民族学博物館第四研究部助手(1975) 国立民族学博物館第四研究部助教授(1985) 国立民族学博物館第四研究部教授(1996) 国立民族学博物館先端民族学研究部教授(1998) 国立民族学博物館民族社会研究部長(2002) 国立民族学博物館博物館民族学研究部長(2003) 国立民族学博物館文化資源研究センター長(2004) 北海道大学観光学高等研究センター長(2006) 北海道開拓記念館長(2013) 北海道博物館長(2015)		
社 会 活 動	観光立国懇談会委員(内閣官房) アイヌ政策推進会議委員(内閣官房) 文化審議会文化財分科会専門委員(文化庁) 文化審議会企画調査会会長(文化庁) 国土審議会北海道開発分科会専門委員(国土交通省) 地域資源活用促進事業委員会委員長(経済産業省)等		
主な研究業績	2017;『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター(共編著) 2011;『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(共編著) 2008;『大交流時代における観光創造』北海道大学(編著) 2000;『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会(編著) 2000;『博物館資料論』放送大学教育振興会(編著) 1999;『博物館概論：ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996;『観光の20世紀』ドメス出版(編著) 1985;『危機のコスモロジー：マイクロネシアの神々と人間』福武書店		

2 学芸職員の博物館活動

当館の研究職員は、北海道博物館の資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及をはじめとするあらゆる学芸的な博物館活動に携わっています。研究職員のなかで、学芸員資格を有する職員は、「学芸員」として発令され職務にあたっていますが、当館に所属する学芸員・研究職員は、職名に関係なく博物館の学芸的な各種活動を行い、道民や当館を訪れる利用者などへの成果普及に努めています。その意味で、当館の学芸員・研究職員を学芸職員と呼んでいます。

学芸職員は、研究部またはアイヌ民族文化研究センターに属する5つの研究グループのうちの一つに所属し、北海道博物館の所蔵資料、及び博物館・アイヌ民族文化に関する調査研究活動(通常研究)を基軸として行うとともに、当館に配当された研究費(道費)による研究プロジェクト(館内共同研究)や外部資金を獲得した研究課題を抱えています。それらの成果は、資料紹介・博物館活動報告、研究成果報告、展示制作、普及行事開催などの形で、道民・利用者への成果普及を行っています。また、学会誌・研究会誌への寄稿・投稿や学会発表などにより、学術的な研究成果の発信にも努めています。

【凡例】

- 「資料紹介活動紹介」欄は、『森のちゃれんがニュース』や『研究紀要』の「資料紹介」「博物館活動報告」などへの概報・短報の掲載により、当館所蔵資料や博物館活動の道民・利用者への紹介に努めたものです。
- 「調査研究」欄は、『研究紀要』の「論文」「研究ノート」「調査報告」、特別展図録などへの論考掲載により、通常研究・館内共同研究・外部資金を獲得した研究に係る専門的な研究成果の道民・利用者への紹介に努めたものです。
- 「対外研究成果発信」欄は、学術雑誌・学術図書への寄稿・投稿や学会・研究会での発表などにより、学問の発展に寄与する活動に努めたものです。
- 紙幅の都合上、省略したり、略号を用いて表記しています。各学芸職員により詳細な研究情報については、当館ウェブサイト内の「スタッフ」の各ページ、または国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営するResearchmapをあわせてご参照ください。
略号 「2021年度の研究課題」の欄：「地域情報集積」：道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト
「総合研究」：北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト
「北東アジア」：北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト
「資料活動」「研究」の欄：「ニュース」：『森のちゃれんがニュース』
「紀要」：『北海道博物館研究紀要』または『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』

研究部 自然研究グループ

水 島 未 記 MIZUSHIMA Miki

職 名	学芸部研究戦略グループ学芸主幹 研究部自然研究グループ学芸主幹(兼)
学 位	修士、1993年(北海道大学大学院農学研究科)
担当分野	生物(植物)

2021年度	主 な 業 務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信)	
	研究課題	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究
		館内共同研究	②野幌森林公園の生物インベントリ調査(第二次)(地域情報集積、研究代表者) ③北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積、研究代表者) ④湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究)
		外部資金	⑤リモートセンシングおよびGISによるニヅフの植物資源採取における空間利用の解析(科研・研究代表者) ⑥自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築(科研・研究分担者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2020; 研究活動紹介 人と植物と自然環境 サハリン先住民の植物利用を調査する(ニュース) 2020; 総合展示資料紹介 ヒグマとサケ、キツネ、カラスの関係は? 第5テーマ「生き物たちの北海道」の動物たち(ニュース) 2019; 展示イベント予告 百聞は一見にしがず! 企画テーマ展『エゾシカ』を開催します(ニュース) 2018; 収蔵資料紹介 身近な自然の多様性を語る植物標本(ニュース)	
	調査研究	2021; 徳富南湿原の植物相(紀要、筆頭) 2020; 野幌森林公園地域の種子植物相(2)—過去の植物相調査記録の統合とAPG IIIによる再整理—(紀要、筆頭) 2018; 野幌森林公園地域の種子植物相(紀要、筆頭)	
	展示制作	2020; リンゴはなぜ赤い? 木の実・草の実の不思議な世界(クローズアップ展示7) 2019; 北海道の地名にちなむ植物(クローズアップ展示7) 2019; エゾシカ(第15回企画テーマ展、チーフ) 2018; 野幌森林公園いきもの図鑑(第11回企画テーマ展、チーフ)	
	普及行事	2021; 動物の足跡を解説しよう(自然観察会) 2020; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2020; 木の実・草の実の大ぼうけんをたどろう(自然観察会) 2020; 草原の主・トノサマバッタをさがそう(子どもワークショップ) 2020; エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)	
対外研究成果発信	2020; Do Fruits Bearing the Red Carotenoid Rhodozanthin Affect Avian Plumage Coloration in Japan?(執筆、共著) 2019; 北海道博物館における多言語化(執筆)		

表 浜 太 OMOTE Keita

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員(兼)
学 位	博士(理学)、2016年(北海道大学大学院理学院)
担当分野	生物(動物)

2021年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)	
	研究課題	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究
		館内共同研究	②野幌森林公園の生物インベントリ調査(第二次)(地域情報集積) ③北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ④湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究、研究代表者) ⑤北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑥北海道とサハリン(北東アジア) ⑦寒冷地の自然と適応(北東アジア、研究代表者)
	外部資金	⑧DNA半減期の解明—生物標本の保存環境と分析可能性について(科研・研究代表者)	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2021; 活動紹介 北海道湿地フォーラム2020「シッチスイッチ」開催(ニュース) 2020; 海外研究交流事業紹介 サハリンの湿地を巡って(ニュース) 2020; 2019年に野幌森林公園に出没したヒグマについて(紀要、共著)	
	調査研究	2021; 徳富南湿原の植物相(紀要、共著)	
	展示制作	2020; 恐竜と鳥をつなぐ骨(クローズアップ展示5) 2019; エゾシカ(第15回企画テーマ展) 2018; 野幌森林公園いきもの図鑑(第11回企画テーマ展) 2017; 夜の森—ようこそ! 動物たちの世界へ(第8回企画テーマ展、チーフ) 2016; ジオパークへ行こう! —恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅—(第2回特別展)	
	普及行事	2021; 動物の足跡を解説しよう(自然観察会) 2021; 野鳥の標本 見どころと作り方(ちゃれんがワークショップ) 2020; 木の実・草の実の大ぼうけんをたどろう(自然観察会) 2020; 始祖鳥カイトを飛ばそう(子どもワークショップ) 2020; 草原の主・トノサマバッタをさがそう(子どもワークショップ) 2020; エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)	
対外研究成果発信	2020; ヒグマを通して自然を学ぶ(執筆) 2020; Do Fruits Bearing the Red Carotenoid Rhodozanthin Affect Avian Plumage Coloration in Japan?(執筆、共著)		

圓谷 昂史 EN'YA Takafumi

職名	総務部企画グループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員(兼)
学位	修士、2014年(北海道教育大学大学院教育学研究科理科教育専修)
担当分野	地学

2021年度	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)							
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究、研究代表者) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td>⑦貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発(科研・研究代表者)</td> </tr> </table>	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究	館内共同研究	②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究、研究代表者) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)	外部資金	⑦貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発(科研・研究代表者)	
	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究							
館内共同研究	②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究、研究代表者) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)								
外部資金	⑦貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発(科研・研究代表者)								
近年の主な博物館活動の実績	<table border="1"> <tr> <td>資料紹介活動紹介</td> <td>2020; だれもが利用しやすい博物館を目指して—館内の施設設備の改修について(ニュース、筆頭) 2019; 収蔵資料紹介 野幌丘陵から新たに発見した貝化石(ニュース) 2017; 研究活動紹介 漂着物の魅力を紹介(ニュース)</td> </tr> <tr> <td>調査研究</td> <td>2020; 2015~2019年における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着(紀要) 2018; 北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代(紀要、筆頭) 2016; 北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)(紀要、筆頭)</td> </tr> <tr> <td>展示制作</td> <td>2021; 北海道の恐竜(特別企画展、チーフ) 2018; 生命のれきし—君につながるものがたり(国立科学博物館巡回ミュージアム、チーフ) 2016; きれい? 不思議? 楽しい! 漂着物—北の海辺でお宝みつけ! —(第6回企画テーマ展、チーフ) 2016; ジオパークへ行く! —恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅(第2回特別展) 2015; 北海道のアンモナイトとその魅力(第3回企画テーマ展、チーフ)</td> </tr> <tr> <td>普及行事</td> <td>2020; 貝の化石で標本をつくろう!(子どもワークショップ) 2020; 始祖鳥カイトを飛ばそう(子どもワークショップ) 2019; アンモナイトを解剖しよう(子どもワークショップ) 2019; 貝の化石で標本をつくろう(子どもワークショップ)</td> </tr> </table>	資料紹介活動紹介	2020; だれもが利用しやすい博物館を目指して—館内の施設設備の改修について(ニュース、筆頭) 2019; 収蔵資料紹介 野幌丘陵から新たに発見した貝化石(ニュース) 2017; 研究活動紹介 漂着物の魅力を紹介(ニュース)	調査研究	2020; 2015~2019年における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着(紀要) 2018; 北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代(紀要、筆頭) 2016; 北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)(紀要、筆頭)	展示制作	2021; 北海道の恐竜(特別企画展、チーフ) 2018; 生命のれきし—君につながるものがたり(国立科学博物館巡回ミュージアム、チーフ) 2016; きれい? 不思議? 楽しい! 漂着物—北の海辺でお宝みつけ! —(第6回企画テーマ展、チーフ) 2016; ジオパークへ行く! —恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅(第2回特別展) 2015; 北海道のアンモナイトとその魅力(第3回企画テーマ展、チーフ)	普及行事	2020; 貝の化石で標本をつくろう!(子どもワークショップ) 2020; 始祖鳥カイトを飛ばそう(子どもワークショップ) 2019; アンモナイトを解剖しよう(子どもワークショップ) 2019; 貝の化石で標本をつくろう(子どもワークショップ)
資料紹介活動紹介	2020; だれもが利用しやすい博物館を目指して—館内の施設設備の改修について(ニュース、筆頭) 2019; 収蔵資料紹介 野幌丘陵から新たに発見した貝化石(ニュース) 2017; 研究活動紹介 漂着物の魅力を紹介(ニュース)								
調査研究	2020; 2015~2019年における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着(紀要) 2018; 北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代(紀要、筆頭) 2016; 北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)(紀要、筆頭)								
展示制作	2021; 北海道の恐竜(特別企画展、チーフ) 2018; 生命のれきし—君につながるものがたり(国立科学博物館巡回ミュージアム、チーフ) 2016; きれい? 不思議? 楽しい! 漂着物—北の海辺でお宝みつけ! —(第6回企画テーマ展、チーフ) 2016; ジオパークへ行く! —恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅(第2回特別展) 2015; 北海道のアンモナイトとその魅力(第3回企画テーマ展、チーフ)								
普及行事	2020; 貝の化石で標本をつくろう!(子どもワークショップ) 2020; 始祖鳥カイトを飛ばそう(子どもワークショップ) 2019; アンモナイトを解剖しよう(子どもワークショップ) 2019; 貝の化石で標本をつくろう(子どもワークショップ)								
対外研究成果発信	2020; 2019年秋季の北部北海道日本海側におけるギンカクラゲの漂着(執筆、筆頭) 2020; 北海道奥尻島の打ち上げ貝類(執筆、筆頭) 2020; 北海道古譚海岸における暖流系穿孔二枚貝ハネマツカゼの漂着(執筆、筆頭)								

久保見 幸 KUBOMI Koh

職名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員(兼)
学位	修士、2021年(富山大学大学院理工学教育部地球科学専攻)
担当分野	地学

2021年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)						
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td></td> </tr> </table>	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究	館内共同研究	②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)	外部資金	
	通常研究	①自然研究グループ関連資料(生物、地学等)および博物館活動に関する調査研究						
館内共同研究	②北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ③石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ(総合研究) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア)							
外部資金								
近年の主な博物館活動の実績	※2021年4月より北海道博物館研究部自然研究グループに配属。							
これまでの研究成果発信	2021; マルチ鉱物年代スタンダードの可能性: 東北日本仁左平層NSTジルコンの予察分析(発表、共同) 2020; 岐阜県および福井県の手取層群から得られたAlbianジルコンU-Pb年齢(発表、共同) 2020; 碎屑性ジルコン年代分布からみる東北日本蝦夷堆積盆の後背地(発表、筆頭) 2020; 石川県能登半島の高洲山層と忍閃緑岩の形成年代と道下層の後背地(発表、共同) 2019; 碎屑性ジルコンU-Pb年代を用いた白亜系篠山層群の後背地解析(発表、筆頭)							

研究部 歴史研究グループ

三 浦 泰 之 MIURA Yasuyuki

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 研究部歴史研究グループ学芸主幹(兼)
学 位	学士、1996年(京都大学文学部日本史学科)
担当分野	歴史(近世・近代)

2021年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積、研究代表者) ③北海道とサハリン(北東アジア) ④樺太記憶継承事業(重点事業)
	外部資金	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2017; 展示会予告 第3回「プレイボール! —北海道と野球をめぐる物語—」(ニュース) 調査研究 2018; 『幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎』(特別展図録、編集) 2017; 『プレイボール! —北海道と野球をめぐる物語—』(特別展図録、編集) 展示制作 2021; 新しく仲間入りした歴史資料たち(クローズアップ展示2) 2020; 新選組の元幹部隊士 永倉新八、など6件(クローズアップ展示2) 2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展) 2019; 松浦武四郎の蝦夷日誌を読む、など6件(クローズアップ展示2) 2018; 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える(第4回特別展、チーフ) 2017; プレイボール! —北海道と野球をめぐる物語—(第3回特別展、チーフ) 普及行事 2020; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2020; ちゃれんが古文書クラブ(全11回)(道民参加型行事、うち8回担当) 2020; はじめての古文書講座(全10回)(古文書講座、うち4回担当) 2019; 古文書に親しむ(全3回)(古文書講座) 2019; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2019; 文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり(子どもワークショップ)
対外研究成果発信	2020; 近世後期の尾張名古屋博覧会について(発表) 2020; 近世後期の尾張名古屋博覧会について—近代日本の「博物館」前史の一断面(執筆) 2019; 「見る」、「集める」、「伝える」の三つのキーワードでひもとく松浦武四郎の生涯(執筆) 2018; 松浦武四郎研究の現状と課題: 新たな武四郎像の構築に向けて(執筆)	

鈴 木 琢 也 SUZUKI Takuya

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 研究部歴史研究グループ学芸主幹(兼)
学 位	修士、2001年(福島大学大学院地域政策科学研究科)
担当分野	考古

2021年度	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積) ③北方四島の考古・歴史学的総合研究(総合研究)
	外部資金	④北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究(科研・研究代表者) ⑤官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質(科研・研究分担者) ⑥古代末期防衛の集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築(科研・研究分担者)
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2021; 収蔵資料紹介 「甗」1300年前の食文化を考える(ニュース) 2017; 弥永コレクション(資料目録、共著) 調査研究 2020; 北方四島における考古・歴史学の総合研究(Ⅰ)(紀要、共著) 2019; 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅳ)—特に北方四島の先史文化研究を中心に—(紀要、共著) 2018; 武四郎と考古遺物(特別展図録) 2018; 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ)—特に北方四島の先史文化研究を中心に—(紀要、共著) 2016; 擦文文化の成立過程と秋田城交易(紀要) 展示制作 2018; 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える(第4回特別展) 2017; 2020東京オリンピック・パラリンピックがやってくる(秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展) 2017; 弥永コレクション(第9回企画テーマ展) 2016; ジオパークへ行こう! —恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅—(第2回特別展) 普及行事 2019; 縄文土器をつくる(全2回)(ちゃれんがワークショップ) 2019; 石器をつくる(ちゃれんがワークショップ) 2018; 蒐集家、武四郎と考古遺物(ミュージアムトーク) 2018; 武四郎リレー講座②「漁業と考古遺物のお話」(ミュージアムカレッジ)
対外研究成果発信	2020; 擦文文化と奥州藤原氏—北日本中世初期の交流史(執筆) 2019; 北海道島における本州須恵器の流通—5世紀~11世紀—(発表) 2017; 平泉関係遺跡集成『北海道』(執筆) 2016; 平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容(執筆)	

山田 伸一 YAMADA Shin'ichi

職名	総務部企画グループ学芸主査(社会貢献) 研究部歴史研究グループ学芸主査(兼)
学位	修士、1996年(北海道大学大学院文学研究科)
担当分野	歴史(近現代)

2021年度	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積) ③湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究) ④北海道とサハリン(北東アジア)
	外部資金	
	資料紹介活動紹介	2016;学芸職員が語る総合展示の見どころ⑤「いとこれからを創る」(ニュース)
近年の主な博物館活動の実績	調査研究	2021;開拓使による河川サケ漁の「テス網」と夜漁の禁止(紀要) 2020;明治期の野幌丘陵におけるヒグマとオオカミの記録(紀要) 2020;一九一〇～四〇年代の千島・樺太・北海道の島々へのキツネの移入(紀要) 2019;アイヌ語地名の漢字表記の近現代(特別展図録) 2019;一八八二年四月、襟裳岬近くで座礁した英国船(紀要) 2018;開拓使とキツネ(紀要)
	展示制作	2020;たくぎん(北海道拓殖銀行)(クローズアップ展示6) 2019;エゾシカ(第15回企画テーマ展) 2018;りんご農家の道具(第12回企画テーマ展) 2018;集治監と囚人労働(クローズアップ展示5) 2017;プレイボール!—北海道と野球をめぐる物語—(第3回特別展) 2015;鶴(第2回企画テーマ展、チーフ)
	普及行事	2020;島にキツネを放つ(ミュージアムカレッジ) 2019;100年前の北海道と朝鮮半島(ミュージアムカレッジ) 2019;開拓使の頃のエゾシカと人(ミュージアムカレッジ) 2019;開拓使とエゾシカ(ミュージアムトーク) 2018;囚人が逃げた!—明治期の集治監関係の文書から(ミュージアムカレッジ)
	対外研究成果発信	2018;札幌島(1882～1886年)におけるアイヌ民族の飢餓(執筆)

東 俊 佑 AZUMA Shunsuke

職名	総務部企画グループ学芸主査(企画調整) 研究部歴史研究グループ学芸主査(兼)
学位	修士(文学)、2002年(東北学院大学大学院文学研究科)
担当分野	歴史(中・近世)

2021年度	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積) ③北方四島の考古・歴史学的総合研究(総合研究) ④北海道とサハリン(北東アジア)
	外部資金	
	資料紹介活動紹介	2020;フラーシム・コレクション目録(資料目録) 2019;収蔵資料紹介 古文書が語る松前藩政期の商場交易(ニュース) 2018;北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用(紀要)
近年の主な博物館活動の実績	調査研究	2021;北蝦夷地ウシヨロ場所アイヌの軽物上納(紀要) 2020;「土人給料勘定」のしくみ(Ⅲ)—北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—(紀要) 2019;「土人給料勘定」のしくみ(Ⅱ)—北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—(紀要) 2019;江戸時代の古地図・古文書とアイヌ語地名(特別展図録) 2018;「土人給料勘定」のしくみ(Ⅰ)—北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—(紀要)
	展示制作	2020;近世文書を読む①フラーシム・コレクション、など5件(クローズアップ展示1) 2019;アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2019;北のシルクロード:サンタン交易と蝦夷錦、など4件(クローズアップ展示1) 2015;夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報(第1回特別展)
	普及行事	2020;ちゃれんが古文書クラブ(全11回)(道民参加型行事、うち3回担当) 2020;はじめての古文書講座(全10回)(古文書講座、うち6回担当) 2019;江戸時代の古地図・古文書とアイヌ語地名(特別展展示解説セミナー) 2019;北蝦夷地ウシヨロ場所物語(ミュージアムカレッジ) 2019;はじめての古文書講座(全3回)(古文書講座)
	対外研究成果発信	2020;日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向:1264-1867(執筆) 2019;アイヌの交易世界と松前藩(執筆) 2019;北蝦夷地ウシヨロ場所における漆器の流入とアイヌの給料勘定(執筆)

田中 祐未 TANAKA Yumi

職名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員(兼)
学位	学士、2014年(北海道教育大学)
担当分野	美術史

2021年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)	
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積) 外部資金 ③吉田初三郎の鳥瞰図に関する研究—北海道旭川市と層雲峡に関連する作品を中心に(戸部眞紀財団研究助成)	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2020; 研究活動紹介 木村捷司による壁画『開拓』をめぐって(ニュース) 2020; 収蔵資料紹介 2点の船絵馬から読み取れる制作方法(ニュース)
		調査研究	2020; 寿都町の絵馬(紀要) 2019; 北海道鳥瞰図—初三郎と『種差』(特別展図録)
展示制作		2020; 吉田初三郎と北海道(クローズアップ展示5) 2020; 船絵馬(クローズアップ展示2) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2019; 『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(クローズアップ展示1)	
	普及行事	2020; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2019; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ) 2019; 文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり(子どもワークショップ) 2018; 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり(ちゃれんがワークショップ)	
対外研究成果発信			

右代 啓視 USHIRO Hiroshi

職名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員(兼)
学位	博士(歴史学)、2011年(駒澤大学大学院)
担当分野	考古

2021年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)	
	研究課題	通常研究 ①歴史研究グループ関連資料(考古、文書、美術、記録等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究(地域情報集積) ③北方四島の考古・歴史学的総合研究(総合研究、研究代表者) 外部資金 ④北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究(科研・研究代表者) ⑤古代末期防衛の集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築(科研・研究分担者)	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2018; 研究活動紹介 もう一つの歴史・文化の道—北海道から千島列島、カムチャツカへ(ニュース) 2017; 弥永コレクション(資料目録、共著) 2015; 開館記念特別展 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界(ニュース)
		調査研究	2020; 北方四島における考古・歴史学の総合研究(Ⅰ)(紀要、筆頭) 2019; 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅳ)—特に北方四島の先史文化研究を中心に—(紀要、筆頭) 2018; 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ)—特に北方四島の先史文化研究を中心に—(紀要、筆頭) 2017; 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅱ)—特に北方四島の先史文化研究を中心に—(紀要、筆頭)
展示制作		2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展) 2017; 弥永コレクション(第9回企画テーマ展) 2015; 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報—(第1回特別展、チーフ)	
	普及行事	2019; 縄文土器をつくる(全2回)(ちゃれんがワークショップ) 2019; 石器をつくる(ちゃれんがワークショップ) 2018; 縄文土器をつくる(全2回)(ちゃれんがワークショップ) 2018; 石器をつくる(ちゃれんがワークショップ)	
対外研究成果発信			
2019; 北方四島の歴史・文化を探る(執筆) 2019; 2019年北方四島学術調査—国後島ヤンベツ・小田富の遺跡群—(執筆、共著) 2019; カムチャツカ地方総合博物館所蔵の草皮遺物—ガルガンⅠ遺跡出土資料を中心に—(執筆) 2018; Remains of Kunashiri Island from Research on the Materials Collected in the Yuzhno-Kuriliskij Regional Museum(執筆、筆頭) 2017; 古環境復元と遺跡の立地(執筆、筆頭)			

研究部 生活文化研究グループ

池田 貴夫 IKEDA Takao

職名	総務部企画グループ学芸主幹 研究部生活文化研究グループ学芸主幹(兼)
学位	博士(学術)、2007年(名古屋大学)
担当分野	民俗

2021年度	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	研究課題	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積) ③寒冷地の自然と適応(北東アジア)
	外部資金	④北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究(科研・研究代表者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2021; 留萌兼光の鋸と鋸製造用具—2020年度寄贈資料から—(紀要、共著) 2018; 研究活動紹介〈北海道らしさ〉をより鮮明に(ニュース) 2018; 来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題(紀要、共著)
	調査研究	2020; 泉山了谷銘の湯川焼花瓶について(紀要、共著) 2019; 奥尻島の地名—字名改称、それぞれの〈思い〉(特別展図録) 2019; 端布からみた後藤家の衣服のあゆみ(紀要、共著)
	展示制作	2020; 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+栢谷隆男氏コレクション(第17回企画テーマ展) 2019; アイス語地名と北海道(第5回特別展) 2017; あったかい住まい—北海道・住まいの道のり(第7回企画テーマ展) 2016; 神様おねがい!—地域と人をむすぶ祈りのかたち—(第4回企画テーマ展)
	普及行事	2021; 博物館のなかで宝さがし(子どもワークショップ) 2020; 羊毛を紡ぐ(ちゃれんがワークショップ) 2020; 雪のなかで宝さがし(子どもワークショップ) 2019; 北海道地名クイズ王決定戦(特別イベント) 2019; 北海道の地名うんちく話〜ふるさとに帰省された皆様に(特別展展示解説セミナー) 2019; のこぎりでネームプレートをつくろう(ちゃれんがワークショップ) 2019; 稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦!(ちゃれんがワークショップ)
対外研究成果発信	2020; 北海道における博物館園の交流・連携(執筆) 2018; 近代日本を創った精神を知る—明治150年—北海道150年—急速に姿を変えた北の大地—(執筆) 2018; 北海道のクマ信仰・クマ儀礼(執筆) 2017; 日本領期の樺太における温泉開発と温泉をめぐる人びとの精神誌(執筆)	

山際 秀紀 YAMAGIWA Hideki

職名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査(資料管理) 研究部生活文化研究グループ学芸主査(兼)
学位	修士、1994年(大谷大学大学院文学研究科)
担当分野	産業史(農業)

2021年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積、研究代表者) ③湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究) ④北海道とサハリン(北東アジア)
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2021; トピックス カナダ・アルバータ州との友好40周年記念のいろいろ(ニュース) 2020; 研究活動紹介 リンゴ農家の農具の収集と展示、その後—『掛け袋(左袋)』を探して—(ニュース) 2018; 収蔵資料紹介 亜麻150年の歴史とバイオリン播種器(ニュース) 2017; 弥永コレクション(資料目録、共著)
	調査研究	2019; 北海道における亜麻生産とバイオリン播種器—現存する資料の構造分析を中心に—(紀要) 2016; 世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—(紀要、共著)
	展示制作	2019; 道産子のブラジル移住100周年(クローズアップ展示5) 2018; りんご農家の道具(第12回企画テーマ展、チーフ) 2018; 北海道の繊維産業(クローズアップ展示5) 2017; 弥永コレクション(第9回企画テーマ展)
	普及行事	2021; 博物館のウラ側を見よう(特別イベント) 2020; 博物館のバックヤードを見よう(特別イベント) 2019; のこぎりでネームプレートをつくろう(ちゃれんがワークショップ) 2019; 博物館の産業資料を読む(ミュージアムカレッジ) 2018; りんご農家で使われた道具のいろいろ(ミュージアムトーク) 2018; のこぎりでネームプレートをつくろう(ちゃれんがワークショップ) 2018; やってみよう、ステンシル!(ちゃれんが子どもクラブ)
対外研究成果発信		

会 田 理 人 AIDA Masato

職 名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査(展示) 研究部生活文化研究グループ学芸主査(兼)
学 位	修士、2002年(北海道大学大学院文学研究科)
担当分野	産業史(漁業)

2021年度	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積) ③北海道とサハリン(北東アジア)
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2020;博物館事業紹介 北海道開拓の村『酒屋さん』『そば屋さん』の展示(ニュース) 2020;収蔵資料紹介 社会人野球の強豪『たくぎん(北海道拓殖銀行)』(ニュース) 2019;総合展示室の資料紹介 第4テーマ「リンリン♪黒電話」(ニュース) 2018;トピックス より利用しやすくなった北海道開拓の村(ニュース)
	調査研究	2021;『樺太日日新聞』掲載スペイン・インフルエンザ関係記事 目録と紹介(紀要) 2018;全道樺太実業野球大会(紀要) 2016;『樺太日日新聞』掲載コンプ関係記事—目録と紹介(1923-29年)—(紀要) 2016;世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—(紀要、共著)
	展示制作	2020;みんなが夢中になった子ども雑誌(クローズアップ展示6) 2019;看板あれこれ(クローズアップ展示3) 2019;たくぎん(北海道拓殖銀行)(クローズアップ展示6) 2018;りんご農家の道具(第12回企画テーマ展) 2017;あったかい住まい—北海道・住まいの道のり—(第7回企画テーマ展、チーフ) 2017;プレイボール!—北海道と野球をめぐる物語—(第3回特別展)
	普及行事	2021;はじめての草木染め(子どもワークショップ) 2020;糸電話で、もしもしコンニチハ(子どもワークショップ) 2020;羊毛を紡ぐ(ちゃれんがワークショップ) 2019;ガリ版でいんさつ屋さん!(子どもワークショップ) 2019;博物館の産業資料を読む(ミュージアムカレッジ)
対外研究成果発信	2016;『ニシン釜』はどこで作られていた?(執筆)	

青 柳 かつら AOYAGI Katsura

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸主査(利用促進) 研究部生活文化研究グループ学芸主査(兼)
学 位	博士(環境学)、2011年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
担当分野	産業史(林業)

2021年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)
	研究課題	①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積) ③寒冷地の自然と適応(北東アジア)
	外部資金	④少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発(科研・研究代表者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2019;研究活動紹介 高齢者と博物館の協働で地域学習コンテンツを開発します(ニュース) 2018;総合展示室の資料紹介 第3テーマ「冬山造材を支えた道具『サッテ』」(ニュース) 2018;トピックス ロシア、カナダの博物館との交流事業が進行中です(ニュース)
	調査研究	2020;少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発(Ⅱ)—北海道内老人デイサービスセンターにおけるレクレーションと博物館利用に関するアンケートの解析から—(紀要) 2019;少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発—東旭川における高齢者参画型地域資源マップの効果と課題—(紀要) 2017;高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅱ)—独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題—(紀要) 2016;高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発—2015年北海道と2003年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から—(紀要)
	展示制作	2020;馬追いの道具(クローズアップ展示5) 2018;りんご農家の道具(第12回企画テーマ展)
	普及行事	2019;のこぎりでネームプレートをつくろう(ちゃれんがワークショップ) 2018;北海道林業を支えた道具(ミュージアムトーク) 2018;のこぎりでネームプレートをつくろう(ちゃれんがワークショップ)
対外研究成果発信	2020;少子高齢社会の地域学習コンテンツの開発:名寄市智恵文の事例(共同発表) 2018;『JSPS科研費15K01153報告書2.土市市朝日町の歴史と文化:回想法サロンと異世代交流の記録』 2018;『JSPS科研費15K01153報告書1.博物館を拠点とした高齢者と協働する地域学習プログラム集』	

尾 曲 香 織 OMAGARI Kaori

職 名	総務部企画グループ学芸員 研究部生活文化研究グループ学芸員(兼)
学 位	修士、2013年(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	民俗

2021年度	主 な 業 務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	研究課題	通常研究 ①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道における戦中・戦後の暮らしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積) ③湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究、研究代表者) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥寒冷地の自然と適応(北東アジア) ⑦樺太記憶継承事業(重点事業)
	外部資金	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2021; 留萌兼光の鋸と鋸製造用具—2020年度寄贈資料から—(紀要、筆頭) 2018; 研究活動紹介 誰かの「あたりまえ」を聞き、書き、伝える(ニュース) 調査研究 2020; 厚沢部町における食儀礼—かだっこ餅を中心として—(紀要、共著) 2019; 端布からみた後藤家の衣服のあゆみ(紀要、共著) 2018; 新十津川における女性の暮らし—結婚や出産に関わる習俗の変化についての一考察—(紀要) 2017; 兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承(紀要、共著) 展示制作 2020; 北海道とオリンピック(クローズアップ展示6) 2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展) 2019; おままごとの世界(クローズアップ展示6) 2018; 懐かしのレコード(クローズアップ展示6) 2017; あったかい住まい—北海道・住まいの道のり(第7回企画テーマ展) 普及行事 2021; 北海道の正月料理(ミュージアムカレッジ) 2020; 羊毛を紡ぐ(ちゃれんがワークショップ) 2018; 昭和の嫁入り道具(ミュージアムトーク)
対外研究成果発信	2021; 樺太引揚後の生活とその位置づけ—ある女性の回想から(執筆) 2018; 北海道陸別町における結婚披露と会費制祝賀会—昭和46年から55年の事例をもとに—(執筆) 2018; 北海道における新郎新婦の披露と「結婚祝賀会」—一足寄郡陸別町の事例から—(執筆)	

舟 山 直 治 FUNAYAMA Naoji

職 名	学芸部研究戦略グループ学芸員 研究部生活文化研究グループ学芸員(兼)
学 位	学士、1982年(酪農学園大学酪農学部農業経済学科)
担当分野	民俗

2021年度	主 な 業 務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信)
	研究課題	通常研究 ①生活文化研究グループ関連資料(生活、産業等)および博物館活動に関する調査研究 館内共同研究 ②北海道における戦中・戦後の暮らしの変化に関する聞き書き調査(地域情報集積)
	外部資金	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介 2021; 総合展示クローズアップ展示紹介 クローズアップ5「岩手県から北海道へ渡った神楽」(ニュース) 2019; 収蔵資料紹介 明治から昭和にかけての『布地帳』に収められた銘仙について(ニュース) 2018; 森のちゃれんがの権現様(ニュース) 2017; 弥永コレクション(資料目録、共著) 2016; 研究活動紹介 生活文化資料の活用に向けて(ニュース) 調査研究 2021; 旧樺太における野草を活用した手工—1910年代の大泊・留多加で行われた冬期の副業—(紀要) 2020; 泉山了谷銘の湯川焼花瓶について(紀要、筆頭) 2020; 厚沢部町における食儀礼—かだっこ餅を中心として—(紀要、共著) 2018; 滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承(紀要、筆頭) 2017; 兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承(紀要、筆頭) 展示制作 2020; 岩手県から北海道へ渡った神楽(クローズアップ展示5) 2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展、チーフ) 2017; 弥永コレクション(第9回企画テーマ展) 2017; プレイボール!—北海道と野球をめぐる物語—(第3回特別展) 2016; 神様おねがい!—地域と人をむすぶ祈りのかたち—(第4回企画テーマ展、チーフ) 普及行事 2021; 博物館のなかで宝さがし(子どもワークショップ) 2020; 雪のなかで宝さがし(子どもワークショップ) 2019; 稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦!(ちゃれんがワークショップ)
対外研究成果発信	2020; 岩手県から北海道へ渡った神楽(執筆) 2018; 『北海道民具事典Ⅰ』(執筆、「年中行事具」「信仰用具」「郷土芸能用具」)	

研究部 博物館研究グループ

堀 繁 久 HORI Shigehisa

職 名	学芸部長 研究部博物館研究グループ学芸主幹(兼)
学 位	学士、1985年(琉球大学理学部生物学科)
担当分野	博物館学・生物(昆虫)

2021年度	主 な 業 務	学芸部門の統括、研究部博物館研究グループの統括	
	研究課題	通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究 館内共同研究 ②野幌森林公園の生物インベントリー調査(第二次)(地域情報集積) ③北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用(地域情報集積) ④モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究(地域情報集積、研究代表者) ⑤湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究) ⑥北海道とサハリン(北東アジア) ⑦樺太記憶継承事業(重点事業、研究代表者) 外部資金 ⑧自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか?次世代ネットワーク管理の模索(科研・研究分担者)	
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2017; 展示会予告 第9回企画テーマ展「弥永コレクション」(ニュース) 2017; 弥永コレクション(資料目録、共著)
		調査研究	2021; 2020年秋に北海道へ飛来及び漂着したアカギカメムシ(紀要、共著) 2020; 札幌市北ノ沢地区周辺で確認された国内外来種アズマヒキガエルの食性について(紀要、共著) 2017; 北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について(紀要、筆頭) 2016; 野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について(紀要、筆頭)
展示制作		2020; 北海道のいろいろなカタツムリ(クローズアップ展示7) 2019; 昆虫から見る生物多様性(クローズアップ展示7) 2018; 「歩く宝石」オサムシ(クローズアップ展示7) 2017; 2020東京オリンピック・パラリンピックがやってくる(秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展、チーフ) 2017; 弥永コレクション(第9回企画テーマ展、チーフ)	
普及行事		2021; 動物の足跡を解読しよう(自然観察会) 2020; 木の実・草の実の大ぼうけんをたどろう(自然観察会) 2020; 草原の主・トノサマバッタをさがそう(子どもワークショップ) 2020; エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)	
対外研究成果発信		2017; パリ自然史博物館—海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える—(執筆) 2017; 増補改訂版『探そう!ほっかいどうの虫』(著書)	

櫻 井 万里子 SAKURAI Mariko

職 名	学芸部博物館基盤グループ主査(図書・情報発信) 研究部博物館研究グループ主査(兼)
学 位	学士、1997年(藤女子大学文学部国文学科)
担当分野	図書館情報学

2021年度	主 な 業 務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究 館内共同研究 ②モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究(地域情報集積) 外部資金
	近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介
調査研究		
展示制作		2021; クローズアップ展示関連図書コーナー(2回入替) 2020; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2020; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回) 2019; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2019; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回) 2018; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2018; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回) 2017; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2017; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回) 2016; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2016; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回) 2015; クローズアップ展示関連図書コーナー(6回入替) 2015; 図書室開架図書の入替とオススメ本の展示(大幅入替2回)
普及行事		2018; めざせ!武四郎 自分の作品で巻物をつくろう!(ちゃれんが子どもクラブ)
対外研究成果発信		

鈴木 あすみ SUZUKI Asumi

職名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員(兼)
学位	修士(農学)、2018年(帯広畜産大学大学院畜産学研究所)
担当分野	博物館資料学

2021年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信)
	研究課題	<p>通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究(地域情報集積) ③湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究) ④北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ⑤北海道とサハリン(北東アジア) ⑥樺太記憶継承事業(重点事業)</p> <p>外部資金 ⑦北海道の小型哺乳類コレクションの可視化および収集傾向の時空間解析(科研・研究代表者)</p>
	近年の主な博物館活動の実績	<p>資料紹介活動紹介 2021; 研究活動紹介 冷凍庫の中には...死体!? (ニュース) 2020; 久保寺逸彦旧蔵アイヌ民具資料ほか—2019年度新収蔵資料の紹介—(紀要、共著)</p> <p>調査研究 2021; 博物館等施設に冷凍保管される鳥類遺体の状況調査—2020年度調査報告—(紀要)</p> <p>展示制作 2019; 北海道にいるのいないの? モグラの仲間(クローズアップ展示7) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2019; エゾシカ(第15回企画テーマ展) 2018; りんご農家の道具(第12回企画テーマ展)</p> <p>普及行事 2021; 博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント) 2021; 動物の足跡を解説しよう(自然観察会) 2021; 野鳥の標本 見どころと作り方(ちゃれんがワークショップ) 2020; 草原の主・トノサマバツタをさがそう(子どもワークショップ) 2019; 「標本」ってなんだろう? 博物館の色々な標本たち(ミュージアムトーク) 2019; 飛び出し注意看板(ミュージアムトーク) 2019; エゾアカガエルのラブコールを聴こう(自然観察会)など2件 2019; 鳥のつばさの標本をつくろう!(ちゃれんがワークショップ)</p>
対外研究成果発信	2021; 冷凍鳥類遺体の情報共有から地域ネットワークによる標本収集の仕組みを模索する(発表) 2021; 鳥の標本をどう集めるか—冷凍庫調査ははじめました—(発表) 2021; 「正式公開となったジャパンサーチを使ってみる」参加記(執筆)	

鈴木 明世 SUZUKI Akiyo

職名	総務部企画グループ研究職員 研究部博物館研究グループ研究職員(兼)
学位	修士、2018年(早稲田大学大学院創造理工学研究所)
担当分野	建築学

2021年度	主な業務	企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)
	研究課題	<p>通常研究 ①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究</p> <p>館内共同研究 ②モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究(地域情報集積) ③北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ④北海道とサハリン(北東アジア) ⑤寒冷地の自然と適応(北東アジア)</p> <p>外部資金 ⑥明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究(科研・研究代表者)</p>
	近年の主な博物館活動の実績	<p>資料紹介活動紹介 2021; 開拓の村建造物関係資料データベース化に向けた作業報告(紀要) 2020; 博物館事業紹介 北海道開拓の村 建物の大規模改修工事について(ニュース) 2020; だれもが利用しやすい博物館を目指して—館内の施設設備の改修について(ニュース、共著) 2020; 展示紹介 蔵出し展『模型でみる札幌建築物』を担当して(ニュース) 2019; 研究活動紹介 サハリンに残る『樺太』を探して(ニュース)</p> <p>調査研究 2021; 現サハリン南部における日本統治期建造物の残存状況について(紀要) 2021; 沙流郡平取町二風谷に現存する明治40年建築のアイヌ家屋について(紀要)</p> <p>展示制作 2020; みんなが夢中になった子ども雑誌(クローズアップ展示6) 2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展) 2020; 模型でみる札幌建築物(蔵出し展、チーフ) 2019; 「住まい」を彩るタイル(クローズアップ展示6) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展)</p> <p>普及行事 2020; 建物を通してみる、サハリンに残る「樺太」(ミュージアムカレッジ) 2019; 北海道の住まいのうつりかわり(ミュージアムトーク) 2019; 博物館を建てる「モノ」のオリジナル図鑑をつくろう!(子どもワークショップ) 2019; 地図を楽しもう!(子どもワークショップ)</p>
対外研究成果発信	2021; 住宅における和と洋の融合—旧開拓使爾志通洋造家(白官舎)を事例に—「北海道開拓の村」にみる木造建築その2(執筆) 2020; 開拓使による洋風建築—旧開拓使工業局庁舎を事例に—「北海道開拓の村」にみる木造建築その1(執筆) 2019; 「野外博物館 北海道開拓の村」に保存・展示される建造物の図面整理状況についての現状報告(発表)	

渋谷 美月 SHIBUYA Mizuki

職 名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員(兼)
学 位	学士、2018年(京都工芸繊維大学造形工学課程・デザイン)
担当分野	博物館展示・博物館教育

2021年度	主 な 業 務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報)	
	研 究 課 題	通常研究	①博物館資料および博物館活動(資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及)に関する調査研究
		館 内 共 同 研 究	②モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究(地域情報集積) ③湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究(総合研究)
		外部資金	おうちミュージアム・ラボミュージアム同士の協働を促すコミュニティづくり(笹川科学研究助成)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2020;臨時休館をきっかけにはじめた「おうちミュージアム」ってどんな取り組み?(ニュース)	
	調査研究	2021;全国のミュージアムと取り組んだ「おうちミュージアム」ー参加ミュージアムを対象としたアンケート調査の結果報告ー(紀要)	
	展示制作		
	普及行事	2021;博物館のウラ側を見てみよう(特別イベント)	
対外研究成果発信		2021;コロナ禍をきっかけとした「おうちミュージアム」の試み(執筆) 2021;全国のミュージアムがオンラインで手を組んだ「おうちミュージアム」の1年間(発表) 2020;おうちミュージアムとしてネット上に現れた全国のミュージアムの学びのコンテンツ(発表) 2020;「おうちミュージアム」の事例発表(発表) 2020;臨時休館と学校休校をきっかけに始まった「おうちミュージアム」とは?(執筆) 2020;学校休校と臨時休館をきっかけに生まれた「おうちミュージアム」とは(発表) 2020;大きなコミュニティとなったおうちミュージアム(執筆) 2020;おうちミュージアムのはじまりとこれから(執筆)	

アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

小川 正人 OGAWA Masahito

職名	学芸副館長 アイヌ民族文化研究センター長(兼)・研究部長(兼)
学位	博士(教育学)、1995年(北海道大学)
担当分野	アイヌ史(教育史)

2021年度	主な業務	学芸部門の総覧、アイヌ民族文化研究センター及び研究部の統括							
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②北海道とサハリン(北東アジア、研究代表者) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究(研究代表者) ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト(研究代表者) ⑤樺太記憶継承事業(重点事業)</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td>⑥近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究(科研・研究代表者) ⑦「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化(国土地理協会学術研究助成)</td> </tr> </table>	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究	館内共同研究	②北海道とサハリン(北東アジア、研究代表者) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究(研究代表者) ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト(研究代表者) ⑤樺太記憶継承事業(重点事業)	外部資金	⑥近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究(科研・研究代表者) ⑦「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化(国土地理協会学術研究助成)	
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究							
館内共同研究	②北海道とサハリン(北東アジア、研究代表者) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究(研究代表者) ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト(研究代表者) ⑤樺太記憶継承事業(重点事業)								
外部資金	⑥近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究(科研・研究代表者) ⑦「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化(国土地理協会学術研究助成)								
近年の主な博物館活動の実績	<table border="1"> <tr> <td>資料紹介活動紹介</td> <td>2021; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」この春、幕別町で開催します(ニュース) 2020; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を開催しました(ニュース) 2020; アイヌ文化展示施設「エカシケンル」関連の新資料—2019年新収蔵資料の紹介—(紀要、共著)</td> </tr> <tr> <td>調査研究</td> <td>2021; 平賀サダ書誌(紀要、共著) 2019; 『アイヌ語地名と北海道』(特別展図録、編集)</td> </tr> <tr> <td>展示制作</td> <td>2020; 渋沢栄一・渋沢敏三とアイヌ史・アイヌ文化(クローズアップ展示4) 2020; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2020白老(第8回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2019白老、など2件(第6・7回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展、チーフ) 2019; サハリン(樺太)アイヌの近現代史、など3件(クローズアップ展示3)</td> </tr> <tr> <td>普及行事</td> <td>2021; 一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史(ミュージアムカレッジ) 2020; 択捉島紗那の学校と高城重吉(ミュージアムカレッジ) 2020; 山田秀三の地名調査について—岩内、寿都、積丹半島、俱知安などの調査をたどる—(アイヌ文化巡回展関連講座) 2019; 山田秀三のアイヌ語地名研究(特別展展示解説セミナー)</td> </tr> </table>	資料紹介活動紹介	2021; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」この春、幕別町で開催します(ニュース) 2020; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を開催しました(ニュース) 2020; アイヌ文化展示施設「エカシケンル」関連の新資料—2019年新収蔵資料の紹介—(紀要、共著)	調査研究	2021; 平賀サダ書誌(紀要、共著) 2019; 『アイヌ語地名と北海道』(特別展図録、編集)	展示制作	2020; 渋沢栄一・渋沢敏三とアイヌ史・アイヌ文化(クローズアップ展示4) 2020; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2020白老(第8回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2019白老、など2件(第6・7回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展、チーフ) 2019; サハリン(樺太)アイヌの近現代史、など3件(クローズアップ展示3)	普及行事	2021; 一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史(ミュージアムカレッジ) 2020; 択捉島紗那の学校と高城重吉(ミュージアムカレッジ) 2020; 山田秀三の地名調査について—岩内、寿都、積丹半島、俱知安などの調査をたどる—(アイヌ文化巡回展関連講座) 2019; 山田秀三のアイヌ語地名研究(特別展展示解説セミナー)
資料紹介活動紹介	2021; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」この春、幕別町で開催します(ニュース) 2020; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を開催しました(ニュース) 2020; アイヌ文化展示施設「エカシケンル」関連の新資料—2019年新収蔵資料の紹介—(紀要、共著)								
調査研究	2021; 平賀サダ書誌(紀要、共著) 2019; 『アイヌ語地名と北海道』(特別展図録、編集)								
展示制作	2020; 渋沢栄一・渋沢敏三とアイヌ史・アイヌ文化(クローズアップ展示4) 2020; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2020白老(第8回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2019白老、など2件(第6・7回アイヌ文化巡回展) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展、チーフ) 2019; サハリン(樺太)アイヌの近現代史、など3件(クローズアップ展示3)								
普及行事	2021; 一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史(ミュージアムカレッジ) 2020; 択捉島紗那の学校と高城重吉(ミュージアムカレッジ) 2020; 山田秀三の地名調査について—岩内、寿都、積丹半島、俱知安などの調査をたどる—(アイヌ文化巡回展関連講座) 2019; 山田秀三のアイヌ語地名研究(特別展展示解説セミナー)								
対外研究成果発信	2019; アイヌ民族の近現代史をどうとらえるか—「社会事業史」とのかかわりを考えるために—(発表) 2019; 千島アイヌの教育史 その1—色丹島への強制移住(1884)を中心に—(発表)								

甲地利恵 KÔCHI Rie

職名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究主幹 総務部企画グループ研究主幹(兼)
学位	修士(教育学)、1988年(東京学芸大学大学院教育学研究科)
担当分野	アイヌ文化(音楽)

2021年度	主な業務	アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業) 企画グループ業務(4開拓の村、9評価制度、10道民参加の推進、11博物館ネットワーク、13人材育成・社会貢献)							
	研究課題	<table border="1"> <tr> <td>通常研究</td> <td>①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究</td> </tr> <tr> <td>館内共同研究</td> <td>②寒冷地の自然と適応(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト</td> </tr> <tr> <td>外部資金</td> <td>⑤アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査(科研・研究代表者)</td> </tr> </table>	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究	館内共同研究	②寒冷地の自然と適応(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト	外部資金	⑤アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査(科研・研究代表者)	
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究							
館内共同研究	②寒冷地の自然と適応(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト								
外部資金	⑤アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査(科研・研究代表者)								
近年の主な博物館活動の実績	<table border="1"> <tr> <td>資料紹介活動紹介</td> <td>2020; 研究活動紹介 アイヌ音楽の調査・研究(ニュース) 2019; 総合展示室の資料紹介 第2テーマ「映像資料『鍋沢キリさんが歌うヤイサマ』」(ニュース) 2018; 研究交流事業紹介 ロイヤル・アルバータ博物館の研究者2名を迎えました!(ニュース) 2017; 「Interpretive Center」—アルバータ州の先住民族文化の展示施設を見学して—(ニュース)</td> </tr> <tr> <td>調査研究</td> <td>2018; アイヌ音楽の音声資料—公刊されたアナログレコード盤—(紀要) 2017; アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について(紀要) 2015; アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試み—平取地方の『cupka wa kamuy ran』録音資料の比較をとおして</td> </tr> <tr> <td>展示制作</td> <td>2020; 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション(第17回企画テーマ展、チーフ) 2020; 灰場武雄さんが見つけたトンコリ(五弦琴)(クローズアップ展示4) 2015; 鶴(第2回企画テーマ展)</td> </tr> <tr> <td>普及行事</td> <td>2019; 大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」(ちゃれんがワークショップ) 2019; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(子どもワークショップ) 2018; 展示場のトンコリを弾いてみよう(ミュージアムトーク) 2018; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(ちゃれんが子どもクラブ) 2018; アイヌの子守歌・諸民族の子守歌(ミュージアムカレッジ)</td> </tr> </table>	資料紹介活動紹介	2020; 研究活動紹介 アイヌ音楽の調査・研究(ニュース) 2019; 総合展示室の資料紹介 第2テーマ「映像資料『鍋沢キリさんが歌うヤイサマ』」(ニュース) 2018; 研究交流事業紹介 ロイヤル・アルバータ博物館の研究者2名を迎えました!(ニュース) 2017; 「Interpretive Center」—アルバータ州の先住民族文化の展示施設を見学して—(ニュース)	調査研究	2018; アイヌ音楽の音声資料—公刊されたアナログレコード盤—(紀要) 2017; アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について(紀要) 2015; アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試み—平取地方の『cupka wa kamuy ran』録音資料の比較をとおして	展示制作	2020; 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション(第17回企画テーマ展、チーフ) 2020; 灰場武雄さんが見つけたトンコリ(五弦琴)(クローズアップ展示4) 2015; 鶴(第2回企画テーマ展)	普及行事	2019; 大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」(ちゃれんがワークショップ) 2019; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(子どもワークショップ) 2018; 展示場のトンコリを弾いてみよう(ミュージアムトーク) 2018; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(ちゃれんが子どもクラブ) 2018; アイヌの子守歌・諸民族の子守歌(ミュージアムカレッジ)
資料紹介活動紹介	2020; 研究活動紹介 アイヌ音楽の調査・研究(ニュース) 2019; 総合展示室の資料紹介 第2テーマ「映像資料『鍋沢キリさんが歌うヤイサマ』」(ニュース) 2018; 研究交流事業紹介 ロイヤル・アルバータ博物館の研究者2名を迎えました!(ニュース) 2017; 「Interpretive Center」—アルバータ州の先住民族文化の展示施設を見学して—(ニュース)								
調査研究	2018; アイヌ音楽の音声資料—公刊されたアナログレコード盤—(紀要) 2017; アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について(紀要) 2015; アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試み—平取地方の『cupka wa kamuy ran』録音資料の比較をとおして								
展示制作	2020; 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+柘谷隆男氏コレクション(第17回企画テーマ展、チーフ) 2020; 灰場武雄さんが見つけたトンコリ(五弦琴)(クローズアップ展示4) 2015; 鶴(第2回企画テーマ展)								
普及行事	2019; 大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」(ちゃれんがワークショップ) 2019; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(子どもワークショップ) 2018; 展示場のトンコリを弾いてみよう(ミュージアムトーク) 2018; アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこう(ちゃれんが子どもクラブ) 2018; アイヌの子守歌・諸民族の子守歌(ミュージアムカレッジ)								
対外研究成果発信	2019; 再考・アイヌの神謡の旋律構造について—「iwakahore」の旋律分析を中心に—(発表)								

遠藤 志保 ENDO Shiho

職名	学芸部道民サービスグループ研究主査(教育普及) アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究主査(兼)
学位	修士、2007年(千葉大学大学院文学研究科)
担当分野	アイヌ文学

2021年度	主な業務	道民サービスグループ業務(5教育普及事業、6ミュージアム・エデュケーター機能の強化、8広報) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道とサハリン(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	⑤アイヌ口承文学における話型分類の研究(科研・研究代表者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2020; アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名と木田金次郎」を木田金次郎美術館(岩内町)で開催しています(ニュース) 2019; 特別展『アイヌ語地名と北海道』関連パネル展示『アイヌ語地名研究者・山田秀三とたどる 村の建物ゆかりの地名』を開催しました(ニュース、共著)
	調査研究	2021; 平賀サダ書誌(紀要、共著) 2020; 『アイヌ語地名と木田金次郎』(アイヌ文化巡回展図録、編集) 2020; アイヌ英雄叙事詩における風景描写—鍋沢元蔵のテキストから—(紀要) 2019; 言語地名としての〈地名〉—山田秀三の、その後—(特別展図録)
	展示制作	2020; アイヌ語地名と木田金次郎(第9回アイヌ文化巡回展) 2020; 伝承者が生きた近現代 平賀サダさん(クローズアップ展示3) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2018; 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える(第4回特別展) 2018; カムイとアイヌのものがたり(第10回企画テーマ展)
	普及行事	2020; アイヌ語 はじめの一步(アイヌ文化巡回展関連講座) 2020; じっくり! 「見て聞いてアイヌ文化の世界」(アイヌ語講座) 2019; 地名にまつわる〈アイヌの伝承〉をみる(特別展展示解説セミナー) 2019; 地図を楽しもう! (子どもワークショップ) 2019; アイヌ語 はじめの一步(アイヌ語講座)
対外研究成果発信	2019; アイヌ語・アイヌ口承文芸アーカイブの現状と課題(発表) 2018; アイヌ英雄叙事詩におけるハヨクペの語られ方(執筆)	

大坂 拓 OSAKA Taku

職名	学芸部研究戦略グループ学芸主査(調査研究) アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸主査(兼)
学位	修士、2008年(明治大学)
担当分野	アイヌ文化(生活技術)

2021年度	主な業務	研究戦略グループ業務(3調査研究、14研究成果の発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道とサハリン(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	⑤考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究(科研・研究代表者)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2021; 2020年度新収蔵資料の紹介—山田秀三氏旧蔵アイヌ民具資料ほか—(紀要、共著) 2020; 収蔵資料紹介 再発見 音吉さんのイナウ(ニュース) 2020; 久保寺逸彦旧蔵アイヌ民具資料ほか—2019年度新収蔵資料の紹介—(紀要、共著) 2020; アイヌ文化展示施設「エカシケル」関連の新資料—2019年新収蔵資料の紹介—(紀要、共著)
	調査研究	2021; 後志地方の近代アイヌ社会と民具資料収集の射程—旧開拓使札幌本庁管下後志国9郡を対象として—(紀要) 2020; 北海道アイヌの葬送用広紐に関する基礎的検討—制作技術の地域差と日高東部地域における東方系・西方系出自集団との関係—(紀要) 2020; 渡島半島のアイヌ社会と民具資料収集者の視野—旧開拓使函館支庁管轄地域を中心として—(紀要) 2019; 浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討(紀要) 2019; アイヌ民族の編袋—地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての継承—(紀要)
	展示制作	2020; 祈りの造形—狐神の舟、など2件(クローズアップ展示3・4) 2019; 祈りの造形—死者を悼む(2) 死者用の靴(クローズアップ展示3) 2019; 北の手仕事2019(第14回企画テーマ展) 2018; 仕事とくらしのうつりかわり1 毒矢の禁止、そこからの歩み(クローズアップ展示4) 2016; アイヌ民族の造形美—北海道博物館所蔵の木盆—(蔵出し展、チーフ)
	普及行事	2021; 近世における「アットゥシ」の地域差と流通(ミュージアムカレッジ) 2020; 「岩宇地域」のアイヌ文化誌(アイヌ文化巡回展関連講座) 2020; 渡島半島に暮らしたアイヌ民族の歴史と文化(ミュージアムカレッジ) 2019; 「北の手仕事」の美—文化継承活動の精華を見る(ミュージアムトーク)
対外研究成果発信	2017; 物質文化研究と考古学の接点(発表)	

亀丸 由紀子 KAMEMARU Yukiko

職名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸員(兼)
学位	修士(文学)、2019年(北海道大学大学院文学研究科)
担当分野	アイヌ文化(民具)

2021年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究(総合研究) ③北海道とサハリン(北東アジア) ④寒冷地の自然と適応(北東アジア) ⑤北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ⑥アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	⑦アイヌ民族の交易品服飾資料に関する基礎的研究—北海道内の博物館資料を題材に(ポーラ美術振興財団調査研究助成)
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2021; 2020年度新収蔵資料の紹介—山田秀三氏旧蔵アイヌ民具資料ほか—(紀要、筆頭) 2020; 久保寺逸彦旧蔵アイヌ民具資料ほか—2019年度新収蔵資料の紹介—(紀要、共著) 2020; アイヌの衣服資料(鞆皮衣・木綿衣)について—北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告1—(紀要) 2019; 収蔵資料紹介 アイヌ民族の『耳飾り(ニンカリ)』について(ニュース)
	調査研究	2020; アイヌ民族の耳飾りに関する基礎的研究—国内博物館等収蔵資料を中心として—(紀要)
	展示制作	2020; 新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち(クローズアップ展示4) 2020; 北海道神宮(第16回企画テーマ展) 2019; モノから見るアイヌ文化—耳飾りのいろいろ(クローズアップ展示4) 2019; 北の手仕事2019(第14回企画テーマ展)
	普及行事	2019; アイヌの伝統的な家の中をのぞいてみよう!(ミュージアムトーク)
対外研究成果発信	2019; 図書館・博物館協力と先住民(発表) 2019; 先住民に関する図書館と博物館の目指すべき関係性の提案(発表)	

大谷 洋一 OOTANI Yoh'ichi

職名	学芸部博物館基盤グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員(兼)
学位	
担当分野	アイヌ文学

2021年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	
	通常研究	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道とサハリン(北東アジア) ③北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ④アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2020; 2020年度博物館実習について(ニュース) 2018; 研究活動紹介 アイヌ文学から「カムイ」を学ぶ(ニュース) 2015; アイヌ民族文化研究センターだより イベント紹介 アイヌ語「解説、講座(ニュース)
	調査研究	2021; 平賀サダ書誌(紀要、筆頭) 2021; アイヌ口承文芸「散文説話」—カッコウの神から守られた女—(紀要) 2019; アイヌ口承文芸「散文説話」—タンネサラの男—(紀要) 2019; 地名のル、そしてルベシベ(特別展図録) 2018; アイヌ口承文芸「散文説話」—人間の女に惚れたフリを殺した男—(紀要) 2017; アイヌ口承文芸「散文説話」—山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語—(紀要)
	展示制作	2020; 伝承者が生きた近現代 平賀サダさん(クローズアップ展示3) 2019; 関東におけるアイヌ語勉強会のようす—1980~2000年(クローズアップ展示3) 2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2018; カムイとアイヌのものがたり(第10回企画テーマ展) 2017; 先祖供養を行うときの屋内—祈りと供物を送る道具(クローズアップ展示3)
	普及行事	2020; アイヌの物語を聞いてみよう—カッパの神様登場—(ミュージアムカレッジ) 2019; 地名の『ル』、そしてわがルベシベ(特別展展示解説セミナー) 2019; アイヌの物語を聞いてみよう(アイヌ語講座) 2018; アイヌ語であそぼう(ちゃれんが子どもクラブ)
対外研究成果発信	2017; アイヌ口承文芸で語られる河童について(執筆)	

吉川 佳見 YOSHIKAWA Yoshimi

職名	学芸部博物館基盤グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員(兼)
学位	博士(文学)、2021年(千葉大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	アイヌ語

2021年度	主な業務	博物館基盤グループ業務(1資料の収集・保存、2展示、12情報発信) アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ③アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	※2021年4月より北海道博物館アイヌ民族文化研究センターに配属。
	調査研究	
	展示制作	
	普及行事	
対外研究成果発信		2021; アイヌ語静内方言のkane an、wa anと状態性動詞との共起について(執筆) 2020; ruwe neの「語り」における機能についての試論(執筆) 2020; アイヌ語の助動詞nisaの用法についての一考察(執筆) 2020; アイヌ語における「完了」表現があらわす証拠性(執筆) 2019; アイヌ語の存在型アスペクト「kor an」「wa an」の意味範囲について(執筆) 2019; アイヌ語の助動詞aと証拠性(発表)

佐々木 利和 SASAKI Toshikazu

職名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授
学位	博士(文学)、2000年(早稲田大学)
担当分野	アイヌ民族史・日本近世史

2021年度	主な業務	アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ③アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2019; 博物館活動報告 余市のアイヌ文化を考える(紀要、共著) 2018; アイヌ民族研究センターだより 山田秀三先生の地名調査(ニュース) 2017; アイヌ民族研究センターだより 久保寺先生・久保寺文庫とわたし(ニュース)
	調査研究	2020; 木田金次郎とアイヌ語地名(アイヌ文化巡回展図録) 2019; 今井八九郎一ひと業績—(特別展図録) 2018; トンコリ、そしてヲノワク翁(特別展図録) 2017; 『夷酋列像』の再検討に向けて—シモチ像と「叡覧」と—(紀要、筆頭)
	展示制作	2019; アイヌ語地名と北海道(第5回特別展) 2019; 古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名(クローズアップ展示1) 2018; 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える(第4回特別展)
	普及行事	2020; 木田金次郎が見たアイヌ語地名(アイヌ文化巡回展関連講演会) 2019; 今井八九郎—ひとと業績(講演会) 2018; めざせ! 武四郎 自分の作品で巻物をつくろう!(ちゃれんが子どもクラブ) 2018; 1818—生と死(特別展関連講演会)

奥田 統己 OKUDA Osami

職名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※札幌学院大学人文学部人間科学科人文学部人間科学科教授
学位	文学修士、1989年(千葉大学)
担当分野	アイヌ語・アイヌ文学

2021年度	主な業務	アイヌ民族文化研究センター業務(15アイヌ民族文化研究センターの事業)
	研究課題	①アイヌ民族文化関連資料及び諸活動に関する調査研究
	館内共同研究	②北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究 ③アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト
	外部資金	
近年の主な博物館活動の実績	資料紹介活動紹介	2020; アイヌ民族文化研究センターだより キーステン・レフシン資料の受け入れについて(ニュース)
	調査研究	2019; 千歳地方の神謡の韻律的志向性(紀要) 2019; “地鎮祭”のアイヌ語一呼称および祈詞の事例について—(紀要)
	展示制作	2020; キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料(クローズアップ展示3)
	普及行事	2019; アイヌ語由来の標語・愛称を再考する(ミュージアムカレッジ) 2018; 日常会話のリズムとイントネーションを中心に(全2回)(アイヌ語講座) 2018; 織田ステノさんとゴザ編みの近現代(ミュージアムトーク)

3 予算

2020(令和2)年度当初予算

事業名	文化振興事業費(北海道博物館管理運営費)				
事業の概要	北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理・運営を行います。				
	項目	内容		予算額 (千円)	
	管理運営費(指定管理負担金)	指定管理者：一般財団法人北海道歴史文化財団 指定管理期間：H31～R4		343,098	
	非常勤職員 標準経費	報酬等		64,647 470	
	計			408,215	
予算額及び 財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度	行政財産使用料
			408,215	407,871	
	内訳	一般財源	407,830	407,486	
		特定財源	385	385	
摘要					

事業名	文化振興事業費(北海道博物館費(事業費、試験研究費))				
事業の概要	北海道博物館において、北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集、保管、展示、調査研究等を行うとともに、道内博物館等の活性化を支援し、本道全体の地域文化の魅力向上を図ります。				
	項目	内容		予算額 (千円)	
	事業費 試験研究費	展示、交流連携、情報システム整備、教育普及イベント開催等		19,127 15,730	
	計			34,857	
予算額及び 財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度	科研費間接経費
			34,857	28,655	
	内訳	一般財源	28,397	24,677	
		特定財源	6,460	3,978	
摘要					

事業名	文化振興事業費(野幌森林公園管理費・施設整備費)				
事業の概要	野幌森林公園内に所在する施設の老朽化が進んでいるため、利用者の安全確保の視点から緊急度の高い施設の改修等を行います。				
	項目	内容		予算額 (千円)	
	野幌森林公園施設改修工事 維持費 標準経費	橋梁・歩道等整備 公園管理等		9,000 3,986 183	
	計			13,169	
予算額及び 財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度	
			13,169	13,388	
	内訳	一般財源	13,169	13,388	
摘要					

事業名	文化振興事業費(歴史文化「体感」交流空間再生事業)			
事業の概要	平成30年12月に策定した『ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想』に基づき、野幌森林公園エリア全体の再生に向けた取組を推進する。			
	項目	内容		予算額(千円)
	開拓の村利活用方針策定 百年記念塔解体	有識者、関係部局による検討 実施設計、新モニュメント公募条件検討 思い出保存		1,027 17,059
	野幌森林公園内遊歩道のユニバーサル等の検討	専門家意見聴取		98
	計			18,184
予算額及び財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度
			18,184	724
	内訳	一般財源	7,184	724
		特定財源	11,000	
摘要				

事業名	庁舎等営繕費(施設等建設工事費)			
事業の概要	北海道立総合博物館の施設の老朽化に伴う改修工事を行います。			
	項目	内容		予算額(千円)
	施設等建設工事費	施設の改修に向けた実施設計		28,182
	計			28,182
予算額及び財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度
			28,182	0
	内訳	一般財源	28,182	0
摘要	建設部計上(道立総合博物館)			

事業名	地域文化発信推進事業(北海道博物館特別展)			重点
事業の概要	北海道の恐竜・化石研究の最前線を紹介することにより、道民の教養向上を図るとともに、恐竜・化石資源を活用した地域づくりに貢献するため、北海道博物館において特別展を開催します。			
	項目	内容		予算額(千円)
	北海道博物館特別展の開催	北海道博物館第6回特別展「恐竜展2020—北海道恐竜研究最前線」 ・ニッポノサウルス全身骨格標本やむかわ竜(カムイサウルス・ジャポニクス)全身骨格標本などの展示 ・道民を対象としたシンポジウムの開催など		25,129
	計			25,129
予算額及び財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度
			25,129	0
	内訳	一般財源	12,818	0
		特定財源	12,311	0
摘要	総合政策部計上			

事業名	地方創生対策推進費(歴史文化資源を活用した観光拠点整備事業費)			
事業の概要	地域の歴史的な文化資源を活かしたまちづくりや地方創生を進めるため、開拓の村の施設整備を行います。			
	項目	内容		予算額(千円)
	体験学習棟施設整備 文化体験・情報発信	既存棟解体・現地建替 体験イベント関連設備の整備		69,500 500
	計			70,000
予算額及び 財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度
			70,000	0
	内訳	一般財源	1,000	0
		特定財源	69,000	0
摘要	総合政策部計上			

事業名	地方創生対策推進費(ウポポイ開設を捉えたアイヌ政策推進事業費)				重点
事業の概要	4月にオープンするウポポイ(民族共生象徴空間)の魅力あるコンテンツ等の積極的な発信、アイヌ文化や歴史に触れる機会の創出、周辺エリアの更なる魅力の向上、誘客促進に向けた需要の喚起のための取組を行います。				
	項目	内容		予算額(千円)	
	魅力発信 文化発信 周辺エリア 誘客促進	各種媒体やイベントを活用したウポポイやアイヌ文化の魅力発信、新たな関心層の発掘 アイヌ工芸品の販路拡大や北海道博物館・アニメーションを通じたアイヌ文化情報の発信 白老駅北観光商業ゾーンを活用し、北海道の魅力発信、需要の取り込み 来訪促進イベントなどによる秋以降の誘客促進		93,725 71,605 65,741 23,573	
	計			254,644	
	予算額及び 財源内訳	予算額(千円)		本年度	前年度
		254,644	302,514		
内訳		一般財源	128,831	151,257	
		特定財源	125,813	151,257	
摘要	旧民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業費				

4 利用者数

2020年度月別利用者数

※目標値・達成率は2020(令和2)～2024(令和6)年度の5か年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	目標値	達成率
総合展示室	758	697	2,090	3,419	5,590	11,055	7,435	3,143	775	968	3,319	4,415	43,664	400,000	10.9%
うち外国人	15	3	25	105	100	53	28	37	17	21	48	47	499	34,000	0.01%
特別展示室	1,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,523	5,167	12,563	260,000	0.48%
はっけん広場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000	0%
イベント (普及行事・特別イベント)	31	0	0	0	23	68	73	148	83	144	121	92	783	80,000	0.98%
ウェブサイト	30,671	56,448	26,397	25,769	26,269	21,648	19,645	17,862	13,974	16,718	45,227	32,648	333,276	1,300,000	25.6%
レファレンス	9	14	21	25	21	25	22	16	8	19	23	18	221	2,800	0.08%

北海道博物館利用状況集計表【総合展示室】(2020年度)

月	開館 日数	有料				無料・免除								計 (人)	うち 外国人
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳 以上	心障者	その他	小計		
4月	11	364	28	4	396	53	4	1	7	125	27	145	362	758	15
5月	6	384	20		404	84	20	1		90	20	78	293	697	3
6月	25	1,171	80	2	1,253	195	22	3		288	65	264	837	2,090	25
7月	25	1,656	219	11	1,886	251	35	43	24	403	109	668	1,533	3,419	105
8月	25	2,601	239	11	2,851	1,068	267	6	1	453	99	845	2,739	5,590	100
9月	24	1,939	179	2	2,120	5,595	1,745	7	10	487	127	964	8,935	11,055	53
10月	27	1,500	226	4	1,730	2,694	1,080	485	5	518	129	794	5,705	7,435	28
11月	23	1,128	152	3	1,283	470	620	30	2	244	63	431	1,860	3,143	37
12月	22	383	76		459	94	6	1		80	24	111	316	775	17
1月	23	460	46		506	129	7	13	1	109	33	170	462	968	21
2月	22	1,543	86	4	1,633	525	14	6	31	371	87	652	1,686	3,319	48
3月	25	1,989	219	6	2,214	680	42	11	1	518	86	863	2,201	4,415	47
合計	258	15,118	1,570	47	16,735	11,838	3,862	607	82	3,686	869	5,985	26,929	43,664	499

北海道博物館利用状況集計表【特別展示室】(2020年度)

月	開館 日数	有料				無料・免除								計 (人)	
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳 以上	心障者	その他	小計		
4月	11														1,873
5月	6														
6月	25														
7月	25														
8月	25														
9月	24														
10月	27														
11月	23														
12月	22														
1月	23														
2月	22														5,523
3月	25														5,167
合計	258														12,563

5 企画展開催一覧

特別展等開催一覧

名称	期間	日数	入場者数
第1回特別展 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報—	2015年9月5日～11月8日	56日	51,046人
第2回特別展 ジオパークへ行こう～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～	2016年7月9日～9月25日	68日	59,243人
第3回特別展 プレイボール！—北海道と野球をめぐる物語—	2017年7月8日～9月24日	68日	19,565人
第4回特別展 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える—	2018年6月30日～8月26日	50日	44,477人
第5回特別展 アイヌ語地名と北海道	2019年7月6日～9月23日	69日	26,947人
第6回特別展 恐竜展2020	※新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止	—	—
特別企画展 北海道の恐竜	2021年2月12日～3月14日	27日	10,690人

企画テーマ展等開催一覧

名称	期間	日数	入場者数
第1回企画テーマ展 学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ	2015年4月18日～6月7日	44日	23,889人
第2回企画テーマ展 鶴	2015年6月27日～8月16日	44日	15,091人
第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	6,071人
第4回企画テーマ展 神様おねがい！—地域と人をむすぶ祈りのかたち—	2016年2月27日～4月10日	38日	5,324人
第5回企画テーマ展 アイヌ民族資料を守り伝える力	2016年4月28日～6月5日	34日	9,419人
第6回企画テーマ展 きれいな不思議？楽しい！？漂着物—北の海辺でお宝みつけ！—	2016年10月14日～11月27日	34日	6,139人
蔵出し展 アイヌ民族の造形美—北海道博物館所蔵の木盆—	2016年12月22日～2017年1月15日	18日	1,632人
第7回企画テーマ展 あったかい住まい—北海道・住まいの道のり—	2017年2月3日～3月31日	49日	5,445人
第8回企画テーマ展 夜の森—ようこそ！動物たちの世界へ—	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
第9回企画テーマ展 弥永コレクション	2017年10月20日～12月24日	54日	8,354人
第10回企画テーマ展 カムイとアイヌのものがたり	2018年2月2日～4月8日	57日	7,247人
第11回企画テーマ展 野幌森林公園いきもの図鑑	2018年4月27日～6月3日	33日	12,060人
第12回企画テーマ展 りんご農家の道具	2018年9月21日～11月25日	57日	10,085人
第13回企画テーマ展 アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ—博物館のはたす役割—	2019年2月8日～4月7日	51日	8,345人
第14回企画テーマ展 北の手仕事2019	2019年4月27日～6月9日	39日	10,865人
第15回企画テーマ展 エゾシカ	2019年10月12日～12月15日	56日	9,839人
第16回企画テーマ展 北海道神宮	※2月29日～3月31日臨時休館	23日	3,826人
蔵出し展 模型でみる札幌建築物	2020年2月8日～4月5日	23日	3,148人
第17回企画テーマ展 楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+栴谷隆男氏コレクション	2020年4月25日～5月24日 ※中止/オンライン開催	—	—

その他の展示会開催一覧

名称	期間	日数	入場者数
Across Borders: 石川直樹写真展(北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業)	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	4,390人
2020 東京オリンピック・パラリンピックがやってくる(秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展)	2017年2月3日～3月17日	37日	4,267人
中島宏章写真展 あなたの街のコウモリの森	2017年4月28日～6月4日	33日	10,484人
生命のれきし—君につながるものがたり—(国立科学博物館 巡回ミュージアム)	2018年12月8日～2019年1月20日	31日	13,101人
TUKU IHO 受け継がれるレガシー(ニュージーランドマオリ工芸学校日本巡回展)	2019年4月27日～5月14日	16日	7,738人

アイヌ文化巡回展開催一覧

名称	会場	期間	日数	入場者数
第1回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2016 枝幸	オホーツクミュージアム えさし	2016年7月5日～9月4日		2,705人
第2回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2016 美幌	美幌博物館	2016年10月8日～11月27日		1,014人
第3回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2017 羅臼	羅臼町郷土資料館	2017年7月22日～10月18日		952人
第4回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2018 層雲峡	大雪山国立公園層雲峡ビジターセンター	2018年8月21日～9月30日		8,792人
第5回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2018 標津	標津町生涯学習センター「あすぼる」	2018年10月6日～10月21日		2,164人
第6回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2019 白老	白老町中央公民館・白老コミュニティセンター	2019年9月17日～9月26日		802人
第7回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2019 新ひだか	新ひだか町公民館・コミュニティセンター	2019年9月22日～9月23日		250人
第8回 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ アイヌ文化巡回展 2020 白老	仙台藩白老元陣屋資料館	2020年1月4日～1月19日		201人
第9回 アイヌ語地名と木田金次郎 アイヌ文化巡回展	木田金次郎美術館	2020年7月3日～11月3日		2,935人

クローズアップ展示1開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	松前・江差湊のにぎわい—『松前江差屏風』を読む—	2015年4月18日～6月28日
2	2015年度2	江差・松山の人びと—『江差松山屏風』を読む—	2015年6月30日～9月27日
3	2015年度3	アイヌ民族の一年—『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む—	2015年9月29日～2016年1月8日
4	2015年度4	北のシルクロード—サンタン交易をさぐる—	2016年1月9日～4月22日
5	2016年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁—小玉貞農筆『蝦夷国魚場風俗図巻』の世界—	2016年4月23日～6月3日
6	2016年度2	豪商村山家と松前・蝦夷地	2016年6月4日～7月29日
7	2016年度3	アイヌ民族の一年—『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む—その1	2016年7月30日～9月30日
8	2016年度4	19世紀のアイヌの衣文化—『蝦夷島奇観』と北海道神宮資料から—	2016年10月1日～12月14日
9	2016年度5	アイヌ民族の一年—『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む—その2	2016年12月17日～2017年2月3日
10	2016年度6	梁川時代の松前藩—『近藤家資料』から—	2017年2月4日～4月7日
11	2017年度1	《松前屏風》を読む	2017年4月8日～6月2日
12	2017年度2	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む(右隻:1～6月)	2017年6月3日～8月4日
13	2017年度3	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む(左隻:7～12月)	2017年8月5日～10月6日
14	2017年度4	豪商村山家の古文書	2017年10月7日～12月13日
15	2017年度5	松前藩家臣近藤家の古文書	2017年12月16日～2018年2月2日
16	2017年度6	ヨイチ場所請負人林家の古文書	2018年2月3日～4月6日
17	2018年度1	巻物を読む 蝦夷国魚場風俗図巻/蝦夷風俗絵巻	2018年4月7日～7月13日
18	2018年度2	古文書を読む 新着資料 フラージュ家の古文書	2018年7月14日～12月12日
19	2018年度3	屏風を読む 《江差屏風》/《松山屏風》	2018年12月15日～2019年4月12日
20	2019年度1	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(1)	2019年4月13日～6月7日
21	2019年度2	古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
22	2019年度3	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(2)	2019年10月12日～12月18日
23	2019年度4	北のシルクロード:サンタン交易と蝦夷錦	2019年12月21日～2020年4月10日
24	2020年度1	近世文書を読む① フラージュ・コレクション	2020年4月11日～6月11日
25	2020年度2	近世文書を読む② 林家文書	2020年6月12日～8月13日
26	2020年度3	近世文書を読む③ 工藤家文書	2020年8月14日～10月15日
27	2020年度4	近世文書を読む④ 村山家文書	2020年10月16日～12月16日
28	2020年度5	近世文書を読む⑤ 岩野家文書	2020年12月19日～2021年2月18日
29	2020年度6	近世文書を読む⑥ 近藤家文書	2021年2月19日～4月15日

クローズアップ展示2開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	新撰組の元幹部隊士—永倉新八ゆかりの資料—	2015年4月18日～5月31日
2	2015年度2	所蔵資料でふりかえる「札幌まつり」	2015年6月2日～6月28日
3	2015年度3	北海道の双六あれこれ	2015年6月30日～8月30日
4	2015年度4	アイヌを描いた絵師/早坂文嶺	2015年9月1日～11月1日
5	2015年度5	北海道の雑誌あれこれ	2015年11月3日～11月29日
6	2015年度6	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2015年12月1日～2016年1月29日
7	2015年度7	北海道へ移住した武士が伝えた古文書	2016年1月30日～4月3日
8	2016年度1	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2016年4月5日～6月3日
9	2016年度2	80年前の画家たちが見た北海道	2016年6月4日～7月29日
10	2016年度3	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2016年7月30日～9月30日
11	2016年度4	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ①	2016年10月1日～11月3日
12	2016年度5	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ②	2016年11月4日～12月14日
13	2016年度6	開拓を支えた交通・通信施設 駅通	2016年12月17日～2017年2月3日
14	2016年度7	江戸時代・明治時代の「熊送り図」	2017年2月4日～4月7日
15	2017年度1	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2017年4月8日～6月2日
16	2017年度2	開道の旅—『北海道巡教錦絵』—	2017年6月3日～8月4日
17	2017年度3	北海道の双六あれこれ	2017年8月5日～10月6日
18	2017年度4	アイヌ民族を描く—早坂文嶺と『蝦夷島奇観』—	2017年10月7日～12月13日
19	2017年度5	馬の肖像画家・島中露山	2017年12月16日～2018年2月2日
20	2017年度6	生誕200年 旅の巨人・松浦武四郎	2018年2月3日～4月6日
21	2018年度1	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2018年4月7日～5月25日
22	2018年度2	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2018年5月26日～7月13日
23	2018年度3	「北海道の名づけ親」松浦武四郎の語られ方	2018年7月14日～9月14日
24	2018年度4	北海道の双六あれこれ	2018年9月15日～12月12日
25	2018年度5	北海道の引札あれこれ	2018年12月15日～2019年2月8日
26	2018年度6	開拓使のお雇い外国人B.S.ライマンの弟子 山際永吾	2019年2月9日～4月12日
27	2019年度1	松浦武四郎の蝦夷日誌を読む	2019年4月13日～6月7日
28	2019年度2	松浦武四郎の地図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
29	2019年度3	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	2019年10月12日～12月18日
30	2019年度4	新しく仲間入りした歴史資料たち	2019年12月21日～2020年4月10日
31	2020年度1	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2020年4月11日～6月11日
32	2020年度2	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2020年6月12日～8月13日
33	2020年度3	船絵馬	2020年8月14日～10月15日
34	2020年度4	旧松前藩士 南條家資料	2020年10月16日～12月16日
35	2020年度5	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2020年12月19日～2021年2月18日
36	2020年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2021年2月19日～4月15日

クローズアップ展示3開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	アイヌ文化 イナウ	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	サハリン(樺太)の衣文化	2015年10月20日～2016年4月17日
3	2016年度1	伝承者が生きた近現代 鍋澤元蔵さん	2016年4月19日～7月15日
4	2016年度2	昔の記録にみる子どもの遊び	2016年7月16日～12月14日
5	2016年度3	祈りの造形—イクバスイ—	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く—登別—	2017年4月8日～8月4日
7	2017年度2	先祖供養を行うときの屋内	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	祈りの造形—死者を悼む—	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く—旭川—	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	人と歴史と—川村カ子と旭川—	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	伝承者が生きた近現代 四宅ヤエさん	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	祈りの造形—死者を悼む(2)死者用の靴	2019年4月13日～8月16日
13	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	関東におけるアイヌ文化の活動	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	伝承者が生きた近現代 平賀さだもさん	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	祈りの造形—狐神の舟	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料	2020年12月19日～2021年4月15日

クローズアップ展示4開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	アイヌ史 1920-30年代の札幌	2015年4月18日～2016年1月31日
2	2015年度2	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2016年2月2日～7月15日
3	2016年度1	千島アイヌの近現代史	2016年7月16日～12月14日
4	2016年度2	北海道南部・渡島半島の近現代史	2016年12月17日～2017年4月7日
5	2017年度1	文字に記されたアイヌ語—18～19世紀頃の資料から—	2017年4月8日～8月4日
6	2017年度2	首都圏、近畿地方の近現代史	2017年8月5日～12月13日
7	2017年度3	文字に記されたアイヌ語—1890年ごろの北海道庁の試み—	2017年12月16日～2018年4月6日
8	2018年度1	文書や絵画に見るアイヌの芸能	2018年4月7日～7月13日
9	2018年度2	仕事とくらしのうつりかわり1 毒矢の禁止、そこからの歩み	2018年7月14日～12月12日
10	2018年度3	1870～1920年ごろの札幌	2018年12月15日～2019年4月12日
11	2019年度1	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2019年4月13日～8月16日
12	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の、アイヌ文化の記録や保存への関わり	2019年8月17日～12月18日
13	2019年度3	モノから見るアイヌ文化—耳飾りのいろいろ	2019年12月21日～2020年4月10日
14	2020年度1	灰場武雄さんがつくったトンコリ(五弦琴)	2020年4月11日～8月13日
15	2020年度2	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2020年8月14日～12月16日
16	2020年度3	渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化	2020年12月19日～2021年4月15日

クローズアップ展示5開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2015年4月18日～2016年3月13日
2	2015年度2	北海道の〈やきもの〉① 小森忍の試み	2016年3月15日～7月15日
3	2016年度1	北海道の〈やきもの〉② 古代文字と名付けられた模様	2016年4月22日～6月2日
4	2016年度2	北海道の〈やきもの〉③ 北海道らしさの創造	2016年6月3日～7月29日
5	2016年度3	模型でめぐる北海道の建物① 道南地域の建物	2016年7月30日～9月16日
6	2016年度4	模型でめぐる北海道の建物② 道央地域の建物	2016年9月17日～10月28日
7	2016年度5	模型でめぐる北海道の建物③ 札幌農学校の建物	2016年10月29日～12月14日
8	2016年度6	土産品店の店さき	2016年12月17日～2017年4月7日
9	2017年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2017年4月8日～8月4日
10	2017年度2	いろいろな鋸	2017年8月5日～12月13日
11	2017年度3	職人の道具と技術—馬具・蹄鉄—	2017年12月16日～2018年4月6日
12	2018年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2018年4月7日～7月13日
13	2018年度2	集治監と囚人労働	2018年7月14日～12月12日
14	2018年度3	北海道の繊維産業	2018年12月15日～2019年4月12日
15	2019年度1	道産子のブラジル移住100周年	2019年4月13日～8月16日
16	2019年度2	岩手県から北海道へ渡った神楽	2019年8月17日～12月18日
17	2019年度3	看板あれこれ	2019年12月21日～2020年4月10日
18	2020年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2020年4月11日～8月13日
19	2020年度2	馬追いの道具	2020年8月14日～12月16日
20	2020年度3	吉田初三郎と北海道	2020年12月19日～2021年4月15日

クローズアップ展示6開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	札幌オリンピック	2015年4月18日～7月26日
2	2015年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)のいろいろ	2015年7月28日～11月29日
3	2015年度3	懐かしのおもちゃ	2015年12月1日～2016年3月27日
4	2016年度1	北海道百年	2016年3月29日～7月29日
5	2016年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2016年7月30日～12月14日

番号	年度	名称	期間
6	2016年度3	懐かしの家庭用品	2016年12月17日～2017年4月7日
7	2017年度1	札幌オリンピック	2017年4月8日～8月4日
8	2017年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2017年8月5日～12月13日
9	2017年度3	札幌の百貨店	2017年12月16日～2018年4月6日
10	2018年度1	懐かしのレコード	2018年4月7日～7月13日
11	2018年度2	「北海道百年」	2018年7月14日～12月12日
12	2018年度3	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2018年12月15日～2019年4月12日
13	2019年度1	おままごとの世界	2019年4月13日～8月16日
14	2019年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2019年8月17日～12月18日
15	2019年度3	「すまい」を彩るタイル	2019年12月21日～2020年4月10日
16	2020年度1	みんなが夢中になった子ども雑誌	2020年4月11日～8月13日
17	2020年度2	北海道とオリンピック	2020年8月14日～12月16日
18	2020年度3	たくぎん(北海道拓殖銀行)	2020年12月19日～2021年4月15日

クローズアップ展示7開催一覧

番号	年度	名称	期間
1	2015年度1	北海道の生物多様性	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	海からの〈おくりもの〉	2015年10月20日～2016年4月24日
3	2016年度1	動物の頭骨と歯のかたち	2016年4月26日～7月29日
4	2016年度2	歩く宝石“北海道のオサムシ”	2016年7月30日～12月14日
5	2016年度3	果実と種子の不思議	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	北海道のカタツムリのいろいろ	2017年4月8日～8月4日
7	2017年度2	リンゴはなぜ赤い？果実と種子のヒミツにせまる	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	どここのワマの骨でしょう？	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	「歩く宝石」オサムシ	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	「生き物たちの北海道」の150年	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	空飛ぶ鳥の「願いの骨」	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	昆虫から見る生物多様性	2019年4月13日～8月16日
13	2019年度2	北海道の地名にちなむ植物※	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	北海道にいるのいないの？モグラの仲間	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	北海道のいろいろなカタツムリ	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	恐竜と鳥をつなぐ骨	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	リンゴはなぜ赤い？ 木の実・草の実の不思議な世界	2020年12月19日～2021年4月15日

6 刊行物一覧

これまでに出版した刊行物

名称	刊行年月日	判型	頁数
北海道博物館ガイドブック	2015年4月1日	A5判	64頁
ビジュアル北海道	2016年3月31日	A4判	120頁
研究紀要			
北海道博物館研究紀要 第1号	2016年3月	A4判	166頁
北海道博物館研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	156頁
北海道博物館研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	272頁
北海道博物館研究紀要 第4号	2019年3月	A4判	204頁
北海道博物館研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館研究紀要 第6号	2021年3月	A4判	206頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第1号	2016年3月	A4判	234頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第2号	2017年3月	A4判	160頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第3号	2018年3月	A4判	172頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第4号	2019年3月	A4判	150頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第6号	2021年3月	A4判	166頁
資料目録			
北海道博物館資料目録 第1号(弥永コレクション)	2017年10月20日	A4判	128頁
北海道博物館資料目録 第2号(フラージュム・コレクション)	2020年3月	A4判	74頁
要覧			
北海道博物館要覧 第1号(要覧2015)	2017年3月31日	A4判	180頁
北海道博物館要覧 第2・3号(要覧2016・2017)	2018年11月30日	A4判	176頁
北海道博物館要覧 第4号(要覧2018)	2019年7月31日	A4判	146頁
北海道博物館要覧 第5号(要覧2019)	2020年7月31日	A4判	142頁
広報誌			
森のちやれんがニュース 創刊号(2015秋)	2015年9月1日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第2号(2015冬)	2015年12月1日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第3号(2016春)	2016年3月1日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第4号(2016夏)	2016年7月29日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第5号(2016秋)	2016年9月30日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第6号(2016冬)	2016年12月22日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第7号(2017春)	2017年3月31日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第8号(2017夏)	2017年6月30日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第9号(2017秋)	2017年10月17日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第10号(2017冬)	2017年12月28日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第11号(2018春)	2018年3月28日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第12号(2018夏)	2018年7月27日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第13号(2018秋)	2018年10月19日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第14号(2018冬)	2018年12月28日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第15号(2019春)	2019年3月26日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第16号(2019夏)	2019年6月25日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第17号(2019秋)	2019年9月25日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第18号(2019冬)	2019年12月31日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第19号(2020春)	2020年3月26日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第20号(2020夏)	2020年6月30日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第21号(2020秋)	2020年9月29日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第22号(2020冬)	2020年12月31日	A4判	8頁
森のちやれんがニュース 第23号(2021春)	2021年3月25日	A4判	8頁
特別展図録			
夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報(開館記念特別展図録) ※編集は北海道博物館、発行は「夷酋列像」展実行委員会・北海道新聞社	2015年9月5日	A4判	196頁
ジオパークへ行こう～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～(第2回特別展図録)	2016年7月9日	A5判	128頁
プレイボール! —北海道と野球をめぐる物語—(第3回特別展図録)	2017年7月8日	A4判	104頁
幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える—(第4回特別展図録) ※編集は北海道博物館、三重県総合博物館、北海道立帯広美術館、松浦武四郎記念館。発行は株式会社勝那光風社。	2018年6月30日	A4判	160頁
アイヌ語地名と北海道(第5回特別展図録)	2019年7月4日	A4判	144頁
企画テーマ展パンフレット			
鶴(第2回企画テーマ展パンフレット)	2015年6月27日	A4判	4頁
北海道のアンモナイトとその魅力(第3回企画テーマ展パンフレット)	2015年11月28日	A4判	4頁
神様おねがい!—地域と人をむすぶ祈りのかたち—(第4回企画テーマ展パンフレット)	2016年2月27日	A4判	4頁
アイヌ民族資料を守り伝える力(第5回企画テーマ展パンフレット)	2016年4月28日	A4判	4頁
きれいな不思議?楽しい!?漂着物—北の海辺でお宝みつけ!—(第6回企画テーマ展パンフレット)	2016年10月14日	A4判	4頁
あったかい住まい—北海道・住まいの道のり—(第7回企画テーマ展パンフレット)	2017年2月3日	A4判	4頁
夜の森—ようこそ!動物たちの世界へ—(第8回企画テーマ展パンフレット)	2017年4月28日	A4判	4頁

名称	刊行年月日	判型	頁数
弥永コレクション(第9回企画テーマ展パンフレット)	2017年10月20日	A4判	4頁
カムイとアイヌのものがたり(第10回企画テーマ展パンフレット)	2018年2月2日	A4判	4頁
野幌森林公園いきもの図鑑(第11回企画テーマ展パンフレット)	2018年4月27日	A4判	4頁
りんご農家の道具(第12回企画テーマ展パンフレット)	2018年9月21日	A4判	4頁
アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ—博物館のはたす役割—(第13回企画テーマ展パンフレット)	2019年2月8日	A4判	4頁
北の手仕事2019(第14回企画テーマ展パンフレット)	2019年4月27日	A4判	4頁
エゾシカ(第15回企画テーマ展パンフレット)	2019年10月12日	A4判	4頁
北海道神宮(第16回企画テーマ展パンフレット)	2020年2月8日	A4判	4頁
楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料+栢谷隆男氏コレクション(第17回企画テーマ展パンフレット)	2020年4月25日	A4判	4頁

7 条例、規則など

1 北海道立総合博物館条例

平成26年10月14日条例第91号

改正 平成28年3月31日条例第37号〔第1次改正〕

平成31年3月15日条例第17号〔第2次改正〕

令和2年3月31日条例第23号〔第3次改正〕

第1章 設置及び管理

(設置)

第1条 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与するため、北海道立総合博物館(以下「総合博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 総合博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
北海道立総合博物館	札幌市及び江別市

(総合博物館に置く施設)

第3条 総合博物館に、次に掲げる施設を置く。

- (1) 北海道博物館(以下「本館」という。)
- (2) 北海道開拓の村(以下「開拓の村」という。)
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館(以下「ふれあい交流館」という。)

(事業)

第4条 総合博物館は、次の表の左欄に掲げる施設の区分に応じ、同表の当該右欄に定める事業を行う。

1 本館	ア 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ 本館が収集し、保管し、又は展示する資料(以下「本館資料」という。)に関する専門的な調査研究を行うこと。 ウ 本館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。 エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。 オ 北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものを行うこれらの催しに協力すること。 カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。 キ 本館資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。 ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。
2 開拓の村	ア 北海道の開拓の歴史を示す建造物等を保管し、及び展示すること。 イ 北海道の開拓過程における生活様式、年中行事等に係る催しを開催し、及び他のものを行うこれらの催しに協力すること。 ウ 開拓の村の展示物に関し、案内書、解説書等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
3 ふれあい交流館	ア 道立自然公園野幌森林公園の自然に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ ふれあい交流館が収集し、保管し、又は展示する資料(以下「交流館資料」という。)に関する調査研究を行うこと。 ウ 交流館資料に関し、必要な説明、助言等を行うこと。 エ 自然に関する情報提供を行うこと。 オ 自然に関する講演会、講習会、研究会等を開催し、及び他のものを行うこれらの催しに協力すること。

2 総合博物館は、前項の事業のほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行う。

(指定管理者による管理)

第5条 総合博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第6条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第4条第1項の表1の事項カ、2の事項及び3の事項に定める事業に関すること。
- (2) 第8条第1項、第12条第1項、第13条第2項及び第16条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設及び設備(以下「施設等」という。)の維持管理に関すること。
- (4) その他知事が定める業務
(利用日及び利用時間)

第7条 総合博物館の利用日及び利用時間は、別表第1のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、総合博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、臨時に総合博物館の利用日又は利用時間を変更することができる。

(利用の承認)

第8条 本館若しくは開拓の村の施設等又は次に掲げる設備の利用(別表第2に掲げる場合に限る。)をしようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

- (1) 北海道百年記念塔前駐車場
- (2) 北海道開拓の村前駐車場

2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

(利用の承認の基準)

第9条 指定管理者は、前条第1項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

- (1) 利用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。
- (2) 総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を損傷するおそれがあるとき。
- (4) その他総合博物館の管理運営上支障があると認められるとき。

(利用の承認の取消し等)

第10条 指定管理者は、第8条第1項の承認を受けた者(以下「利用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらの規定に基づく処分違反したとき。
- (2) 虚偽の申請その他不正な手段により第8条第1項の承認を受けたとき。
- (3) 第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

2 指定管理者は、施設等の維持管理上その他公益上やむを得ない事態が発生したときは、第8条第1項の承認を取り消し、又はその条件を変更することができる。

(利用料金)

第11条 利用者は、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を指定管理者に納めなければならない。

2 前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

3 利用料金の額は、別表第2に定める額の範囲内において、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

4 知事は、前項の承認をしたときは、その承認をした利用料金の額を告示しなければならない。

5 指定管理者は、既に収受した利用料金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

6 指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

(開拓の村建物等の使用の承認等)

第12条 開拓の村建物等(開拓の村の建物(管理棟のホール、ピジターセンター、体験学習室及び食堂棟に限る。)及び当該建物の附属設備、展示されている建造物等(以下「展示建造物等」

- という。)並びに入口広場をいう。)を使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。
- 2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。
- 3 第9条及び第10条の規定は、第1項の承認について準用する。この場合において、同条第1項第3号中「第8条第2項」とあるのは、「第12条第2項」と読み替えるものとする。
- (特別観覧等の承認)
- 第13条 本館資料の閲覧、模写、模造、撮影及び複写(以下「特別観覧」という。)を行おうとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。
- 2 開拓の村の展示建造物等及び管理棟の模写、模造及び撮影並びに交流館資料の模写、模造、撮影及び複写(以下これらを「特別利用」という。)を業として又は学術研究のために行おうとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。
- (特別観覧等の方法等)
- 第14条 特別観覧は、職員の手指示に従って行わなければならない。
- 2 知事は、特別観覧の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。
- 3 特別利用は、指定管理者の手指示に従って行わなければならない。
- 4 指定管理者は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。
- (模写品等の刊行等の承認)
- 第15条 本館資料、開拓の村の展示建造物等若しくは管理棟又は交流館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したものを刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。
- (資料の貸出しの承認)
- 第16条 本館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。
- 2 交流館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。
- 3 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。
- (1) 交流館資料の使用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。
- (2) 交流館資料を損傷するおそれがあるとき。
- (指定管理者の手指示等)
- 第17条 指定管理者は、総合博物館の秩序の維持及び施設等の管理運営上必要があると認めるときは、利用者、第12条第1項の承認を受けた者及びふれあい交流館を利用する者に対しその利用若しくは使用に関し指示をし、又は利用中若しくは使用中の場所に従業員を立ち入らせ、利用若しくは使用の状況を調査させることができる。
- (知事による管理)
- 第18条 第5条の規定にかかわらず、知事は、やむを得ない事情があると認めるときは、総合博物館の管理に係る業務を行うことができる。
- 2 前項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第7条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「ときは、知事の承認を得て」とあるのは「ときは」と、第8条から第10条まで(第9条及び第10条の規定を第12条第3項において準用する場合を含む。)、第12条第1項及び第2項、第13条第2項、第14条第3項及び第4項並びに第16条第2項及び第3項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第11条第1項中「その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)」とあるのは「別表第2に定める額の範囲内において知事が定める額の使用料」と、「指定管理者」とあるのは「知事」と、同条第5項及び第6項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、前条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「従業員」とあるのは「職員」とし、第11条第2項から第4項までの規定は、適用しない。
- (規則への委任)
- 第19条 この章に定めるもののほか、総合博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。
- 第2章 北海道立総合博物館協議会
(設置)
- 第20条 総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、北海道立総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- (所掌事項)
- 第21条 協議会は、知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議する。
- 2 協議会は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べる

- ことができる。
- (組織)
- 第22条 協議会は、委員7人以内で組織する。
- 2 協議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、特別委員を置くことができる。
- (委員及び特別委員)
- 第23条 委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。
- (1) 学識経験を有する者
- (2) 博物館に関する知見を有する者
- (3) アイヌ民族文化に関する知見を有する者
- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。
- 4 特別委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。
- (会長及び副会長)
- 第24条 協議会に会長及び副会長を置く。
- 2 会長及び副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- (会議)
- 第25条 協議会の会議は、会長が招集する。
- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- (専門部会)
- 第26条 協議会は、必要に応じ、専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、協議会から付託された事項について調査審議するものとする。
- 3 専門部会に部会長を置き、会長が指名する委員がこれに当たる。
- 4 専門部会に属すべき委員及び特別委員は、会長が指名する。
- (会長への委任)
- 第27条 この章に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。
- 附 則
(施行期日)
- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。
- (北海道立アイヌ民族文化研究センター条例等の廃止)
- 2 次に掲げる条例は、廃止する。
- (1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例(平成6年北海道条例第4号)
- (2) 北海道立開拓記念館条例(昭和46年北海道条例第4号)
(北海道立開拓記念館条例の廃止に伴う経過措置)
- 3 この条例の施行前に前項(第2号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立開拓記念館条例(以下「旧条例」という。)第11条、第14条第2項又は第17条第2項の規定により指定管理者がした承認は、それぞれ、第12条第1項、第13条第2項又は第16条第2項の規定により指定管理者がした承認とみなす。
- 4 この条例の施行前に旧条例第14条第1項、第16条又は第17条第1項の規定により知事がした承認は、それぞれ、第13条第1項、第15条又は第16条第1項の規定により知事がした承認とみなす。
- 5 前2項に定めるもののほか、この条例の施行の日前に旧条例の規定により知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請で、この条例の施行の際承認をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この条例の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。
- (北海道個人情報保護条例及び北海道情報公開条例の一部改正)
- 6 次に掲げる条例の規定中「北海道立開拓記念館」を「北海道立総合博物館」に改める。
- (1) 北海道個人情報保護条例(平成6年北海道条例第2号)第44条第2項
- (2) 北海道情報公開条例(平成10年北海道条例第28号)第23条
- 附 則(平成28年3月31日条例第37号)
〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕
この条例は、平成28年4月1日から施行する。
- 附 則(平成31年3月15日条例第17号)
〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕
この条例は、平成31年10月1日から施行する。
- 附 則(令和2年3月31日条例第23号)
〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕
この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1(第7条関係)

区分	利用日	利用時間
本館、開拓の村及びふれあい交流館	1月4日から12月28日まで(月曜日(当該日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。))に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日)を除く。)	午前9時30分から午後4時30分まで
北海道百年記念塔前駐車場及び北海道開拓の村前駐車場	4月1日から10月31日まで	午前9時から午後5時まで

別表第2(第8条、第11条関係)

1 本館に展示する資料を観覧する場合

(1) 常設展示を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき280円
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	1,010円	1人につき860円

(2) 特別展示(本館が開催する特別展示に限る。(3)において同じ。)を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき280円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,010円	1人につき860円

(3) 常設展示及び特別展示を併せて観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	700円	1人につき510円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,830円	1人につき1,440円

2 本館において携帯用展示解説器を利用する場合

1回につき 280円

3 本館の特別展示室を利用する場合

1日につき 72,210円

4 開拓の村に入場する場合

区分	利用料金の上限額		
	個人	10人以上の団体	
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	夏期	1,170円	1人につき1,060円
	冬期	1,060円	1人につき990円
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	夏期	1,600円	1人につき1,310円
	冬期	1,310円	1人につき1,060円

5 開拓の村の馬車鉄道又は馬そりを利用する場合

区分	利用料金の上限額
1 3歳以上15歳未満の者	1人1回につき250円
2 15歳以上の者	1人1回につき550円

6 北海道百年記念塔前駐車場又は北海道開拓の村前駐車場を利用する場合

区分	利用料金の上限額
バス	1回1日につき250円
乗用車	1回1日につき100円
自動二輪車(原動機付き自転車を含む。)	1回1日につき50円

備考

1 4の表において、夏期とは4月1日から11月30日までとし、冬期とは12月1日から翌年3月31日までとする。

2 6の表において、貨物自動車の利用料金については、車体の大きさによって、バス又は乗用車の区分によるものとする。

一部改正〔平成28年条例37号、平成31年条例17号・令和2年23号〕

2 北海道立総合博物館管理規則

平成26年10月14日規則第72号

改正 平成28年3月31日規則第40号

(趣旨)

第1条 この規則は、北海道立総合博物館条例(平成26年北海道条例第91号。以下「条例」という。)第19条の規定に基づき、北海道立総合博物館(以下「総合博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館の制限)

第2条 条例第5条に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)は、総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められる者に対しては、入館を拒み、又は退館させることができる。

(入館者の遵守事項等)

第3条 入館者は、条例、この規則及び指定管理者の指示に従うほか、特に次の事項を遵守しなければならない。

(1) 建物、附属設備又は条例第4条第1項の表に規定する本館資料(以下「本館資料」という。)、同表に規定する交流館資料(以下「交流館資料」という。若しくは条例第12条第1項に規定する展示建造物等(以下「展示建造物等」という。)を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

(3) 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 指定管理者は、入館者が前項の規定に違反したことにより総合博物館の管理運営上支障があると認めるときは、当該入館者に対しては、総合博物館の利用を制限し、又は退館させることができる。

(利用料金の額の承認)

第4条 指定管理者は、条例第11条第3項の規定により利用料金の額について知事の承認を受けようとするときは、別記第1号様式の利用料金承認申請書を知事に提出しなければならない。

(利用料金の還付の基準)

第5条 条例第11条第5項ただし書の規則で定める基準は、次に掲げる場合について、同条第1項に規定する利用料金(以下「利用料金」という。)の全部又は一部を還付することができることとする。

(1) 条例第8条第1項の承認を受けた者(以下「利用者」という。)の責めに帰することのできない事由によって利用が不可能になったと指定管理者が認めるとき。

(2) 利用の開始日の前15日までに利用を中止する旨の申出があって、指定管理者がこれについて相当の理由があると認めるとき。

(3) 条例第10条第2項の規定により利用の承認を取り消したとき。

(4) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(利用料金の減免の基準)

第6条 条例第11条第6項の規則で定める基準は、次のとおりとする。

(1) 次に掲げる者については、利用料金(条例別表第2の1の事項及び4の事項に係るものに限る。)を免除することができることとする。

ア 小学校若しくは義務教育学校の前期課程の児童又は中学校、義務教育学校の後期課程若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員

イ 土曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定することもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者

ウ 学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者(10人以上で利用する場合に限る。)

エ 特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者

オ 児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者

カ 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者

キ 生活保護法(昭和25年法律第144号)による保護を受けている者

ク 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者

ケ 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者(知的障害者を除く。)と判定された者及びその引率者

コ 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第5条の3に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者

- サ 65歳以上の者
- シ その他知事がアからサまでに掲げる者に準ずると認める者
- (2) 次のいずれかに該当する場合は、特別展示室の利用料金を免除することができることとする。
- ア 総合博物館と共同して開催する北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しのために利用するとき。
- イ その他知事が必要と認めるとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、知事が特別な理由があると認める場合は、利用料金を減免することができることとする。(施設設備等の変更の禁止)
- 第7条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、本館の特別展示室及びその附属設備又は同項に規定する開拓の村建物等(以下「施設設備等」という。)の利用又は使用に際し、施設設備等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ指定管理者の承認を受けたときは、この限りでない。(原状回復の義務等)
- 第8条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、施設設備等の利用又は使用を終了したときは、施設設備等を原状に回復しなければならない。条例第10条(条例第12条第3項において準用する場合を含む。)の規定により利用若しくは使用の承認を取り消され、又は利用若しくは使用を制限され、若しくは停止されたときも、同様とする。
- 2 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者が前項の義務を履行しないときは、指定管理者が代わって行い、その費用を当該利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者から徴収するものとする。(特別観覧の承認)
- 第9条 条例第13条第1項に規定する特別観覧(以下「特別観覧」という。)の承認を受けようとする者は、別記第2号様式の特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。
- 2 知事は、特別観覧を承認したときは、別記第3号様式の特別観覧承認書を交付するものとする。(特別観覧等の時間)
- 第10条 特別観覧及び特別利用(条例第13条第2項に規定する特別利用をいう。以下同じ。)を行うことができる時間は、午前10時から午後4時までとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、特別観覧の時間を変更することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、特別利用の時間を変更することができる。(模写品等の刊行等の承認)
- 第11条 条例第15条の承認を受けようとする者は、別記第4号様式の模写品等刊行等承認申請書を知事に提出しなければならない。
- 2 知事は、条例第15条の承認をしたときは、別記第5号様式の模写品等刊行等承認書を交付するものとする。(本館資料の貸出しの承認)
- 第12条 条例第16条第1項の承認を受けようとする者は、別記第6号様式の資料貸出承認申請書を知事に提出しなければならない。
- 2 知事は、前項の規定による申請があったときは、当該申請者が次のいずれかに該当する場合に限り、承認することができる。
- (1) 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第2条第1項に規定する独立行政法人が設置する博物館及び美術館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館並びに同法第29条の規定による指定を受けた博物館に相当する施設の長
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館の長
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館の長
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校の長
- (5) その他知事が適当と認める者
- 3 知事は、条例第16条第1項の承認をしたときは、別記第7号様式の資料貸出承認書を交付するものとする。(本館資料等の貸出期間)
- 第13条 本館資料及び交流館資料の貸出しをすることができる期間(以下「貸出期間」という。)は、60日以内とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、本館資料の貸出期間を延長することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、交流館資料の貸出期間を延長することができる。
- 4 知事は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、本館資料の返還を求められることができる。

- 5 指定管理者は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、交流館資料の返還を求められることができる。(本館資料等の滅失等の届出等)
- 第14条 本館資料の貸出しを受けた者は、当該本館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を知事に届け出なければならない。
- 2 交流館資料の貸出しを受けた者は、当該交流館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。
- 3 指定管理者は、前項の規定による届出があったときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。(利用に供しない本館資料)
- 第15条 知事は、個人若しくは法人その他の団体(国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。)の秘密保持のため又は公益上の理由により、一定の期間利用に供することが不適当な情報(以下「個人の秘密等の情報」という。)が記録されている本館資料及び寄贈又は寄託に係る本館資料であって一定の期間利用に供しない旨の条件が付されているもの(以下「条件付き寄贈資料」という。)については、特別観覧その他の利用(以下「特別観覧等」という。)に供しないものとする。
- 2 知事は、本館資料又は条件付き寄贈資料に個人の秘密等の情報とそれ以外の情報が記録されている場合において、当該個人の秘密等の情報とそれ以外の情報とを容易に、かつ、特別観覧等の趣旨が損なわれない程度に分離することができるときは、前項の規定にかかわらず、当該個人の秘密等の情報が記録されている部分を除いて、当該本館資料及び条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。
- 3 知事は、公益上の必要その他相当の理由があり、かつ、個人又は法人等の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認めるときは、第1項の規定にかかわらず、個人の秘密等の情報が記録されている本館資料又は条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。(本館資料の利用の制限)
- 第16条 知事は、本館資料の保存上支障が生ずると認められるときは、その利用を制限することができる。(知事による管理)
- 第17条 条例第18条第1項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第2条中「条例第5条に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)」とあるのは「知事」と、第3条第1項中「指定管理者」とあるのは「職員」と、同条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第5条中「同条第1項」とあるのは「条例第18条第2項の規定により読み替えられた条例第11条第1項」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第1号及び第2号中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第6条各号中「利用料金」とあるのは「使用料」と、第7条ただし書、第8条第2項、第10条第3項、第13条第3項及び第5項並びに第14条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、同条第3項の規定は、適用しない。
- 附 則
(施行期日)
- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
(北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則等の廃止)
- 2 次に掲げる規則は、廃止する。
- (1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則(平成6年北海道規則第66号)
- (2) 北海道立開拓記念館管理規則(昭和46年北海道規則第27号)
(経過措置)
- 3 この規則の施行前に前項(第1号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則(附則第5項において「旧施行規則」という。)第10条、第11条又は第12条ただし書の規定により北海道立アイヌ民族文化研究センターの所長(附則第5項において「所長」という。)がした承認又は許可は、条例の相当規定に基づき知事がした承認とみなす。
- 4 この規則の施行前に附則第2項(第2号に係る部分に限る。)の規定による廃止前の北海道立開拓記念館管理規則(以下「旧管理規則」という。)第6条ただし書の規定により指定管理者がした承認は、第7条ただし書の規定により指定管理者がした承認とみなす。
- 5 前2項に定めるもののほか、この規則の施行の日前に旧施行規則又は旧管理規則の規定により所長又は知事若しくは指定管理者に対してなされた承認又は許可の申請で、この規則の施行の際承認又は許可をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この規則の相当規定に基づき知事又

は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

附 則(平成28年3月31日規則第40号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

別記第1号様式
(第4条関係)
別記第2号様式
(第9条関係)
別記第3号様式
(第9条関係)
別記第4号様式
(第11条関係)
別記第5号様式
(第11条関係)
別記第6号様式
(第12条関係)
別記第7号様式
(第12条関係)

文書様式（北海道立総合博物館管理規則に定める様式）

別記第1号様式（第4条関係）

年 月 日		
北海道知事 様		
主たる事務所の所在地 指定管理者の名称 代表者の氏名		
◎		
利用料金承認申請書		
北海道立総合博物館の利用料金の額を次のとおり定めることについて承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第11条第3項の規定により、申請します。		
区 分	利用料金の額（円）	備 考
（日本工業規格A4）		

別記第2号様式（第9条関係）

年 月 日		
北海道知事 様		
申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号		
特別観覧承認申請書		
次のとおり北海道博物館資料の特別観覧の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第13条第1項の規定により、申請します。		
資料品名	点 数	備 考
観 覧 日	年 月 日	
観 覧 方 法	閲 覧 模 写 模 造 撮 影 複 写	
観 覧 目 的		

別記第3号様式（第9条関係）

北博第 号 年 月 日		
(申請者) 様		
北海道知事		
印		
特別観覧承認書		
年 月 日申請の北海道博物館資料の特別観覧を次のとおり承認します。		
資料品名	点 数	備 考
観 覧 日	年 月 日	
観 覧 方 法	閲 覧 模 写 模 造 撮 影 複 写	
観 覧 目 的		
注意		
1 北海道立総合博物館条例及び北海道立総合博物館管理規則の規定を遵守すること。		
2 北海道博物館資料、施設、設備その他物件を損傷し、又は滅失したときは、これを原形に復し、又はその損害を賠償しなければならないこと。		

別記第4号様式（第11条関係） その1

年 月 日		
北海道知事 様		
申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号		
◎		
模写品等刊行等承認申請書		
次のとおり（北海道博物館資料 野幌森林公園自然ふれあい交流館資料）の（模写 模造 撮影 複写）品の（刊行 複製 使用）の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。		
使用目的		
資 料 名		
作 品 名		
製 作 数		
価 額	有 料	円 無 料
製 作 予 定 年 月 日	年 月 日	

別記第4号様式(第11条関係) その2

年 月 日

北海道知事 様

申請者 住 所
職 業
氏 名 ㊟
電話番号

模写品等刊行等承認申請書

次のとおり(北海道開拓の村の展示建造物等 北海道開拓の村の管理棟)の(模写 模造 撮影 複写)品の(刊行 複製 使用)の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。

使用目的	
建物等の名称	
作 品 名	
製 作 数	
価 額	有 料 円 無 料
製 作 予 定 年 月 日	年 月 日

別記第5号様式(第11条関係)

北博第 号
年 月 日

(申請者) 様

北海道知事 閣

模写品等刊行等承認書

年 月 日申請の模写品等の(刊行 複製 使用)を次のとおり承認します。

使用目的	
資料名又は建物等の名称	
作 品 名	
製 作 数	
価 額	有 料 円 無 料
製 作 予 定 年 月 日	年 月 日

注意

- 1 上記の使用目的以外に使用しないこと。
- 2 使用に際しては、北海道立総合博物館所有の旨を明記すること。
- 3 刊行物、複製品、発表作品等2点を北海道に寄贈すること。

別記第6号様式(第12条関係)

年 月 日

北海道知事 様

申請者 機 関 名
所 在 地
代 表 者 名 ㊟

資料貸出承認申請書

次のとおり北海道博物館資料の貸出しを受けたいので、北海道立総合博物館条例第16条第1項の規定により、申請します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

別記第7号様式(第12条関係)

北博第 号
年 月 日

(申請者) 様

北海道知事 閣

資料貸出承認書

年 月 日申請の北海道博物館資料の貸出しについて、次のとおり承認します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

注意 貸出しを受けた資料を上記の使用目的以外の目的に供し、又は上記の使用場所以外の場所で利用してはならないこと。

8 利用案内

1 見学案内

〔開館時間〕

5～9月：9:30～17:00

10～4月：9:30～16:30

※閉館時間の30分前までにお入りください。

〔休館日〕

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は直後の平日)、年末年始(12月29日～1月3日)

※このほか臨時休館する場合があります。詳しくは、ウェブサイトなどでご確認ください。

〔観覧料〕

(1) 総合展示室の観覧料

区 分	大学生・高校生	一 般
個 人	300円	600円
10名以上の団体料金	200円	500円

※中学生以下、65歳以上の方は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。

※障害のある方は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

※高校生は、土曜日・5月5日(こどもの日)・11月3日(文化の日)に利用する場合、並びに学校教育又は社会教育を目的として利用する10名以上の団体の場合は無料になります。

※その他、北海道博物館と北海道開拓の村の共通チケットや年間パスポートなど、お得なチケットもあります。

(2) 特別展示室の観覧料

- ・特別展では、別途定める観覧料が必要となります。
- ・その他、無料で見学できる企画テーマ展なども開催します。

〔観覧料の免除〕

(1) 次に掲げる事項に該当する方は、それらを証明するものをご提示いただくと、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

- ・小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員
- ・土曜日又はこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方
- ・学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方(10人以上で利用する場合に限る。)
- ・特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者
- ・児童福祉法に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
- ・身体障害者福祉法の規定による身体障害者手帳の交付を受けている方及びその引率者
- ・生活保護法による保護を受けている方
- ・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された方及びその引率者
- ・精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者(知的障害者を除く。)と判定された方及びその引率者
- ・老人福祉法に規定する老人福祉施設に入所している方及びその引率者
- ・65歳以上の方
- ・その他知事が上記に掲げる方に準ずると認める方

(2) (1)以外の人で、知事が特別な理由があると認める場合は、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

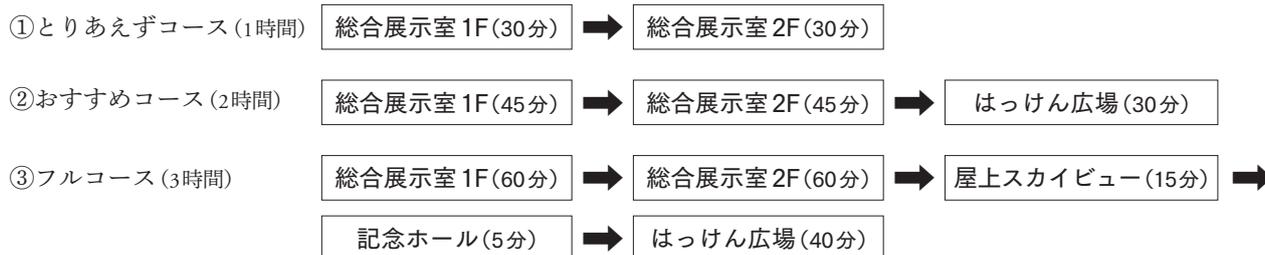
〔お客さまへの注意事項〕

お客さまにおいては、係員の指示に従うほか、特に次のような秩序を乱す行為は禁じられています。

- ・建物、附属施設又は展示資料を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為
- ・他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為
- ・指定の場所以外で飲食し、又は喫煙すること

【おすすめ見学コースおよび所要時間】

どこからでも自由に見学できますが、所要時間の目安としては、次のおすすめ見学コースが参考になります。



※特別展示室も見学すると、さらに30～60分かかります。

※「屋上スカイビュー」は4月～9月の祝日のみ10:00～16:00に実施。雨天や強風などの場合は開放を中止します。

2 図書室の利用

図書室をご利用されるお客さまは、総合展示の観覧なしで利用いただけます。

【利用の手続き】

- ①1階総合案内で「図書室利用者証」と「図書室利用票」をお受け取りください。
- ②「図書室利用者証」を着用し、1階総合展示室入口からお入りください。
(利用者証を着用しないと総合展示室の観覧料がかかりますので、ご注意ください。)
- ③図書室に着いたら、備え付けの電話でスタッフをお呼びください。そして、スタッフに「図書室利用票」をご提示のうえ、ご利用ください。

【お帰りの際】

- ① 図書室担当のスタッフに「図書室利用票」をお渡しください。
- ② 総合展示室内を通過して1階展示室入口から出て、1階総合案内で「図書室利用者証」をご返却ください。

【利用時間】

開館時間と同じです。

3 収蔵資料のご利用

【資料の特別観覧】

資料の閲覧、模写、模造、撮影又は複写を行いたい場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「特別観覧承認申請書」を提出してください。特別観覧の時間は午前10時から午後4時までです。

【模写品等のご利用】

資料を模写・模造・撮影し、又は複写したもの(模写品等と総称)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表などに使用する場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「模写品等刊行等承認申請書」を提出してください。

【資料の貸出】

資料の貸出を受ける場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「資料貸出承認申請書」を提出してください。貸出期間は60日間以内ですが、知事が特に必要と認めるときは、延長することができます。

※資料貸出を受けることができる方は、次のとおりです。

博物館法及び独立行政法人通則法に規定する博物館及び博物館相当施設の長、社会教育法に規定する公民館の長、国立の図書館及び図書館法に規定する図書館の長、学校教育法に規定する学校の長、その他知事が適当と認める場合。

4 学校教育用補助教材のご案内

授業などで活用できる補助教材の無料貸出を、北海道内の学校・公民館などを対象として行っています(貸出期間:原則2週間以内)。

ご希望の方は、事前にお電話で「北海道博物館 道民サービスグループ 教材貸出担当」(TEL:011-898-0456)まで、予約状況等の確認・相談をしてください。

【申し込みから返却までの流れ】

- ①電話で予約状況を確認し、仮予約をしてください。
- ②申請書を郵便にて送付してください。(申請書等の書式は、北海道博物館ウェブサイトからダウンロードできます)
- ③借用書を用意し、当館にお越しください。
- ④利用後、活用報告書をお持ちのうえ、教材をご返却ください。

5 交通案内

【バスをご利用の場合】

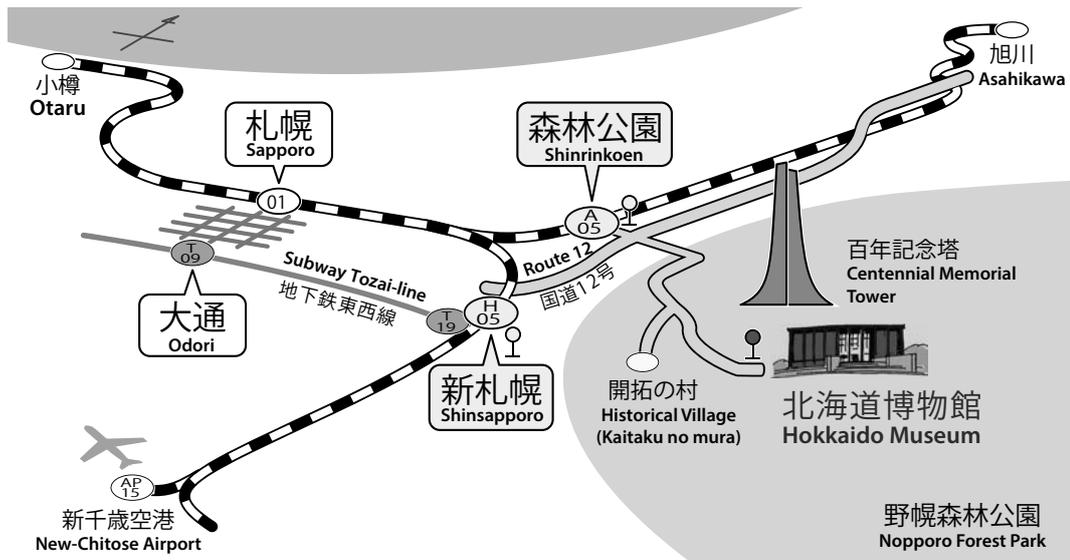
- (1) 新札幌駅から バスターミナル・のりば⑩(北レーン)
 - ・ジェイ・アール北海道バス 新22「開拓の村」行きに乗車し、「北海道博物館」で下車。
- (2) 森林公園駅から 東口バス停
 - ・新札幌駅からの上記のバスが森林公園駅に寄ります。
- (3) 大麻・江別方面から
 - ・ジェイ・アール北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗車し、「厚別東小学校前」で下車(バス停から徒歩15分)。

【タクシーをご利用の場合】

新札幌駅から 約10分

【徒歩の場合】

森林公園駅から 約20～25分



【北海道博物館ウェブサイト】

<https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

【Twitter】

https://twitter.com/Hokkaido_Museum

【各種の問い合わせ・申し込みは下記まで】

- ①ご利用に関する問い合わせ、学校以外の団体でのご利用、図書室のご利用に関することは

電話：011-898-0466(総合案内)

FAX：011-897-1865

- ②学校団体の予約、イベントの申し込みは

電話：011-898-0500(学校団体受付・行事申込み専用ダイヤル)

FAX：011-898-0590

- ③その他に関することは

電話：011-898-0456(総務部)

FAX：011-898-2657

『北海道博物館要覧』は、当館の役割や施設の概要、及び年度の活動その他の基本情報について、道民に広く公表するものです。

本要覧は、北海道博物館の前身である北海道開拓記念館が1971(昭和46)年以来刊行してきた『北海道開拓記念館要覧』、ならびに北海道立アイヌ民族文化研究センターが2003(平成16)年以来刊行してきた『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』の後継刊行物です。

北海道博物館では、『北海道博物館要覧』の第1集として、2017(平成29)年に『北海道博物館要覧2015』、2018(平成30)年に第2・3集として『北海道博物館要覧2016・2017』、2019(令和元)年に第4集として『北海道博物館要覧2018』、2020(令和2)年に第5集として『北海道博物館要覧2019』を刊行しました。このたび、その第6集として『北海道博物館要覧』第6号(要覧2020)―第2期中期目標・計画期 実績報告書1―を刊行し、既刊の名称を以下のように取り扱います。

- ・『北海道博物館要覧2015』 → 『北海道博物館要覧』第1号(要覧2015)
- ・『北海道博物館要覧2016・2017』 → 『北海道博物館要覧』第2・3号(要覧2016・2017)
- ・『北海道博物館要覧2018』 → 『北海道博物館要覧』第4号(要覧2018)
- ・『北海道博物館要覧2019』 → 『北海道博物館要覧』第5号(要覧2019)

今後は、名称を『北海道博物館要覧』と統一して刊行を継続する予定です。

北海道博物館要覧 第6号(要覧2020)

―第2期中期目標・計画期 実績報告書1―

発行

2021(令和3)年11月20日

編集・発行者

北海道博物館
004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
011-898-0456
www.hm.pref.hokkaido.lg.jp

印刷所

株式会社アイテックサプライ
065-0010 札幌市東区北10条東2丁目3-18
011-748-3777

ISSN 2436-7486



北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM